
男女共同参画に関する意識調査

平成 25 年 2 月

袖ヶ浦市

目 次

調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査設計	3
3 調査内容	3
4 実施年月日	3
5 回答者数	3
6 回答者属性	4
7. 調査結果の見方	6
単純集計結果	8
調査結果	27
1. 家庭生活について	29
(1) 理想的な夫婦のあり方	29
(2) 家庭での夫婦の協力体制	31
(3) 家庭内での仕事へのかかわり	33
(4) 家庭での決定権	38
(5) 夫婦の協力体制についての満足度	42
(6) 家族の介護経験	44
(7) 家族が介護を必要とした時の対応	46
(8) 将来、長期介護を受ける場合に望む対応	49
(8-1) 主に介護をしてもらいたい人	51
2. 地域活動について	52
(1) 地域活動への参加状況	52
(1-1) 地域活動への参加内容	54
(1-2) 地域活動に参加しない理由	56
(2) 今後の地域活動への参加意向	58
(3) 地域団体に女性リーダーが少ない理由	60
3. 職業について	62
(1) 女性が職業を持つことへの考え方	62
(2) 女性が職業に就いたり、職業を持ち続けるうえでの障害	64
(3) 現在の就業状況	66
(3-1) 就業の理由	68
(3-2) 今後の就業意向	70
(4) 男性が「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用すること	72

4. ワーク・ライフ・バランスについて	74
(1) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度	74
(2) ワーク・ライフ・バランスを実現するためにしていること	77
(3) ワーク・ライフ・バランスの状況	79
(3-1) ワーク・ライフ・バランスのとれていない理由	81
5. 人権について	83
(1) 女性の人権侵害と感ずる行為	83
(2) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無	85
(2-1) セクシュアル・ハラスメントを受けたときの相談先	89
(2-2) セクシュアル・ハラスメントを受けたときに相談しなかった理由	91
(3) セクシュアル・ハラスメントをなくすための対策	93
(4) ドメスティック・バイオレンスを受けた経験の有無	95
(4-1) ドメスティック・バイオレンスを受けたときの相談先	107
(4-2) ドメスティック・バイオレンスを受けたときに相談しなかった理由	109
(5) ドメスティック・バイオレンスをなくすための対策	111
6. 社会全般について	113
(1) 各分野における男女の地位の平等感	113
(2) 政策決定過程への女性の参画を進めるのに必要なこと	118
(3) 市議会議員、審議会等の委員の女性比率についての意識	120
(4) 男女共同参画に関する法律等の周知状況	122
7. 市への要望について	128
(1) 防災・災害復興対策における男女の性別に配慮した対応の必要性	128
(1-1) 防災・災害復興対策における男女の性別に配慮して取り組むべき必要があると思うもの	130
(2) 男女平等の社会を築くために重点的に力を入れてほしいこと	132
調査結果のまとめ	135
自由回答まとめ	145

調査の概要

【 調査の概要】

1 調査の目的

この調査は、市民各層の男女共同参画に関する意識、意向及び、女性と男性の置かれている実態などを総合的にとらえ、今後男女共同参画を推進するうえでの基礎資料とすることを目的とする。

2 調査設計

1. 調査地域：袖ヶ浦市全域
2. 調査対象：袖ヶ浦市在住の20歳以上の男女：2,000名
3. 調査方法：郵送配布、郵送回収

3 調査内容

1. 家庭生活について
2. 地域活動について
3. 職業について
4. ワーク・ライフ・バランスについて
5. 人権について
6. 社会全般について
7. 市への要望について

4 実施年月日

平成24年9月12日～10月12日まで

5 回答者数

配布数	2,000件
有効回収数	889件
有効回収率	44.5%

6 回答者属性

(1) 性別

	回答数	比率(%)
1 女性	504	56.7
2 男性	342	38.5
無回答	43	4.8
計	889	100.0

(2) 年齢

	回答数	比率(%)		回答数	比率(%)
1 20～29歳	64	7.2	4 50～59歳	122	13.7
2 30～39歳	137	15.4	5 60～69歳	215	24.2
3 40～49歳	147	16.5	6 70歳以上	163	18.3
			無回答	41	4.6
			計	889	100.0

(3) 結婚状況

	回答数	比率(%)
1 している（事実婚を含む）	617	69.4
2 していない（夫婦別居・離別・死別など）	112	12.6
3 していない（未婚）	114	12.8
4 無回答	46	5.2
計	889	100.0

(4) 共働きの有無

	回答数	比率(%)		回答数	比率(%)
1 共働き	252	40.8	3 妻だけ働いている	28	4.5
2 夫だけ働いている	189	30.6	4 夫婦とも無職	140	22.7
			無回答	8	1.3
			計	889	100.0

(5) お子さんの有無

	回答数	比率(%)
1 いる	644	72.4
2 いない	174	19.6
無回答	71	8.0
計	889	100.0

(6) 一番下のお子さん

	回答数	比率(%)		回答数	比率(%)
1 乳幼児	81	12.6	5 高校生以上の学生	71	11.0
2 小学校低学年（1～3年生）	37	5.7	6 学校を終えた子ども	9	1.4
3 小学校高学年（4～6年生）	21	3.3	7 社会人	364	56.5
4 中学生	25	3.9	8 その他	31	4.8
			無回答	5	0.8

(7) 世帯構成

	回答数	比率(%)		回答数	比率(%)
1 ひとり暮らし(単身世帯)	62	7.0	4 親と子ども夫婦(二世帯家族)	80	9.0
2 夫婦のみ(一世帯世帯)	232	26.1	5 親と子ども夫婦と孫(三世帯家族)	98	11.0
3 親と未婚の子ども(核家族)	319	35.9	6 その他	50	5.6
			無回答	48	5.4
			計	889	100.0

(8) 居住地域

	回答数	比率(%)		回答数	比率(%)
1 昭和地区	213	24.0	4 平岡地区	97	10.9
2 長浦地区	356	40.0	5 中川・富岡地区	81	9.1
3 根形地区	89	10.0	無回答	53	6.0
			計	889	100.0

7. 調査結果の見方

(1) 調査結果の誤差

この調査は、全数調査(全ての人を調査)ではないので、調査結果の数値は、真の値(全数調査をした場合に得られる数値)と一致しない可能性がある(これを標本誤差という)。

標本誤差は、層化2段抽出の場合、経験的に95%の信頼度で以下の式から得られる数値であり、真の値は標本調査で得られた結果にこの標本誤差を引いた値と加えた値の範囲内にあることとなる。

$$b = 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数(サンプル数)
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全体(889)	± 2.85	± 3.79	± 4.35	± 4.65	± 4.74
女性(502)	± 3.78	± 5.04	± 5.77	± 6.17	± 6.30
男性(342)	± 4.59	± 6.12	± 7.01	± 7.49	± 7.65

(2) 調査結果等の見方

ア 結果は百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%に満たない、または上回ることがある。なお、回答者を絞った枝間では、質問該当者を100%とするのを原則としている。

イ 複数回答の設問では、回答の合計を回答者の合計で割った比率を用いているため、100%を上回ることがある。

ウ 図表中の「-」は回答者が皆無、「0.0」は回答者の割合が0.05未満のものを表している。

エ 本文や図中の選択枝の表記では、語句を短縮・省略化しているものもある。

オ 今回調査は20歳以上の男女が対象であるのに対し、前回調査(平成9年度調査)は20歳から65歳の男女が対象となっている。

单纯集計結果

単純集計結果

単位：%

最初に、家庭生活についておうかがいします

問1 理想的な夫婦のあり方について、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。
(n=889)

- 29.9 夫は仕事、妻は家事・育児を行う
- 0.1 妻は仕事、夫は家事・育児を行う
- 0.4 夫婦ともに仕事をし、家事・育児は主に夫が行う
- 6.4 夫婦ともに仕事をし、家事・育児は主に妻が行う
- 54.8 夫婦ともに仕事・家事・育児を行う
- 3.8 その他 ()
- 4.5 無回答

[問2から問5までは、配偶者がいらっしゃる方のみにおうかがいします。それ以外の方は問6へお進み下さい]

問2 あなたのご家庭では、実際にはどのような夫婦の協力体制となっていますか。最も近いものを1つだけ選んでください。(n=617)

- 35.2 夫は仕事、妻は家事・育児を行う
- 0.2 妻は仕事、夫は家事・育児を行う
- 0.6 夫婦ともに仕事をし、家事・育児は主に夫が行う
- 27.7 夫婦ともに仕事をし、家事・育児は主に妻が行う
- 19.6 夫婦ともに仕事・家事・育児を行う
- 10.5 その他 ()
- 6.2 無回答

問3 次のア～キのような具体的な家庭内での仕事(家事など)に、あなたのご家庭ではどのようにかかわっていますか。それぞれについてあてはまるものを1つずつ選んでください。(n=617)

	妻が中心	妻と夫が同程度	夫が中心	その他の人	該当しない	無回答
ア. 炊事	85.9	5.3	1.8	2.4	/	4.5
イ. 洗濯	81.8	7.5	3.7	2.4	/	4.5
ウ. 掃除	74.1	15.2	4.4	1.6	/	4.7
エ. ごみ出し	46.8	18.2	26.9	3.1	/	5.0
オ. 食料品や日用品の買物	59.2	31.6	2.4	1.9	/	4.9
カ. 高齢者・病人の看護	23.0	10.2	3.1	1.1	51.1	11.5
キ. 子どもの世話やしつけ	35.2	32.4	0.8	0.8	22.2	8.6

問4 次のア～オの項目について、あなたのご家庭では主に誰が決めていますか。それぞれについてあてはまるものを1つずつ選んでください。(n=617)

	妻が 決める	夫が 決める	妻と 夫が 相 談 して 決 め る	そ の 他 の 決 め る 人 を 含 め て	無 回 答
ア. 住宅の購入や増改築、移転	2.8	20.9	64.7	5.2	6.5
イ. 電気製品や家具などの購入	11.2	12.6	69.5	1.8	4.9
ウ. 家計費の管理	65.2	9.2	20.1	1.0	4.5
エ. 近所や親せきなどとのつきあいの仕方	19.1	7.3	64.3	4.4	4.9
オ. 子どもの教育方針	11.3	3.2	67.3	2.4	15.7

問5 あなたは、ご家庭内での問2・問3・問4のような夫婦の協力体制について、満足されていますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。(n=617)

28.2 満足している	4.1 不満である
49.6 どちらかといえば満足している	3.1 わからない
10.5 どちらかといえば不満である	4.5 無回答

[ここからすべての方におうかがいします]

問6 あなたは、ご家族（同居・別居を問わず）を介護したことがありますか（または、現在していますか）。次の中から2つ以内で選んでください。(n=889)

16.9 自分が中心となって介護したことがある（している）
24.3 自分が補助的に介護したことがある（している）
58.5 介護したことはない
3.6 無回答

問7 もし、あなたのご家族が介護を必要とする状態になった時、あなたはどのようにしたいとお考えですか。次のア～エのそれぞれについてあてはまるものを1つずつ選んでください。(n=889)

	積 極 的 に 介 護 し たい	で き れ ば 介 護 し たい	で き な い 介 護 し たい	介 護 し た く な い	わ か ら な い	無 回 答
ア. あなたの配偶者	44.3	33.5	4.2	1.7	7.1	9.2
イ. あなたの親	26.9	43.1	6.2	1.9	7.3	14.6
ウ. 配偶者の親	13.9	35.4	12.8	6.3	14.2	17.3
エ. あなたの子ども	51.6	27.2	2.0	0.7	8.0	10.5

問8 将来、あなたが健康を害されて「寝たきり」などの長期介護を受けるようになった場合、どのように対応してもらいたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 22.2 | 自宅で家族・身内の世話になりたい |
| 34.6 | 家族・身内の世話になれるが、老人ホームなどの養護施設に入りたい |
| 19.3 | 家族・身内の世話になれないので、老人ホームなどの養護施設に入りたい |
| 15.1 | 福祉サービスや近所の人との協力があれば自宅で介護を受けたい |
| 5.7 | 家政婦により自宅で介護を受けたい |
| 3.0 | 無回答 |

[問8で「1. 自宅で家族・身内の世話になりたい」を選んだ方におうかがいします]

問8-1 介護は、主にだれにしてもらいたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=197)

- | | | | |
|------|--------|-----|----------------|
| 68.0 | 配偶者 | 1.0 | 親 |
| 14.7 | 娘 | 0.5 | 孫 |
| 5.6 | 息子 | 4.1 | 兄弟・姉妹などの親族や親せき |
| - | 娘の配偶者 | 2.5 | その他 () |
| 3.0 | 息子の配偶者 | 0.5 | 無回答 |

地域活動についておうかがいします

問9 あなたは地域活動(自治会、PTAなど)に参加していますか(または、参加したことがありますか)。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

- | | | | |
|------|---------------|------|-------|
| 62.2 | している(したことがある) | 35.5 | していない |
| | | 2.2 | 無回答 |
- ▶ 問9-2へ

[問9で「1. している(したことがある)」を選んだ方におうかがいします]

問9-1 どのような地域活動に参加していますか(または、参加していましたか)。あてはまるものをすべて選んでください。(n=553)

- | | |
|------|--|
| 15.4 | ボランティア活動(障害者・高齢者などに対する福祉ボランティア、公民館等における生涯学習ボランティアなど) |
| 68.5 | 自治会などの地域団体の活動 |
| 11.4 | 婦人会、老人クラブなどの活動 |
| 46.3 | PTAの役員や子ども会、スポーツ少年団などの活動 |
| 12.7 | リサイクルなどの環境保全のための活動 |
| 21.5 | 趣味・学習のためのサークル活動 |
| 16.8 | スポーツ活動 |
| 1.3 | 地域での外国人との交流 |
| 2.5 | その他 () |

[前ページ問9で「2. していない」を選んだ方におうかがいします]

問9-2 あなたが地域活動に参加しないのは、どのような理由からですか。次の中から
2つ以内で選んでください。(n=316)

- | | | |
|------|----------------------|---|
| 6.6 | 家事・育児が忙しいから | |
| 33.5 | 仕事が忙しいから | |
| | - 家族が反対するから | |
| 10.4 | 身体が丈夫でないから | |
| 10.8 | 人間関係がわずらわしいから | |
| 9.2 | 自分に適した活動が見つからないから | |
| 20.6 | 身近に機会がないから | |
| 3.2 | 家族に病人がいるから | |
| 21.5 | どのように参加してよいのかわからないから | |
| 22.2 | あまり関心がないから | |
| 10.4 | その他 (|) |
| 0.9 | 無回答 | |

[ここからすべての方におうかがいします]

問10 あなたは、これからも(参加していない人はこれから)地域活動に参加したいと思いますか。
次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

- | | | | |
|------|-----------------|------|---------|
| 23.2 | 参加したい | 8.7 | 参加したくない |
| 28.7 | どちらかといえば参加したい | 18.3 | わからない |
| 17.4 | どちらかといえば参加したくない | 3.7 | 無回答 |

問11 自治会やPTAなどの地域団体では、活動の主体が女性となっても、会長や副会長などのリーダーには、女性が少ないようです。その主な原因は何だと思えますか。あてはまるものを、次の中から2つ以内で選んでください。(n=889)

- | | | |
|------|----------------------------|---|
| 34.3 | 女性自身が責任ある地位に就きたがらないから | |
| 44.5 | 女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから | |
| 16.5 | 女性は組織活動の経験が少ないから | |
| 15.5 | 指導力のある女性が少ないから | |
| 2.0 | 女性のリーダーでは、女性がついてこないから | |
| 7.9 | 女性のリーダーでは、男性がついてこないから | |
| 10.5 | 女性では、相手に軽くみられるから | |
| 20.6 | 男性がリーダーとなるのが社会慣行だから | |
| 2.9 | その他 (|) |
| 4.3 | 無回答 | |

職業についておうかがいします

問12 女性が職業を持つことについて、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。
(n = 889)

- 0.9 女性は職業に就かない方がよい
- 4.3 結婚するまで職業に就くが、結婚したら辞めた方がよい
- 6.4 子どもができるまで職業に就くが、子どもができたら辞めた方がよい
- 44.1 子どもができたら辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いた方がよい
- 35.9 結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい
- 5.1 その他 ()
- 3.4 無回答

問13 女性が職業に就いたり、職業を持ち続けるうえで障害になっていることは何だと思えますか。
あなたの考えに最も近いものを、2つ以内で選んでください。(n = 889)

- 44.0 家族の協力や理解など家庭内の問題
- 40.4 保育施設や保育時間などの問題
- 13.4 病人や高齢者の世話をしなければならないこと
- 5.3 採用の段階で女性を差別する企業が多いこと
- 39.9 いったん退社すると、今と同程度の条件での再就職がむずかしいこと
- 2.6 長く勤めると、同僚や上司から圧力がかかること
- 6.4 職業に対する女性自身の自覚が不足していること
- 3.5 その他 ()
- 4.8 わからない
- 2.2 特に障害となっていることはない
- 3.4 無回答

問14 あなたは、現在働いていますか。次の中から1つだけ選んでください。(臨時、内職も含みます。)
(n = 889)

- 58.7 働いている
 - 34.2 かつて働いていたが、今は働いていない
 - 2.9 今まで働いたことはない
 - 4.2 無回答
- > 問14-2へ

[問14で「1. 働いている」を選んだ方におうかがいします]

▶ 問14-1 あなたが働いているのは、主にどのような理由からですか。次の中から2つ以内で選んでください。(n = 522)

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 58.4 生計を維持するため | 13.6 働くことに生きがいを感じるから |
| 10.9 生活費に余裕がないため | 12.5 社会や他人とのつながりを持つため |
| 7.5 住宅ローンや住宅資金、家賃のため | 1.9 時間に余裕があるから |
| 4.0 子どもの教育資金のため | 19.9 働くのはあたりまえのことだから |
| 14.6 将来に備えて貯蓄するため | 10.9 家業(自営業、農業など)だから |
| 10.3 自分で自由になるお金が欲しいから | 2.5 その他 () |
| 8.2 自分の能力・技術・資格を生かし、伸ばすため | 1.0 無回答 |

[前ページ問14で「2. かつて働いていたが、今は働いていない」または「3. 今まで働いたことはない」を選んだ方におうかがいします]

問14-2 あなたは、今後働きたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

(n = 330)

8.8 正社員として働きたい	5.2 家業で働きたい
20.3 パート、アルバイトとして働きたい	43.0 働くつもりはない
3.9 独立した仕事がしたい	11.2 わからない
2.4 内職をしたい	5.2 無回答

[ここからすべての方におうかがいします]

問15 あなたは、男性が「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。「育児休業制度」と「介護休業制度」のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。(n = 889)

	積極的に利用した方がよい	どちらかといえど利用した方がよい	どちらかといえど利用しない方がよい	利用しない方がよい	わからない	無回答
ア. 育児休業	43.2	32.3	6.7	3.0	8.5	6.2
イ. 介護休業	48.4	33.6	5.1	1.7	7.0	4.3

ワーク・ライフ・バランスについておうかがいします

※ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事と生活の調和」と訳され、働く人が、子育てや介護、自己啓発、地域活動といった仕事以外の生活と仕事を自分が望むバランスで実現できるようにすることをいいます。

問16 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、理想と現実、それぞれ最も近いものを1つずつ選んでください。（n=889）

	回答例	理想は	現実には
ア. 「仕事」を優先	1	3.5	29.5
イ. 「家庭生活」を優先	2	17.0	15.4
ウ. 「地域・個人の生活」を優先	3	1.9	1.1
エ. 「仕事」と「家庭生活」を優先	4	21.1	18.8
オ. 「仕事」と「地域・個人の生活」を優先	⑤	6.1	3.0
カ. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先	6	10.7	4.2
キ. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを優先	7	19.3	1.9
ク. わからない	8	2.8	4.4
無回答		17.5	21.7

[6ページの問14で「1. 働いている」を選んだ方におうかがいします]

問17 あなたは、「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の調和を図るために、どのようなことをしていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（n=522）

12.1 残業を減らす
17.8 年休をしっかりとる
42.7 効率よく仕事をする
43.1 家族と過ごす時間を大切にする
9.2 自己啓発を進める
37.4 自分の趣味の時間をとる
5.4 地域活動、NPO活動に参加する
4.2 消費者として企業や商店に過剰なサービスを求めない
27.2 シンプルな生活を心掛ける
3.1 その他（)
9.6 何もしていない
4.2 無回答

[ここからすべての方におうかがいします]

問18 あなたにとって、「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）のバランスは、うまくとれていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

16.5 うまくとれている	28.9 あまりとれていない	4.8 無回答
44.5 ややとれている	5.2 まったくとれていない	

[問18で「3. あまりとれていない」または「4. まったくとれていない」を選んだ方におうかがいします]

→ 問18-1 「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）のバランスがうまくとれない理由は何だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=303)

31.7 うまく時間配分ができないから
10.9 家族の理解や協力が得られないから
7.3 世間に、「男性は仕事、女性は家庭」という風潮や固定観念があるから
20.5 家事、育児、介護等をしなければならないから
5.3 子どもを預ける場所がなかったり、不足したりしているから
35.0 生活のため、仕事（収入）を優先せざるをえないから
28.7 仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから
6.9 職場の理解や協力が得られないから
5.3 近くにスポーツ・文化施設が少ないから
10.6 社会制度や環境が整っていないから
10.6 その他（)
6.3 わからない
1.7 無回答

人権についておうかがいします

問19 あなたが、女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことについてでしょうか。
次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。(n=889)

35.1	売春・買春・援助交際
61.8	レイプ（強姦）などの女性への性暴力
58.4	痴漢等の女性へのわいせつな行為
47.1	ストーカーなどの女性へのつきまとい行為
24.9	夫婦生活における一方的セックスの強要
42.1	家庭内での夫から妻への暴力
46.3	職場等におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
6.1	女性の容姿を競うミス・コンテスト
10.6	女性のヌード写真を掲載した雑誌等
13.8	女性の体の一部などを内容と無関係に使用した広告
13.9	ポルノ映画・アダルトビデオ
1.9	その他（ ）
7.5	特に感じない
10.1	わからない
5.8	無回答

問20 性的な発言や行為によって不利益を受けたり、不快な思いをすることをセクシュアル・ハラスメントといいます。職場・学校・地域活動、それぞれの場面で、ア～コのような経験をしたことがありますか。それぞれについて、あてはまるものをすべて選んでください。(n=889)

	職場	学校	地域活動
ア. 不必要に体を触られた	7.9	1.5	0.7
イ. 交際や性的関係をせまられた	4.2	0.4	0.8
ウ. 交際や性的関係を拒否して、不当な扱いや嫌がらせを受けた	1.8	0.4	0.3
エ. 宴会でお酌やデュエットを強要された	7.5	0.1	1.5
オ. ヌード写真などを故意に見せられた	1.2	0.1	0.1
カ. 性的なうわさを流された	1.2	0.6	0.6
キ. しつこく容姿のことを言われた	3.5	1.2	0.7
ク. 異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	3.6	0.4	1.3
ケ. 性的な冗談や会話につきあわされた	7.2	0.6	1.3
コ. その他（ ）	0.7	0.1	0.4
サ. 特にない	39.1	38.6	41.2
無回答	43.4	57.4	54.2

[前ページの間20のア～コに1つでも○を付けた方におうかがいします]

問20-1 そのとき、だれ、もしくはどこに相談しましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=181)

- 17.7 家族や親戚
- 33.7 友人・知人
- 9.9 会社の上司、人事課、学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)
- 1.1 千葉県男女共同参画センター、千葉県女性サポートセンター等の公的機関
- 1.7 その他 ()
- 51.4 どこ(だれ)にも相談しなかった
- 1.7 無回答

[問20-1で「6. どこ(だれ)にも相談しなかった」を選んだ方におうかがいします]

問20-2 どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=93)

- 12.9 どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから
- 33.3 相談してもむだだと思ったから
- 3.2 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- 18.3 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
- 8.6 そのことについて思い出したくなかったから
- 51.6 相談するほどのことではないと思ったから
- 6.5 その他 ()

[ここからすべての方におうかがいします]

問21 セクシュアル・ハラスメントをなくすために、特にどのような対応が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つ以内で選んでください。(n=889)

- 24.0 公的なチェック・指導機関の強化
- 33.3 公的な相談・カウンセリング窓口の強化
- 5.7 NPOなど民間団体による相談活動
- 32.3 セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だという社会的な意識をつくるための情報や学習機会の提供
- 28.7 セクシュアル・ハラスメントを禁止する法律や条例などの強化
- 28.2 セクシュアル・ハラスメントをした人に対する刑罰や制裁の適用
- 18.2 職場や学校での相談機能の充実
- 16.6 職場や学校や地域団体でのセクシュアル・ハラスメントの防止と対策に関する研修の充実
- 9.7 職場や学校や地域団体が行なうセクシュアル・ハラスメント対策への公的な支援
- 11.9 詳細な実態把握のための調査・研究
- 2.7 その他 ()
- 6.6 特にない
- 5.7 無回答

問22 配偶者や恋人などから、様々な暴力行為を、身体的または精神的に受けることをドメスティック・バイオレンスといますが、あなたは次のア～チのような経験がありますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。(n=889)

	あ 何 つ 度 た も	あ 1、 つ た 2 度	な ま い つ た く	無 回 答
ア. 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける	0.9	1.9	69.3	27.9
イ. 医師の治療が必要となるほどの暴行を受ける	0.6	1.1	69.7	28.6
ウ. 医師の治療が必要とされない程度の暴行を受ける	1.9	2.7	66.7	28.7
エ. 何を言っても無視され続ける	1.5	5.1	64.1	29.4
オ. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる	3.1	4.7	64.2	27.9
カ. 大声でどなられる	5.8	10.6	56.6	27.0
キ. 嫌がっているのに性的な行為を強要される	2.2	4.6	63.7	29.5
ク. 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な表現をする	4.6	7.0	60.2	28.2
ケ. 容姿について傷つくようなことを言う	3.0	7.4	61.0	28.6
コ. 避妊に協力しない	2.4	3.3	64.9	29.5
サ. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	0.2	1.8	68.8	29.1
シ. 生活費を渡さない	3.3	1.8	66.6	28.3
ス. 浪費や借金で苦しめられる	3.8	3.7	64.1	28.3
セ. 職場に嫌がらせをされる	0.8	1.8	67.6	29.8
ソ. 交友関係や電話、郵便物を細かく監視される	2.7	2.2	65.7	29.4
タ. その他 ()	0.7	0.1	31.5	67.7
[女性のみ回答してください]				
チ. 妊娠中絶を強要される	0.6	3.0	67.5	29.0



[前ページ問22のア～チに1つでも○を付けた方におうかがいします]

問22-1 そのとき、だれ、もしくはどこに相談しましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=255)

- 27.1 家族や親戚
- 20.8 友人・知人
- 1.2 千葉県男女共同参画センター、千葉県女性サポートセンター等の公的機関
 - 市役所の相談窓口（子育て支援課）
- 2.4 警察
- 1.2 法務局、人権擁護委員
 - 民生委員・児童委員
- 3.1 民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）
- 1.2 医療関係者（医師、看護師、保健師など）
- 0.4 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
- 1.6 その他（)
- 47.5 どこ（だれ）にも相談しなかった
- 12.2 無回答

[問22-1で「12. どこ（だれ）にも相談しなかった」を選んだ方におうかがいします]

→ 問22-2 どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=121)

- 5.8 どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
- 9.1 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- 33.9 相談してもむだだと思ったから
- 5.0 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
- 0.8 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
- 1.7 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- 19.0 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
- 7.4 世間体が悪いから
- 11.6 他人を巻き込みたくなかったから
- 1.7 他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校など人間関係）ができなくなると思ったから
- 3.3 そのことについて思い出したくなかったから
- 19.8 自分にも悪いところがあると思ったから
- 1.7 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
- 56.2 相談するほどのことではないと思ったから
- 5.8 その他（)

[ここからすべての方におうかがいします]

問23 ドメスティック・バイオレンスをなくすためにはどのような対策が必要だと思いますか。

また、発生した場合に、被害者の安全を確保して早期に解決するために、特にどのような対応が有効だと思いますか。次の中からあてはまるものを5つ以内で選んでください。(n=889)

49.2	相談窓口の充実
50.1	緊急避難施設（暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設）の充実
45.2	緊急避難施設を出たあと、問題の解決や自立（就職、転居など）を一貫して支援する機関の設置
44.5	警察の相談・対応の充実
26.8	ドメスティック・バイオレンスは重大な人権侵害であるという社会的な意識をつくるための情報や学習機会の充実
25.2	女性も男性も、お互いを尊重し、認め合える教育の推進
32.2	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、ストーカー行為等の規制等に関する法律などの法律の強化
12.0	カウンセリング、自助グループ活動など、暴力をふるった人のための取り組みの充実
7.1	司法、福祉、心理、教育などさまざまな専門職や行政関係者の、ドメスティック・バイオレンスに関する研修の充実
12.5	実態把握のための調査・研究
26.5	親や周囲の人の理解と支え
1.9	その他（)
5.3	わからない
7.5	無回答

社会全般についておうかがいします

問24 あなたは、現在、次のア～カのような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。

それぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選んでください。(n=889)

	平等になっている	どちらかかといえる	どちらかかといえない	平等になっていない	わからない	無回答
ア. 家庭の中で	26.1	37.6	14.6	9.1	4.9	7.6
イ. 地域の中で	12.0	31.7	22.6	10.7	13.6	9.3
ウ. 教育の中で	20.8	35.5	12.3	5.5	15.7	10.1
エ. 職場の中で	9.0	24.6	26.7	16.1	12.4	11.2
オ. 社会通念や風潮の中で	4.7	21.0	32.6	19.7	12.1	9.8
カ. 法律や制度の上で	10.0	28.2	21.1	13.6	17.0	10.0

問25 政治や行政において企画や方針決定の過程で女性の参画を進めていくためには、どうしたらよいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=889)

- 35.1 政治や行政について、女性の意識を高めるためのセミナーなどを積極的に開催する
- 26.8 市が女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する
- 22.0 審議会や委員会などの委員に女性を優先的に登用する
- 22.7 政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする
- 4.8 その他 ()
- 24.0 わからない
- 8.8 無回答

問26 袖ヶ浦市では、市議会議員の中に占める女性議員の数は24人中4人(16.7%)、審議会等の女性委員は791人中219人(27.7%)となっています。(平成24年3月31日現在)あなたは、この状況をどのように思いますか。考えに最も近いものを1つだけ選んでください。(n=889)

- 15.3 今のままでよい
- 44.9 女性がもう少し増えたほうがよい
- 14.2 女性が男女半々くらいまで増えたほうがよい
- 0.4 男性を上回るほど、女性が増えたほうがよい
- 4.5 その他 ()
- 15.0 わからない
- 5.7 無回答

問27 現在、男女共同参画社会の実現に向けて、法律や制度の整備が進んでいます。あなたは次のア～ケのような法律のことを知っていますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。(n=889)

	知内容 つ容 てま いで る	知あ聞 らる る い な が た い こ と は 内 容 は	知 ら な い	無 回 答
ア. 男女共同参画社会基本法	4.4	36.3	50.1	9.2
イ. 男女共同参画基本計画	2.9	35.7	51.0	10.5
ウ. 女子差別撤廃条約	3.4	35.7	50.4	10.6
エ. 改正男女雇用機会均等法	18.6	45.1	25.6	10.7
オ. 育児・介護休業法	24.1	53.0	13.4	9.6
カ. ストーカー規制法(ストーカー行為等の規制等に関する法律)	15.7	58.8	15.2	10.2
キ. 児童虐待防止法(児童虐待の防止等に関する法律)	18.3	60.5	11.2	9.9
ク. DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	10.6	58.4	20.6	10.5
ケ. 袖ヶ浦市男女共同参画計画	2.8	28.2	59.2	9.8

市への要望についておうかがいします

問28 防災・災害復興対策に、男女の性別に配慮した対応がとられる必要があると思いますか。

次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 37.2 必要がある | 7.3 どちらかといえば必要ない |
| 34.0 どちらかといえば必要がある | 2.7 必要ない |
| | 12.3 わからない |
| | 6.5 無回答 |

[問28の「1. 必要がある」または「2. どちらかといえば必要がある」を選んだ方におうかがいします]

→ 問28-1 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=633)

- | |
|-------------------------|
| 77.7 避難所の設置・運営体制 |
| 54.8 被災者に対する相談受付体制 |
| 52.9 食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制 |
| 53.2 救援医療体制 |
| 30.6 災害時の正確・迅速な情報連絡体制 |
| 3.5 その他 () |
| 0.3 特にない |
| 1.1 わからない |
| 0.5 無回答 |

問29 あなたは男女平等の社会を築くために市が重点的に力を入れてほしいと思うことは何ですか。

次の中から主なものを2つ以内で選んでください。(n=889)

- | |
|---|
| 10.1 家庭内のことについての相談窓口を充実する |
| 17.4 労働に関する情報提供と相談機能を充実する |
| 3.4 各種の学習や趣味の講座を増設する |
| 10.7 地域の女性リーダーを発掘・育成する |
| 5.5 地域活動などのグループ、団体を育成・支援する |
| 6.4 審議会委員などに女性委員を登用する |
| 10.8 男女平等に関する普及啓発を行う |
| 22.6 病気や緊急時に家事・育児を手助けする人を派遣する |
| 37.2 高齢者や障害者(児)の施設や介護サービスを充実させ、女性の負担を軽減する |
| 9.1 義務教育での男女平等教育を推進する |
| 3.3 母性保護などの健康対策を充実する |
| 18.4 保育所などの児童対策を充実する |
| 1.8 その他 () |
| 7.4 わからない |
| 7.0 無回答 |

以上で質問は終わりですが、調査結果を統計的に分析するために必要なことごとをお聞かせください。

F 1 あなたの性別は。(n=889)

56.7	女性	38.5	男性	4.8	無回答
------	----	------	----	-----	-----

F 2 あなたの年齢は。(n=889)

7.2	20～29歳	16.5	40～49歳	24.2	60～69歳	4.6	無回答
15.4	30～39歳	13.7	50～59歳	18.3	70歳以上		

F 3 あなたは結婚していますか。(n=889)

69.4	している(事実婚を含む)				
12.6	していない(夫婦別居・離別・死別など)				
12.8	していない(未婚)				
5.2	無回答				

F 3-1 あなたの世帯は、共働きですか。(n=617)

40.8	共働き	4.5	妻だけ働いている
30.6	夫だけ働いている	22.7	夫婦とも無職
		1.3	無回答

F 4 お子さんはいらっしゃいますか。(n=889)

72.4	いる	19.6	いない	8.0	無回答
------	----	------	-----	-----	-----

F 4-1 一番下のお子さんは、次のうちどれにあてはまりますか。(n=644)

12.6	乳幼児	11.0	高校生以上の学生
5.7	小学校低学年(1～3年生)	1.4	学校を終えた子ども
3.3	小学校高学年(4～6年生)	56.5	社会人
3.9	中学生	4.8	その他()
		0.8	無回答

F 5 あなたの世帯は、次のうちどれにあたりますか。ご自分の立場(自分が親、自分が子ども)にかかわらず、世帯構成をお答えください。(n=889)

7.0	ひとり暮らし(単身世帯)	9.0	親と子ども夫婦(二世帯家族)
26.1	夫婦のみ(一世帯世帯)	11.0	親と子ども夫婦と孫(三世帯家族)
35.9	親と未婚の子ども(核家族)	5.6	その他()
		5.4	無回答

F 6 お住まいの地域は、次のどれにあたりますか。(n=889)

24.0	昭和地区	10.9	平岡地区
40.0	長浦地区	9.1	中川・富岡地区
10.0	根形地区	6.0	無回答

最後に、市の男女共同参画社会の推進について、ご意見やご要望がありましたらご記入ください。

ご協力いただきありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、同封の封筒に入れてご返送ください。

調查結果

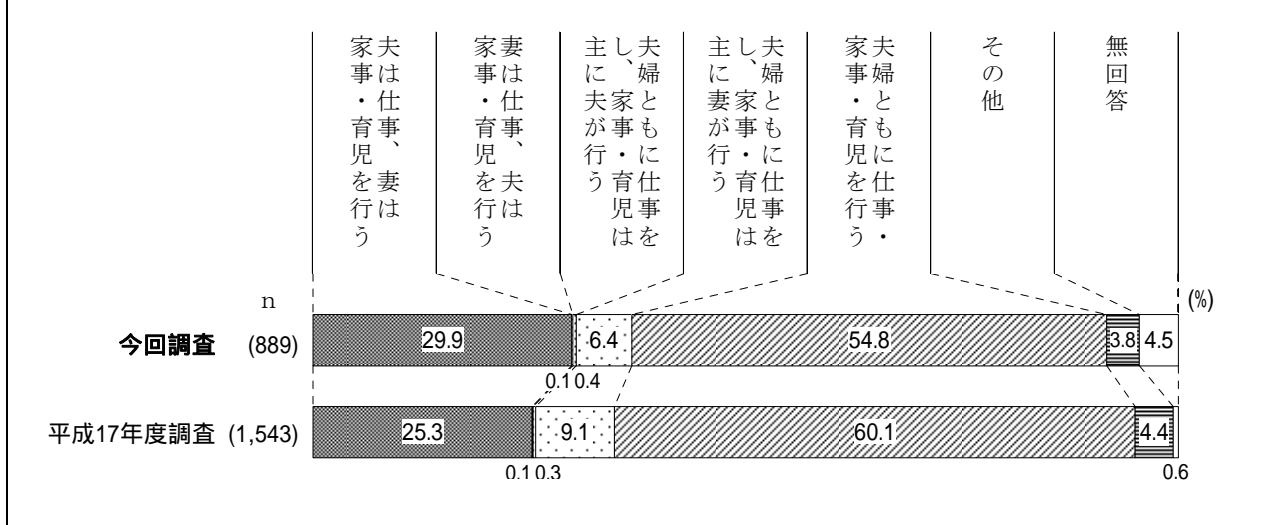
1. 家庭生活について

(1) 理想的な夫婦のあり方

「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」が5割を超える

問1 理想的な夫婦のあり方について、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

(図1-1) 理想的な夫婦のあり方(経年比較)



理想的な夫婦のあり方としては、「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」が54.8%と5割を超えて最も高く、次いで「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が29.9%となっている。

平成17年度調査と比較すると、「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」は5.3ポイント低下している。(図1-1)

【性別、性・年代別】

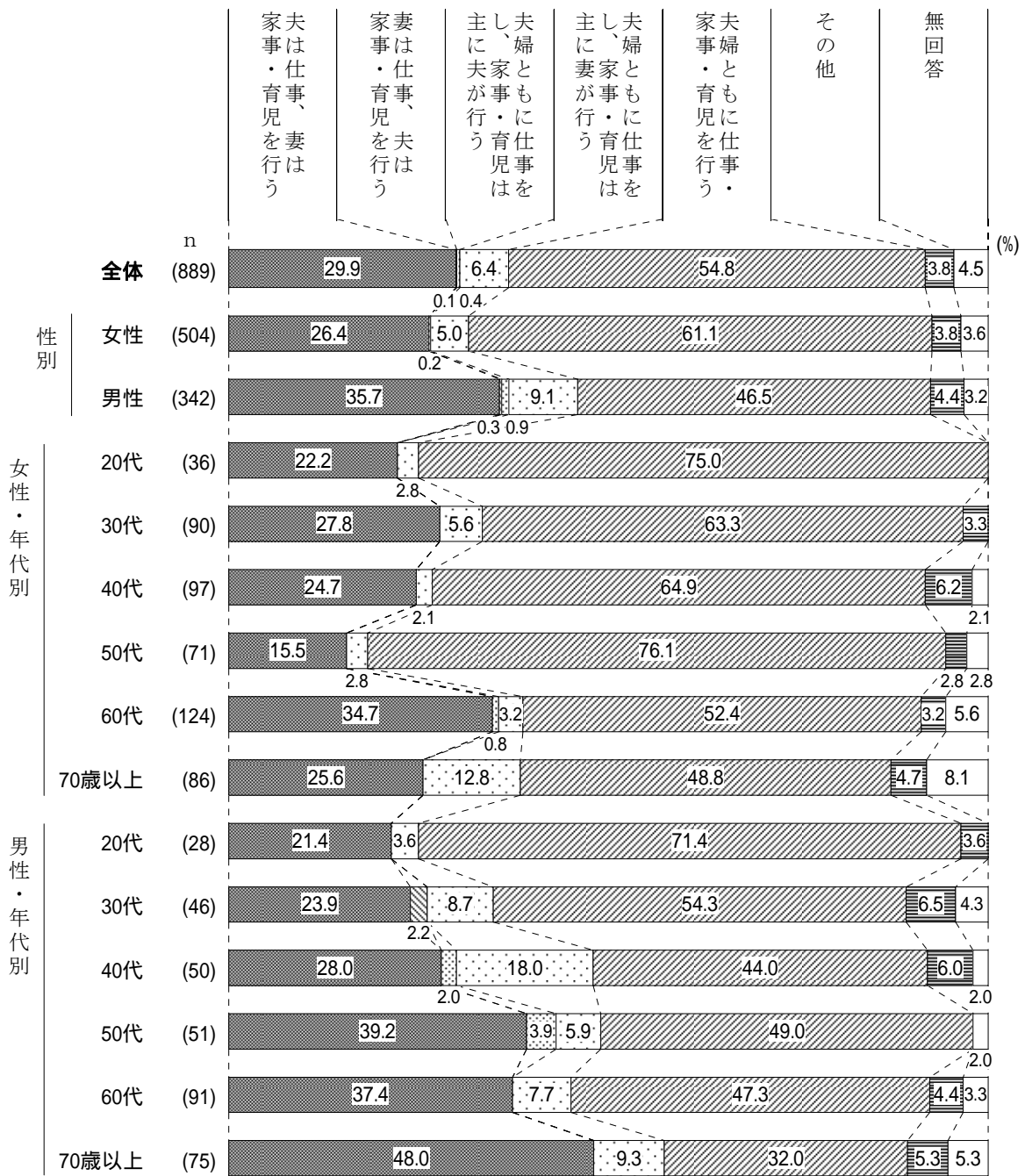
性別で見ると、女性では「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」が61.1%と、男性(46.5%)より高くなっている。一方、男性では「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が35.7%と、女性(26.4%)より高くなっている。

性・年代別で見ると、女性の場合、20代、50代で「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」が、それぞれ75.0%、76.1%と、他の年代より高くなっている。男性では「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」は、20代で71.4%と高くなっている。また、70歳以上の男性では、「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が48.0%と、男女各年代を通じて最も高くなっている。(図1-2)

【参考：性別・経年比較】

性別で、平成17年調査と比較すると、女性では、「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」が7.5ポイント低下し、「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が7.1ポイント上昇している。一方、男性では、大きな変化はみられない。

(図1-2) 理想的な夫婦のあり方 - 性別、性・年代別



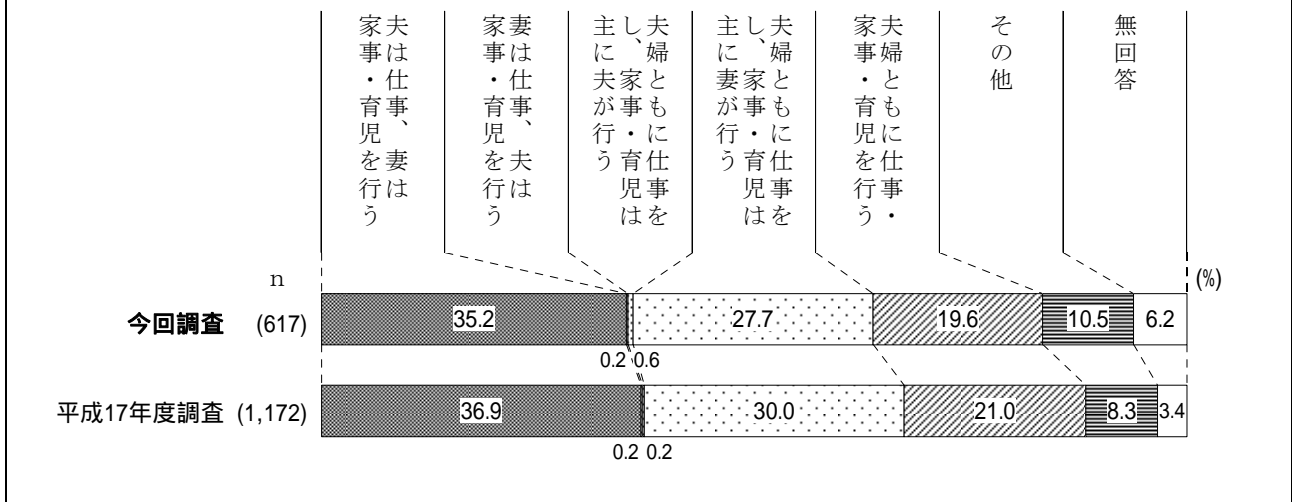
(2) 家庭での夫婦の協力体制

「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が最多

[問2から問5までは、配偶者がいらっしゃる方のみにおうかがいします。]

問2 あなたのご家庭では、実際にはどのような夫婦の協力体制となっていますか。最も近いものを1つだけ選んでください。

(図1-3) 家庭での夫婦の協力体制 (経年比較)



家庭での夫婦の協力体制をみると、「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が35.2%で最も高く、次いで「夫婦ともに仕事をし、家事・育児は主に妻が行う」が27.7%となっている。また、「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」は19.6%である。

平成17年調査と比較すると、大きな変化はみられない。(図1-3)

【性別、性・年代別】

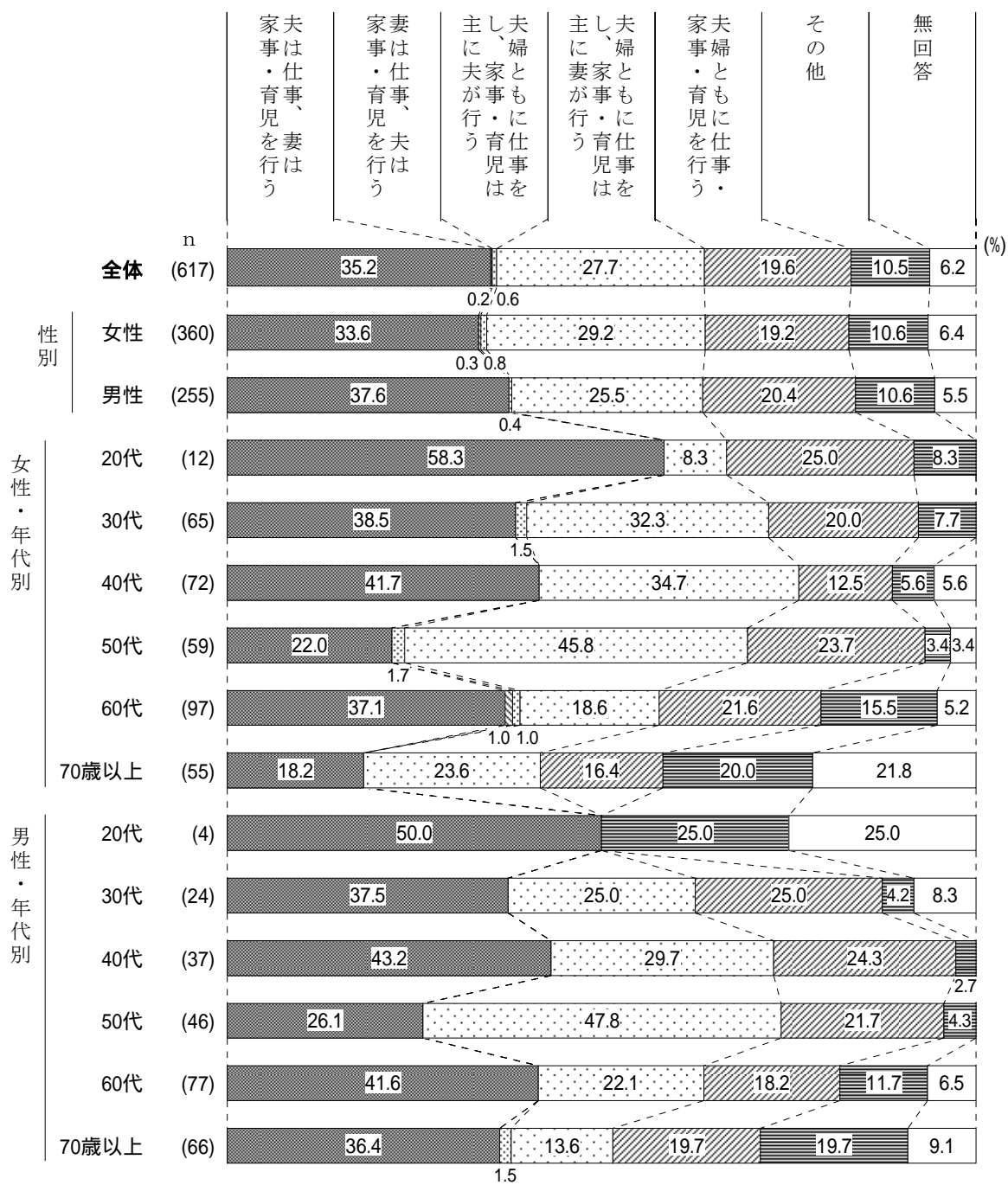
性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、女性の場合、30代、40代、60代では「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が4割前後を占めている。50代では「夫婦ともに仕事をし、家事・育児は主に妻が行う」が45.8%と、他の年代より高くなっている。男性の場合も、30代、40代、60代では「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が4割前後を占めている。50代では「夫婦ともに仕事をし、家事・育児は主に妻が行う」が47.8%と、他の年代より高くなっている。(図1-4)

【参考：性別・経年比較】

性別に、平成17年調査と比較すると、女性では「夫婦ともに仕事をし、家事・育児は主に妻が行う」が6.3ポイント低下している。また、男性では「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」が3.8ポイントとやや低下している。

(図1-4) 家庭での夫婦の協力体制 - 性別、性・年代別

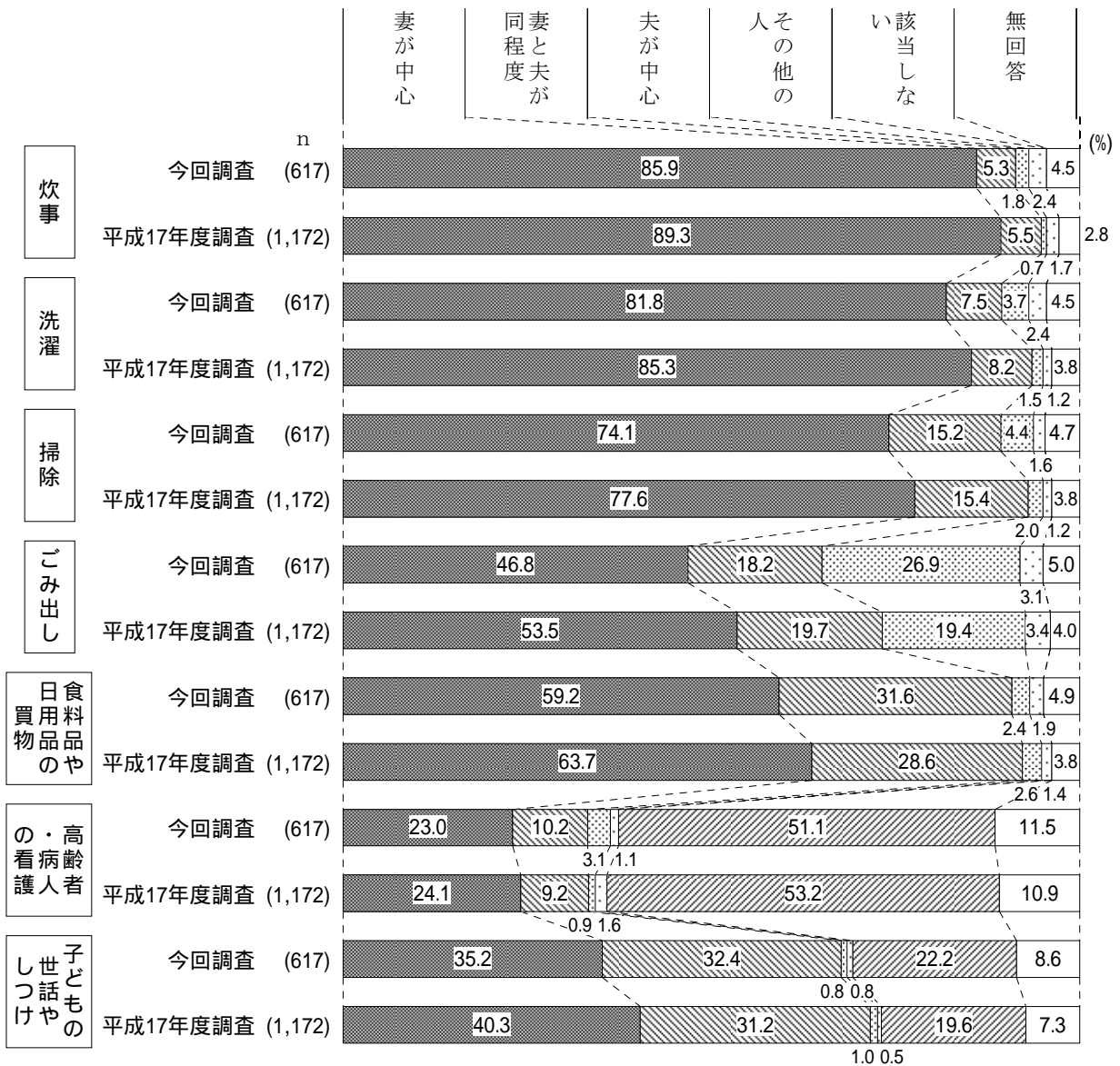


(3) 家庭内での仕事へのかかわり

ごみ出し では、「夫が中心」が2割台半ば

問3 次のア～キのような具体的な家庭内での仕事（家事など）に、あなたのご家庭ではどのようにかかわっていますか。それぞれについてあてはまるものを1つずつ選んでください。

(図1-5) 家庭内での仕事へのかかわり（経年比較）



※「該当しない」は、〈高齢者・病人の看護〉〈子どもの世話やしつけ〉のみ

家庭内の仕事へのかかわりをみると、いずれの項目についても、「妻が中心」が最も高くなっている。〈ごみ出し〉については、「夫が中心」が26.9%と高くなっている。また、〈子どもの世話やしつけ〉については、「妻が中心」(35.2%)と並んで「妻と夫が同程度」(32.4%)が高くなっている。

平成17年度調査と比較すると、いずれの項目についても、「妻が中心」は低下しており、とくに〈ごみ出し〉は6.7ポイント低下している。一方、〈ごみ出し〉は「夫が中心」が7.5ポイント、〈食料品や日用品の買物〉は、「妻と夫が同程度」が3.0ポイント上昇している。(図1-5)

【性別、性・年代別】

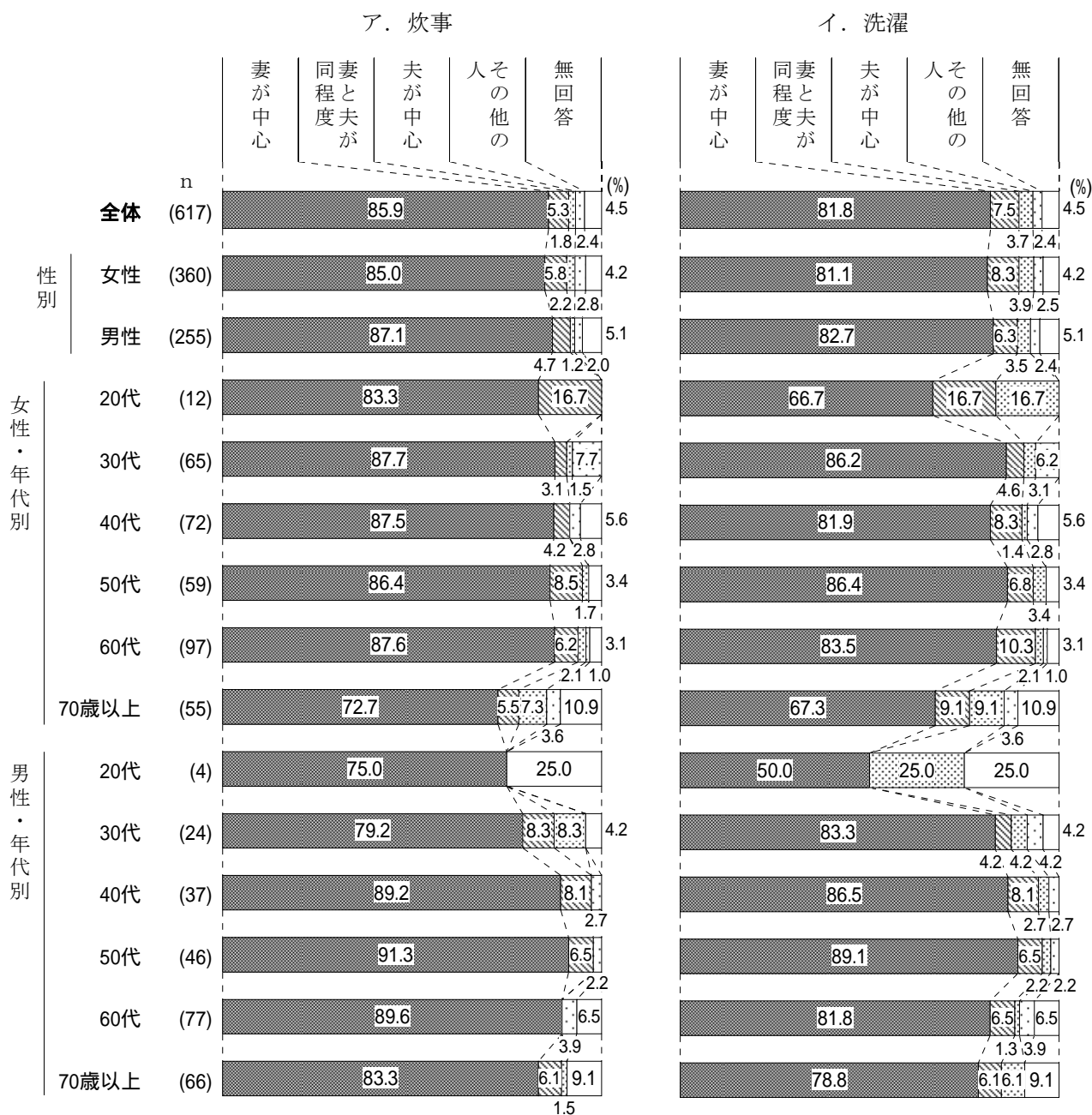
性別で見ると、〈ごみ出し〉、〈食料品や日用品の買物〉、〈子どもの世話やしつけ〉については、認識の男女差が顕著にみられる。いずれにしろ、女性では「妻が中心」との回答が高くなっているのに対して、男性では「妻と夫が同程度」が高くなる傾向がある。

性・年代別で見ると、〈ごみ出し〉については、男性の30代、40代、70歳以上で「夫が中心」が高くなっている。〈子どもの世話やしつけ〉については、男性の40代、50代で「妻と夫が同程度」が5割を超えている。(図1-6)

【 参考：性別・経年比較】

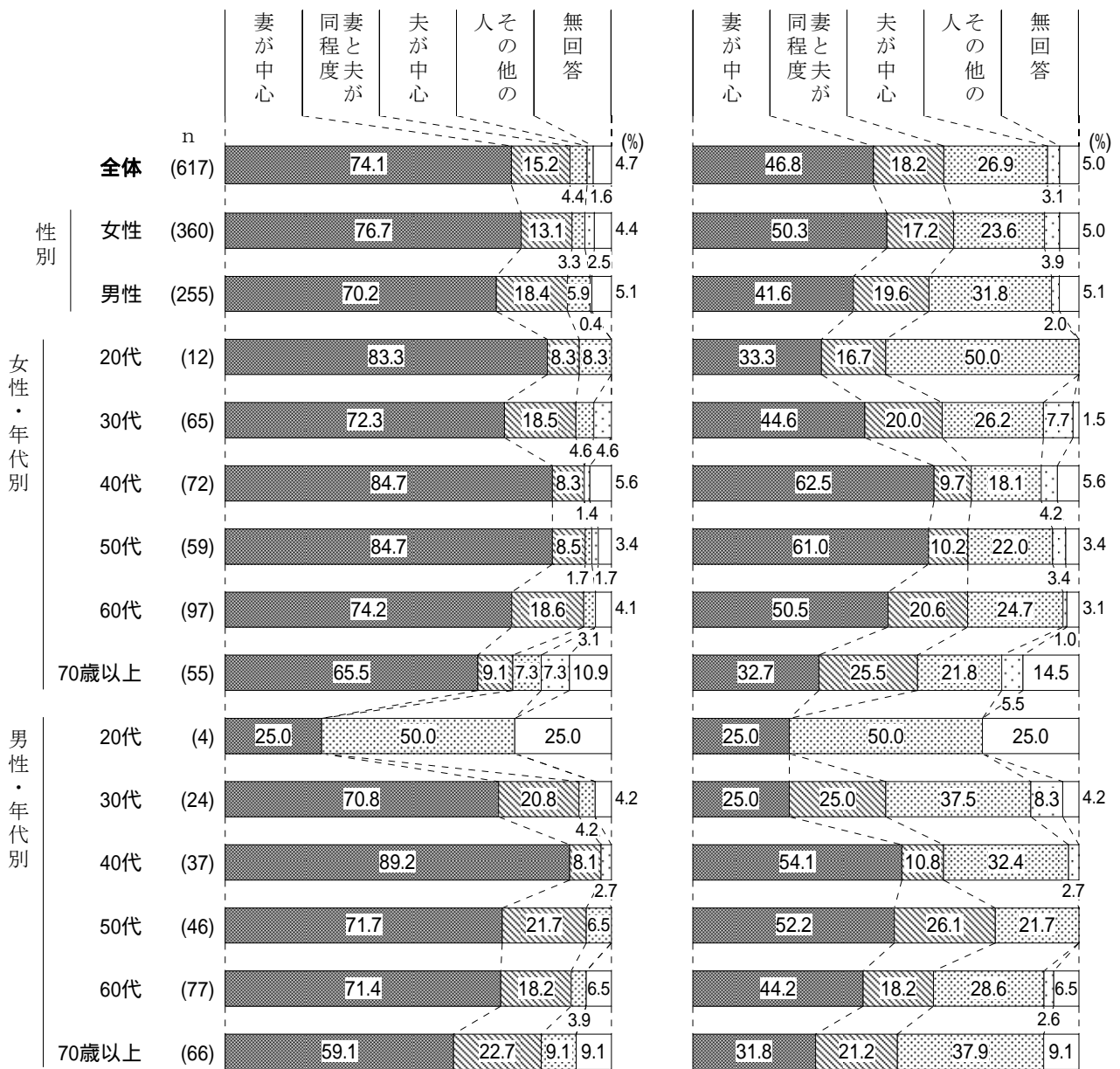
性別に平成17年度調査と比較すると、男性では、〈ごみ出し〉については、「夫が中心」が8.4ポイント上昇している。また、女性では、「妻が中心」が、〈食料品や日用品の買物〉で7.2ポイント、〈子どもの世話やとつけ〉が6.5ポイント減少している。

(図1-6) 家庭内での仕事へのかかわり - 性別、性・年代別



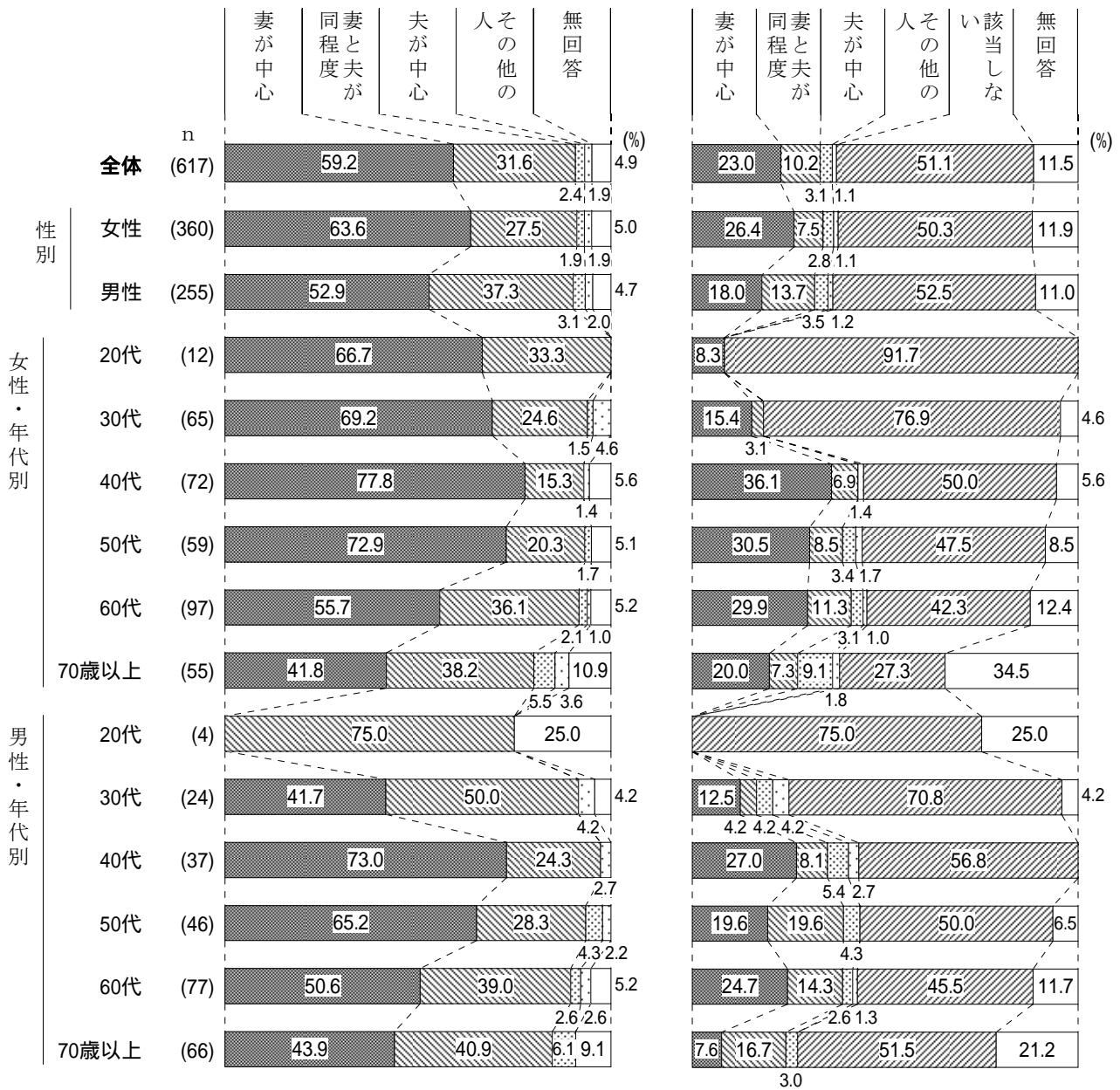
ウ. 掃除

エ. ごみ出し

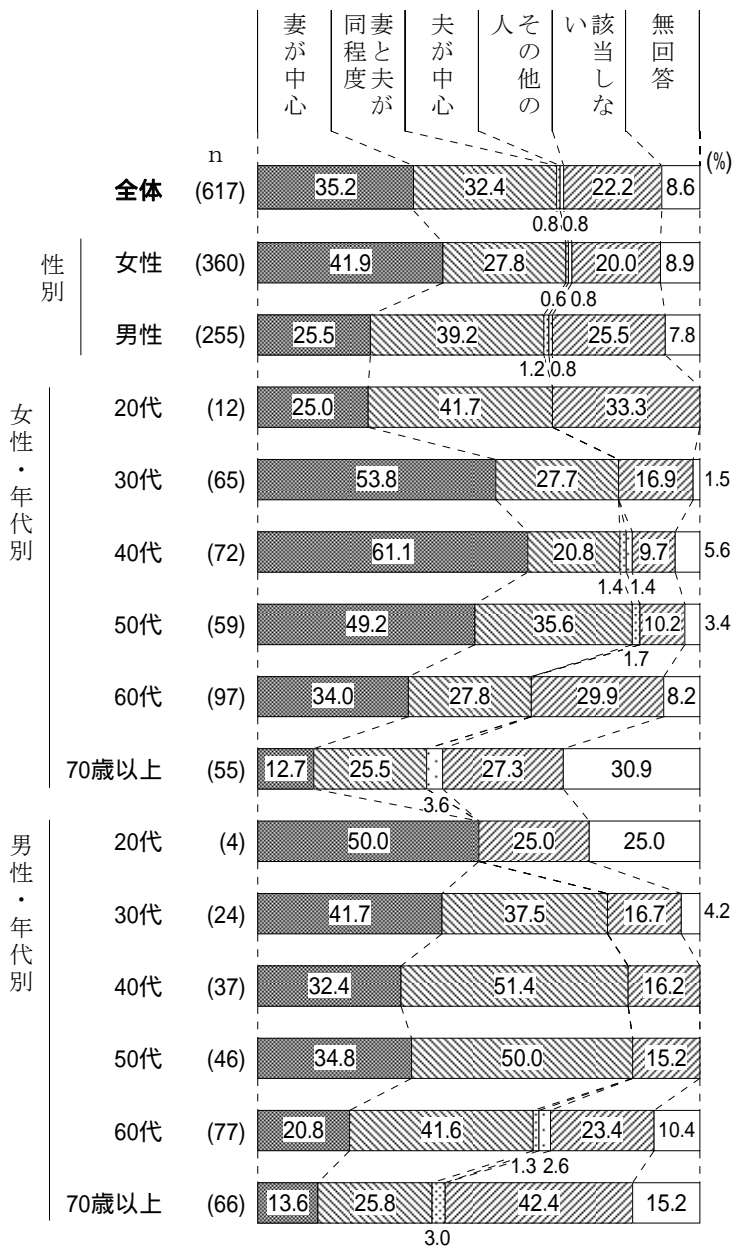


オ. 食料品や日用品の買物

カ. 高齢者・病人の看護



キ. 子どもの世話やしつけ

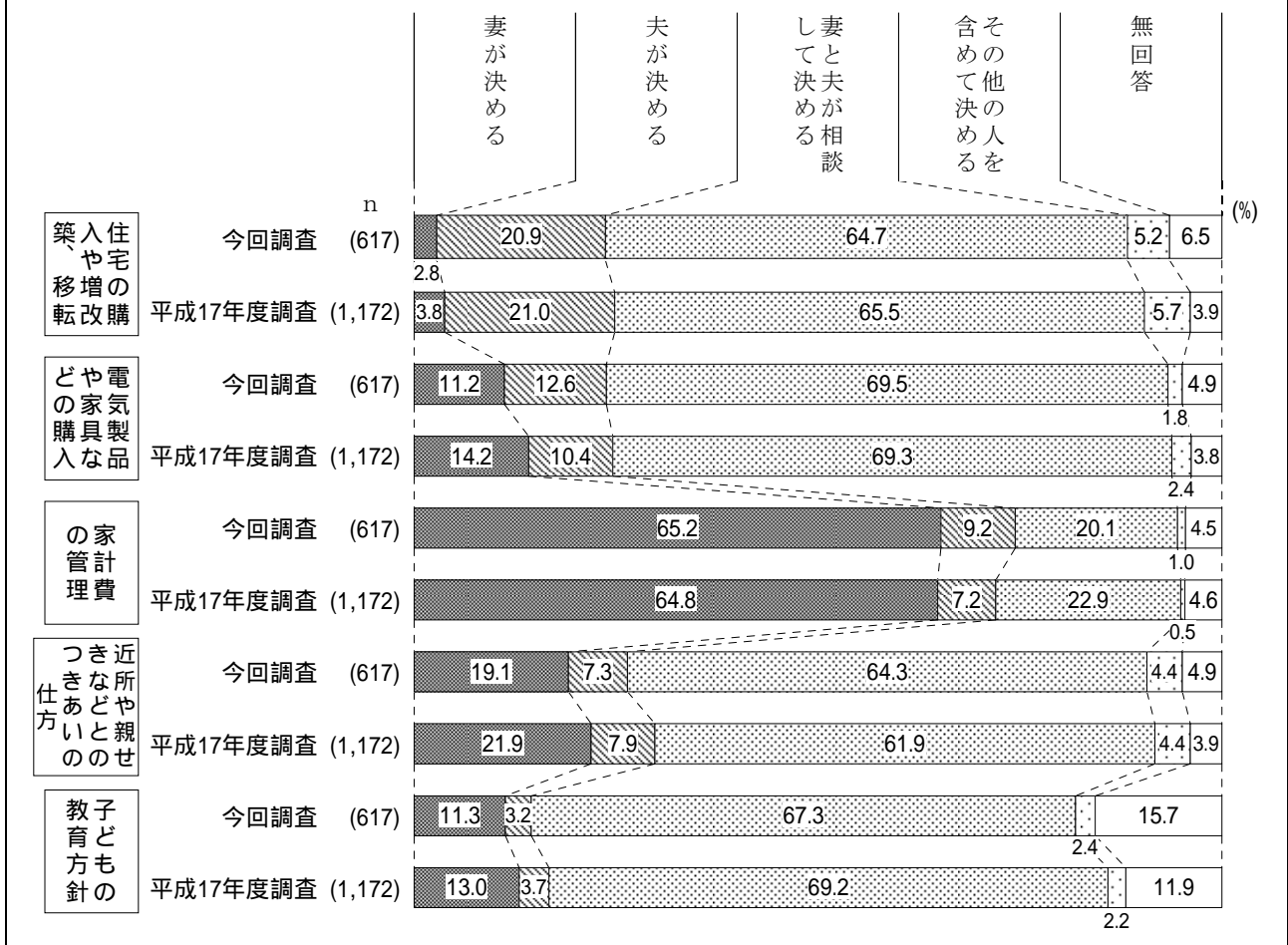


(4) 家庭での決定権

家計費の管理 を除くと「妻と夫が相談して決める」が多い

問4 次のア～オの項目について、あなたのご家庭では主に誰が決めていますか。それぞれについてあてはまるものを1つずつ選んでください。

(図1-7) 家庭での決定権 (経年比較)



家庭での決定権は、〈家計費の管理〉を除くと、いずれも「妻と夫が相談して決める」が6割台半ばを超えて高くなっている。〈家計費の管理〉については、「妻が決める」が65.2%と高く、「妻と夫が相談して決める」は20.1%に留まっている。

平成17年度調査と比較すると、いずれの項目も、回答傾向に大きな変化はみられない。(図1-7)

【性別、性・年代別】

性別で見ると、〈家計費の管理〉を除くと、いずれの項目についても大きな男女差はみられない。〈家計費の管理〉については、女性では「妻が決める」が69.4%と、男性(61.9%)より高くなっている。

性・年代別で見ると、〈家計費の管理〉については、男性の場合、20代、30代を除くと、いずれの年代でも「妻が決める」が7割を超えている。女性の場合、30代で「妻が決める」が72.3%と、他の年代より高くなっている。(図1-8)

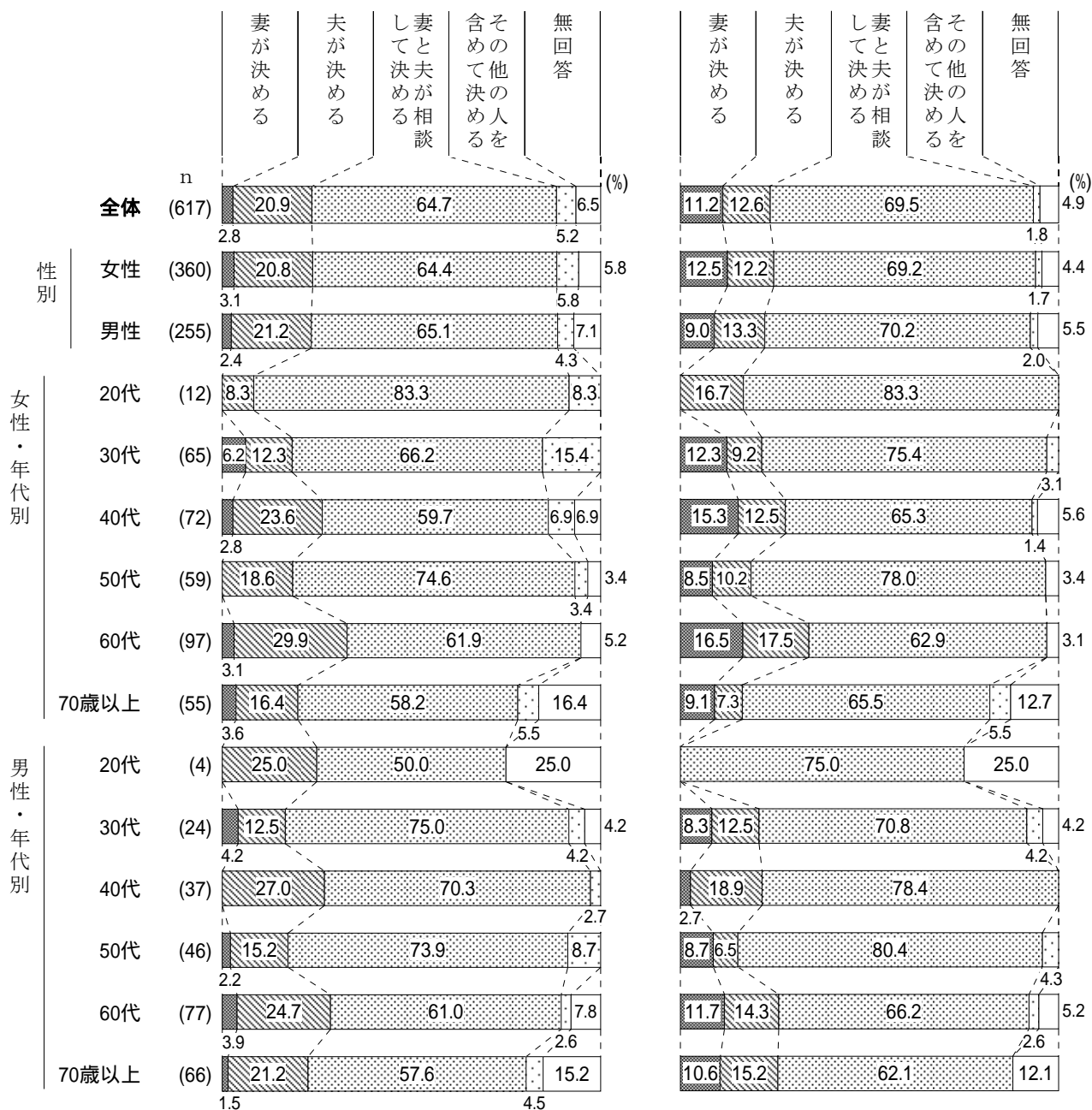
【 参考：性別・経年比較】

性別に平成17年度調査と比較すると、〈家計費の管理〉について「妻が決める」は、女性で3.2ポイント低下し、男性では反対に4.6ポイント上昇している。他の項目については、男女とも「妻と夫が相談して決める」が、ほぼ横ばい状態となっている。

(図1-8) 家庭での決定権 - 性別、性・年代別

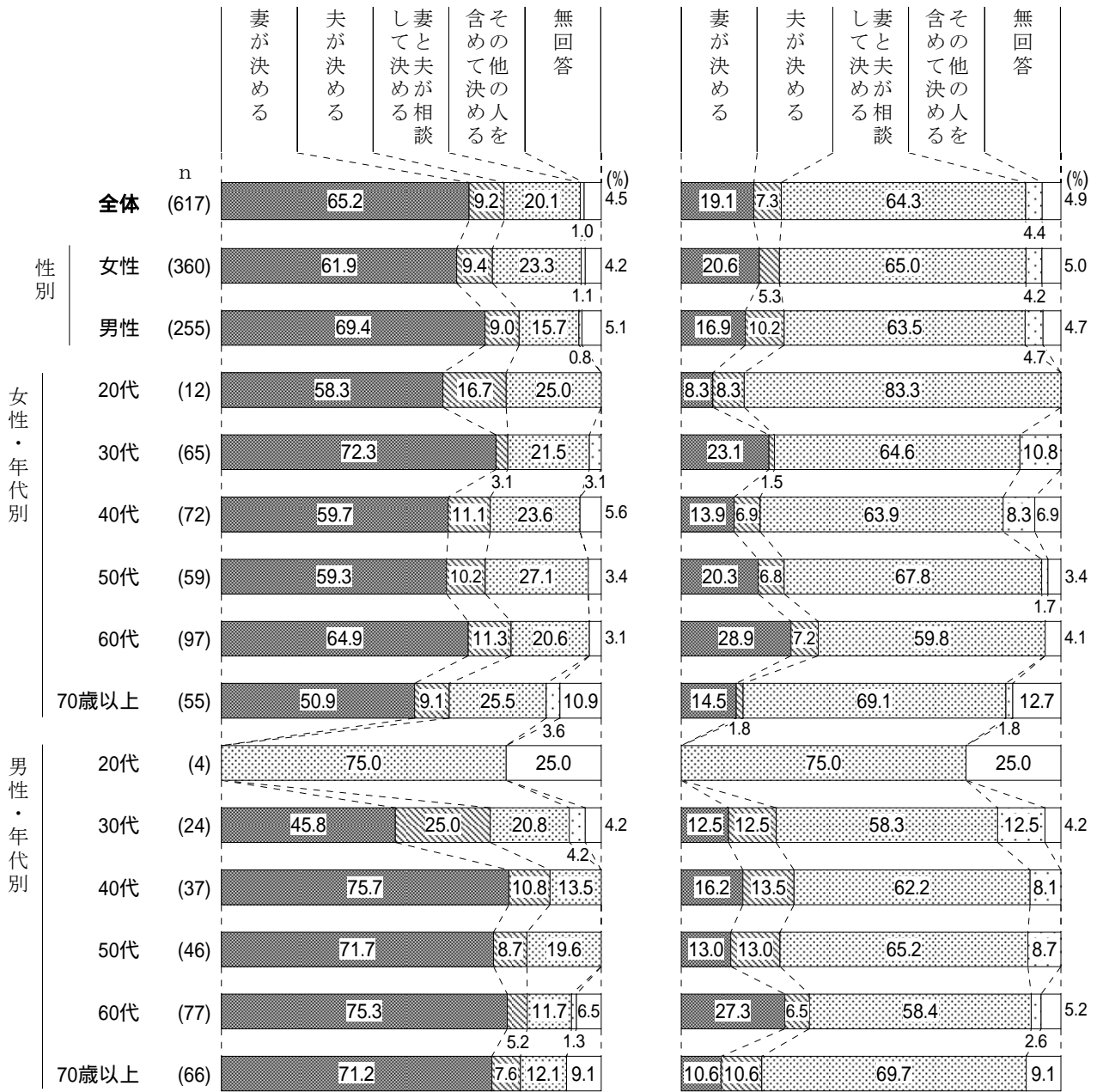
ア. 住宅の購入や増改築、移転

イ. 電気製品や家具などの購入

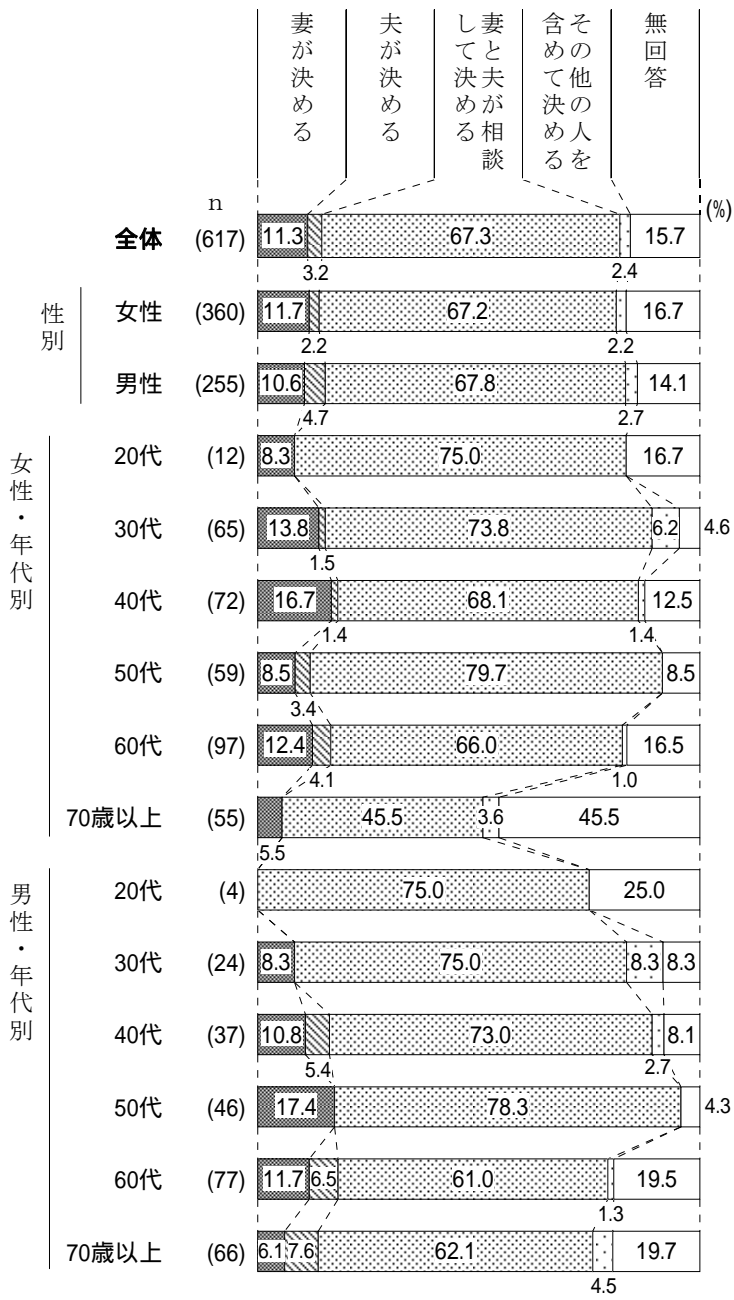


ウ. 家計費の管理

エ. 近所や親せきなどとの
つきあいの仕方



オ. 子どもの教育方針

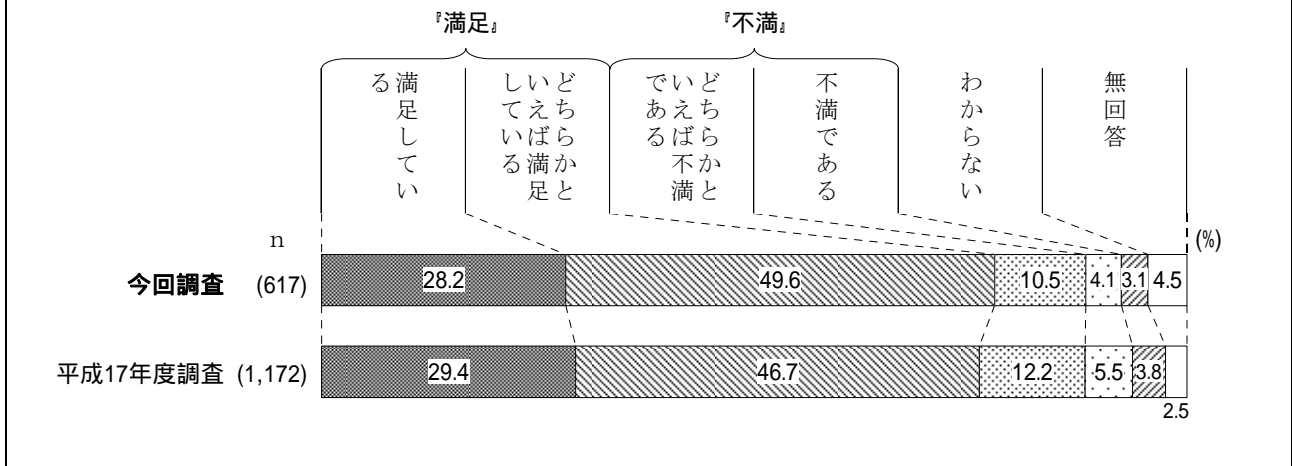


(5) 夫婦の協力体制についての満足度

約8割が『満足』

問5 あなたは、ご家庭内での問2・問3・問4のような夫婦の協力体制について、満足されていますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

(図1-9) 夫婦の協力体制についての満足度(経年比較)



夫婦の協力関係についての満足度をみると、「満足している」が28.2%で、これに「どちらかといえば満足している」の49.6%を合わせると『満足』は77.8%となっている。一方、「どちらかといえば不満である」は10.5%、「不満である」は4.1%で、両方を合わせた『不満』は14.6%である。

平成17年度調査と比較すると、『満足』は1.7%ポイント上昇している。(図1-9)

【性別、性・年代別】

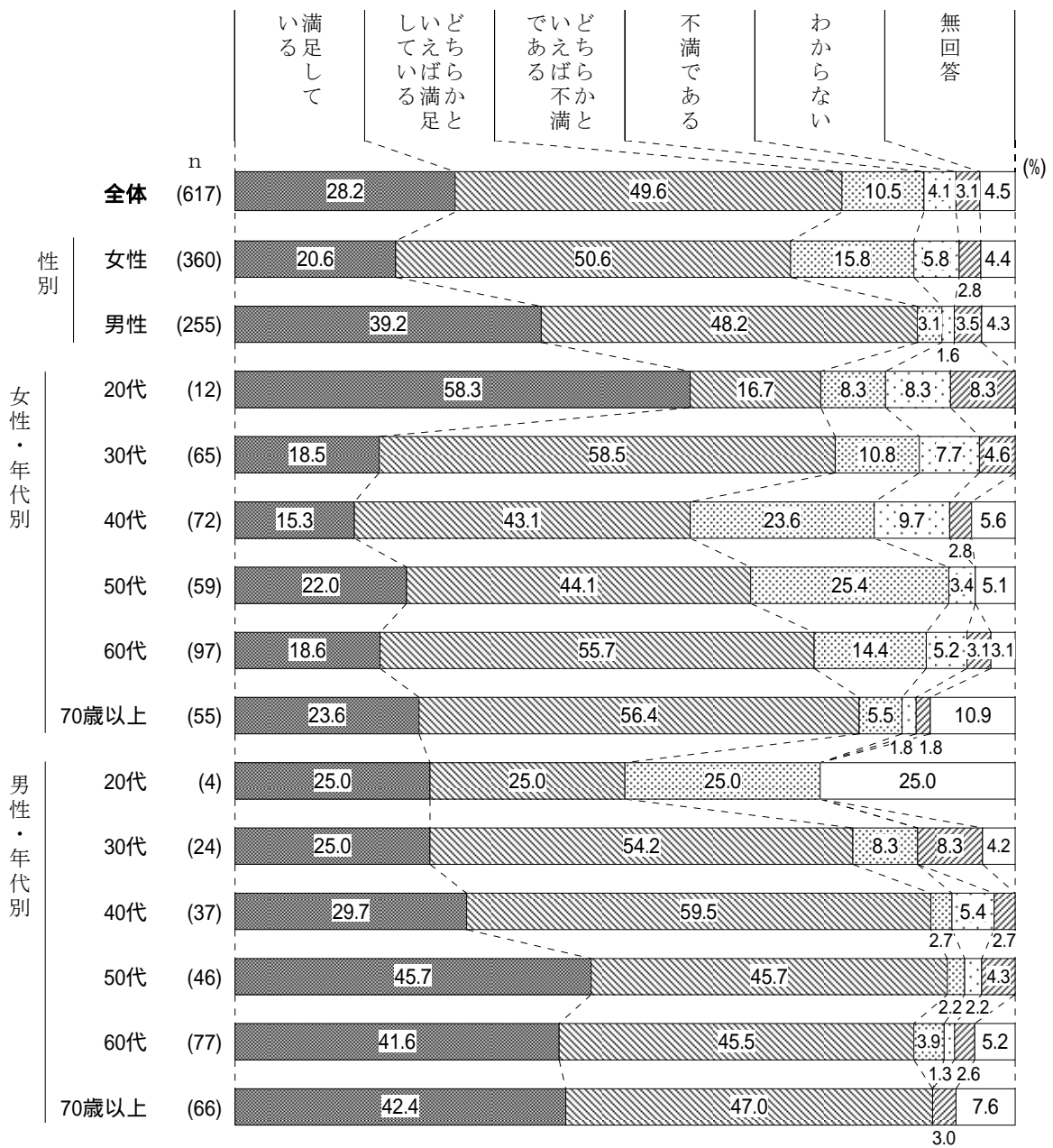
性別でみると、男性では『満足』が87.4%と、女性(71.2%)より高くなっている。

性・年代別でみると、女性の場合、30代、60代、70歳以上では『満足』が7割を超えている。男性の場合、40代、50代、60代、70歳以上では『満足』が9割前後と他の年代より高くなっている。また、「満足」に注目してみると、50代以上の男性では4割を超えているのに対して、同年代の女性では2割前後に留まっており、両者の認識には差がある。(図1-10)

【参考：性別・経年比較】

性別に平成17年度調査と比較すると、女性では「どちらかといえば満足している」が41.5%から50.6%へと9.1ポイント上昇している。男性の場合は、大きな変化はみられない。

(図1-10) 夫婦の協力体制についての満足度 - 性別、性・年代別



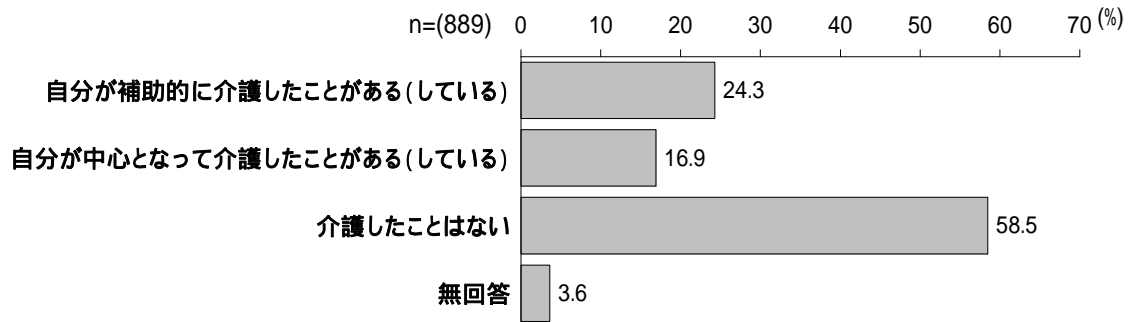
(6) 家族の介護経験

「介護したことはない」が約6割

[すべての方におうかがいします]

問6 あなたは、ご家族（同居・別居を問わず）を介護したことがありますか（または、現在していますか）。次の中から2つ以内で選んでください。

(図1-11) 家族の介護経験（複数回答）



家族の介護経験については、「自分が補助的に介護したことがある（している）」が24.3%で最も高く、次いで「自分が中心となって介護したことがある（している）」の16.9%となっている。一方、「介護したことはない」は58.5%である。

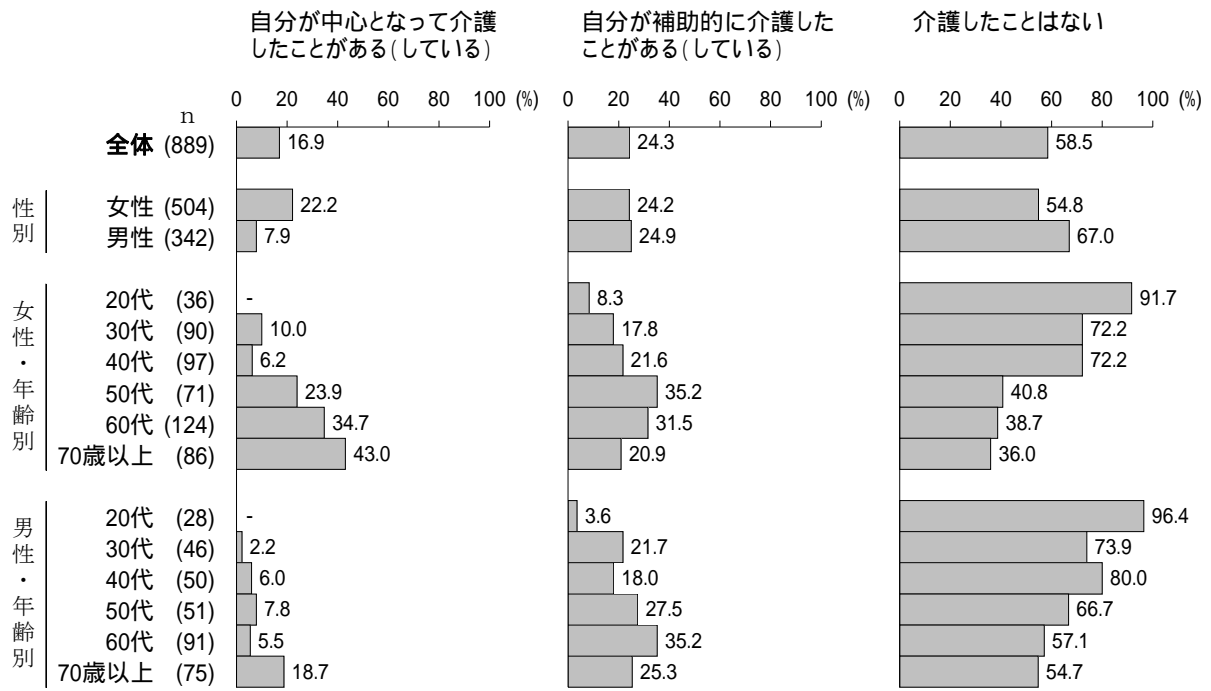
今回、選択肢の回答数が変化しているため、この設問についての経年比較は行わない。(図1-11)

【性別、性・年代別】

性別で見ると、女性では「自分が中心となって介護したことがある（している）」が22.2%と男性（7.9%）より高くなっている。

性・年代別で見ると、女性の場合、50代以上では、年齢が高くなるにつれて「自分が中心となって介護したことがある（している）」が上昇し、70歳以上では43.0%を占めている。男性の場合、70歳以上では「自分が中心となって介護したことがある（している）」が18.7%と2割近くを占め、他の年代より高くなっている。(図1-12)

(図1-12) 家族の介護経験 - 性別、性・年代別

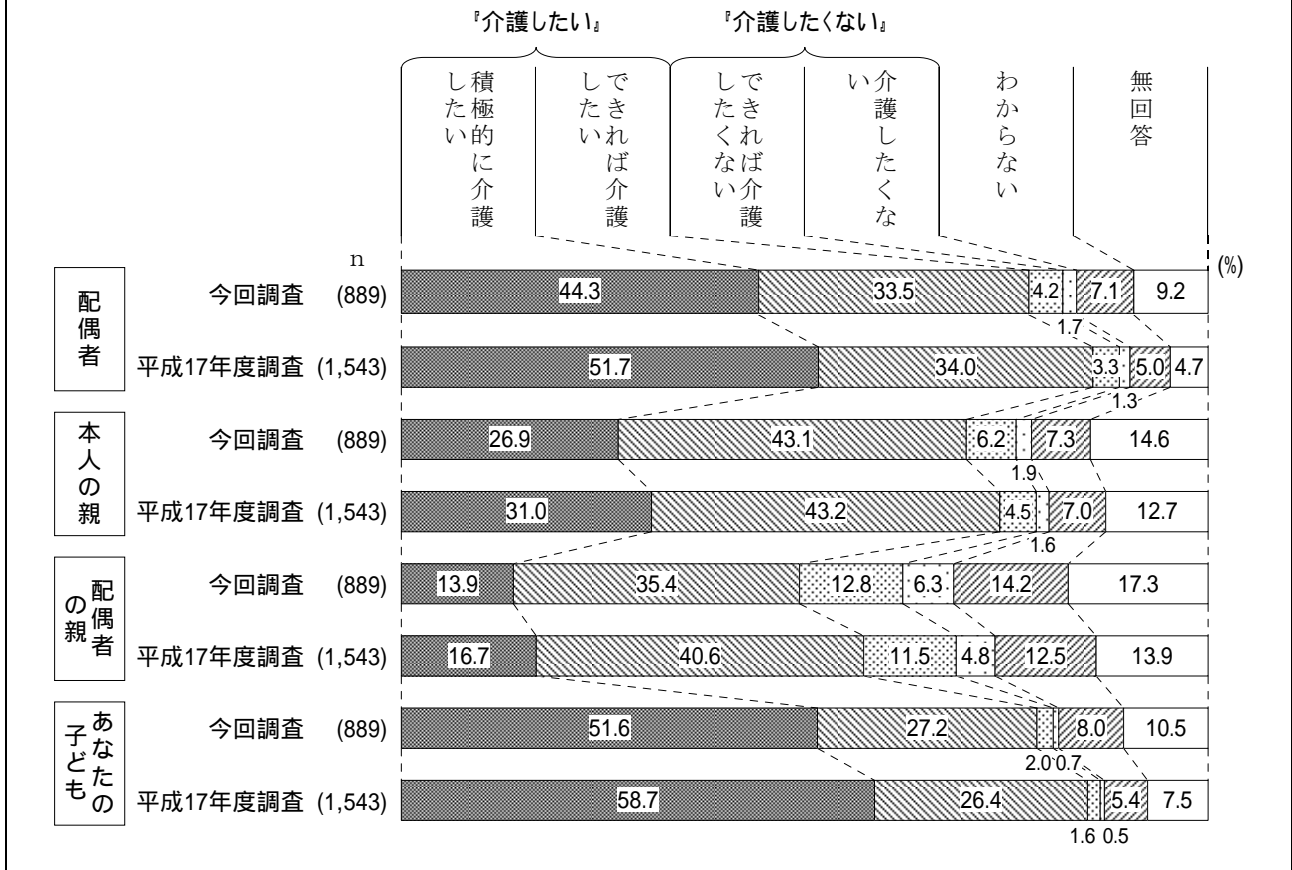


(7) 家族が介護を必要とした時の対応

子どもや配偶者に対しては『介護したい』が高い

問7 もし、あなたのご家族が介護を必要とする状態になった時、あなたはどのようにしたいとお考えですか。次のア～エのそれぞれについてあてはまるものを1つずつ選んでください。

(図1-13) 家族が介護を必要とした時の対応



家族が介護を必要とした時の対応を、「積極的に介護したい」と「できれば介護したい」を合わせた『介護したい』の高い順にみると、〈あなたの子ども〉が78.8%で最も高く、次いで〈配偶者〉77.8%、〈本人の親〉70.0%、〈配偶者の親〉49.3%の順となっている。

平成19年度調査と比較すると、『介護したい』は、〈本人の親〉が8.0ポイント、〈配偶者〉が7.9ポイント減少している等、いずれの項目でも減少傾向がみられる。(図1-13)

【性別、性・年代別】

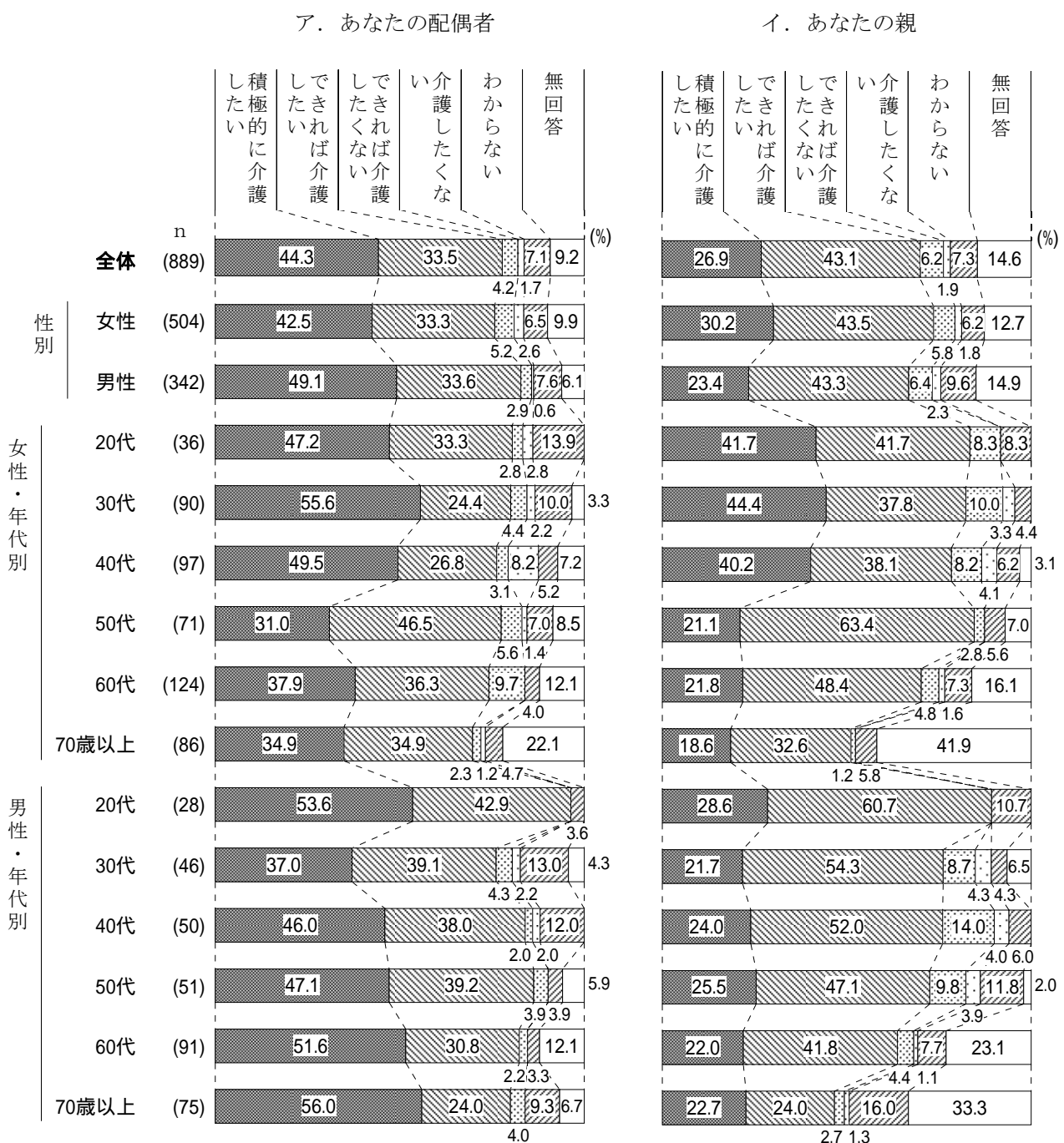
性別にみると、男性では、〈配偶者〉について『介護したい』が82.7%と、女性(75.8%)より高くなっている。一方、女性では〈本人の親〉について『介護したい』が73.7%と、男性(66.7%)より高くなっている。また、女性では、〈あなたの子ども〉について、「積極的に介護したい」が56.5%と、男性(47.1%)より高くなっている。

性・年代別にみると、〈配偶者〉について、女性の場合、30代、40代で「積極的に介護したい」が、それぞれ55.6%、49.5%と高くなっている。男性の場合、20代、60代、70歳以上で「積極的に介護したい」が5割を超えて、他の年代より高くなっている。〈自分の子ども〉については、女性の30代、40代で「積極的に介護したい」が、それぞれ72.2%、71.1%と高くなっている。(図1-14)

【 参考：性別・経年比較】

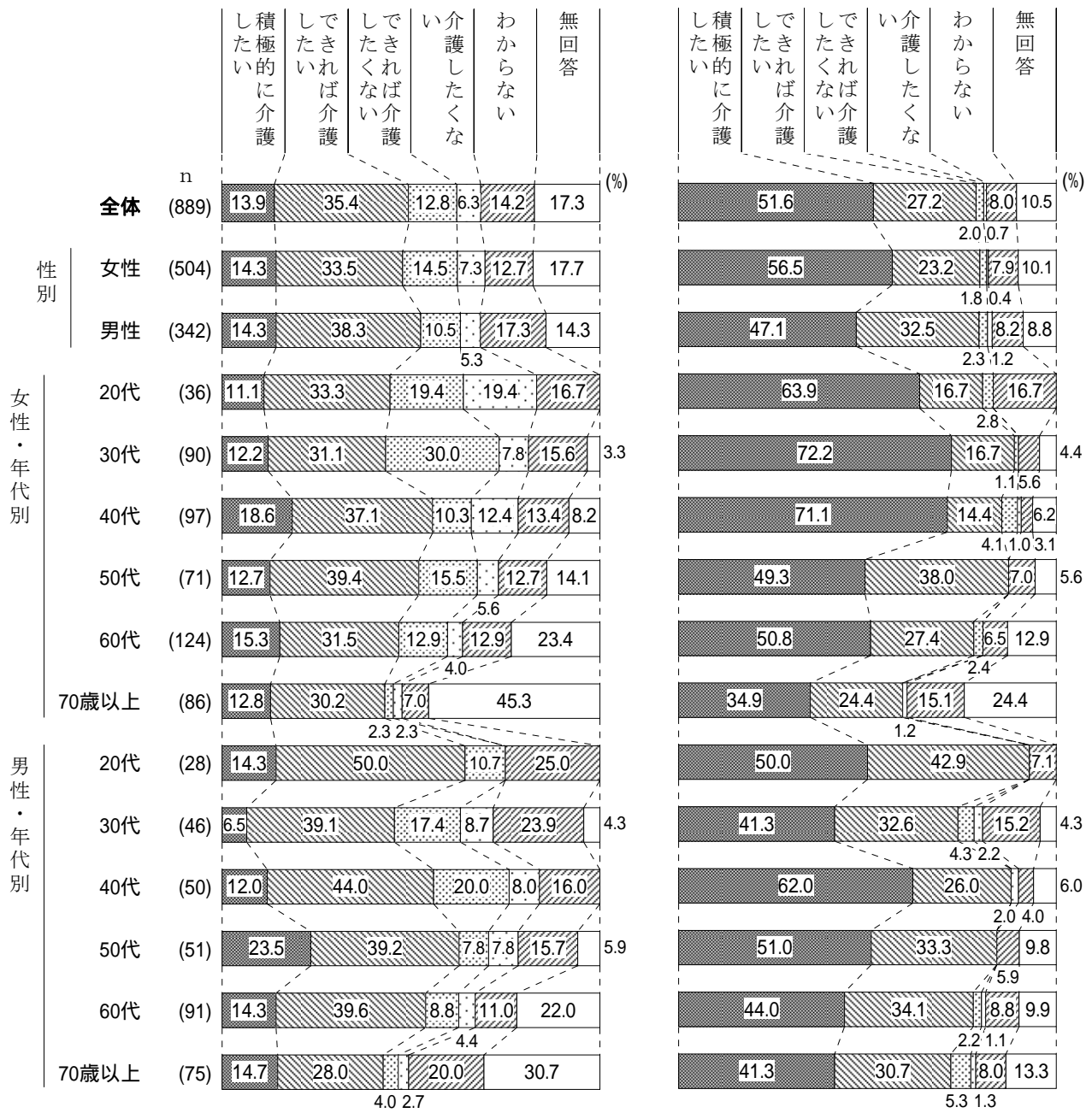
性別で平成17年度調査と比較すると、男女とも、いずれの家族の介護についても、『介護したい』は減少傾向をみせており、特に〈配偶者の親〉と〈配偶者〉で顕著である。〈配偶者の親〉について、男性では『介護したい』が59.0%から52.6%と6.4ポイント低下している。また、〈配偶者〉について、女性では、『介護したい』が83.8%から75.8%と、8.0ポイント減少している。

(図1-14) 家族が介護を必要とした時の対応 - 性別、性・年代別



ウ. 配偶者の親

エ. あなたの子ども

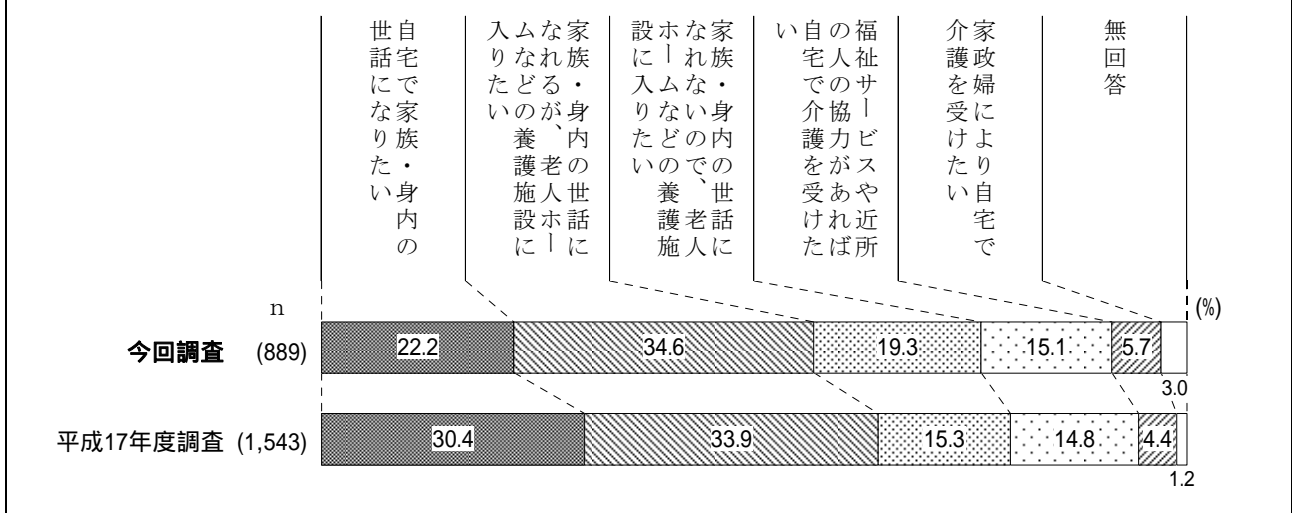


(8) 将来、長期介護を受ける場合に望む対応

「家族・身内の世話になれるが、老人ホームなどの養護施設に入りたい」が最多

問8 将来、あなたが健康を害されて「寝たきり」などの長期介護を受けるようになった場合、どのように対応してもらいたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

(図1-15) 将来、長期介護を受ける場合に望む対応(経年比較)



将来、長期介護を受ける場合に望む対応としては、「家族・身内の世話になれるが、老人ホームなどの養護施設に入りたい」が34.6%で最も高く、次いで「自宅で家族・身内の世話になりたい」22.2%となっている。また、「自宅で家族・身内の世話になりたい」22.2%、「福祉サービスや近所の人との協力があれば自宅で介護を受けたい」15.1%、「家政婦により自宅で介護を受けたい」5.7%を合わせると、『自宅で介護を受けたい』は43.0%となる。一方、「家族・身内の世話になれるが、老人ホームなどの養護施設に入りたい」34.6%、「家族・身内の世話になれないので、老人ホームなどの養護施設に入りたい」19.3%を合わせると、『養護施設に入りたい』は53.9%である。

平成17年度調査と比較すると、「自宅で家族・身内の世話になりたい」が8.2ポイント低下し、「家族・身内の世話になれないので、老人ホームなどの養護施設に入りたい」が4.0ポイント上昇している。また、『自宅で介護を受けたい』は6.6ポイント減少し、『養護施設に入りたい』は4.7ポイント増加している。(図1-15)

【性別、性・年代別】

性別で見ると、女性では「家族・身内の世話になれないので、老人ホームなどの養護施設に入りたい」が22.8%と、男性(14.0%)より高くなっている。一方、男性では「自宅で家族・身内の世話になりたい」が29.8%と、女性(17.7%)より高くなっている。

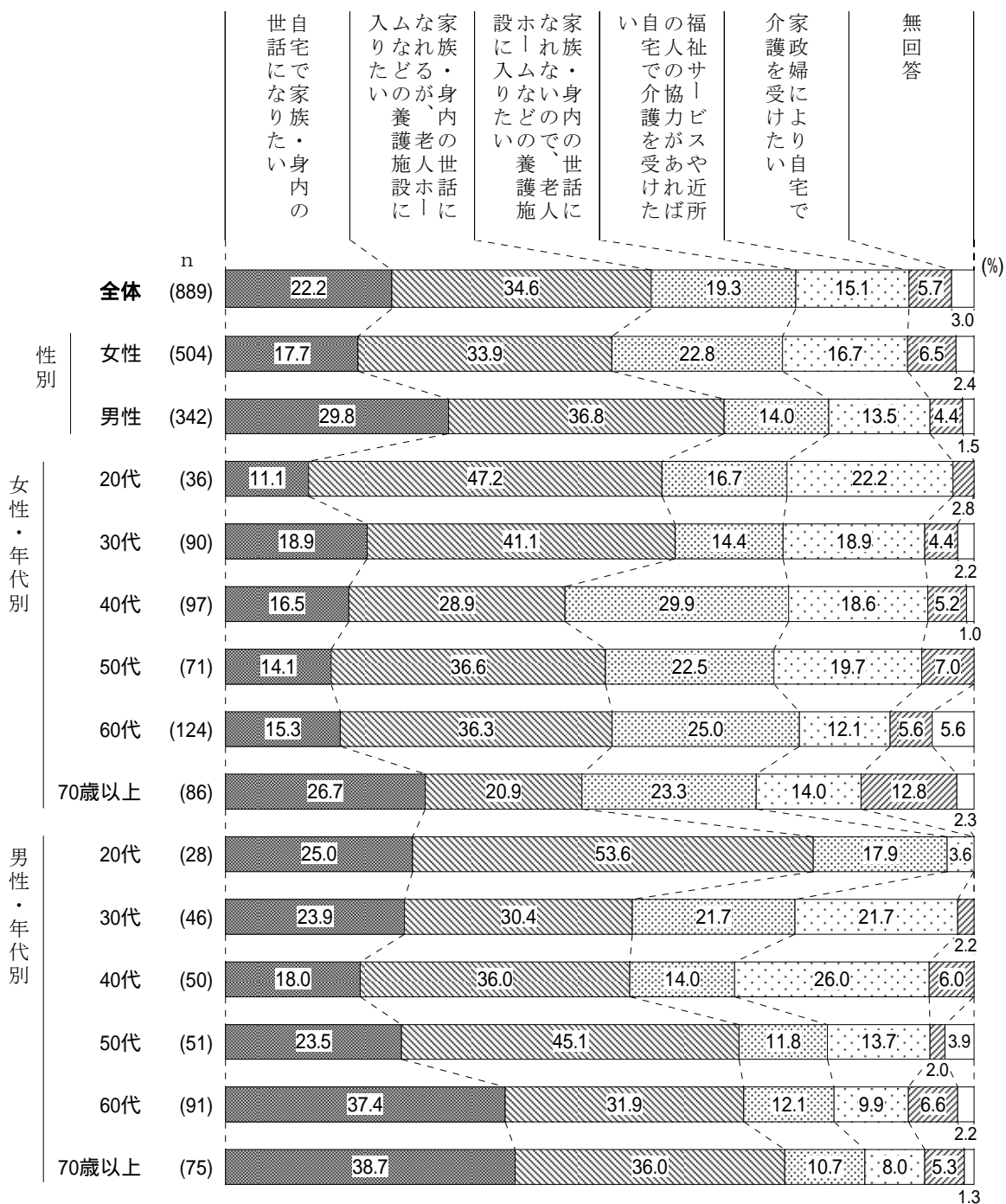
性・年代別で見ると、女性の場合、20代、30代では「家族・身内の世話になれるが、老人ホームなどの養護施設に入りたい」が4割を超え、40代では「家族・身内の世話になれないので、老人ホームなどの養護施設に入りたい」が29.9%と他の年代より高くなっている。男性の場合、60代、70歳以上では「自宅で家族・身内の世話になりたい」が、それぞれ37.4%、38.7%と高くなっている。

(図1-16)

【 参考：性別・経年比較】

性別で平成17年度調査と比較すると、「自宅で家族・身内の世話になりたい」は、女性で25.2%から17.7%へ7.5ポイント、男性で37.7%から29.8%へと7.9ポイント減少している。その一方、「家族・身内の世話になれないので、老人ホームなどの養護施設に入りたい」は、女性で17.2%から22.8%へと5.6ポイント、男性で12.3%から14.0%へと1.7ポイント上昇しており、男女とも『自宅介護』から『施設入所』へと意識が変化している。

(図1-16) 将来、長期介護を受ける場合に望む対応 - 性別、性・年代別



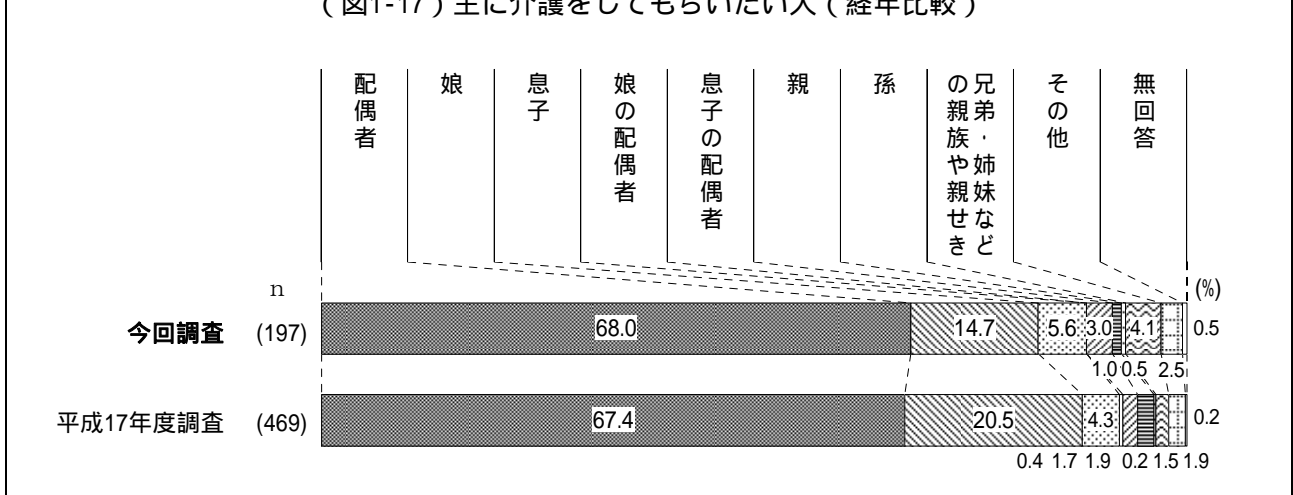
(8 - 1) 主に介護をしてもらいたい人

「配偶者」が約7割

[問8で「自宅で家族・身内の世話になりたい」を選んだ方におうかがいします]

問8-1 介護は、主にだれにしてもらいたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

(図1-17) 主に介護をしてもらいたい人 (経年比較)



「自宅で家族・身内の世話になりたい」と回答した人に対して、主に誰に介護してもらいたいか聞いたところ、「配偶者」が68.0%で最も高く、次いで「娘」14.7%となっている。

平成17年度調査と比較すると、「配偶者」は横ばい、「娘」は5.8ポイント低下している。(図1-17)

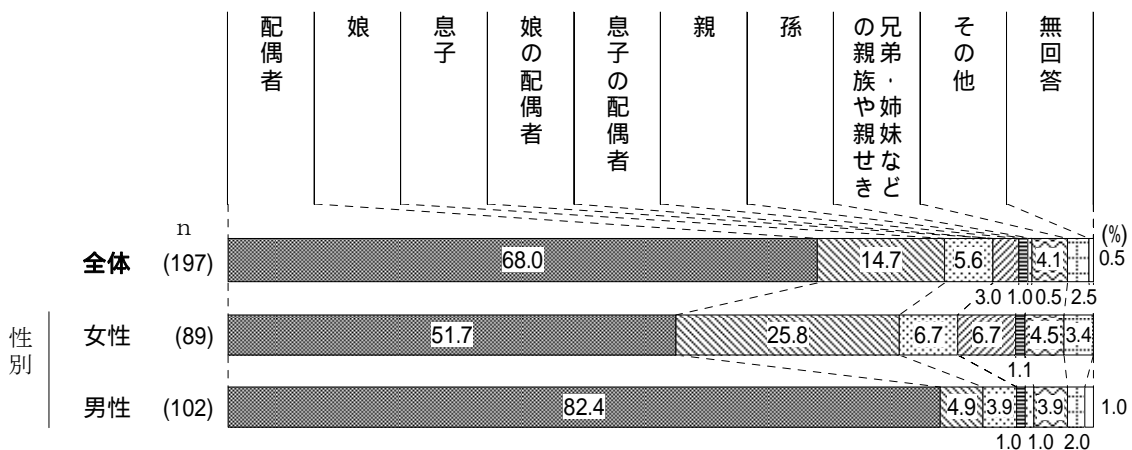
【性別】

性別でみると、女性では「娘」が25.8%と、男性(4.9%)より高くなっている。一方、男性では「配偶者」が82.4%と、女性(51.7%)より高くなっている。(図1-18)

【参考：性別・経年比較】

性別で平成17年度調査と比較すると、女性では、「娘」が36.0%から25.8%へと10.2ポイント減少している。男性には大きな変化はみられない。

(図1-18) 主に介護をしてもらいたい人 - 性別



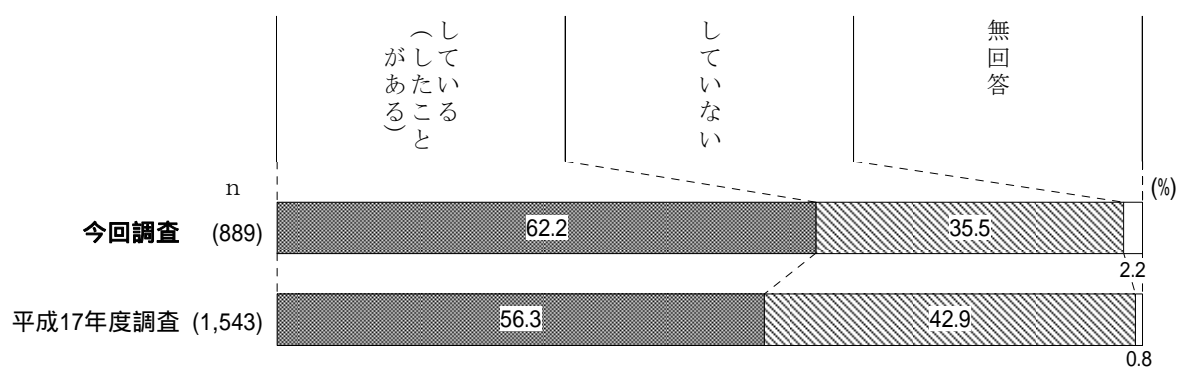
2 . 地域活動について

(1) 地域活動への参加状況

参加「している(したことがある)」が6割強

問9 あなたは地域活動(自治会・PTAなど)に参加していますか(または、参加したことがありますか)。次の中から1つだけ選んでください。

(図2-1) 地域活動への参加状況(経年比較)



地域活動への参加状況を見ると、参加「している(したことがある)」は62.2%となっている。平成17年度調査と比較すると、「している(したことがある)」は5.9ポイント上昇している。

(図2-1)

【性別、性・年代別】

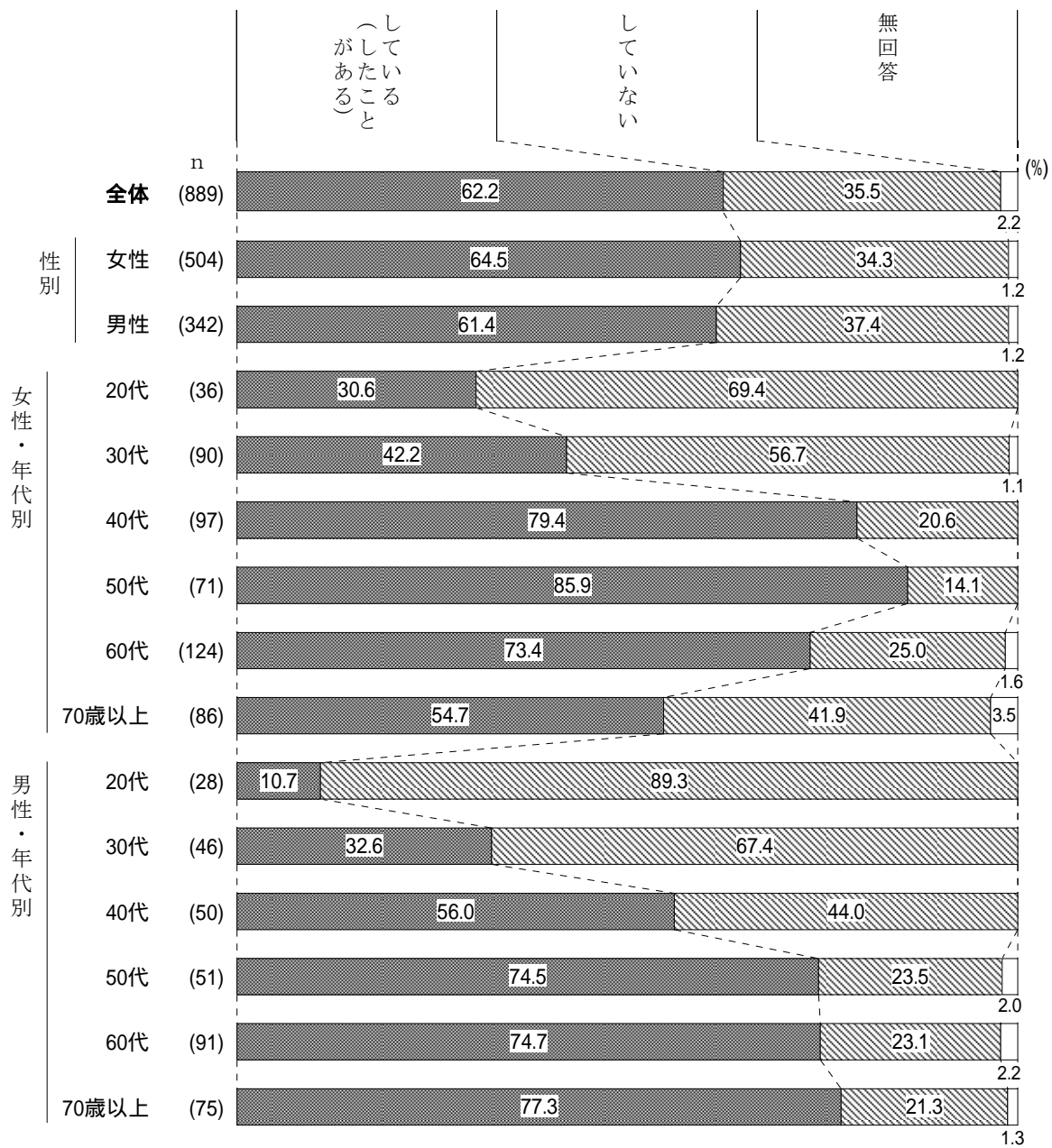
性別で見ると、「している(したことがある)」にほとんど男女差はみられない。

性・年代別で見ると、女性の場合、40代から60代で「している(したことがある)」が7割を超え、とくに50代では85.9%を占めている。男性の場合、50代以上では「している(したことがある)」が7割を超えている。(図2-2)

【 参考：性別・経年比較】

性別で平成17年度調査と比較すると、「している(したことがある)」は、女性で53.4%から64.5%と11.1ポイント、男性で60.6%から61.4%と0.8ポイント上昇している。

(図2-2) 地域活動への参加状況 - 性別、性・年代別



(1 - 1) 地域活動への参加内容

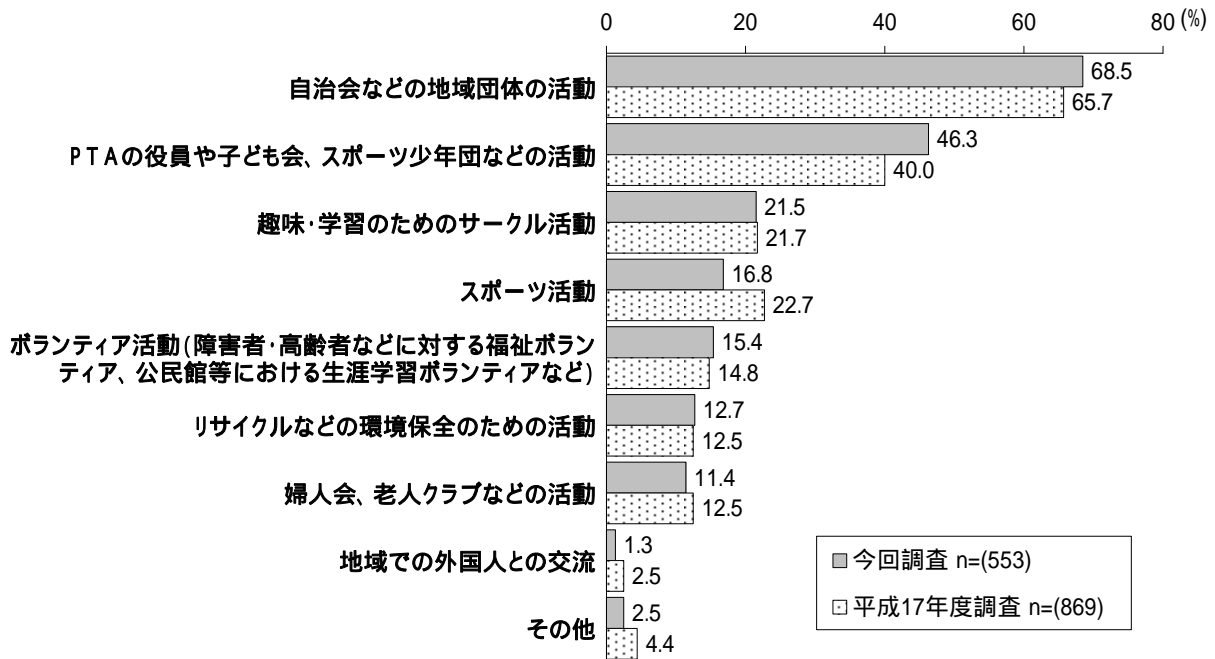
「自治会などの地域団体の活動」が約7割

[問9で「している（したことがある）」を選んだ方におうかがいします]

問9-1 どのような地域活動に参加していますか（または、参加していましたか）。

あてはまるものをすべて選んでください。

(図2-3) 地域活動への参加内容（経年比較・複数回答）



地域活動へ参加「している（したことがある）」と回答した人に対して、その参加内容を聞いたところ、「自治会などの地域団体の活動」が68.5%で最も高く、次いで「PTAの役員や子ども会、スポーツ少年団などの活動」46.3%、「趣味・学習のためのサークル活動」21.5%の順で続いている。

平成17年度調査と比較すると、「自治会などの地域団体の活動」が2.8ポイント、「PTAの役員や子ども会、スポーツ少年団などの活動」が6.3ポイント上昇している。(図2-3)

【性別、性・年代別】

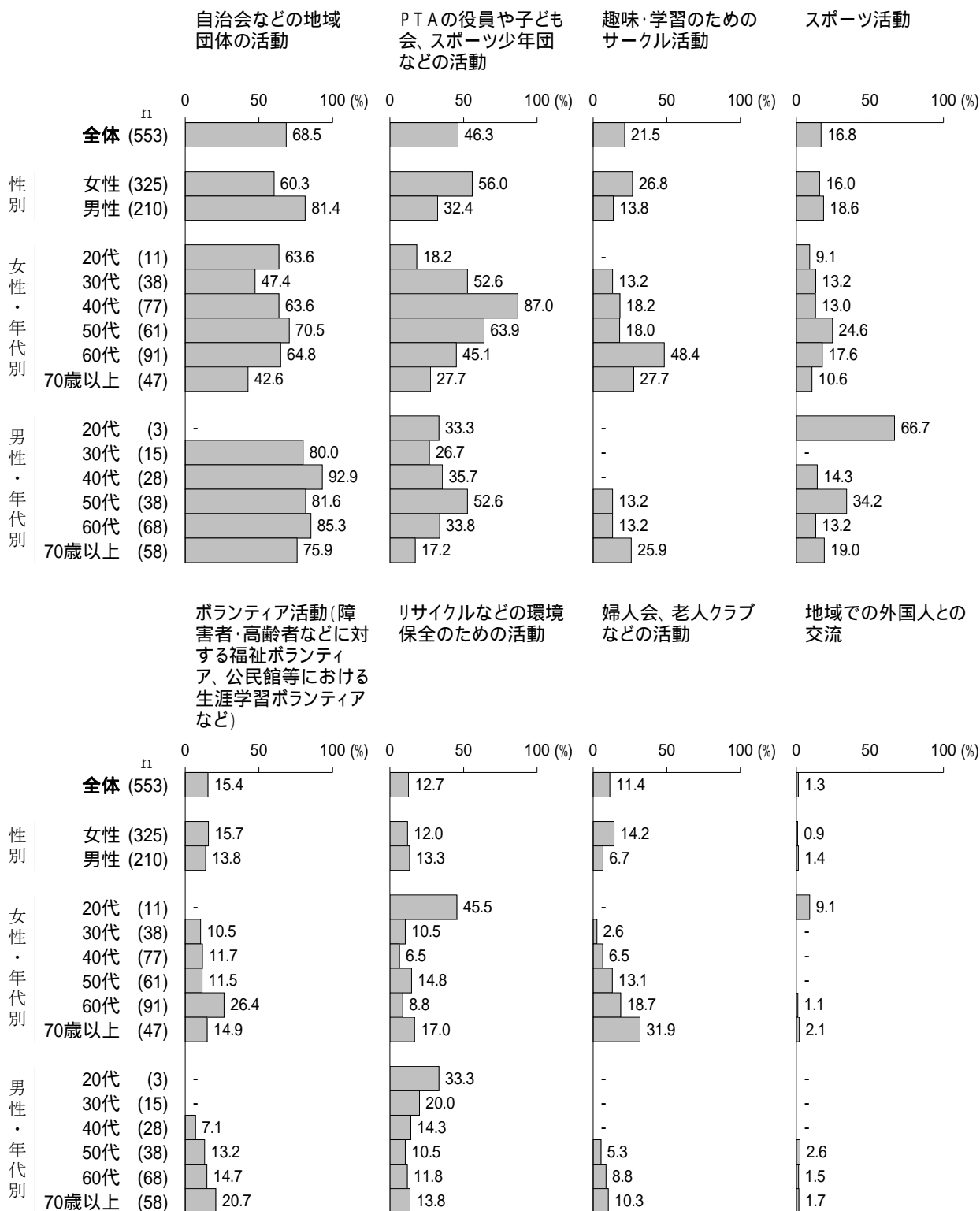
性別で見ると、女性では「PTAの役員や子ども会、スポーツ少年団などの活動」、「趣味・学習のためのサークル活動」が56.0%、26.8%と、いずれも男性より高くなっている。一方、男性では、「自治会などの地域団体の活動」が81.4%と、女性（60.3%）より高くなっている。

性・年代別で見ると、女性の場合、40代では「PTAの役員や子ども会、スポーツ少年団などの活動」が87.0%と、他の年代に比べて極めて高くなっている。また、40代から60代では「自治会などの地域団体の活動」が6割を超えている。60代では「趣味・学習のためのサークル活動」が48.4%と5割近くを占めて、男女各年代を通じて最も高くなっている。男性の場合、40代から60代では「自治会などの地域団体の活動」が8割を超え、とくに40代では92.9%を占めている。(図2-4)

【 参考：性別・経年比較】

平成17年度調査と比較すると、女性では「自治会などの地域団体の活動」が54.1%から60.3%へと6.2ポイント、「PTAの役員や子ども会、スポーツ少年団などの活動」が52.2%から56.0%へと3.8ポイント、いずれも上昇している。一方、「趣味・学習のためのサークル活動」は30.2%から26.8%へと3.4ポイント低下している。男性の場合、「PTAの役員や子ども会、スポーツ少年団などの活動」が25.1%から32.4%へと7.3ポイント上昇している。

(図2-4) 地域活動への参加内容 - 性別、性・年代別



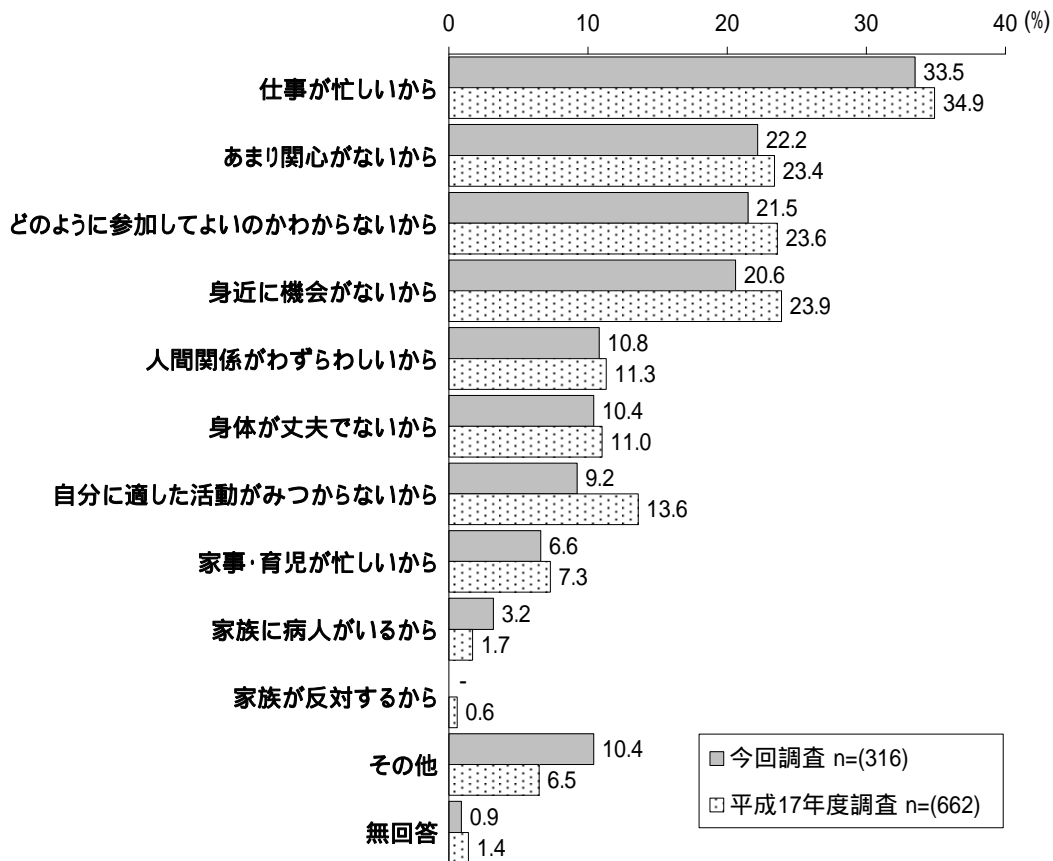
(1 - 2) 地域活動に参加しない理由

「仕事が忙しいから」が3割強

[問9で「していない」を選んだ方におうかがいします]

問9-2 あなたが地域活動に参加しないのは、どのような理由からですか。次の中から
2つ以内で選んでください。

(図2-5) 地域活動に参加しない理由 (経年比較・複数回答)



地域活動に参加「していない」人にその理由を聞いたところ、「仕事が忙しいから」が33.5%で最も高く、次いで「あまり関心がないから」22.2%、「どのように参加してよいのかわからないから」21.5%、「身近に機会がないから」20.6%の順で続いている。

平成17年度調査と比較すると、上位4項目については、大きな変化はみられない。(図2-5)

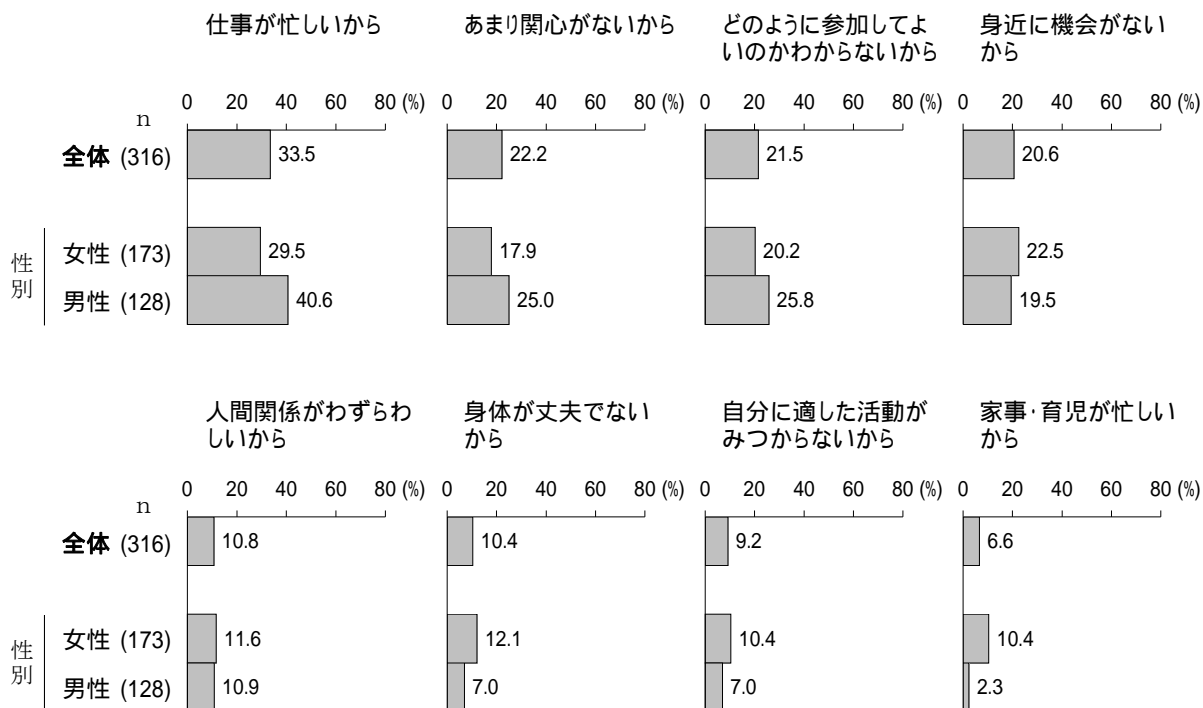
【性別】

性別でみると、男性では「仕事が忙しいから」が40.6%と、女性(29.5%)より高くなっているほか、「どのように参加してよいのかわからないから」、「身近に機会がないから」も女性を上回っている。(図2-6)

【 参考：性別・経年比較】

性別で平成17年度調査と比較すると、男女とも大きな比率の変化はないが、女性では「あまり関心がないから」が23.2%から17.9%へと5.3ポイント低下している。

(図2-6) 地域活動に参加しない理由 - 性別(上位8項目)

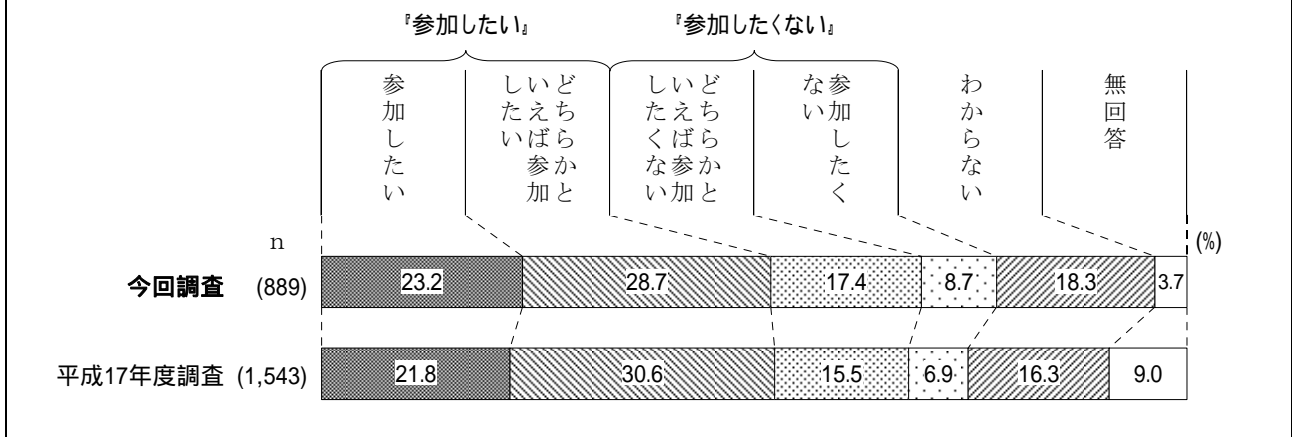


(2) 今後の地域活動への参加意向

『参加したい』は5割強

問10 あなたは、これからも（参加していない人はこれから）地域活動に参加したいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

(図2-7) 今後の地域活動への参加意向（経年比較）



今後の地域活動への参加意向をみると、「参加したい」が23.2%で、これに「どちらかといえば参加したい」の28.7%を合わせた『参加したい』は51.9%となっている。

平成17年度調査と比較すると、『参加したい』は横ばい状態である。(図2-7)

【性別、性・年代別】

性別でみると、男性の『参加意向』は59.4%と、女性（48.2%）を上回っている。

性・年代別でみると、女性の場合、50代、60代では『参加したい』が5割を超え、とくに60代では61.3%を占めている。男性の場合、50代以上ではどの年代でも『参加したい』が7割前後を占めている。(図2-8)

【参考：性別・経年比較】

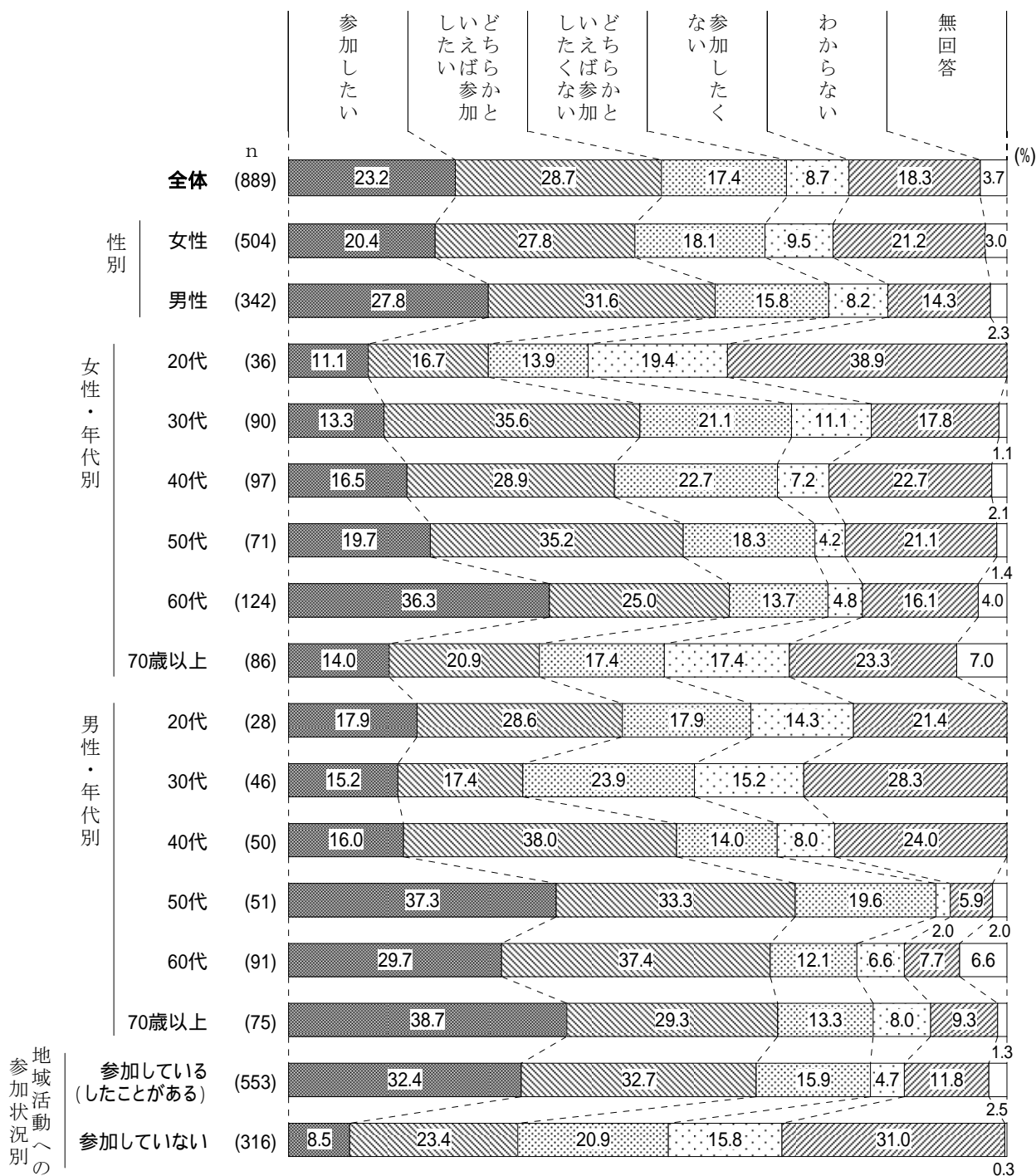
性別に平成17年度調査と比較すると、男女とも『参加したい』の割合に大きな変化はみられない。

【地域活動への参加状況別】

地域活動への参加状況別にみると、地域活動に参加“している（したことがある）”人の65.1%が今後も『参加したい』と答えており、前回調査（52.4%）と比較すると12.7ポイント増加している。一方、地域活動に参加“していない”人については、『参加したい』は31.9%となっている。

(図2-9)

(図2-8) 今後の地域活動への参加意向 - 性別、性・年代別、地域活動への参加状況別

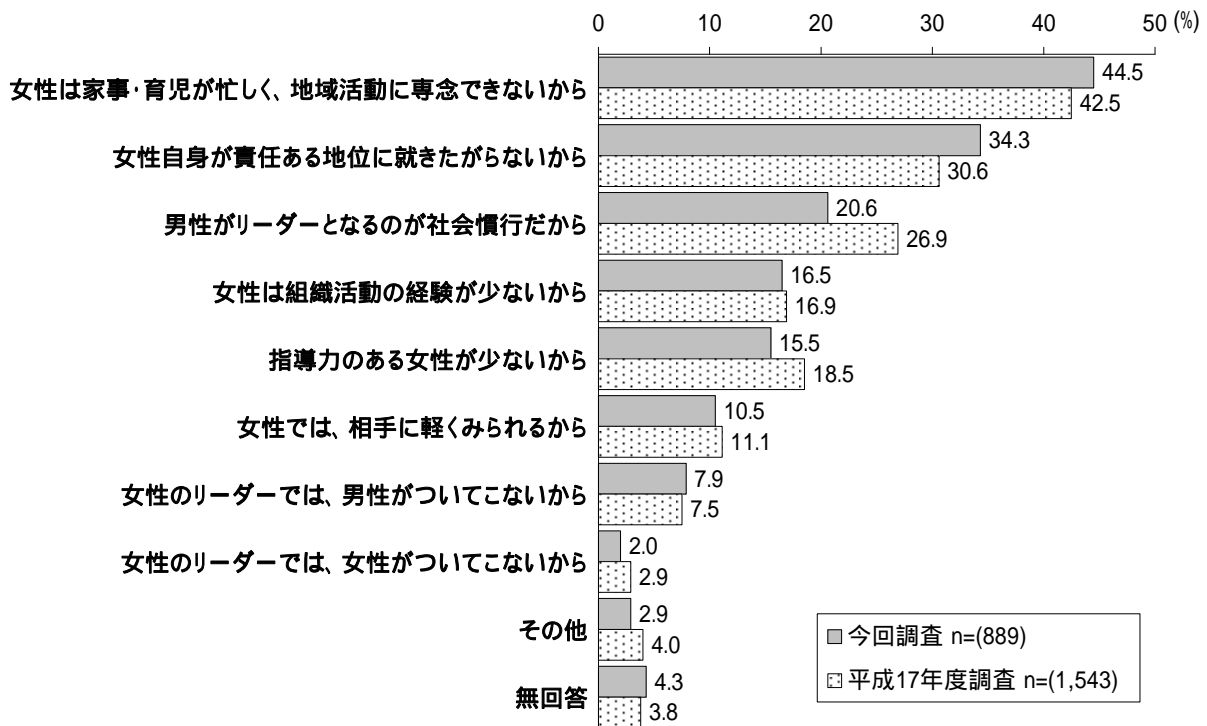


(3) 地域団体に女性リーダーが少ない理由

「女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから」が4割台半ば

問11 自治会やPTAなどの地域団体では、活動の主体が女性となっても、会長や副会長などのリーダーには、女性が少ないようです。その主な原因は何だと思えますか。あてはまるものを、次の中から2つ以内で選んでください。

(図2-9) 地域団体に女性リーダーが少ない理由(経年比較・複数回答)



地域団体に女性リーダーが少ない理由としては、「女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから」が44.5%で最も高く、次いで「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」34.3%、「男性がリーダーになるのが慣行だから」20.6%の順で続いている。

平成17年度調査と比較すると、「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」が3.7ポイント上昇し、「男性がリーダーになるのが慣行だから」は6.3ポイント低下している。(図2-10)

【性別、性・年代別】

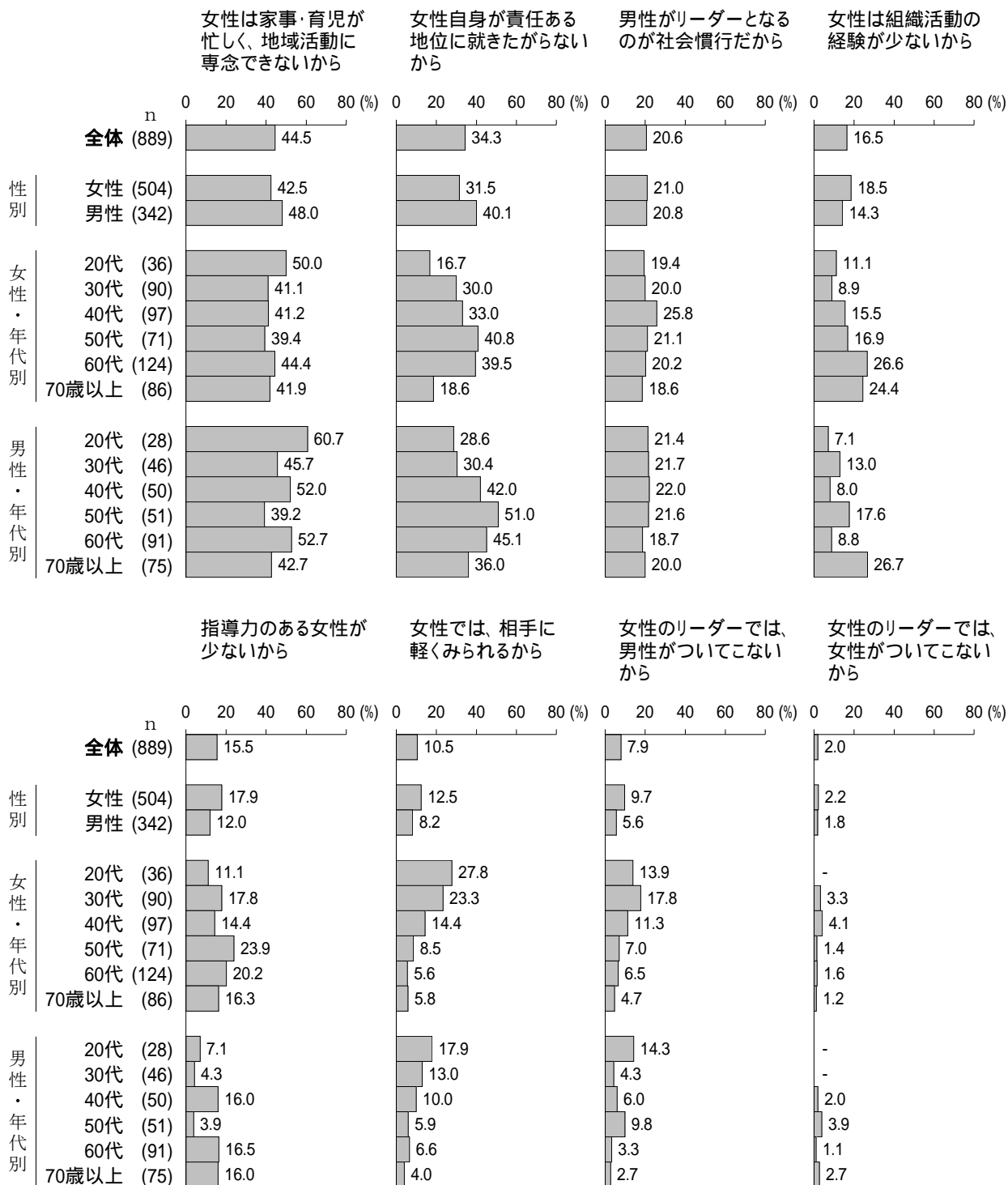
性別でみると、男性では「女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから」が48.0%を占めているほか、「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」も40.1%と、いずれも女性より高くなっている。

性・年代別でみると、女性の場合、50代、60代では「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」が4割前後を占め、他の年代より高くなっている。60代、70代以上では「女性は組織活動の経験が少ないから」が2割台半ばと、他の年代より高くなっている。男性の場合、「女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから」が20代で60.7%となっているほか、40代、60代でも5割を超えている。また、40代から60代では「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」が4割を超え、とくに50代では51.0%となっている。(図2-11)

【 参考：性別・経年比較】

平成17年度調査と比較すると、女性では「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」が25.8%から31.5%へと5.7ポイント上昇している。一方、男性では「女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから」が39.6%から48.0%へ8.4ポイント上昇している。

(図2-10) 地域団体に女性リーダーが少ない理由 - 性別、性・年代別



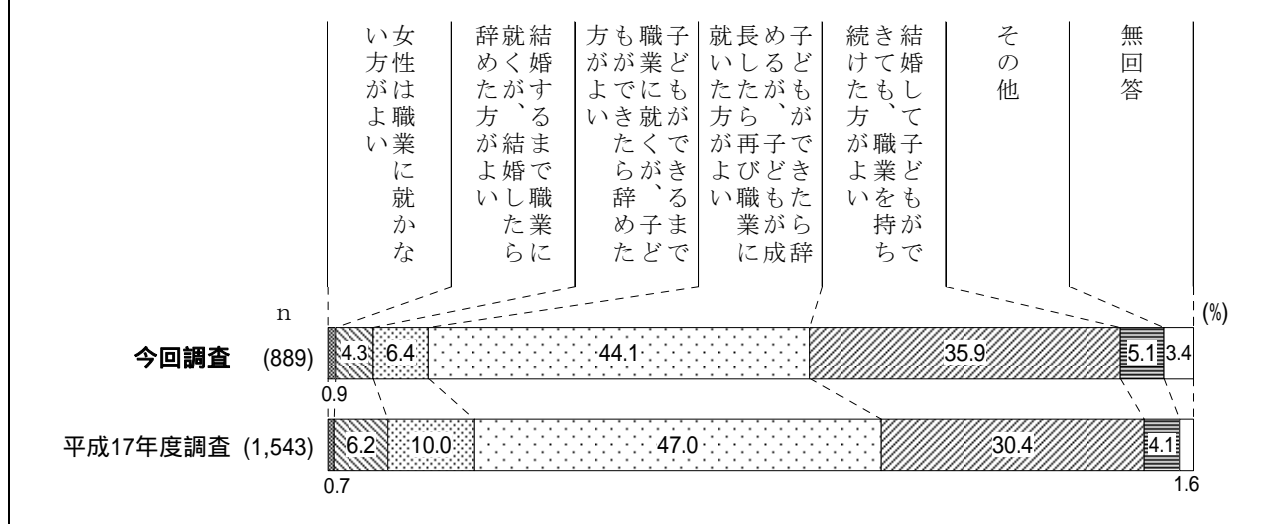
3. 職業について

(1) 女性が職業を持つことへの考え方

「子どもができれば辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いた方がよい」が4割台半ば

問12 女性が職業を持つことについて、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

(図3-1) 女性が職業を持つことへの考え方 (経年比較)



女性が職業を持つことへの考え方に関して「子どもができれば辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いた方がよい」が44.1%で最も高く、これに「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が35.9%で次いでいる。一方、「子どもができるまでは職業に就くが、子どもができてからは辞めた方がよい」は6.4%、「結婚するまでは職業に就くが、結婚してからは辞めた方がよい」は4.3%となっている。

平成17年度調査と比較すると、「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が5.5ポイント上昇し、「子どもができれば辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いた方がよい」は2.9ポイント低下している。(図3-1)

【性別、性・年代別】

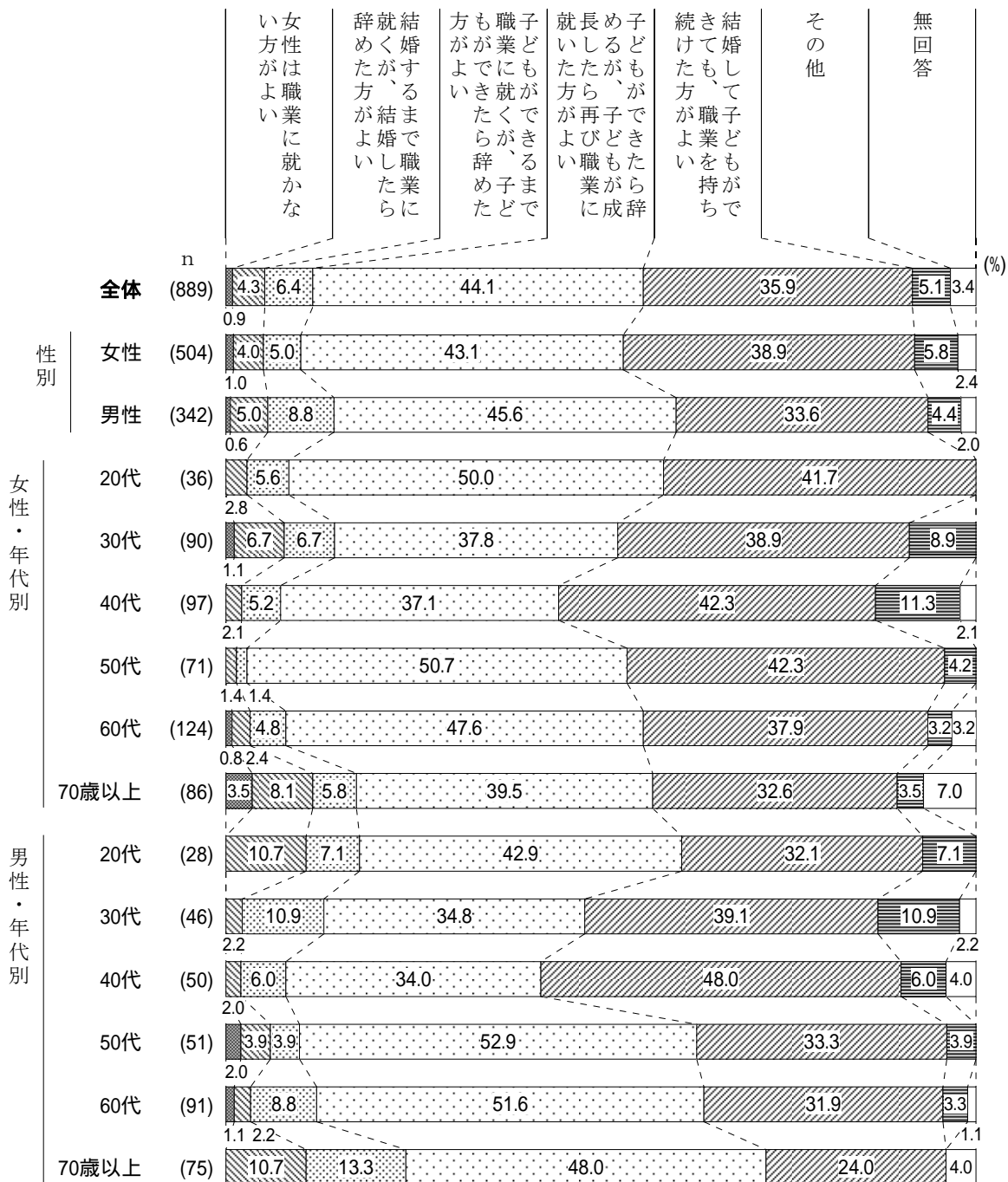
性別で見ると、女性では「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が38.9%と男性(33.6%)より高くなっている。

性・年代別で見ると、女性の場合、70歳以上を除くいずれの年代でも「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が4割前後を占めている。また、20代、50代、60代では「子どもができれば辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いた方がよい」が5割前後となっている。男性の場合、40代では「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が48.0%と高くなっているが、50代以上では「子どもができれば辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いた方がよい」が5割前後となっている。(図3-2)

【 参考：性別・経年比較】

性別で平成17年度調査と比較すると、女性では「子どもができれば辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いた方がよい」が48.4から43.1%へと5.3ポイント低下し、「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が31.0%から38.9%へと7.9ポイント上昇している。また、男性でも「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が29.7%から33.6%へと3.9ポイント上昇している。

(図3-2) 女性が職業を持つことへの考え方 - 性別、性・年代別

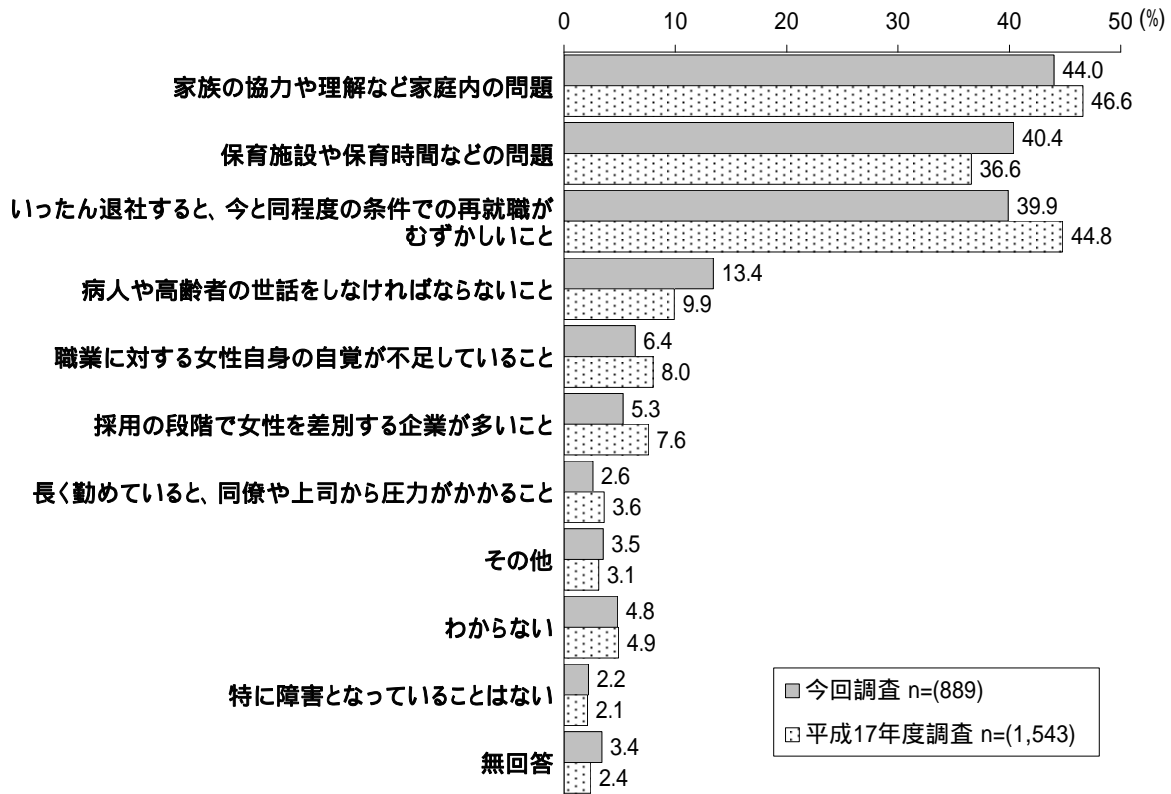


(2) 女性が職業に就いたり、職業を持ち続けるうえでの障害

「家族の協力や理解など家庭内の問題」が4割台半ば

問13 女性が職業に就いたり、職業を持ち続けるうえで障害になっていることは何だと思えますか。あなたの考えに最も近いものを、2つ以内で選んでください。

(図3-3) 女性が職業に就いたり、職業を持ち続けるうえでの障害(経年比較・複数回答)



女性が職業に就いたり、職業を持ち続けるうえでの障害としては、「家族の協力や理解など家庭内の問題」が44.0%で最も高く、次いで「保育施設や保育時間などの問題」40.4%、「いったん退社すると、今と同程度の条件での再就職がむずかしいこと」39.9%の順で続いている。

平成17年度の調査と比較すると、「保育施設や保育時間などの問題」が3.8ポイント上昇し、「いったん退社すると、今と同程度の条件での再就職がむずかしいこと」が4.9ポイント低下している。

(図3-3)

【性別、性・年代別】

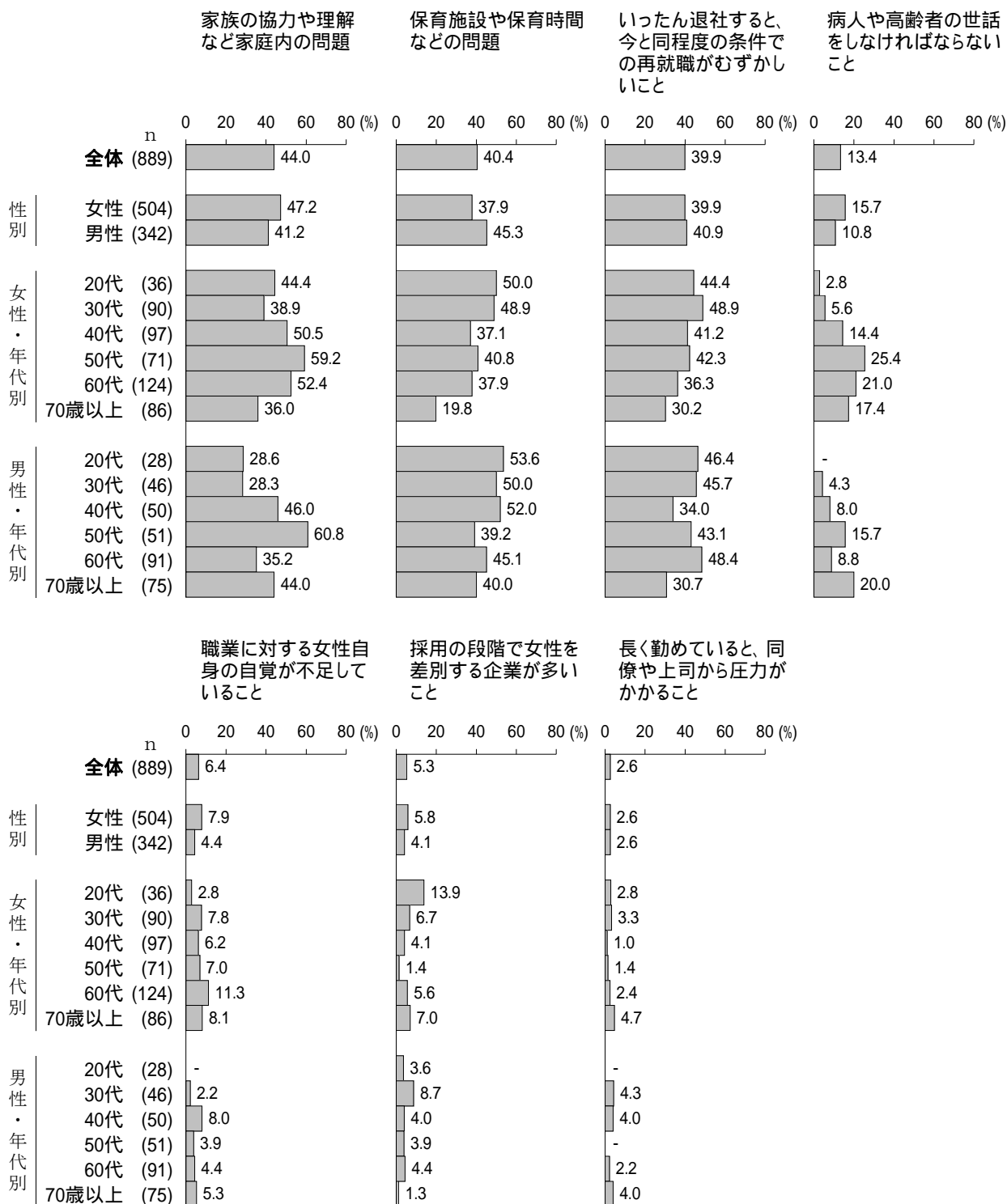
性別で見ると、女性では「家族の協力や理解など家庭内の問題」が47.2%と、男性(41.2%)より高くなっている。一方、男性では「保育施設や保育時間などの問題」が45.3%と、女性(37.9%)を上回っている。

性・年代別で見ると、女性の場合、20代、30代では「保育施設や保育時間などの問題」が、それぞれ50.0%、48.9%と他の年代より高くなっている。また、この年代では「いったん退社すると、今と同程度の条件での再就職がむずかしいこと」も4割を超えている。40代から50代では「家族の協力や理解など家庭内の問題」が5割を超え、とくに50代では59.2%を占めている。男性の場合、20代から40代では「保育施設や保育時間などの問題」が5割を超えている。50代では「家族の協力や理解など家庭内の問題」が60.8%と極めて高くなっている。(図3-4)

【 参考：性別・経年比較】

平成17年度調査と比較すると、女性では「いったん退社すると、今と同程度の条件での再就職がむずかしいこと」が、47.0%から39.9%へと7.1ポイント低下している。男性では、「保育施設や保育時間などの問題」が37.0%から45.3%へと8.3ポイント上昇している。

(図3-4) 女性が職業に就いたり、職業を持ち続けるうえでの障害 - 性別、性・年代別

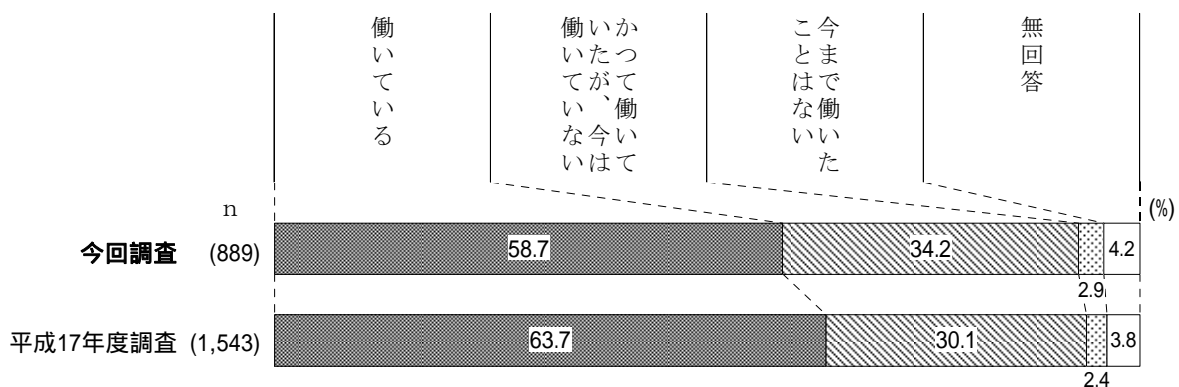


(3) 現在の就業状況

現在、「働いている」は約6割

問14 あなたは、現在働いていますか。次の中から1つだけ選んでください。(臨時、内職も含みます。)

(図3-5) 現在の就業状況(経年比較)



現在、「働いている」は58.7%と6割近くを占めている。一方、「かつて働いていたが、今は働いていない」は34.2%となっている。

平成17年度調査と比較すると、「働いている」は5.0ポイント低下している。(図3-5)

【性別、性・年代別】

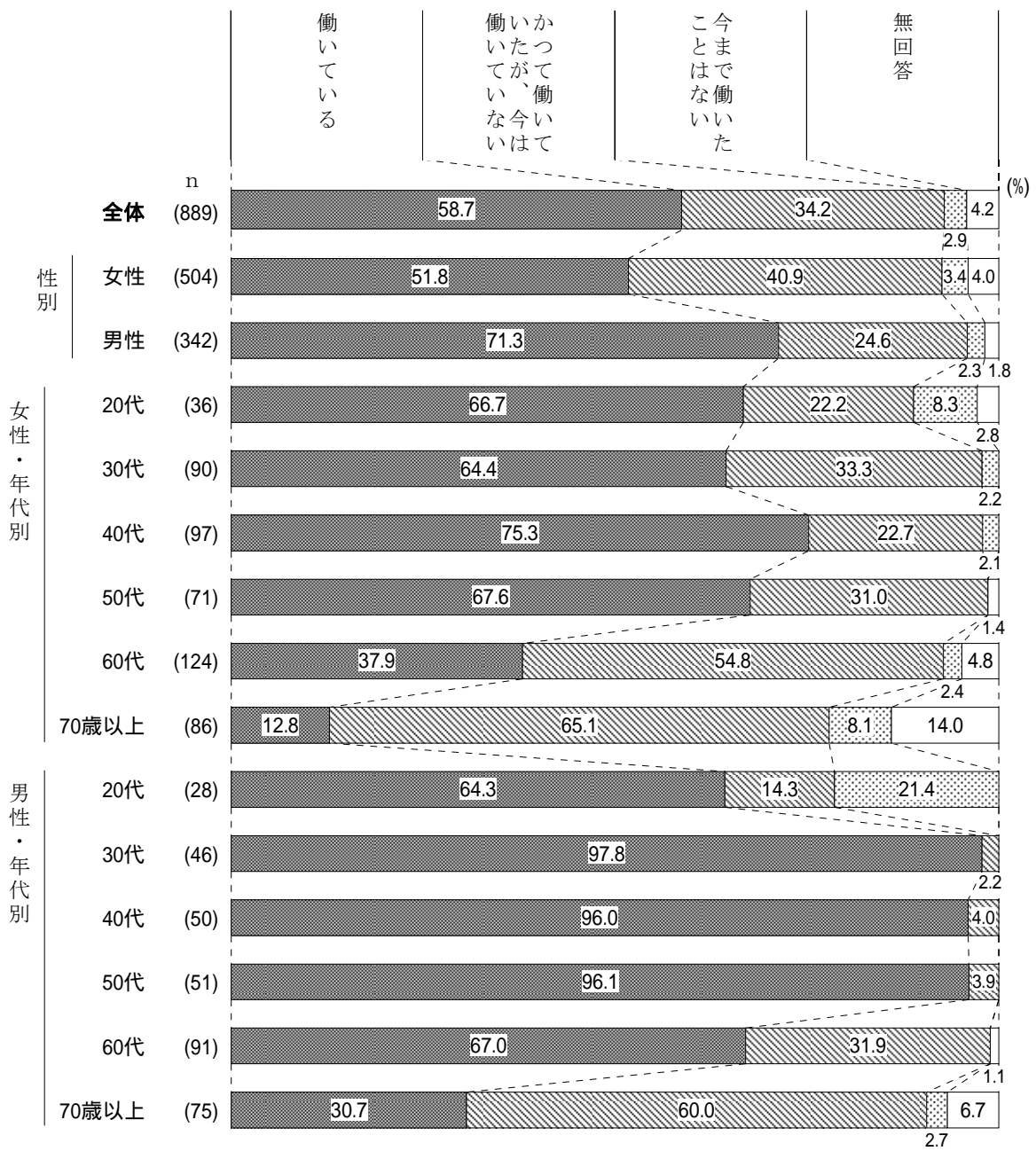
性別で見ると、男性では「働いている」が71.3%と、女性(51.8%)より高くなっている。

性・年代別で見ると、女性の場合、20代から50代では「働いている」が6割を超え、とくに40代では75.3%を占めている。60代、70代では「かつて働いていたが、今は働いていない」が5割台半ばを超えて高くなっている。男性の場合、30代から50代では「働いている」が9割台半ばを超えている。(図3-6)

【参考：性別・経年比較】

平成17年度調査と比較すると、女性では「働いている」が56.4%から51.8%へと4.6ポイント低下し、「かつて働いていたが、今は働いていない」が35.5%から40.9%へと5.4ポイント上昇している。一方、男性には大きな変化はみられない。

(図3-6) 現在の就業状況 - 性別、性・年代別



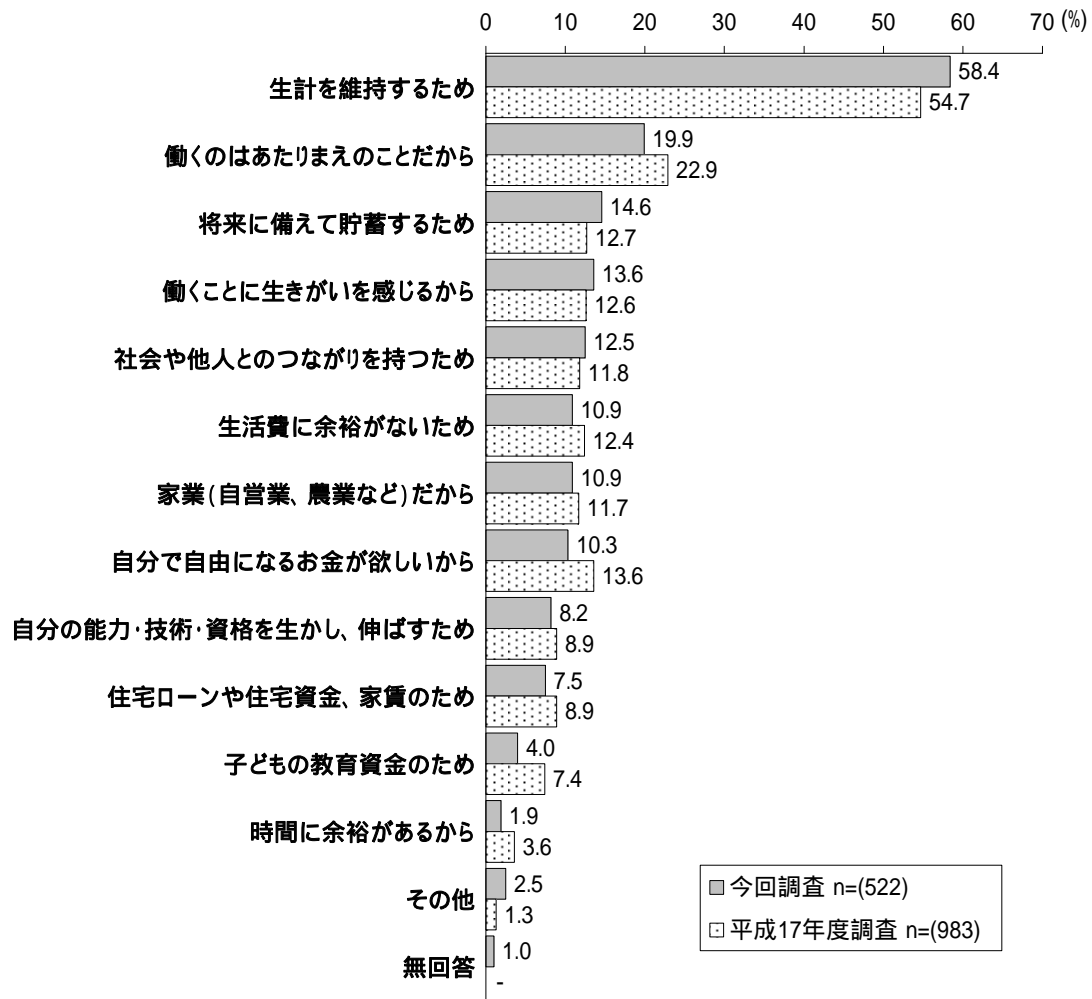
(3 - 1) 就業の理由

「生計を維持するため」が約6割

[問14で「働いている」を選んだ方におうかがいします]

問14-1 あなたが働いているのは、主にどのような理由からですか。次の中から2つ以内で選んでください。

(図3-7) 就業の理由 (経年比較・複数回答)



働く理由としては、「生計を維持するため」が58.4%で最も高く、次いで「働くのはあたりまえのことだから」19.9%、「将来に備えて貯蓄するため」14.6%、「働くことに生きがいを感じるから」13.6%の順となっている。

平成17年度調査と比較すると、「生計を維持するため」が3.7ポイント上昇している。(図3-7)

【性別、性・年代別】

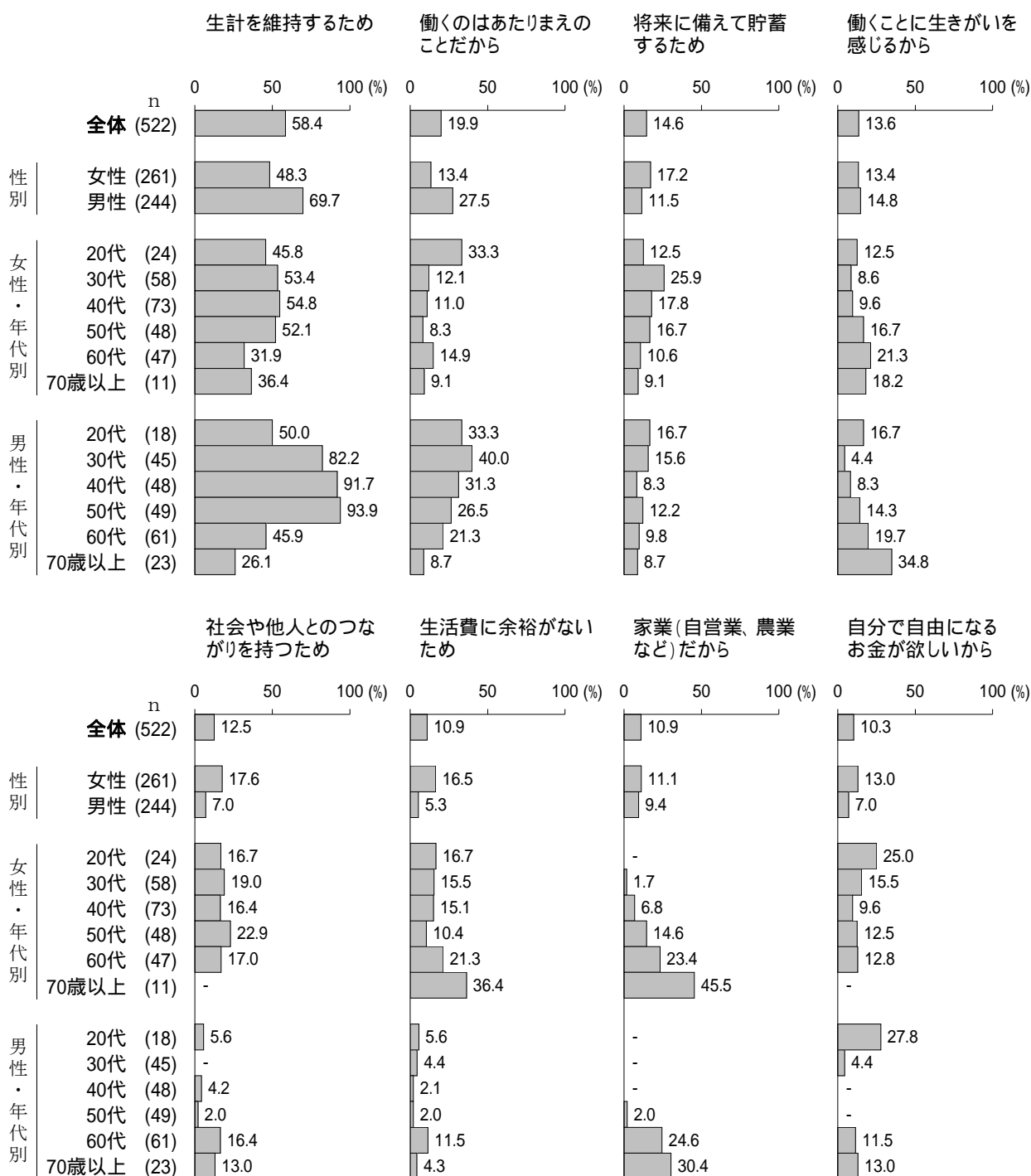
性別でみると、男性では「生計を維持するため」が69.7%と女性(48.3%)より高くなっている。一方、女性では「将来に備えて貯蓄するため」「生活費に余裕がないため」「自分で自由になるお金が欲しいから」が、男性より高くなっている。

性・年代別でみると、女性の場合、20代では「自分で自由になるお金が欲しいから」が25.0%、30代では「将来に備えて貯蓄するため」が25.9%と、いずれも他の年代より高くなっている。また、30代から50代では「生計を維持するため」が5割を超えている。男性の場合、40代、50代では「生計を維持するため」が9割を超え、他の年代より高くなっている。(図3-8)

【 参考：性別・経年比較】

平成17年度の調査と比較すると、女性では「生計を維持するため」が36.7%から48.3%へと11.6ポイント上昇している。また、「将来に備えて貯蓄するため」も13.9%から17.2%へと3.3ポイントと僅かに増加している。

(図3-8) 就業の理由 - 性別、性・年代別(上位8項目)



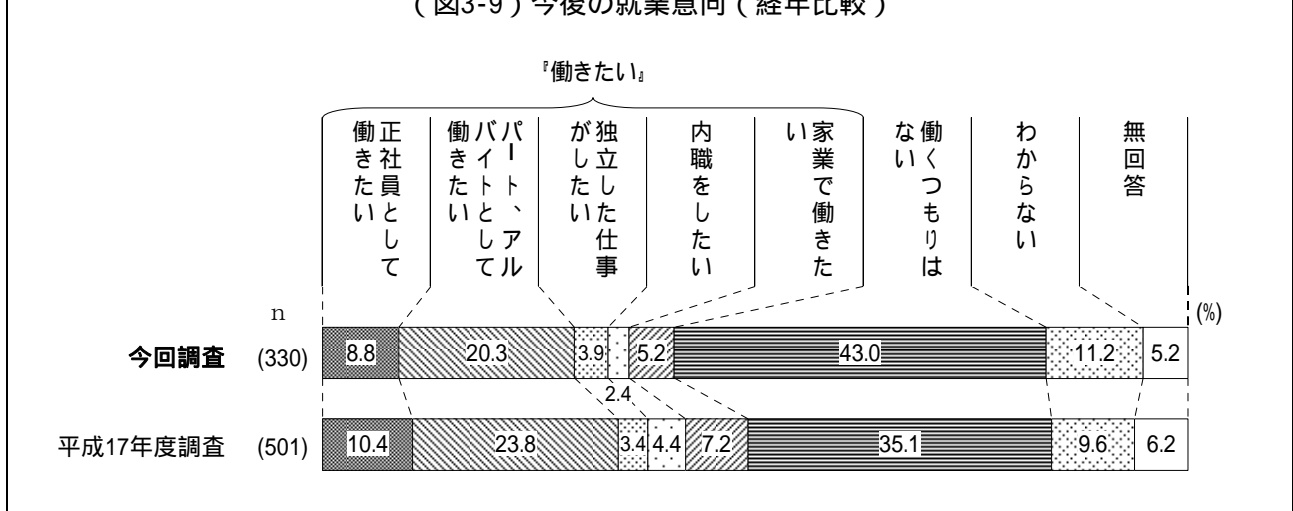
(3 - 2) 今後の就業意向

『働きたい』が4割を超える

[問14で「かつて働いていたが、今は働いていない」または「今まで働いたことはない」を選んだ方におうかがいします]

問14-2 あなたは、今後働きたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

(図3-9) 今後の就業意向 (経年比較)



現在、働いていない人に、今後の就業意向を聞いたところ、『働きたい』（「正社員として働きたい」「パート、アルバイトとして働きたい」「独立した仕事がしたい」「内職をしたい」「家業で働きたい」の合計）は40.6%となっている。その働き方としては、「パート、アルバイトとして働きたい」が20.3%で最も高くなっている。一方、「働かないつもりはない」は43.0%である。

平成17年度調査と比較すると、『働きたい』は8.6ポイント低下し、「働かないつもりはない」は7.9ポイント上昇している。(図3-9)

【性別・年代別】

性別で見ると、女性では「パート、アルバイトとして働きたい」が23.3%と、男性（14.1%）より高くなっている。一方、男性では「働かないつもりはない」が48.9%と、女性（40.4%）より高くなっている。

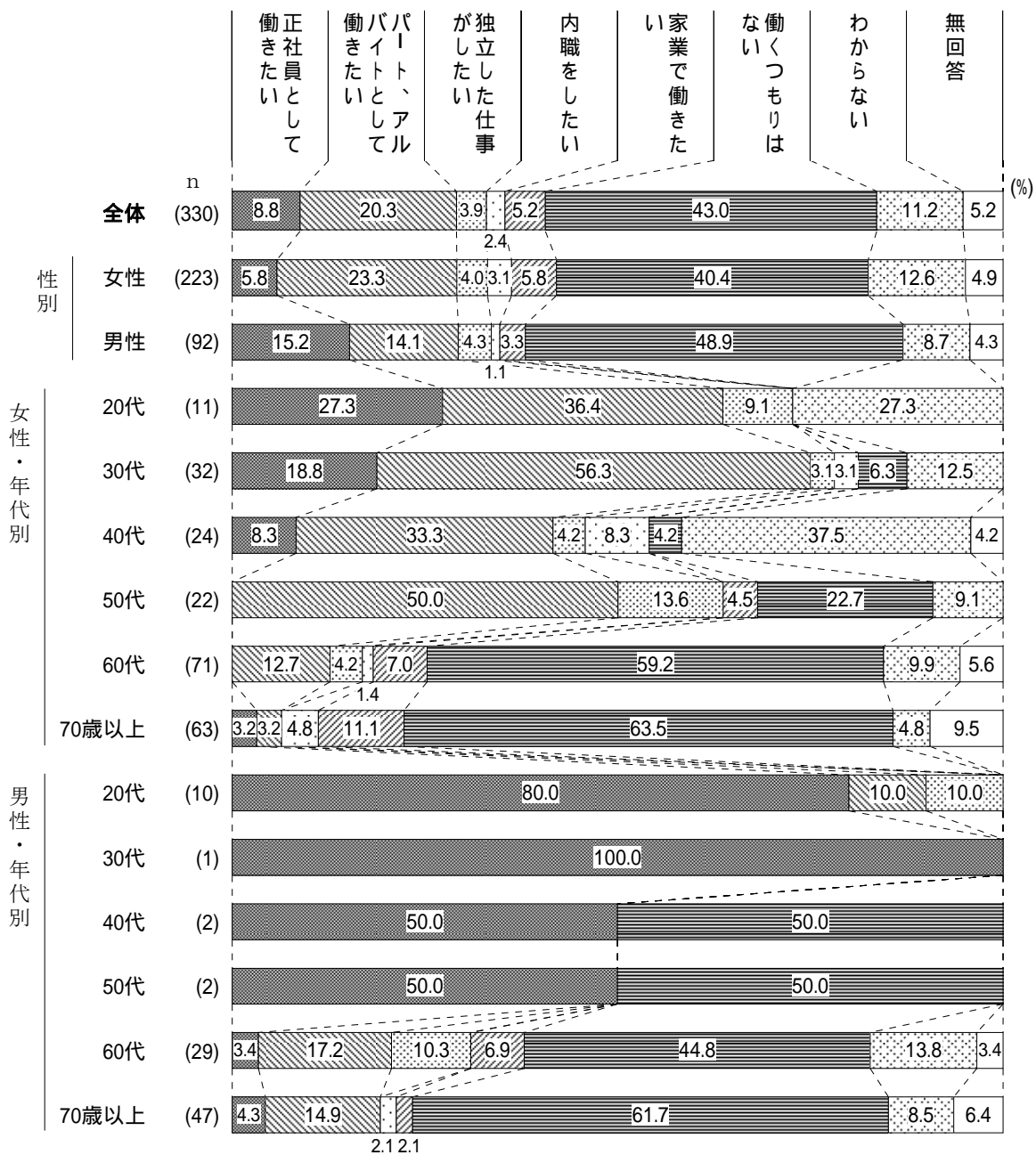
性・年代別で見ると、女性の場合、30代、50代では「パート、アルバイトとして働きたい」が5割を超えて、他の年代より高くなっている。(図3-10)

(注) 男性の年代は、各年代の回答数が少ないため分析ではふれていない。

【 参考：性別・経年比較】

平成17年度調査と比較すると、「働くつもりはない」が、女性では32.2%から40.4%へと8.2ポイント、男性では、41.1%から48.9%へと7.8ポイント、いずれも上昇している。

(図3-10) 今後の就業意向 - 性別、年代別

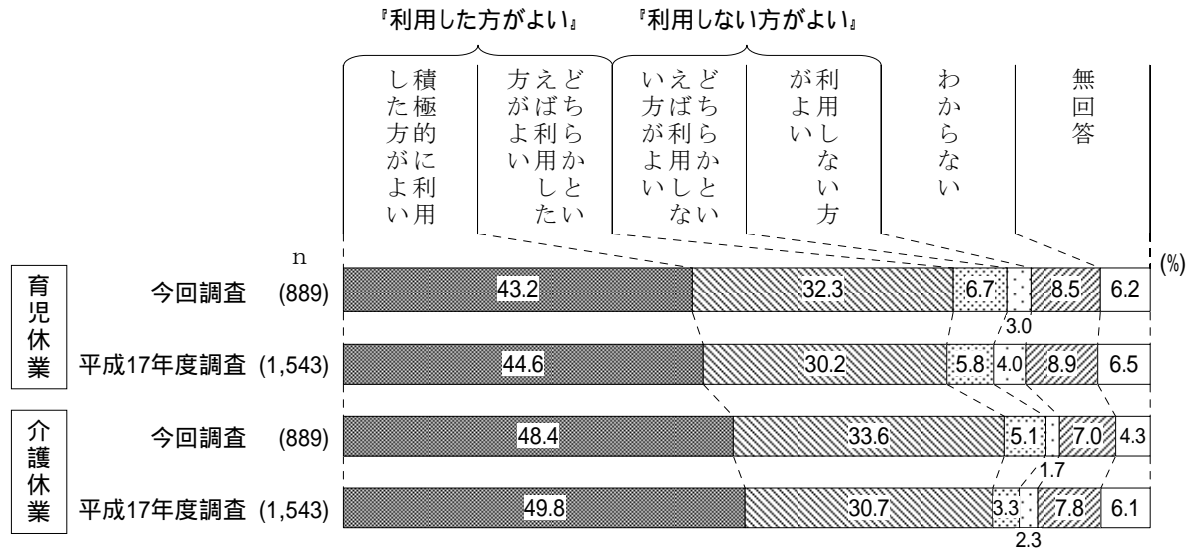


(4) 男性が「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用すること

『利用した方がよい』が圧倒的多数

問15 あなたは、男性が「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。「育児休業制度」と「介護休業制度」のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

(図3-11) 男性が「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用すること(経年比較)



男性が「育児休業制度」を利用することについて、「積極的に利用した方がよい」は43.2%で、これに「どちらかといえば利用した方がよい」の32.3%を合わせた『利用した方がよい』は75.5%を占めている。また、〈介護休業〉について、『利用した方がよい』は82.0%を占めている。

平成17年度調査と比較すると、〈育児休業〉〈介護休業〉とも、大きな変化はみられない。(図3-11)

【性別、性・年代別】

性別で見ると、〈育児休業〉〈介護休業〉、いずれの制度についても、女性では「積極的に利用した方がよい」が男性より高くなっている。

性・年代別で見ると、女性の場合、〈育児休業〉について「積極的に利用した方がよい」が、20代で61.1%を占めているほか、40代、50代でも5割を超えている。また、〈介護休業〉について「積極的に利用した方がよい」は、20代から60代まで5割台半ばを超え、とくに60代では60.6%となっている。男性では、〈育児休業〉について「積極的に利用した方がよい」が40代で50.0%と他の年代より高くなっている。(図3-12)

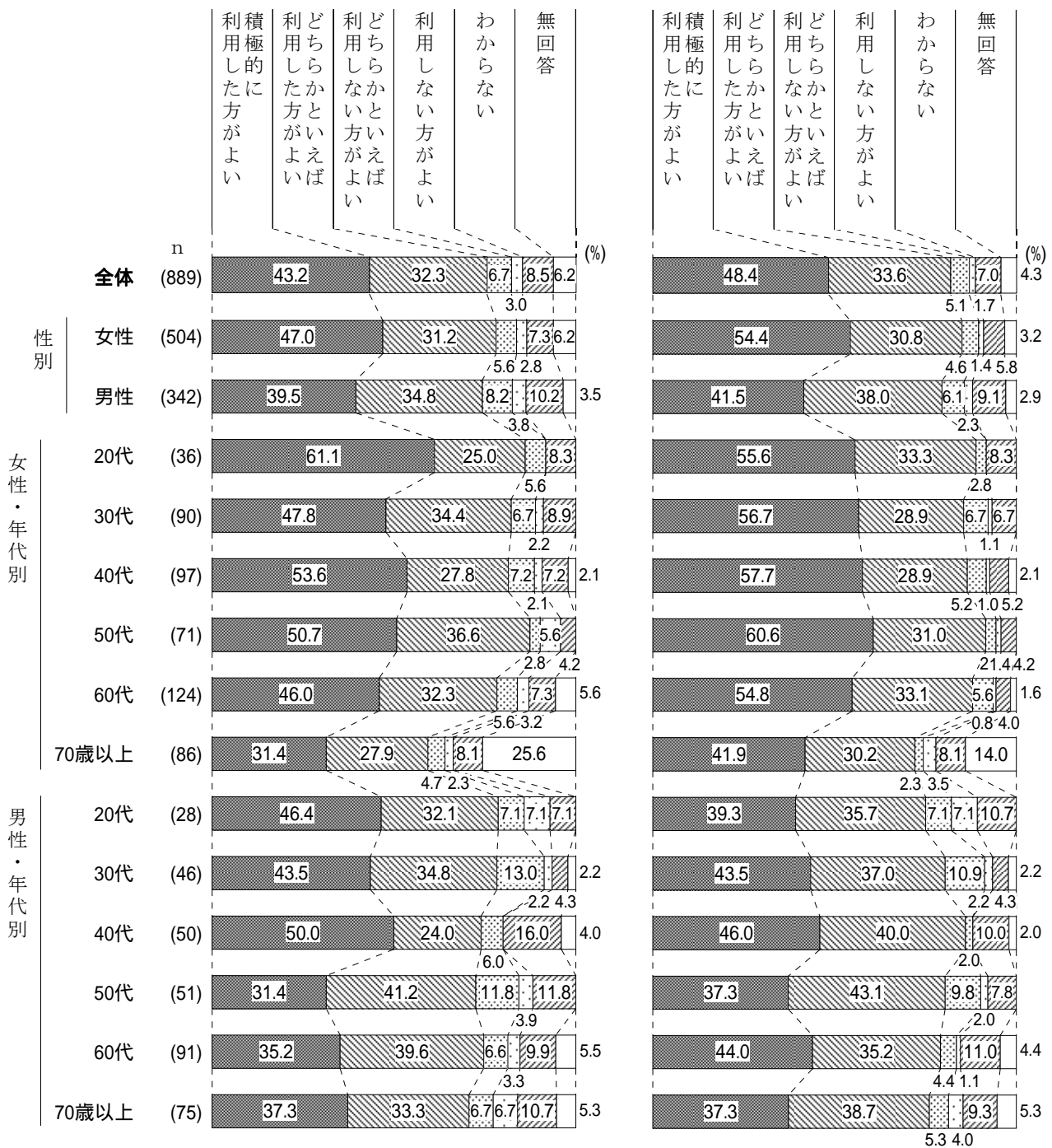
【参考：性別・経年比較】

性別に平成17年度調査と比較すると、〈育児休業〉〈介護休業〉について、男女とも「積極的に利用した方がよい」の割合に大きな変化はみられない。

(図3-12) 男性が「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用すること - 性別、性・年代別

ア. 育児休業

イ. 介護休業



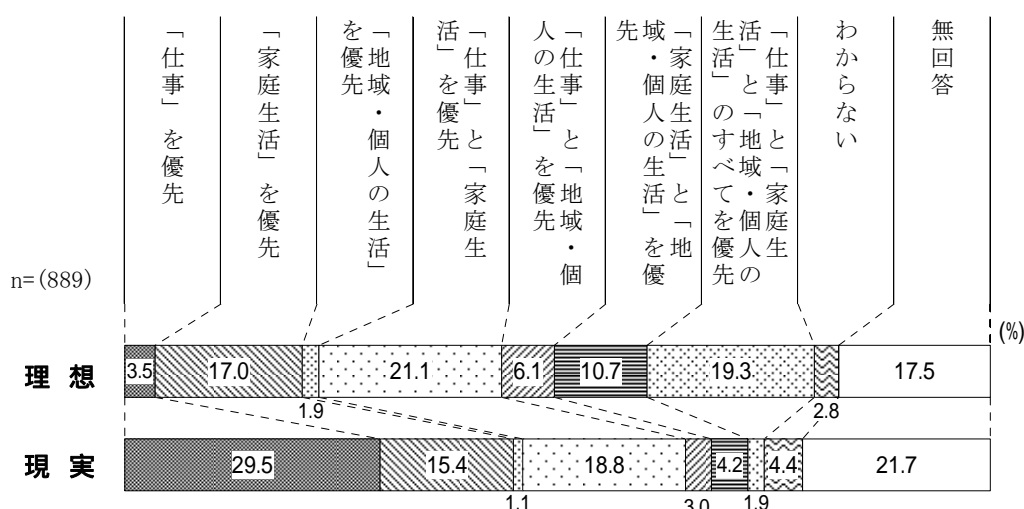
4 . ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

「『仕事』と『家庭生活』を優先」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」がともに約2割

問16 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、理想と現実、それぞれ最も近いものを1つずつ選んでください。

(図4-1) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度



生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の理想を聞いたところ、「『仕事』と『家庭生活』を優先」が21.1%で最も高く、これに『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」が19.3%で次いでいる。

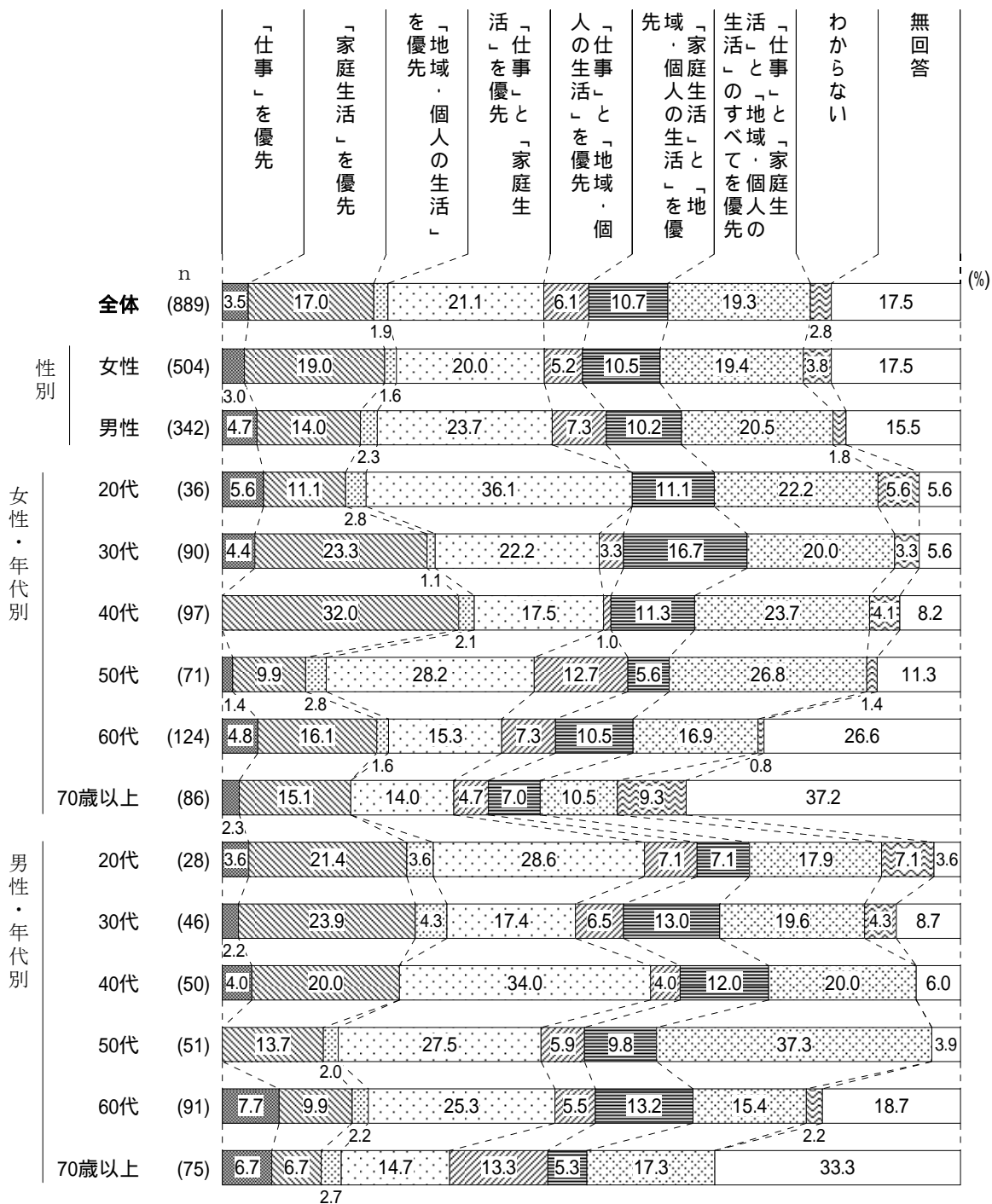
次に、現実をみると、「仕事を優先」が29.5%と最も高く、これに「『仕事』と『家庭生活』を優先」が18.8%で次いでいる。一方、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」は僅か1.9%となっている。(図4-1)

【理想 - 性別、性・年代別】

ワーク・ライフ・バランスの理想を性別で見ると、「『仕事』と『家庭生活』を優先」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」が、男女ともに2割前後となっている。

性・年代別で見ると、女性の場合、20代では「『仕事』と『家庭生活』を優先」が36.1%と他の年代より高くなっている。50代では、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」が26.8%と高くなっている。男性の場合、40代では「『仕事』と『家庭生活』を優先」が34.0%と高く、50代では「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」が37.3%と、それぞれ他の年代より高くなっている。(図4-2)

(図4-2) ワーク・ライフ・バランスの理想 - 性別、性・年代別

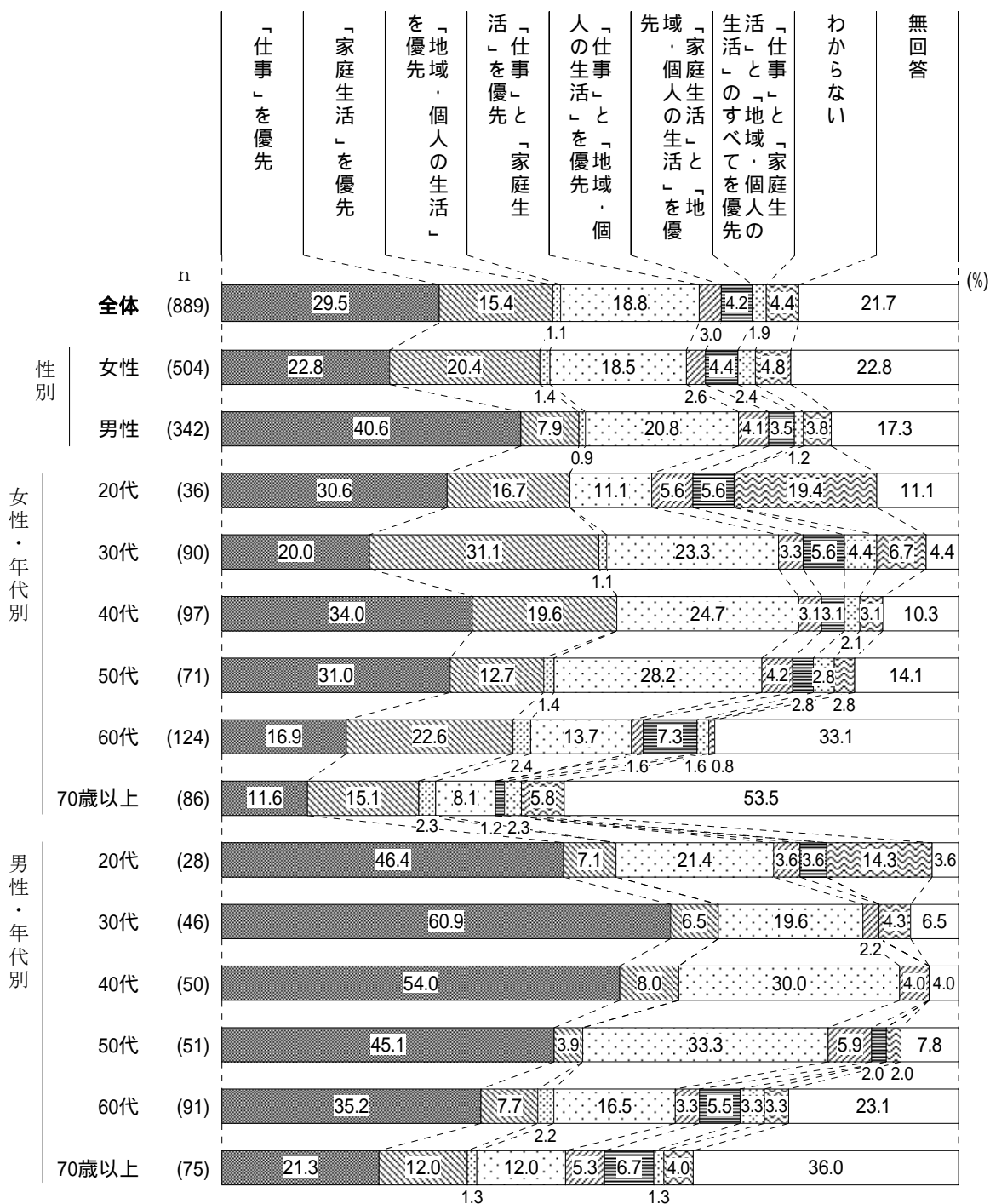


【現実 - 性別、性・年代別】

ワーク・ライフ・バランスの現実を性別で見ると、男性では、「仕事を優先」が40.6%と、女性（22.8%）を大きく上回っており、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」は僅か3.8%に過ぎない。男性では、女性に比べて理想と現実の落差が大きいことがわかる。

性・年代別で見ると、女性の場合、20代では、「『仕事』を優先」が30.6%を占めているほか、40代から50代でも3割を超えている。また、30代から50代では「『仕事』と『家庭生活』を優先」が2割を超えている。男性の場合、30代では「『仕事』を優先」が60.9%を占めているほか、20代、40代でも4割を超えている。（図4-3）

（図4-3）ワーク・ライフ・バランスの現実 - 性別、性・年代別



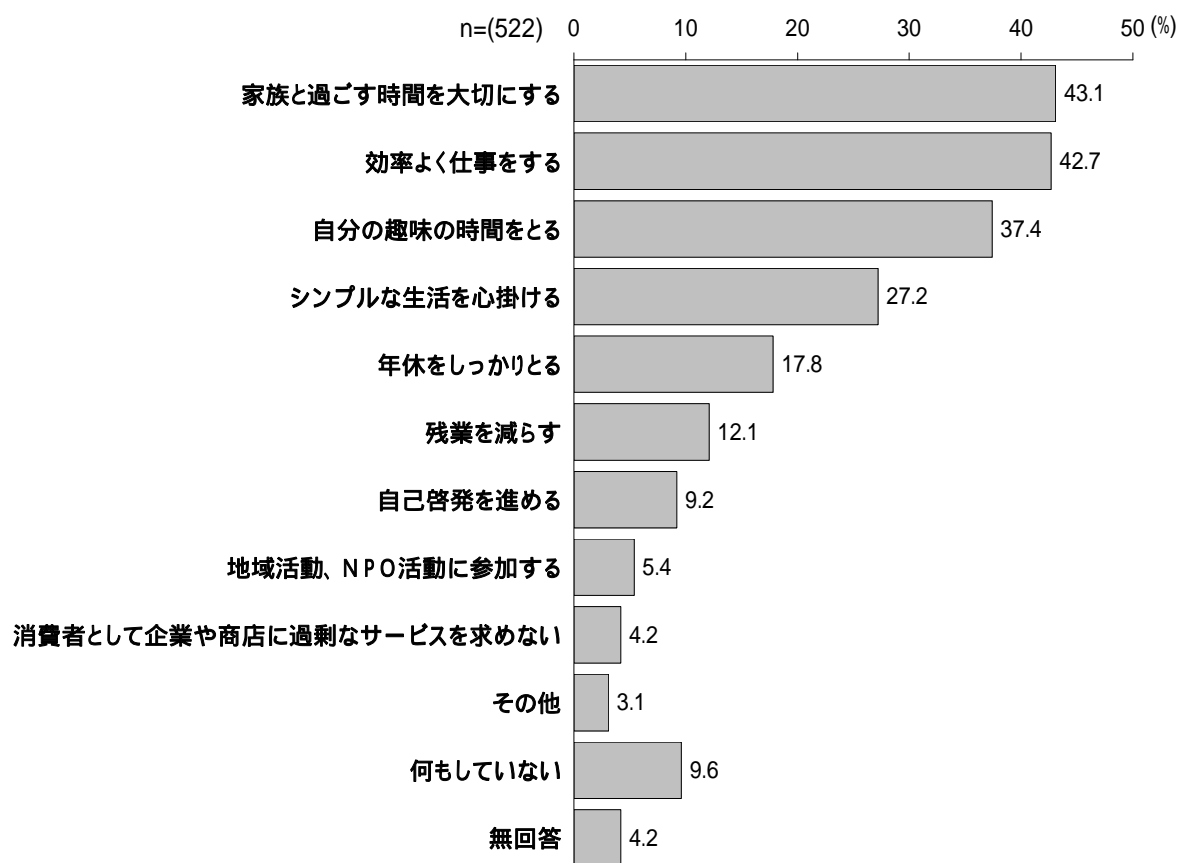
(2) ワーク・ライフ・バランスを実現するためにしていること

「家族と過ごす時間を大切にする」「効率よく仕事をする」がともに4割強

[6ページの間14で「働いている」を選んだ方におうかがいします]

問17 あなたは、「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の調和を図るために、どのようなことをしていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

(図4-4) ワーク・ライフ・バランスを実現するためにしていること(複数回答)



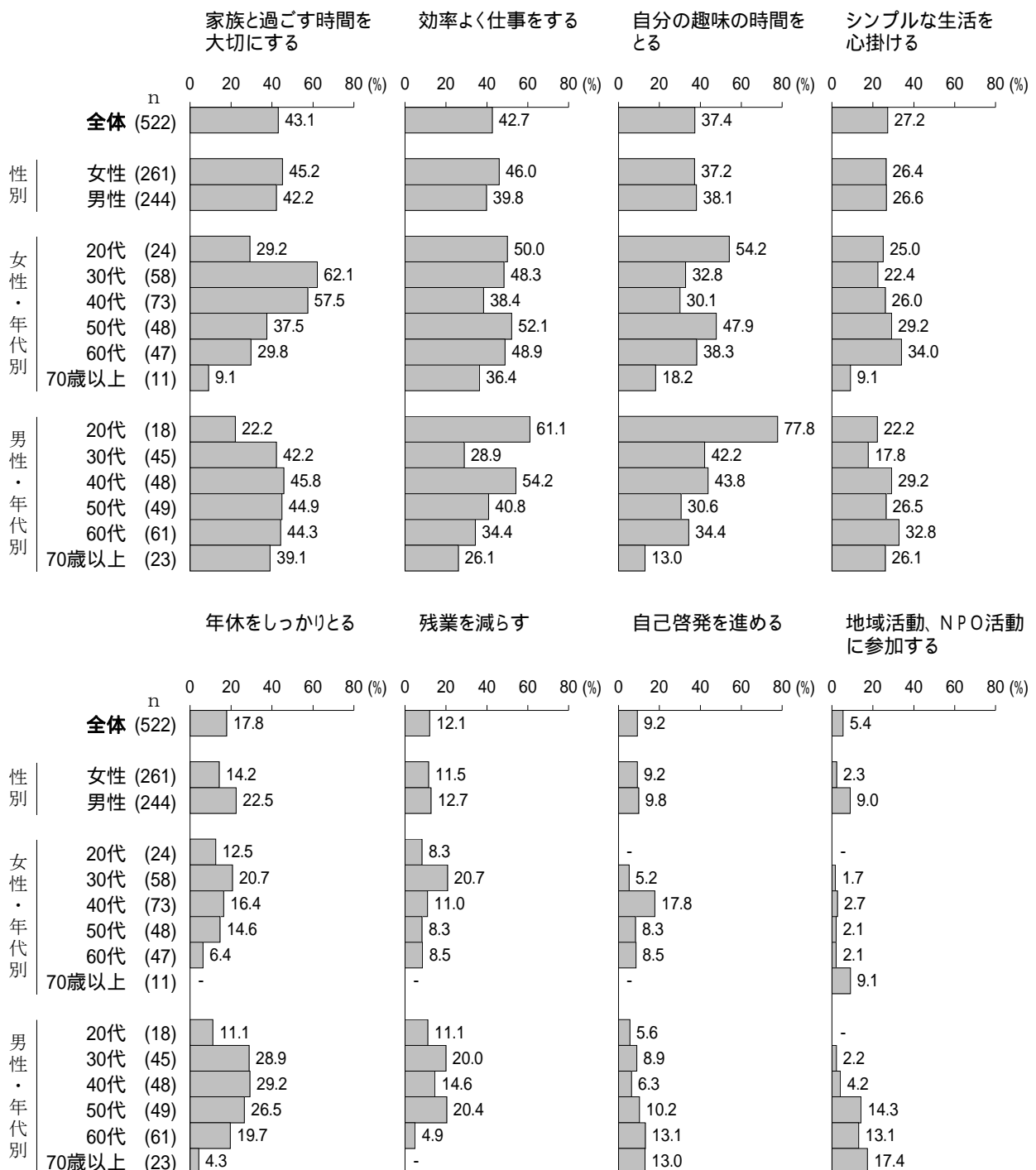
ワークライフバランスの実現のために実施していることとしては、「家族と過ごす時間を大切にする」が43.1%で最も高く、次いで「効率よく仕事をする」42.7%、「自分の趣味の時間をとる」37.4%と続いている。(図4-4)

【性別、性・年代別】

性別でみると、女性では、「効率よく仕事をする」が46.0%と、男性（39.8%）を上回っている。

性・年代別でみると、女性の場合、20代、30代、50代、60代では「効率よく仕事をする」が5割前後を占め、高くなっている。また、30代から40代では、「家族と過ごす時間を大切にする」が6割前後を占めている。20代女性では、「自分の趣味の時間をとる」が54.2%と、男女全年代を通じて最も高くなっている。男性の場合、40代では、「効率よく仕事をする」が54.2%と高くなっている。また、30代から60代では、「家族と過ごす時間を大切にする」が4割を超えている。（図4-5）

（図4-5）ワーク・ライフ・バランスを実現するためにしていること - 性別、性・年代別（上位8項目）

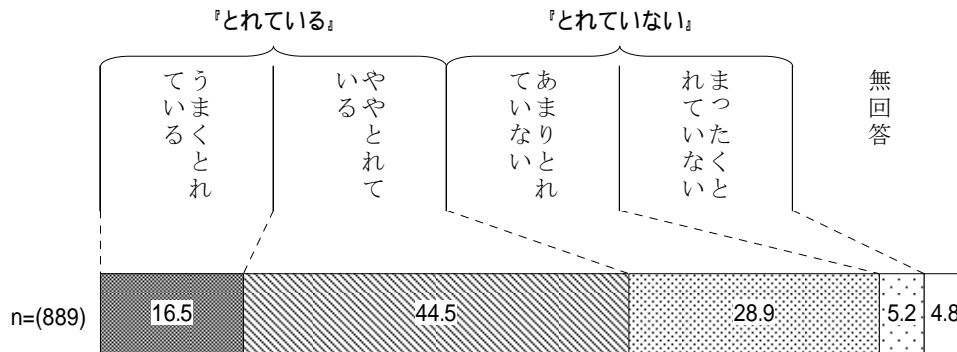


(3) ワーク・ライフ・バランスの状況

『とれている』は6割強

問18 あなたにとって、「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）のバランスは、うまくとれていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

(図4-6) ワーク・ライフ・バランスの状況



現在、就労している人に、ワーク・ライフ・バランスの実現状況を聞いたところ、「うまくとれている」が16.5%で、これに「ややとれている」(44.5%)を合わせた『とれている』は61.0%を占めている。一方、「あまりとれていない」は28.9%、「まったくとれていない」は5.2%となっている。(図4-6)

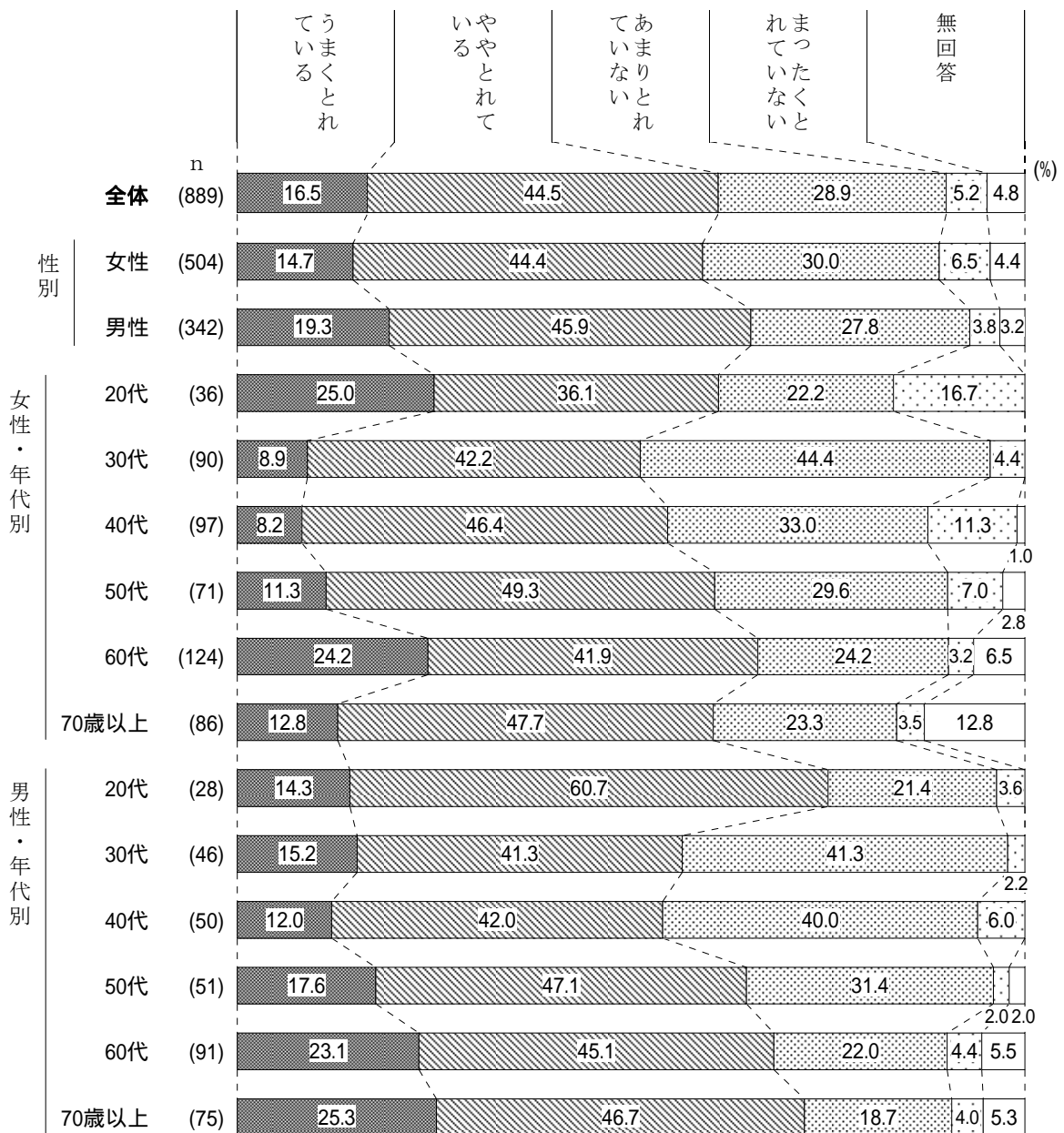
【性別、性・年代別】

性別でみると、『とれている』は女性59.1%、男性65.2%となっている。

性・年代別でみると、女性の場合、60代、70歳以上では、『とれている』がそれぞれ、66.1%、60.5%と、他の年代より高くなっている。男性の場合、60代、70代以上で『とれている』は6割を超えている。また、20代では、『とれている』が75.0%と男女各年代を通じて最も高くなっている。

(図4-7)

(図4-7) ワーク・ライフ・バランスの状況 - 性別、性・年代別



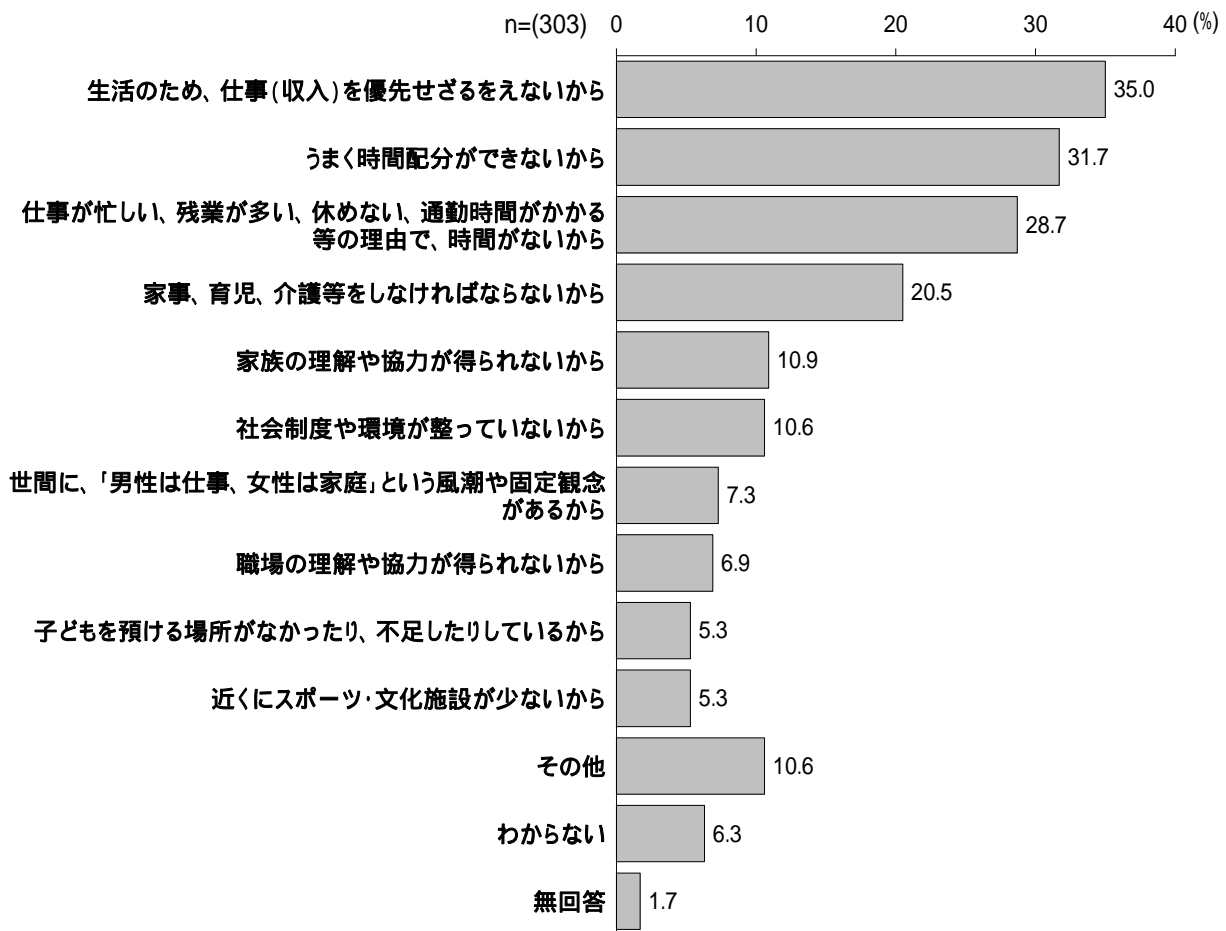
(3-1) ワーク・ライフ・バランスのとれていない理由

「生活のため、仕事(収入)を優先せざるをえないから」が3割台半ばで最多

[問18で「あまりとれていない」または「まったくとれていない」を選んだ方におうかがいします]

問18-1 「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)のバランスがうまくとれない理由は何だと思えますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

(図4-8) ワーク・ライフ・バランスのとれていない理由(複数回答)

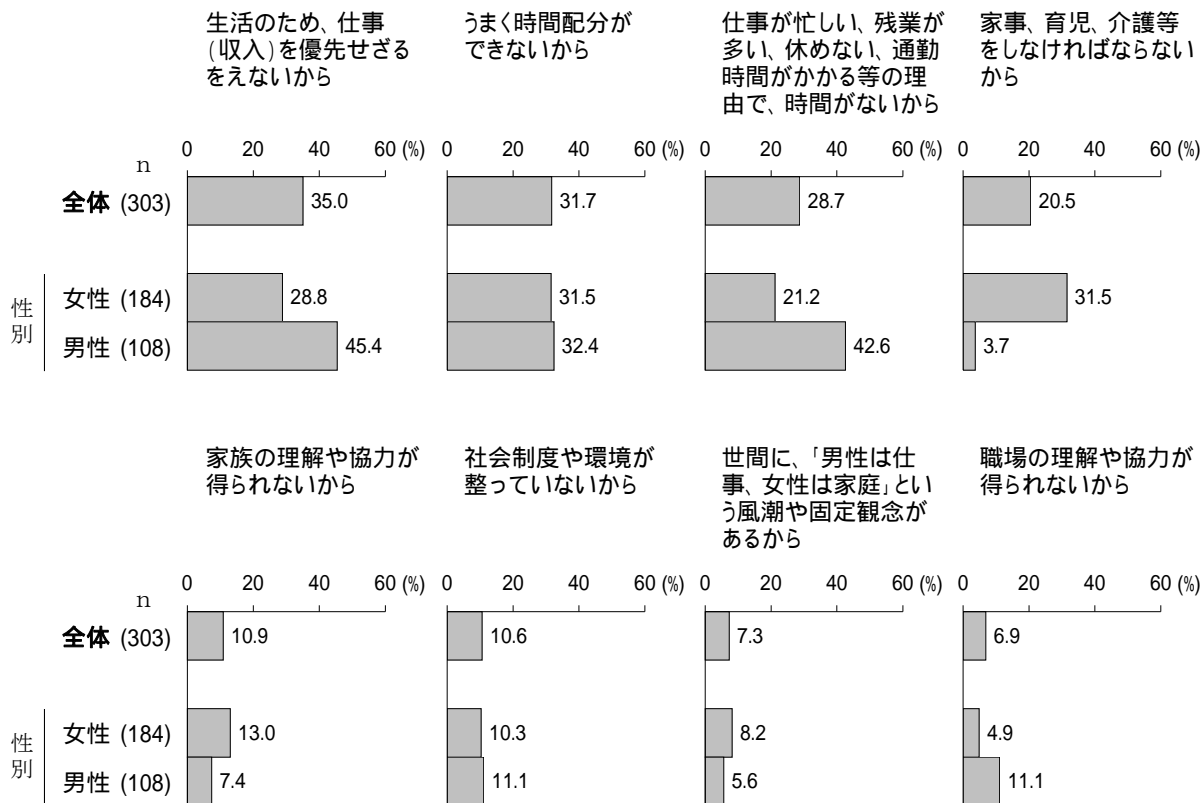


ワーク・ライフ・バランスが「あまりとれていない」「とれていない」という人に、その理由を聞いたところ、「生活のため、仕事(収入)を優先せざるをえないから」が35.0%で最も高く、次いで「うまく時間配分ができないから」31.7%、「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」28.7%の順で続いている。(図4-8)

【性別】

性別でみると、男性の場合、「生活のため、仕事（収入）を優先せざるをえないから」が45.4%、「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」が42.6%と、いずれも女性より高くなっている。（図4-9）

（図4-9）ワーク・ライフ・バランスのとれていない理由 - 性別、性・年代別（上位8項目）



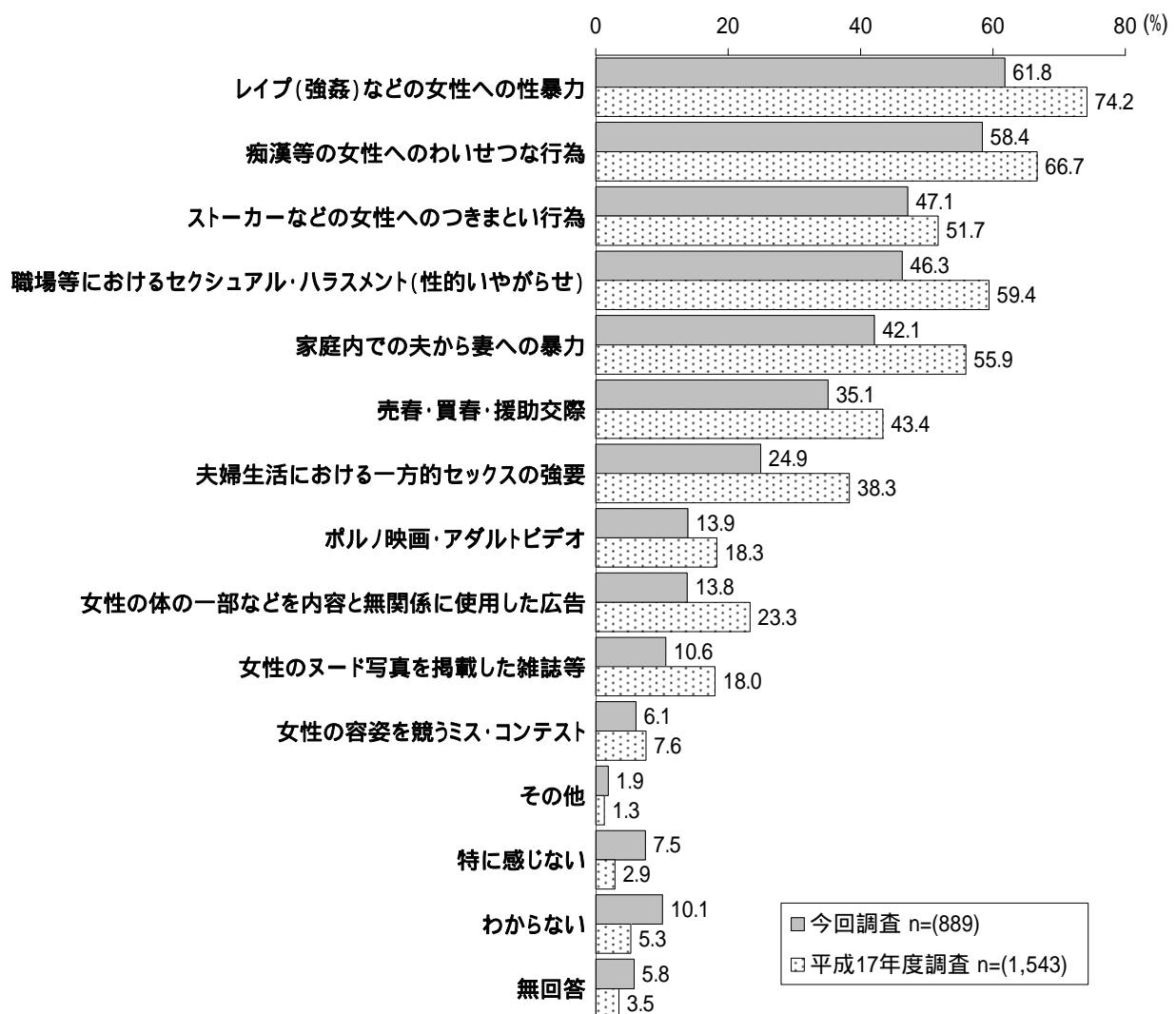
5 . 人権について

(1) 女性の人権侵害と感ずる行為

「レイプ(強姦)などの女性への性暴力」と「痴漢等の女性へのわいせつな行為」が、いずれも6割

問19 あなたが、女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことについてでしょうか。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。

(図5-1) 女性の人権侵害と感ずる行為 (経年比較・複数回答)



女性の人権が侵害されると感じられる行為として、「レイプ(強姦)などの女性への性暴力」が61.8%で最も高く、次いで「痴漢等の女性へのわいせつな行為」58.4%、「ストーカーなどの女性へのつきまとい行為」47.1%、「職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」46.3%の順となっている。

平成17年度調査と比較すると、「レイプ(強姦)などの女性への性暴力」と「痴漢等の女性へのわいせつな行為」など上位の項目については、減少傾向がみられ、「レイプ(強姦)などの女性への性暴力」は12.4ポイント低下している。(図5-1)

【性別、性・年代別】

性別でみると、男女の認識に大きな差はないが、「レイプ（強姦）などの女性への性暴力」はやや女性で、「ストーカーなどの女性へのつきまとい行為」はやや男性で高くなっている。

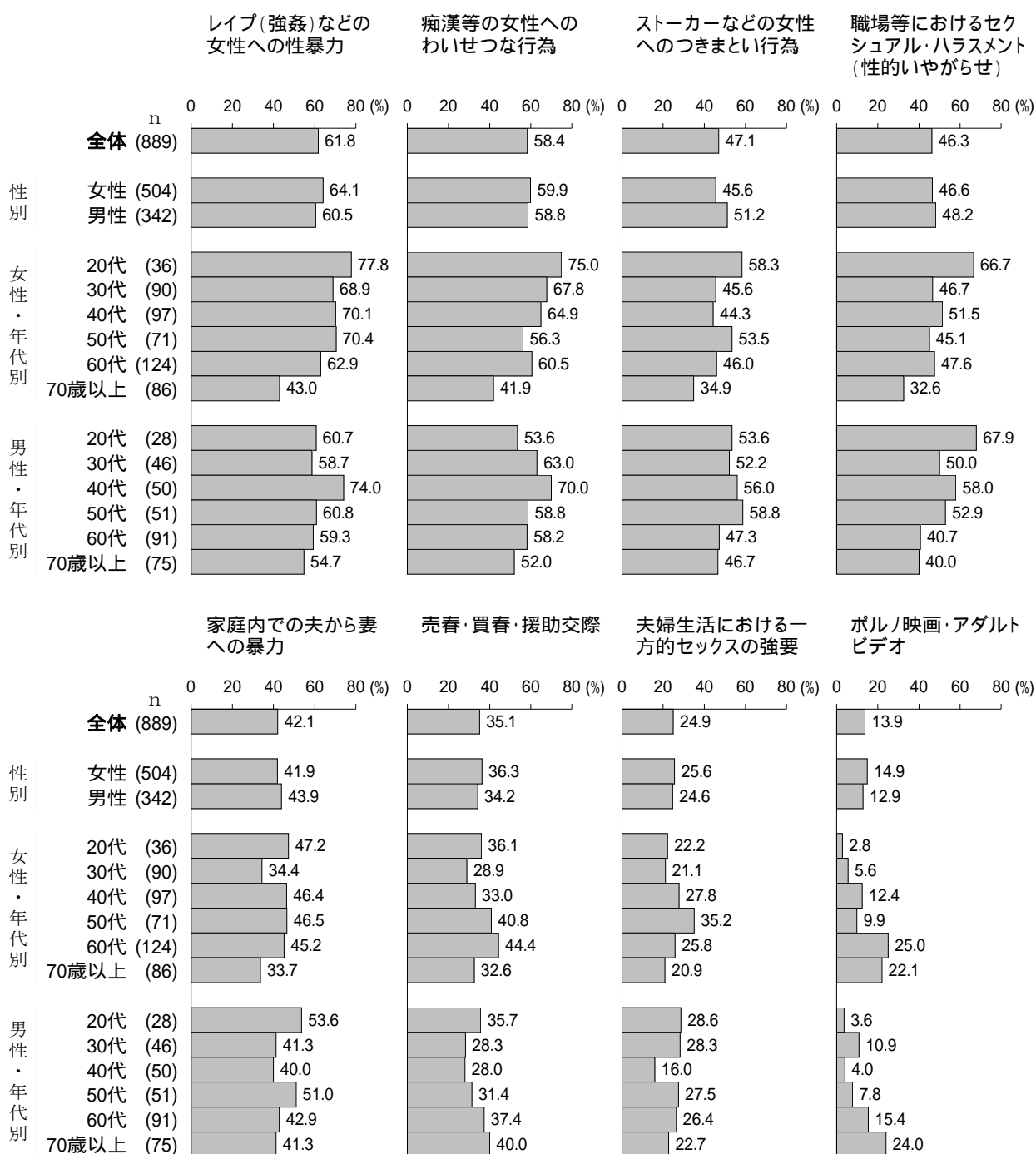
性・年代別でみると、「レイプ（強姦）などの女性への性暴力」「痴漢等の女性へのわいせつな行為」「ストーカーなどの女性へのつきまとい行為」については、女性では20代で高い傾向がある。

(図5-2)

【性別・経年比較】

性別に平成17年度調査と比較してみると、「レイプ（強姦）などの女性への性暴力」と「痴漢等の女性へのわいせつな行為」など上位の項目の減少傾向は、男女に共通している。

(図5-2) 女性の人権侵害と感ずる行為 - 性別、性・年代別 (上位8項目)

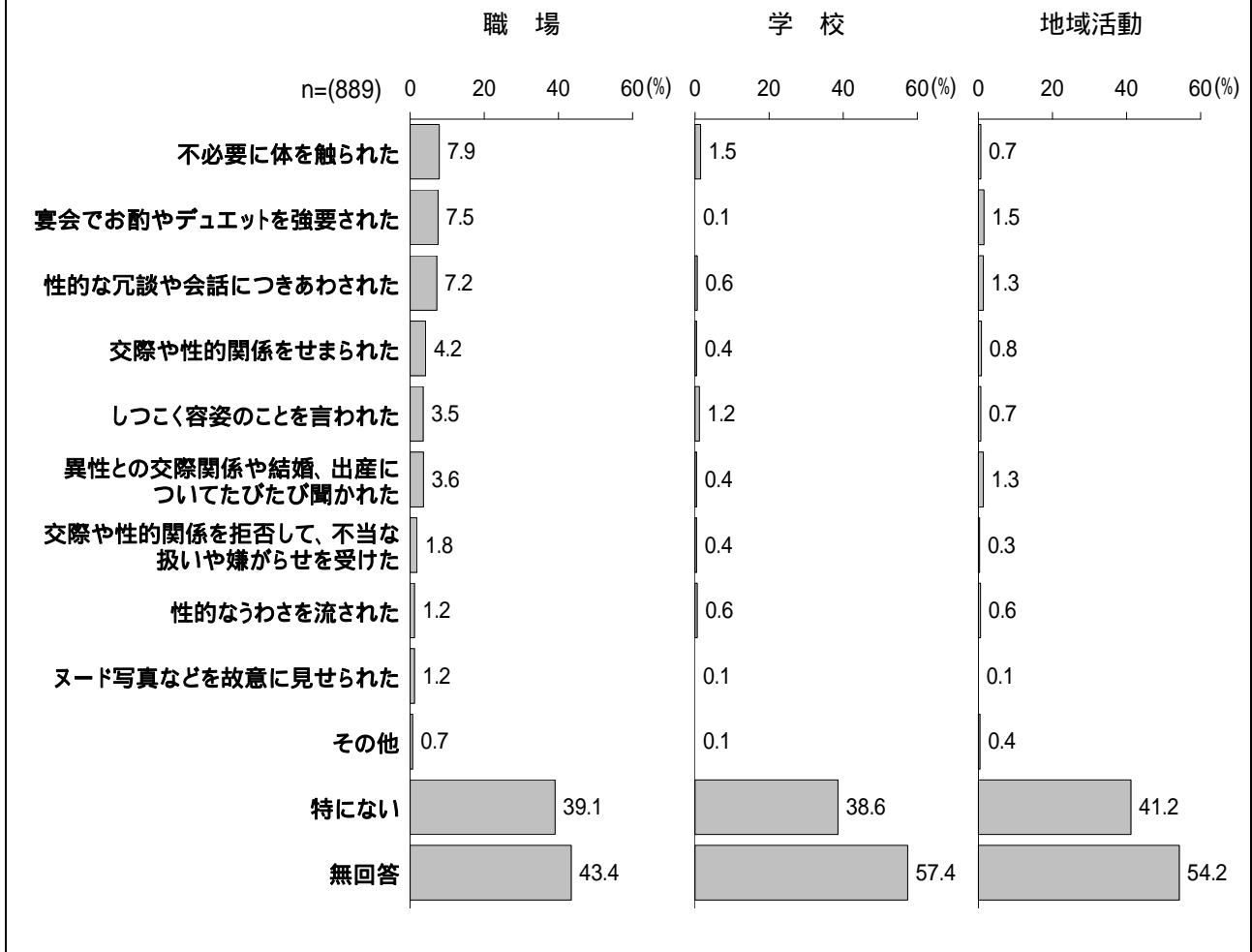


(2) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

女性では、職場で「不必要に体を触られた」、「宴会でお酌やデュエットを強要された」、「性的な冗談や会話につきあわされた」経験のある人が1割を超える

問20 性的な発言や行為によって不利益を受けたり、不快な思いをすることをセクシュアル・ハラスメントといいます。職場・学校・地域活動、それぞれの場面で、ア～コのような経験をしたことがありますか。それぞれについて、あてはまるものをすべて選んでください。

(図5-3) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無(複数回答)



セクシュアル・ハラスメントの経験の有無について聞いたところ、職場では、「不必要に体を触られた」(7.9%)、「宴会でお酌やデュエットを強要された」(7.5%)、「性的な冗談や会話につきあわされた」(7.2%)が高くなっている。

学校では、「不必要に体を触られた」(1.5%)、「しつこく容姿のことを言われた」(1.2%)がやや高くなっている。

地域活動では、「宴会でお酌やデュエットを強要された」(1.5%)、「性的な冗談や会話につきあわされた」(1.3%)、「異性との交友関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた」(1.3%)がやや高くなっている。(図5-3)

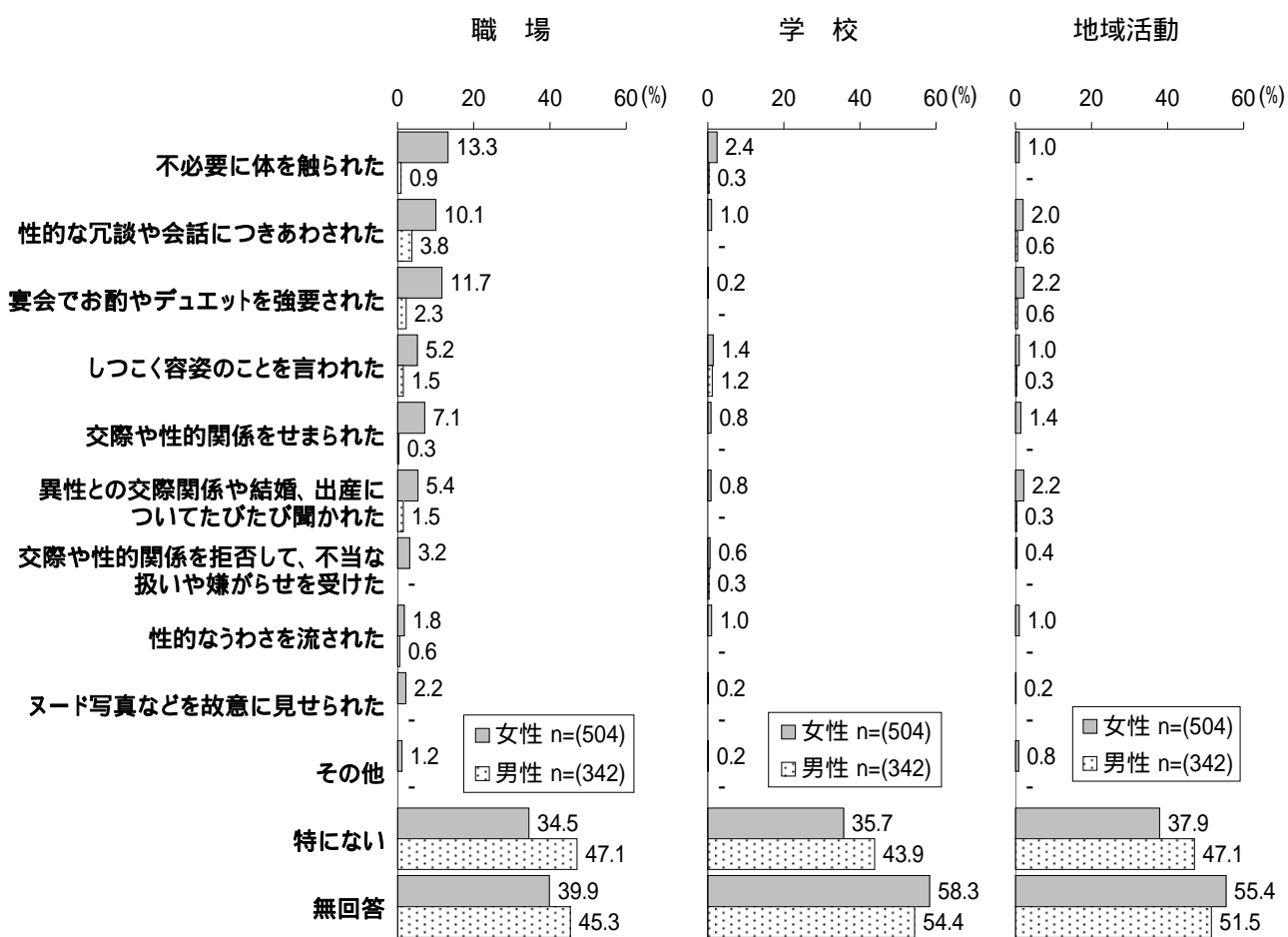
【性別】

性別でみると、職場では、女性で、「不必要に体を触られた」(13.3%)、「宴会でお酌やデュエットを強要された」(11.7%)、「性的な冗談や会話につきあわされた」(10.1%)が高くなっている。

学校では、女性で、「不必要に体を触られた」(2.4%)、「しつこく容姿のことを言われた」(1.4%)がやや高くなっている。

地域活動では、女性で、「宴会でお酌やデュエットを強要された」(2.2%)、「異性との交友関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた」(2.2%)、「性的な冗談や会話につきあわされた」(2.0%)がやや高くなっている。(図5-4)

(図5-4) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無 - 性別



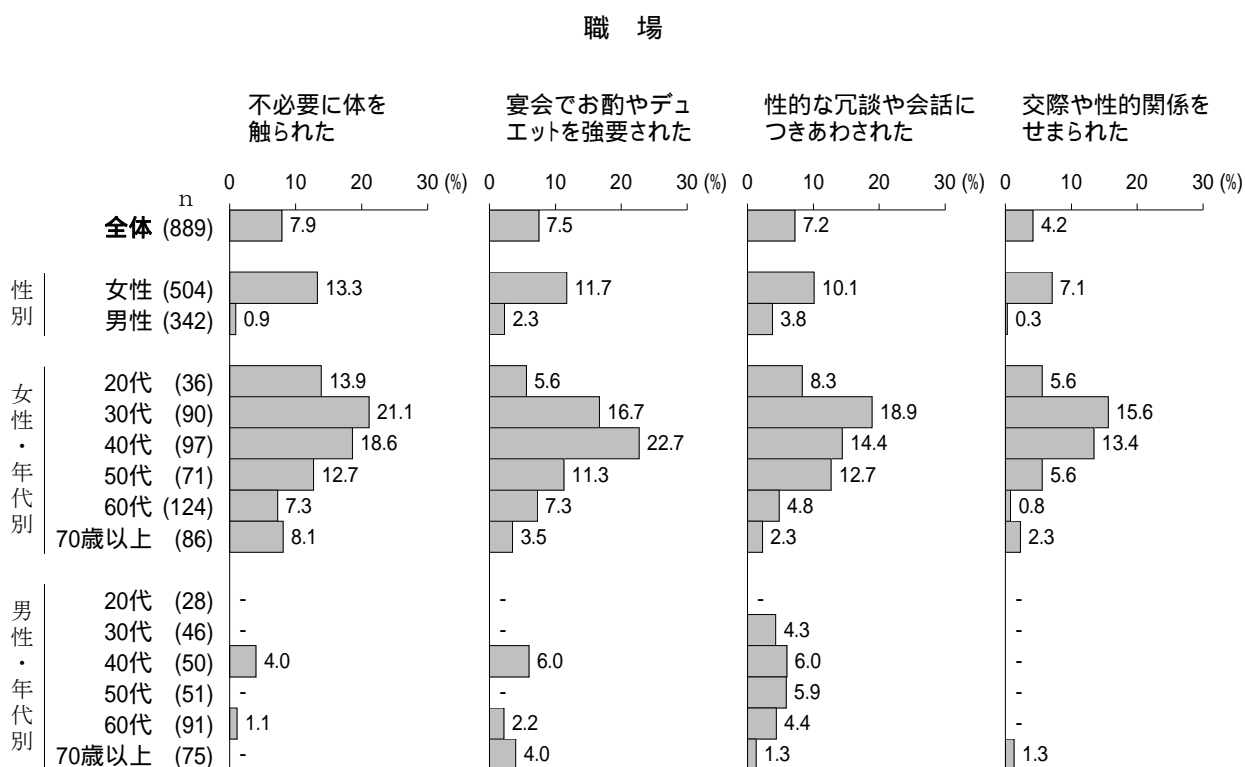
【性・年代別】

性・年代別でみると、職場では、女性の場合、30代から40代で「性的な冗談や会話につきあわされた」、「宴会でお酌やデュエツを強要された」、「不必要に体を触られた」が、いずれも他の年代より高くなっている。

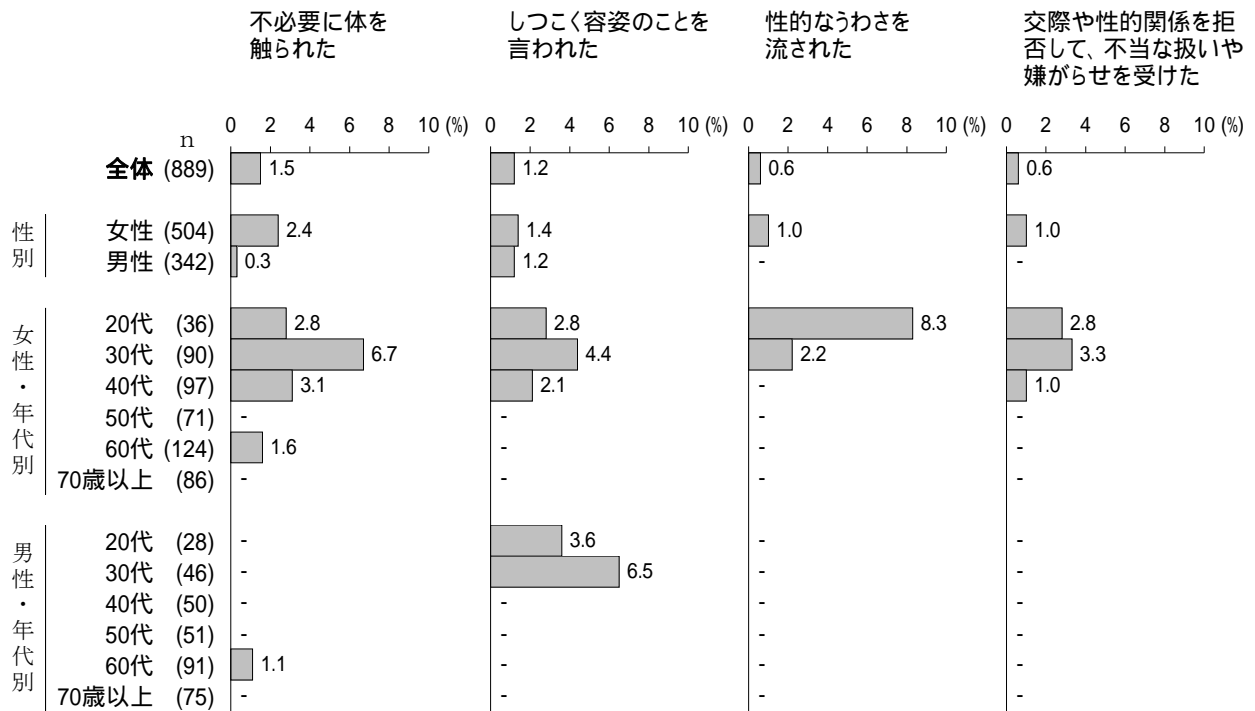
学校では、女性の場合、20代では「性的なうわさを流された」が8.3%、30代では「不必要に体を触られた」が6.7%とやや高くなっている。

地域活動では、女性の場合、20代、30代で「異性との交友関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた」が、それぞれ8.3%、5.6%とやや高くなっている。(図5-5)

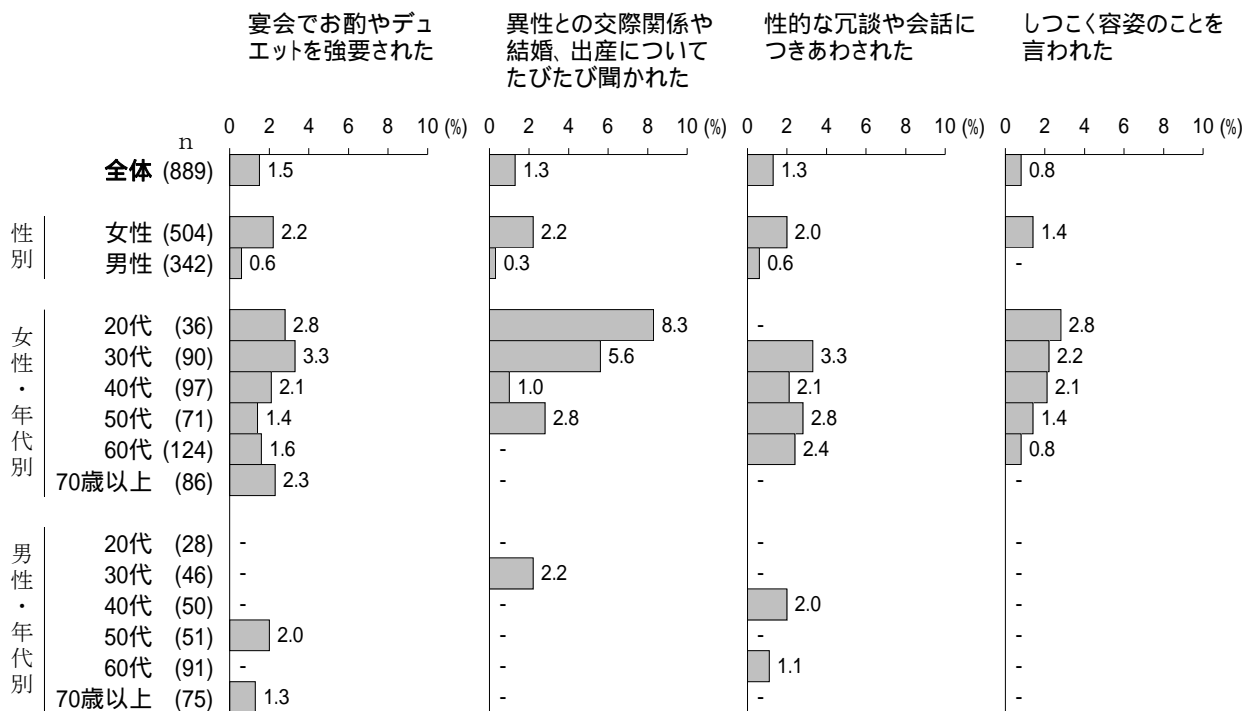
(図5-5) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無 - 性・年代別 (各上位4項目)



学 校



地域活動



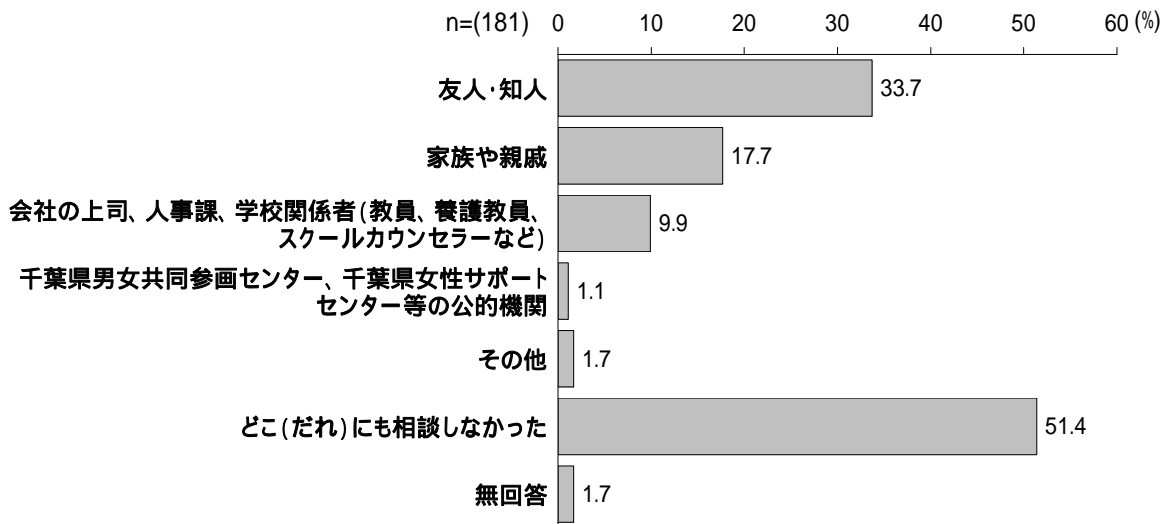
(2 - 1) セクシュアル・ハラスメントを受けたときの相談先

「どこ(だれ)にも相談しなかった」が半数以上

[問20のア～コに1つでも○を付けた方におうかがいします]

問20-1 そのとき、だれ、もしくはどこに相談しましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

(図5-6) セクシュアル・ハラスメントを受けたときの相談先(複数回答)



何らかのセクシュアル・ハラスメントを経験した人に、その時、誰に相談したかどうか聞いたところ、「友人・知人」が33.7%で最も高く、次いで「家族や親戚」17.7%、「会社の上司、人事課、学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)」9.9%の順で続いている。一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が51.4%を占めている。(図5-6)

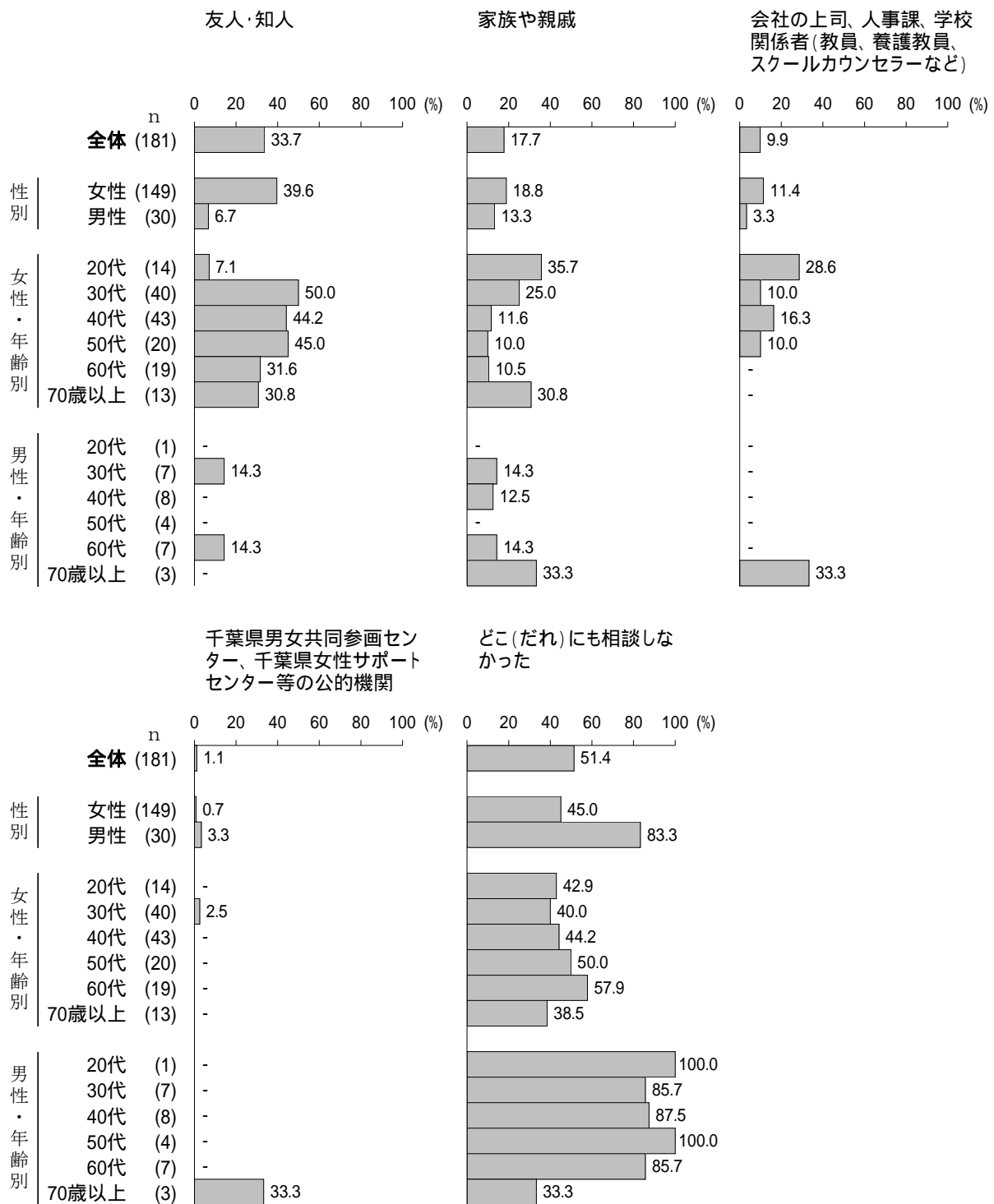
【性別、性・年代別】

性別でみると、女性では「友人・知人」が39.6%と、男性(6.7%)を上回っている。一方、男性では「どこ(だれ)にも相談しなかった」が83.3%と、女性(45.0%)を大きく上回っている。

性・年代別でみると、女性の場合、30代から50代では「友人・知人」が4割を超えている。

(図5-7)

(図5-7) セクシュアル・ハラスメントを受けたときの相談先 - 性別、性・年代別

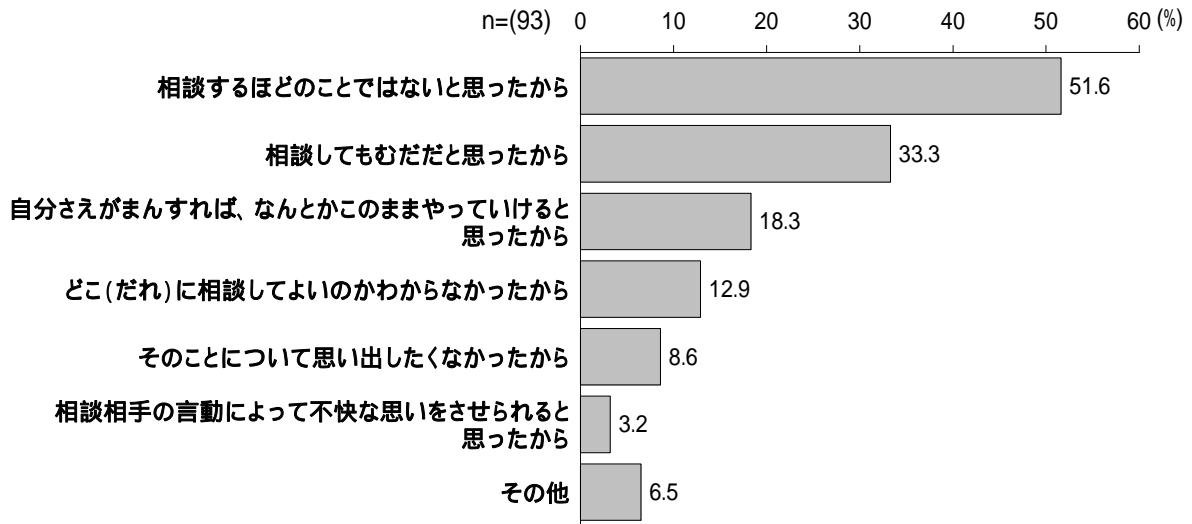


(2-2) セクシュアル・ハラスメントを受けたときに相談しなかった理由

「相談するほどのことではないと思ったから」が5割

[問20-1で「どこ(だれ)にも相談しなかった」を選んだ方におうかがいします]
問20-2 どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

(図5-8) セクシュアル・ハラスメントを受けたときに相談しなかった理由(複数回答)

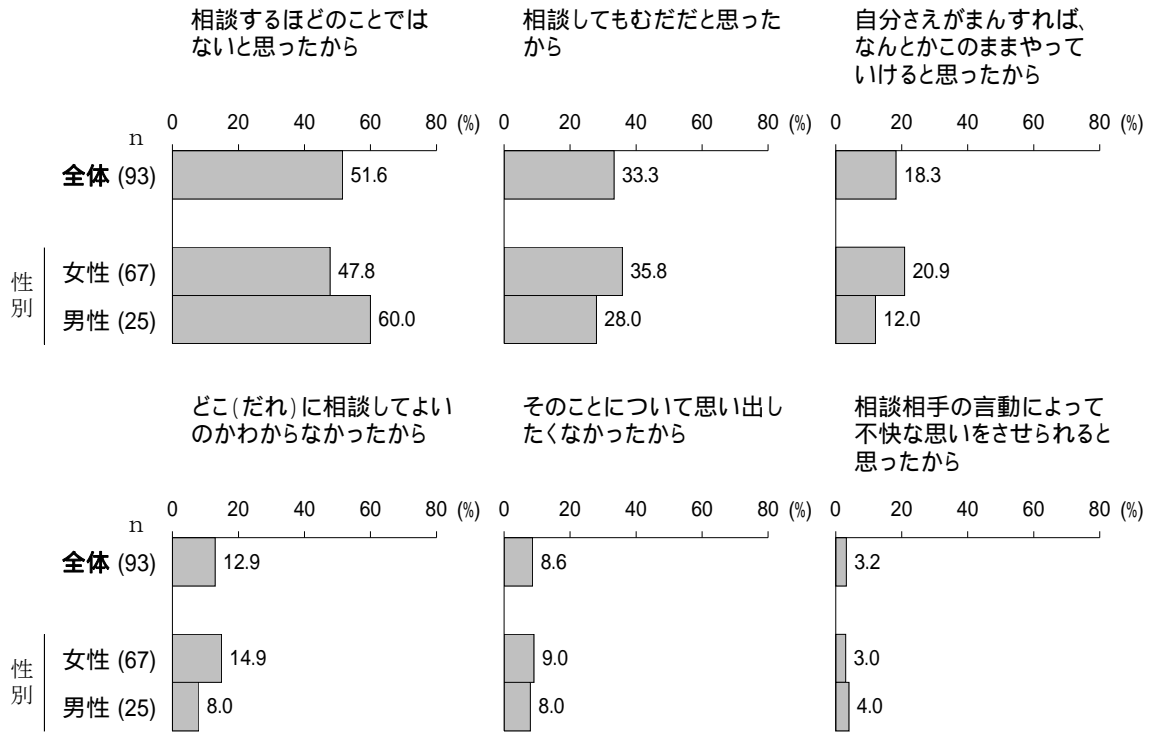


だれにも相談しなかったという人に、その理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が51.6%で最も高く、これに「相談しても無駄だと思ったから」が33.3%で次いでいる。(図5-8)

【性別】

性別で見ると、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が60.0%と、女性(47.8%)を上回っている。一方、女性では「相談しても無駄だと思ったから」が35.8%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が20.9%と、いずれも男性より高くなっている。(図5-9)

(図5-9) セクシュアル・ハラスメントを受けたときに相談しなかった理由 - 性別

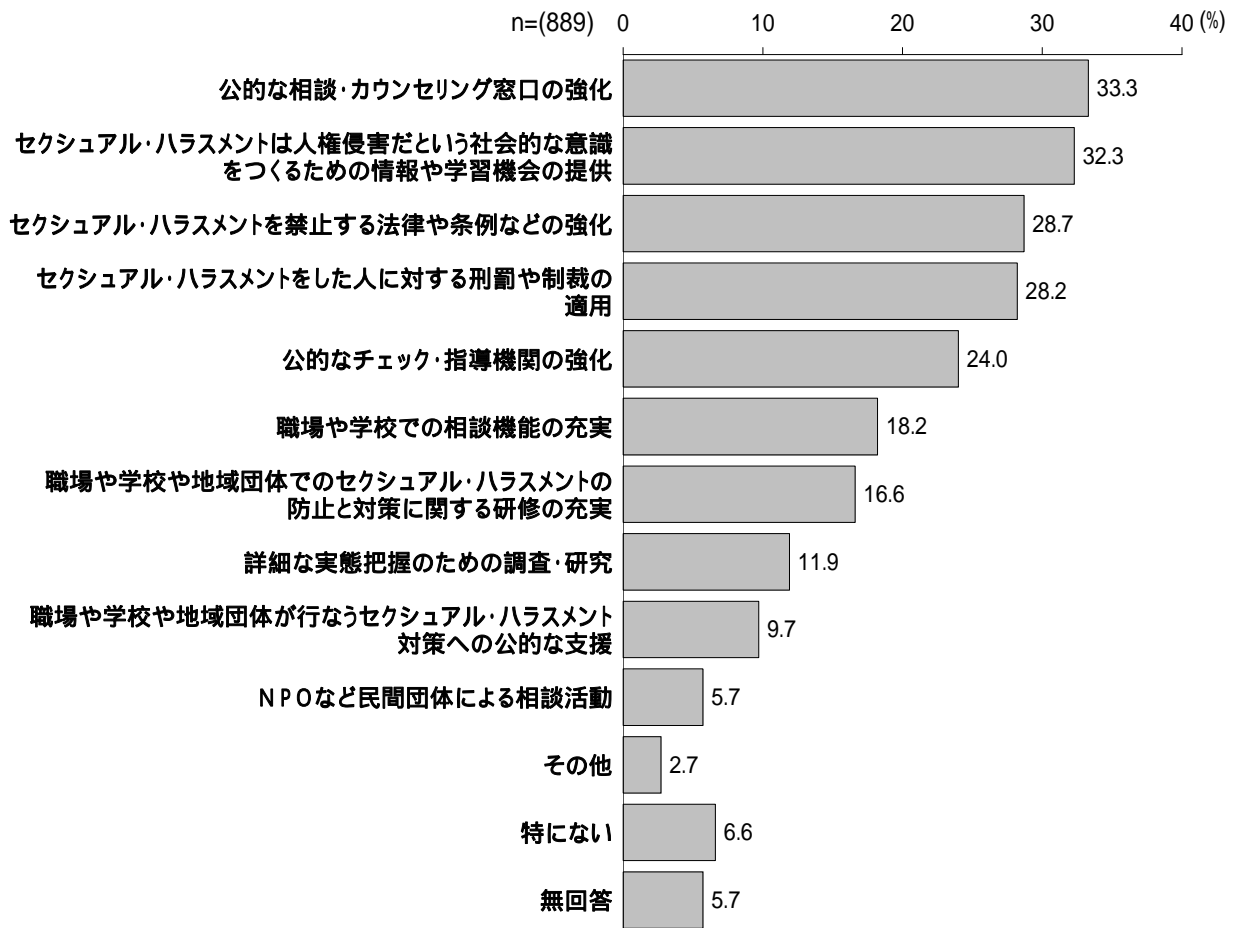


(3) セクシュアル・ハラスメントをなくすための対策

「セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だという社会的な意識づくりの情報や学習機会の提供」と「公的な相談・カウンセリング窓口の強化」が3割強

問21 セクシュアル・ハラスメントをなくすために、特にどのような対応が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つ以内で選んでください。

(図5-10) セクシュアル・ハラスメントをなくすための対策(複数回答)



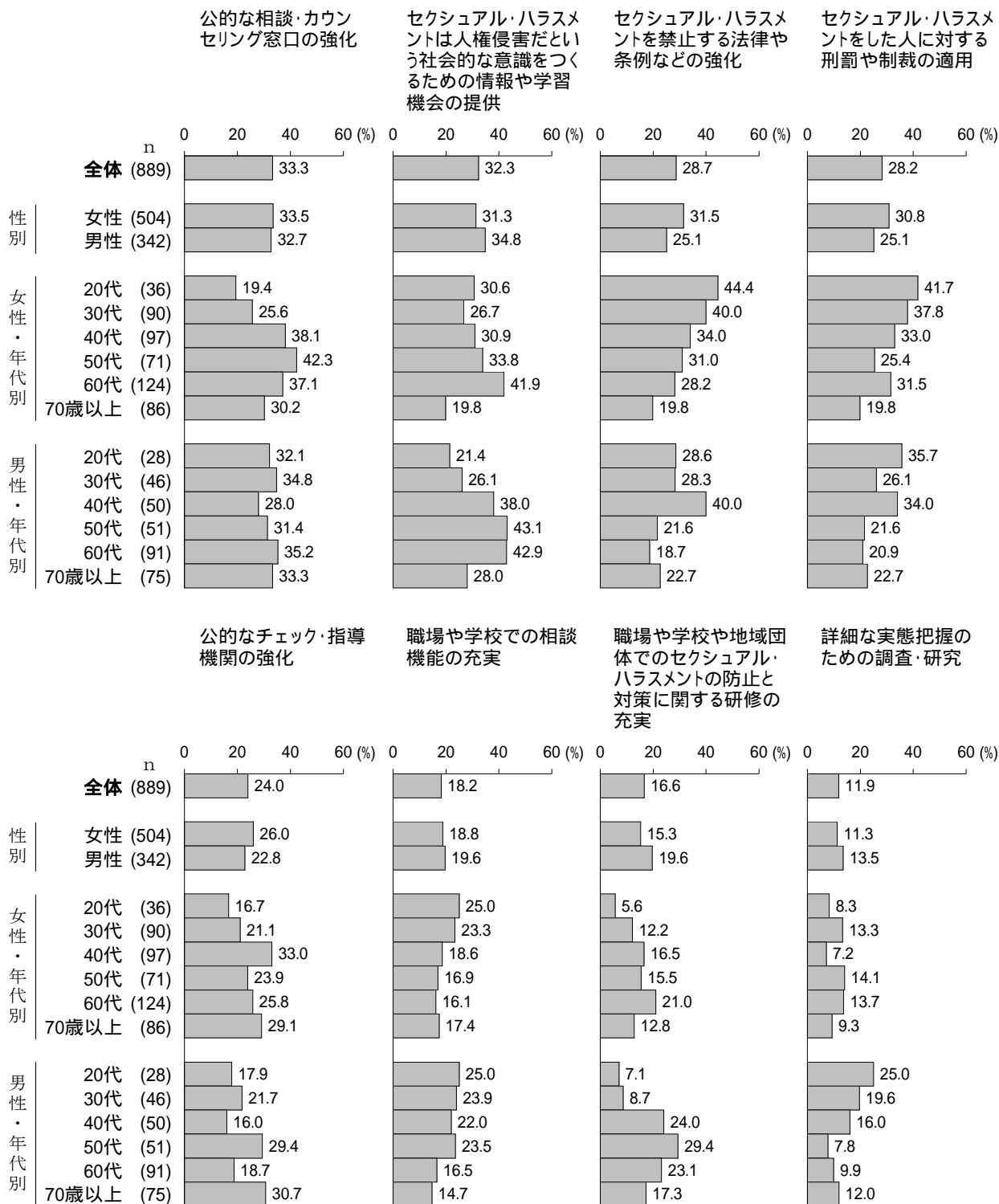
セクシュアル・ハラスメントをなくすための方法としては、「公的な相談・カウンセリング窓口の強化」が33.3%で最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だという社会的な意識づくりの情報や学習機会の提供」32.3%、「セクシュアル・ハラスメントを禁止する法律や条例などの強化」28.7%、「セクシュアル・ハラスメントをした人に対する刑罰や制裁の適用」28.2%の順で続いている。(図5-10)

【性別、性・年代別】

性別で見ると、女性では、「セクシュアル・ハラスメントを禁止する法律や条例などの強化」が31.5%、「セクシュアル・ハラスメントをした人に対する刑罰や制裁の適用」が30.8%と、いずれも男性を上回っている。一方、男性では、「セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だという社会的な意識をつくるための情報や学習機会の提供」が34.8%と、女性をやや上回っている。

性・年代別でみると、女性の場合、20代、30代では「セクシュアル・ハラスメントをした人に対する刑罰や制裁の適用」「セクシュアル・ハラスメントを禁止する法律や条例などの強化」が、いずれも4割前後を占め、他の年代より高くなっている。60代では、「セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だという社会的な意識をつくるための情報や学習機会の提供」が41.9%と高くなっている。男性の場合、40代から60代では、「セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だという社会的な意識をつくるための情報や学習機会の提供」が、いずれの年代でも4割前後と高くなっている。また、20代、40代では「セクシュアル・ハラスメントをした人に対する刑罰や制裁の適用」が3割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。(図5-11)

(図5-11) セクシュアル・ハラスメントをなくすための対策 - 性別、性・年代別(上位8項目)



(4) ドメスティック・バイオレンスを受けた経験の有無

大声でどなられる 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な表現をする
容姿について傷つくようなことを言う が1割を超える

問22 配偶者や恋人などから、様々な暴力行為を、身体的または精神的に受けることをドメスティック・バイオレンスといいます。あなたは次のア～チのような経験がありますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。

(図5-12) ドメスティック・バイオレンスの被害経験



※ 〈妊娠中絶を強要される〉は女性のみ (n=504)

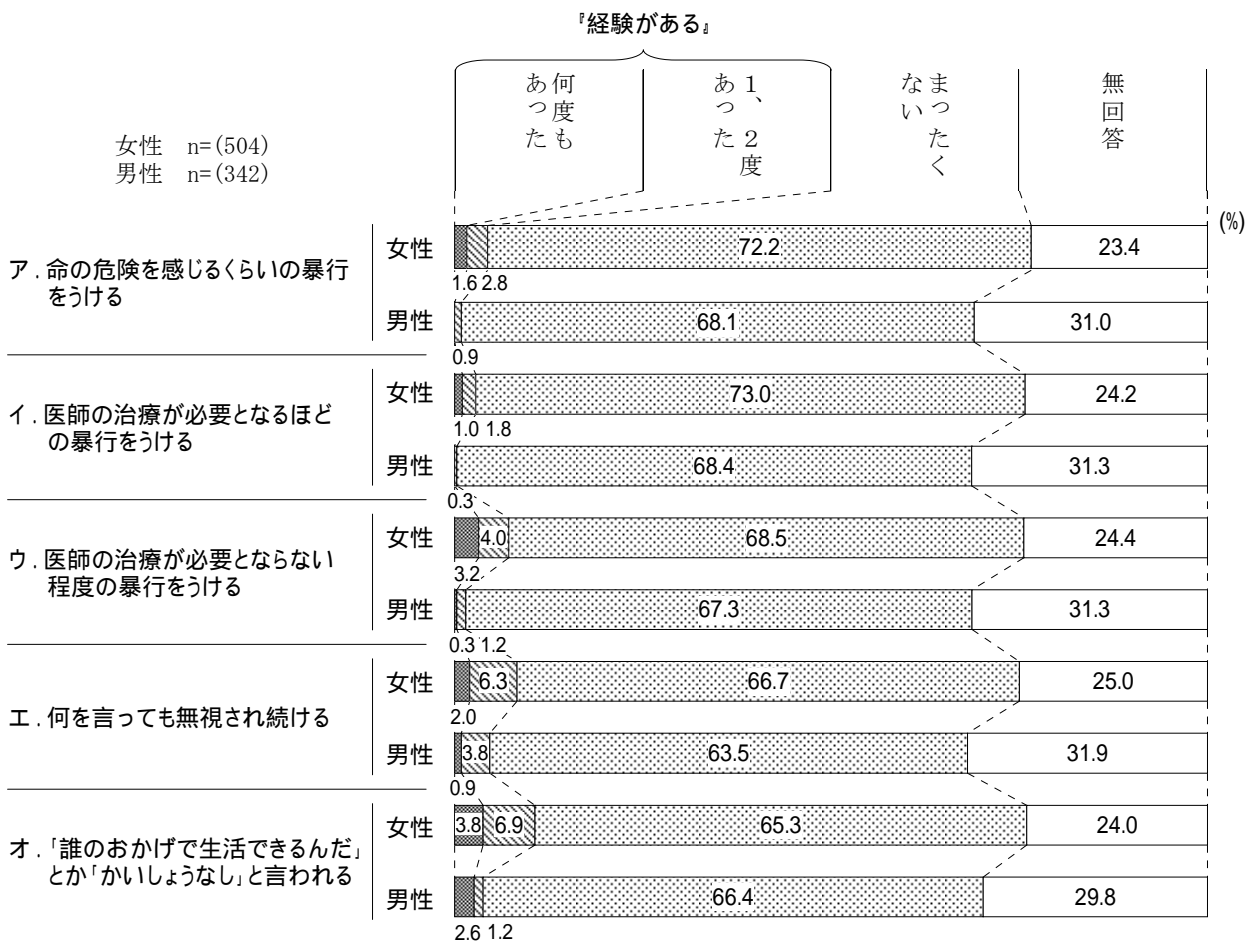
ドメスティック・バイオレンスの有無について、『経験がある』（「何度もあった」＋「1、2度あった」の合計）の多い順で見ると、〈大声でどなられる〉が16.4%で最も高く、以下〈「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な表現をする〉11.6%、〈容姿について傷つくようなことを言う〉10.4%の順で続いている。（図5-12）

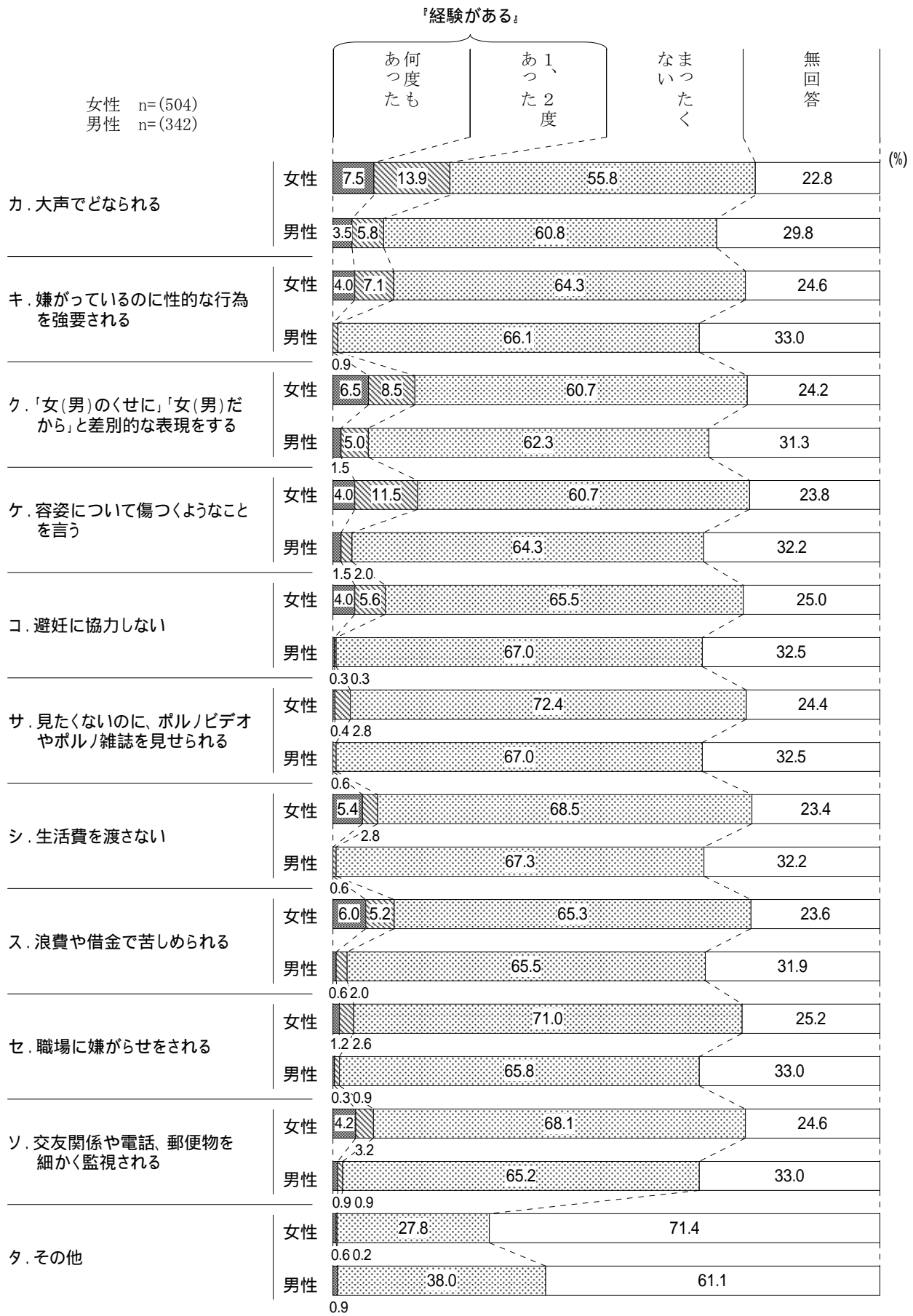
【性別】

性別で見ると、女性では、〈大声でどなられる〉について、『経験がある』が21.4%を占めているほか、〈容姿について傷つくようなことを言う〉（15.5%）、〈「女のくせに」「女だから」と差別的な表現をする〉（15.0%）の順で続いている。とくに、〈大声でどなられる〉については、「何度もあった」が7.5%を占めている。

身体的暴力に注目してみると、女性では〈医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける〉について、『経験がある』が7.2%を占めており、「何度もあった」という人も3.2%いる。また、〈命の危険を感じるくらいの暴行を受ける〉〈医師の治療が必要となるほどの暴行を受ける〉について、女性で『経験がある』人が、それぞれ4.4%、2.8%を占めている。（図5-13）

（図5-13）ドメスティック・バイオレンスの被害経験 - 性別



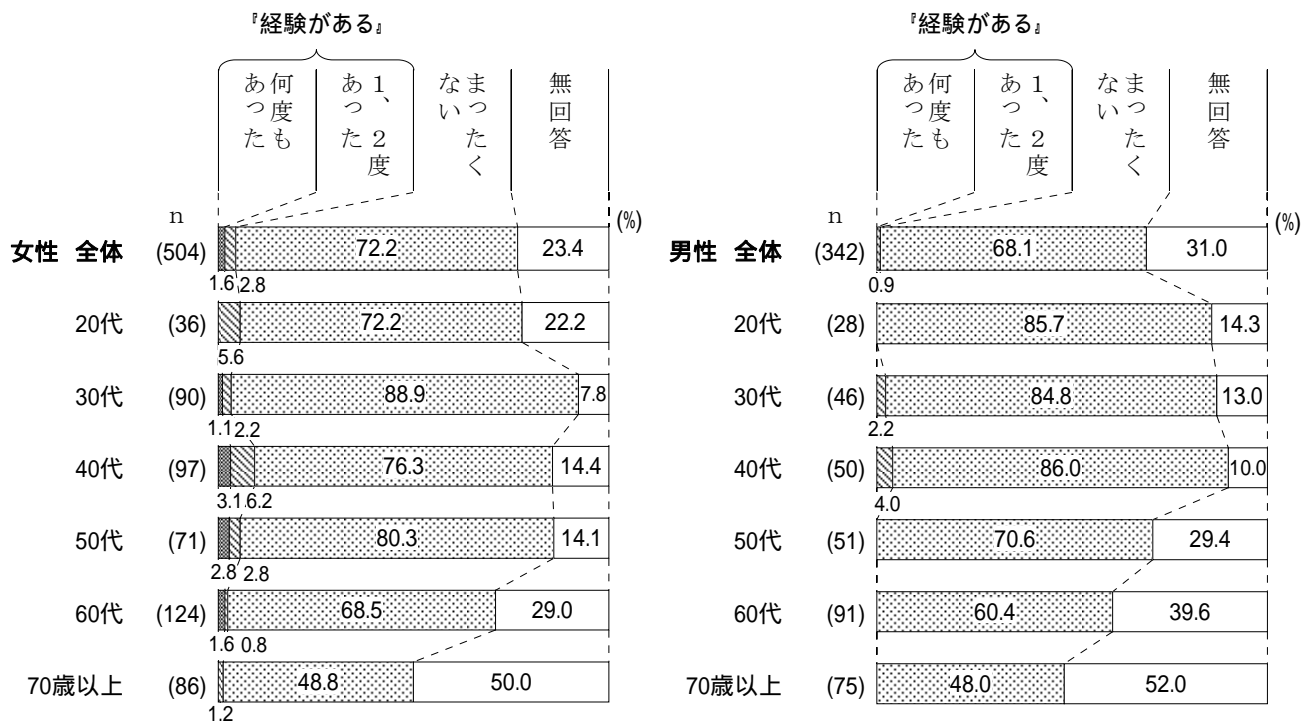


【性・年代別】

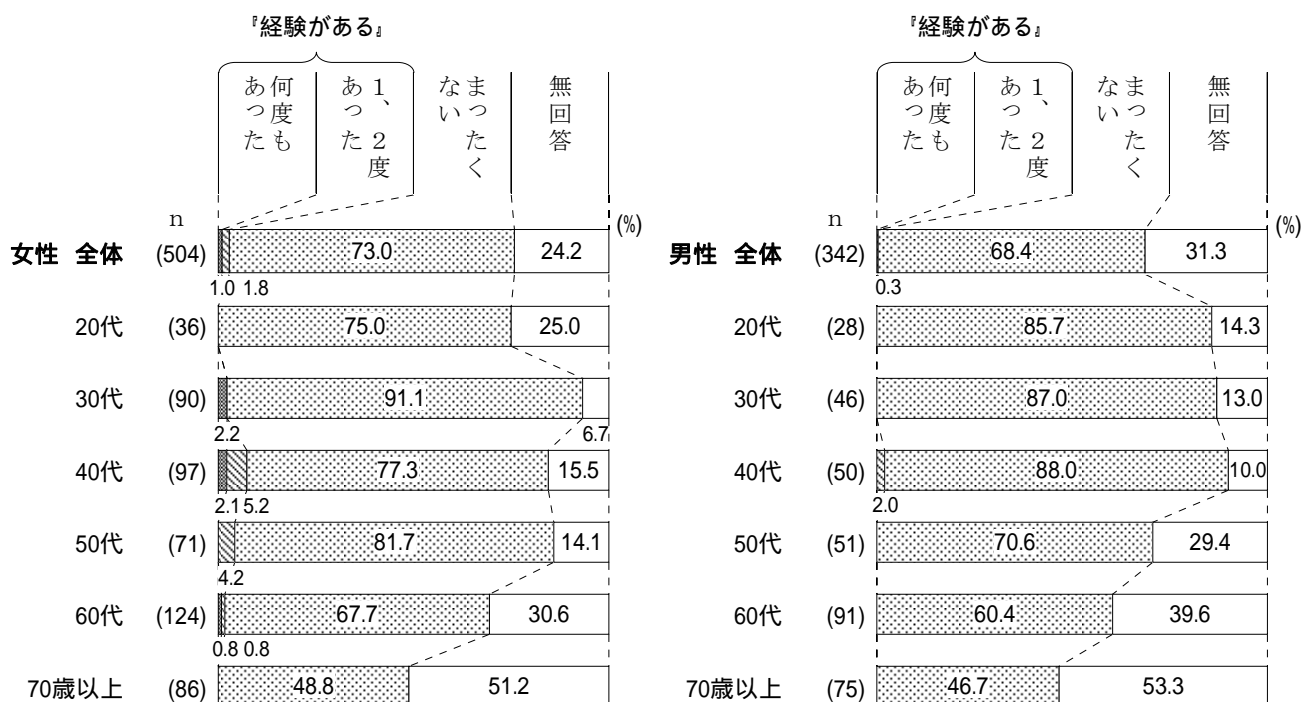
性・年代別でみると、女性では、30代、40代で、〈大声でどなられる〉ことが「何度もあった」が、それぞれ11.1%、14.4%と、他の年代より高くなっている。(図5-14)

(図5-14) ドメスティック・バイオレンスの被害経験 - 性・年代別

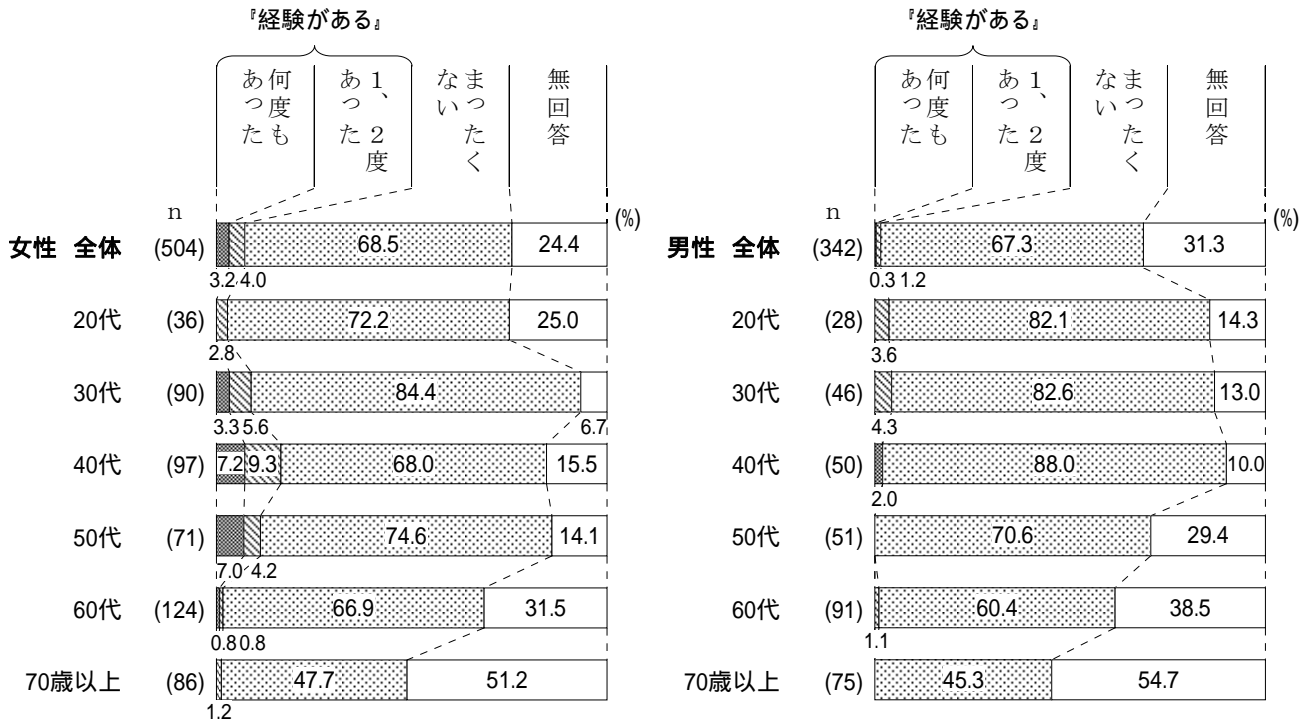
ア. 命の危険を感じるくらいの暴行をうける



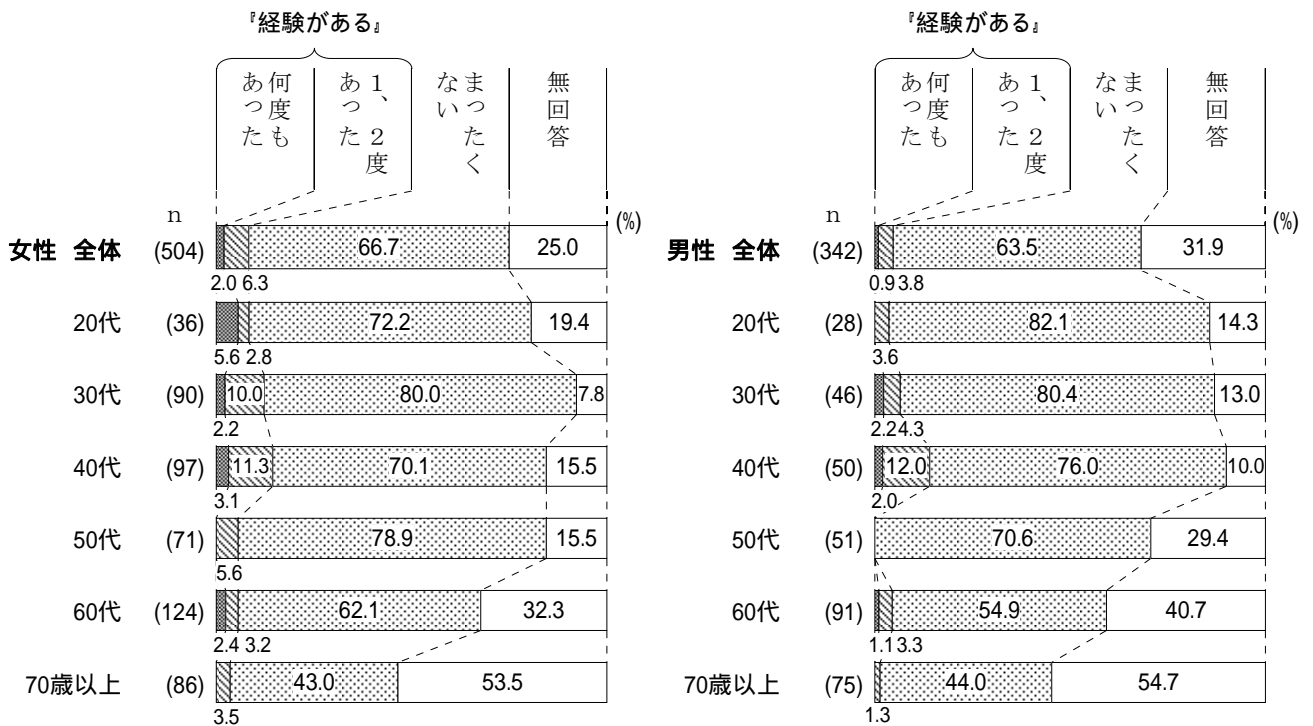
イ. 医師の治療が必要となるほどの暴行をうける



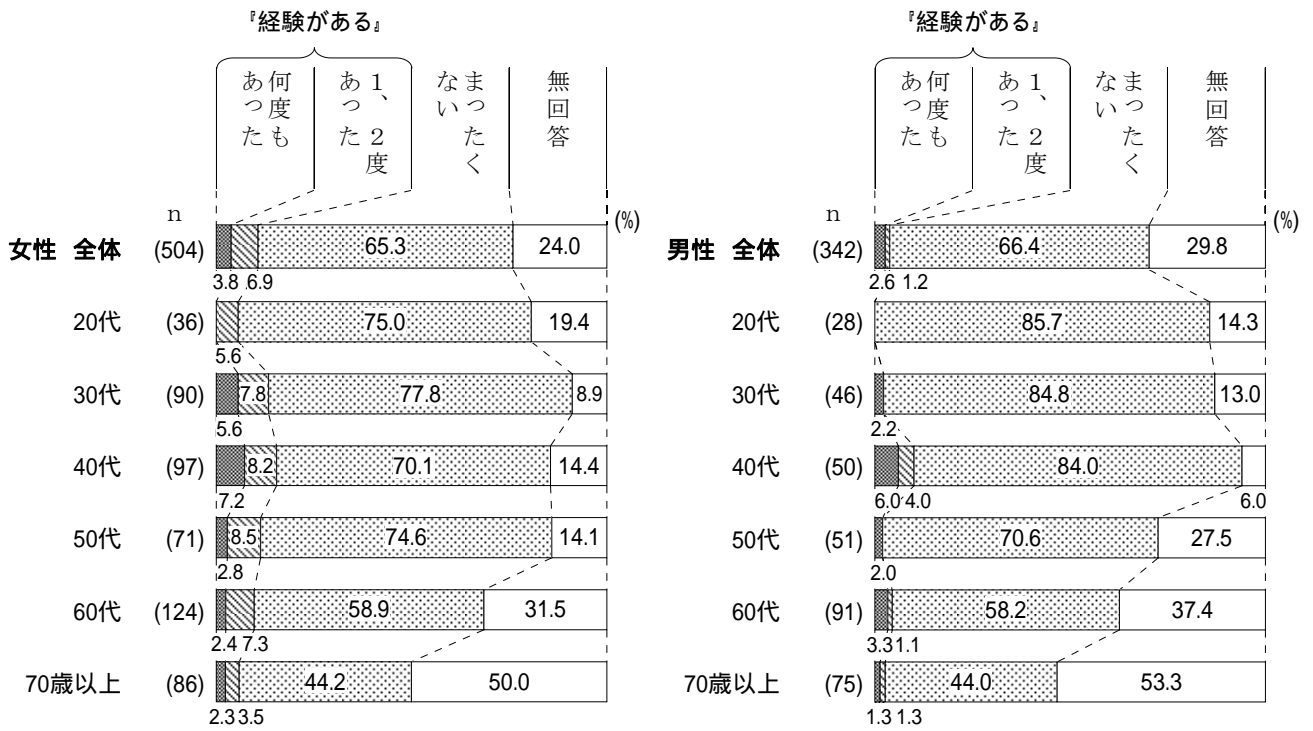
ウ. 医師の治療が必要とされない程度の暴行をうける



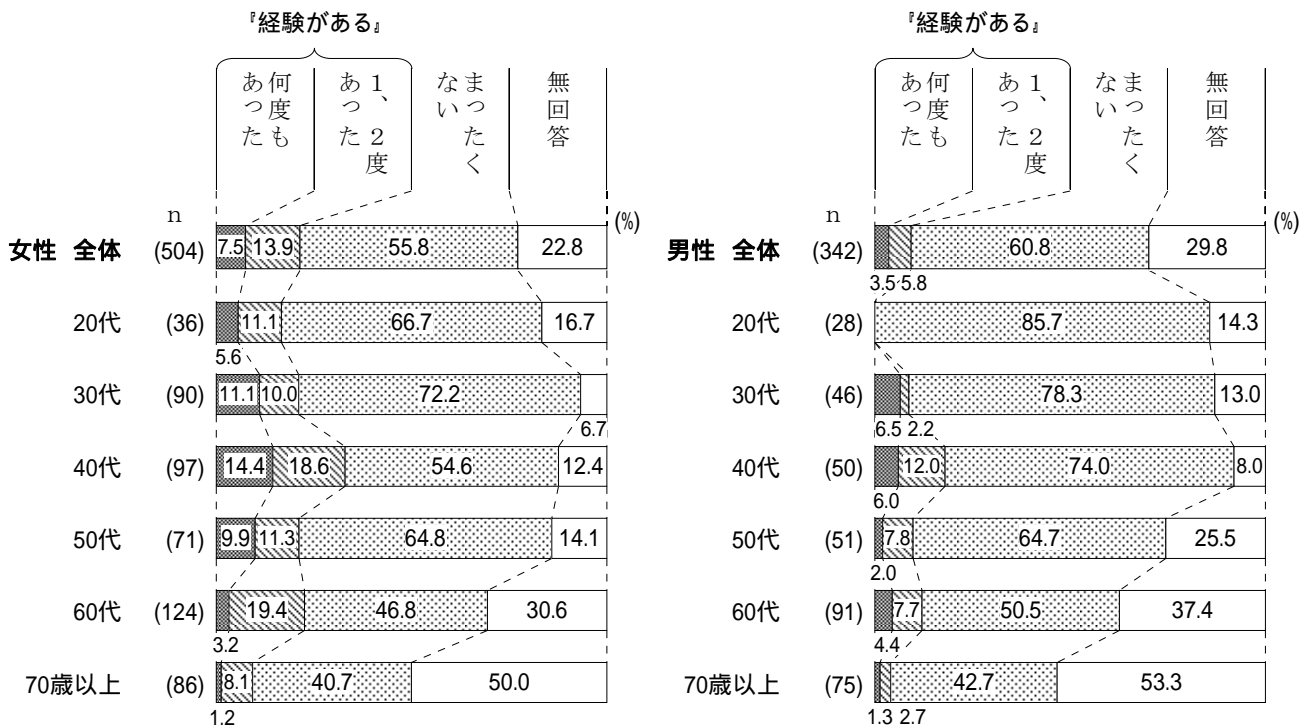
エ. 何を言っても無視され続ける



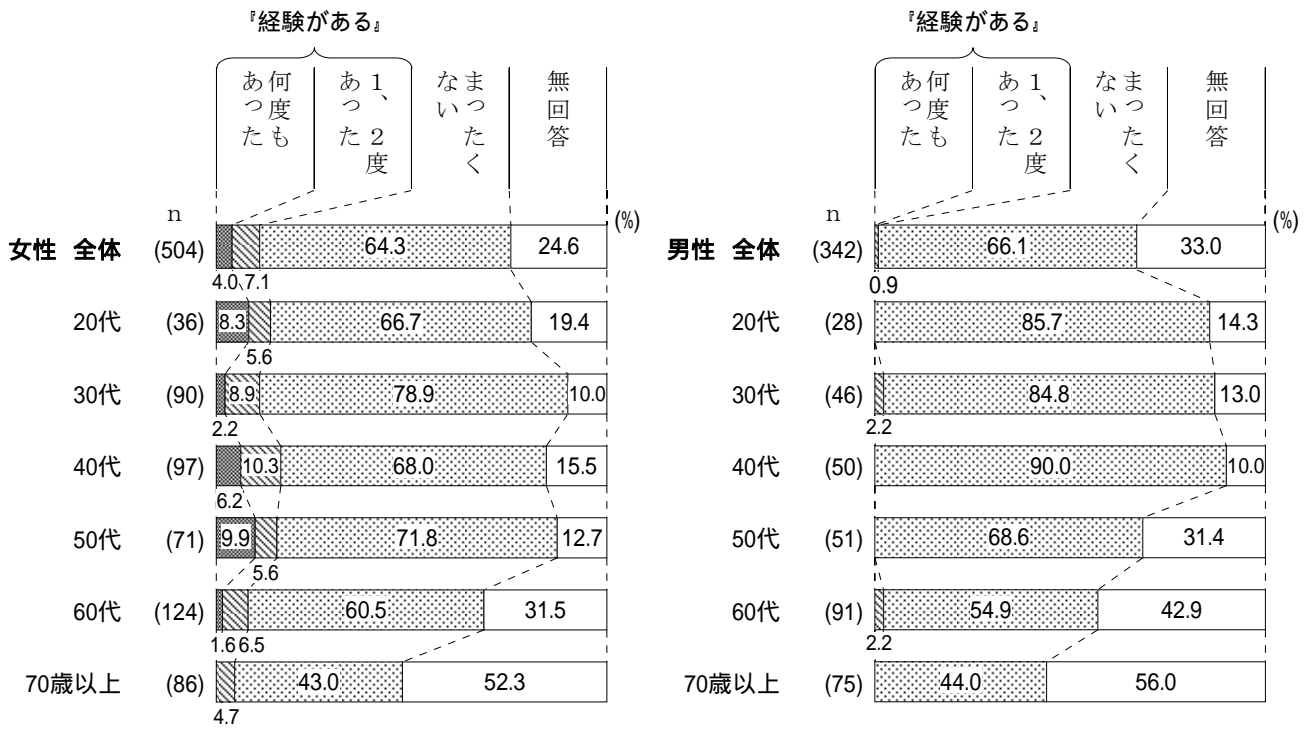
オ. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる



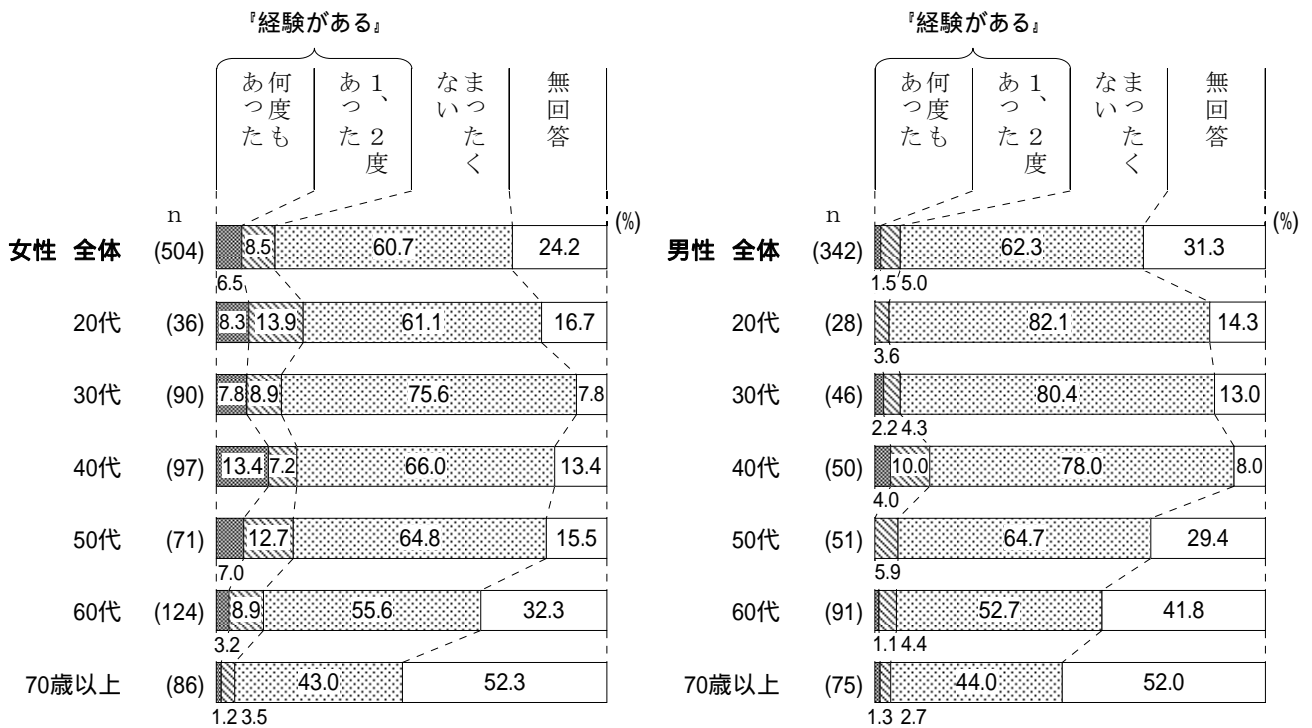
カ. 大声でどなられる



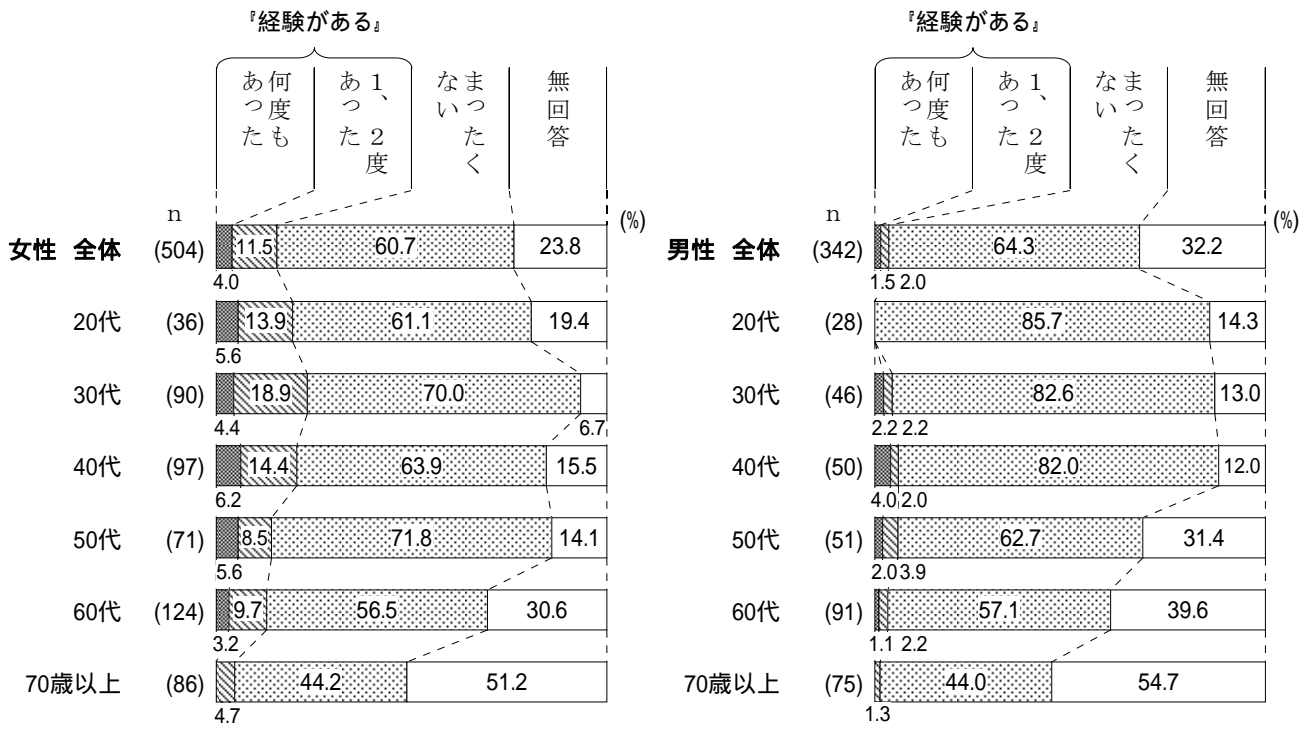
キ. 嫌がっているのに性的な行為を強要される



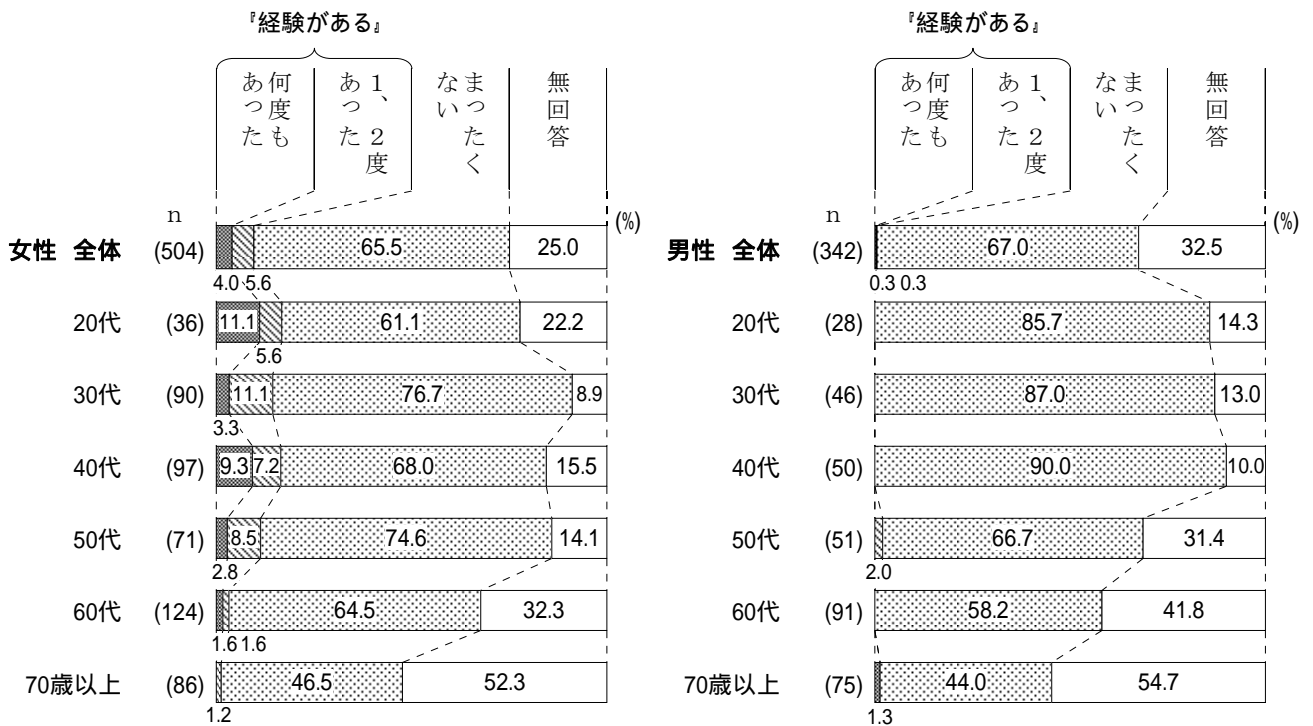
ク. 「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な表現をする



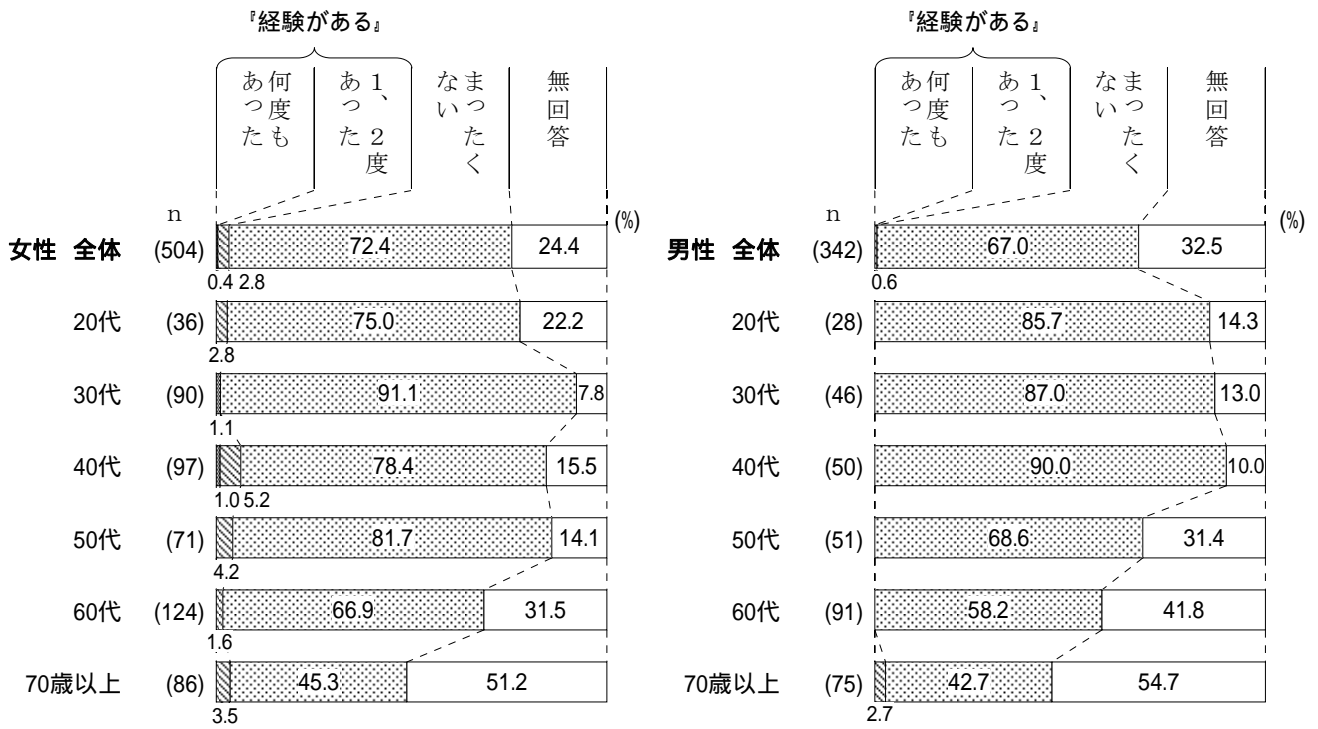
ケ. 容姿について傷つくようなことを言う



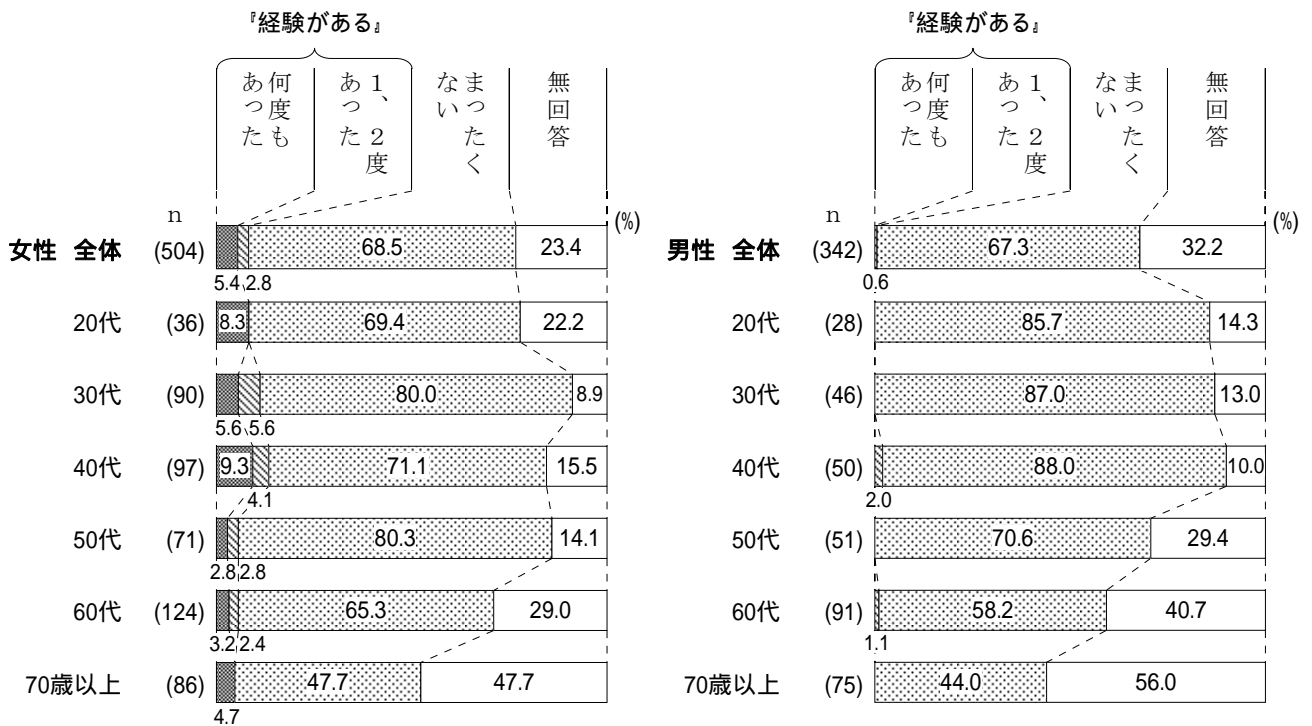
コ. 避妊に協力しない



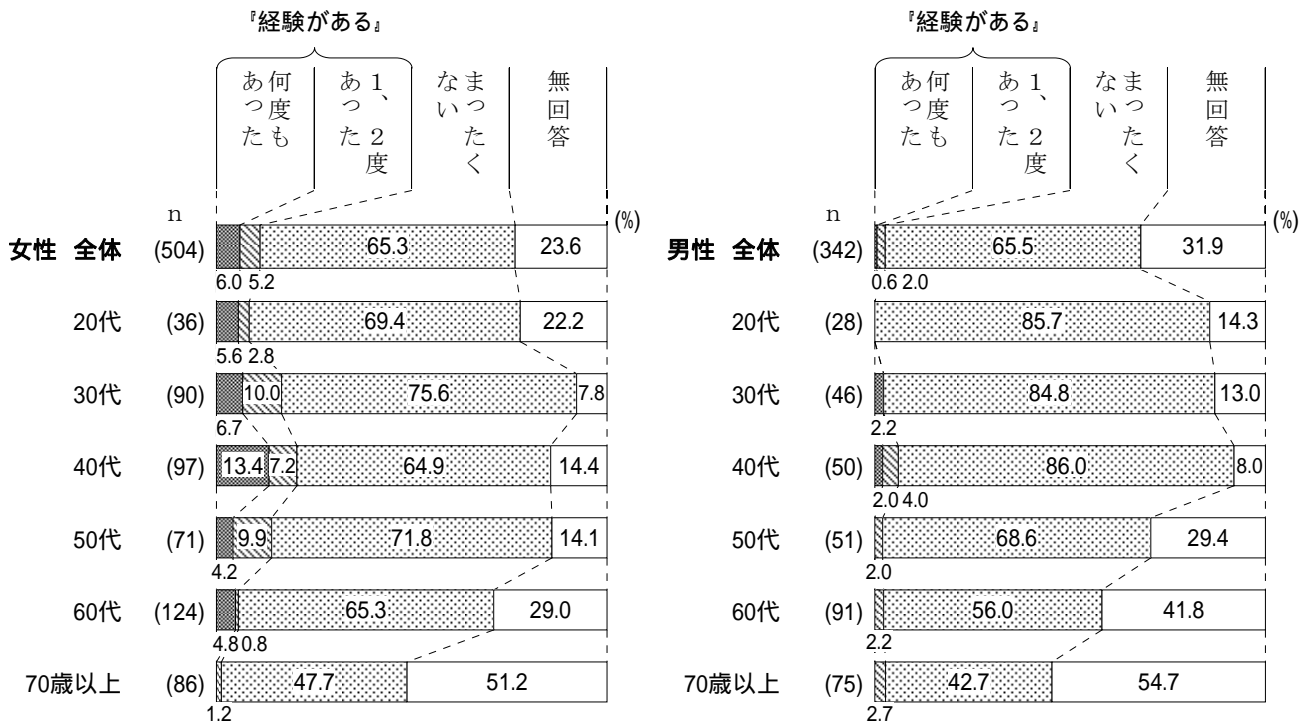
サ. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる



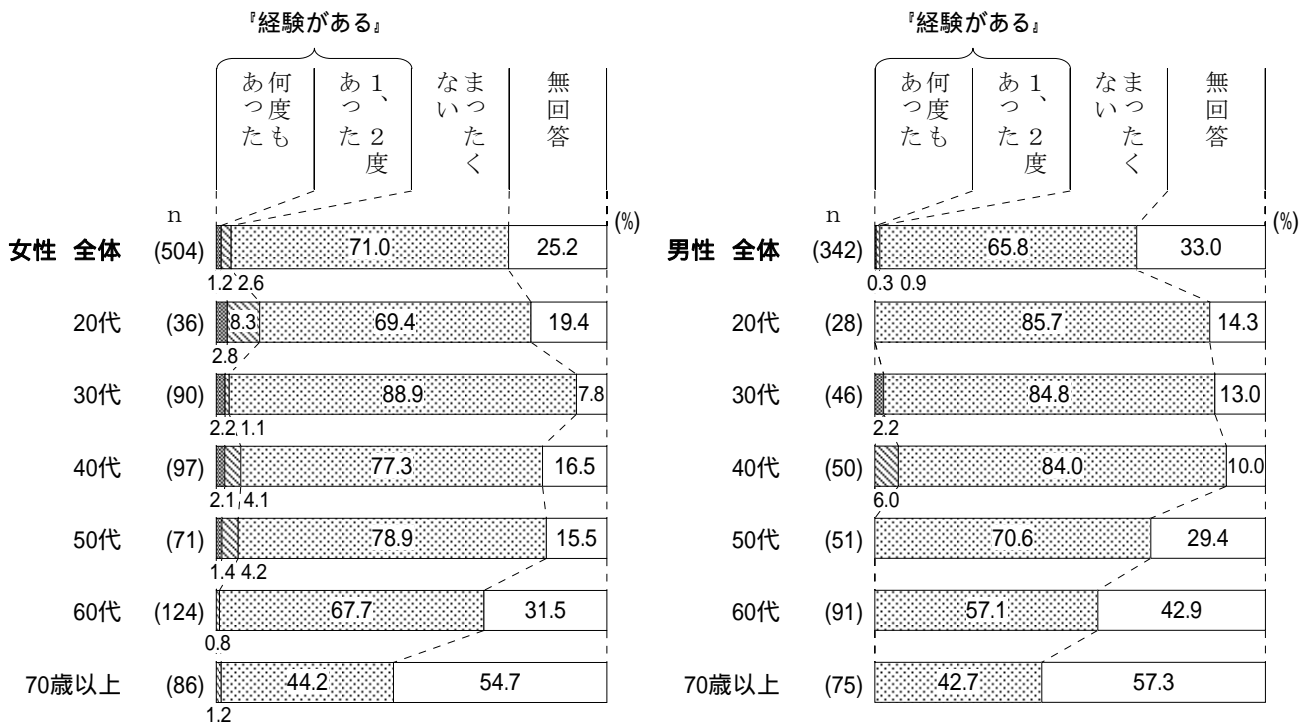
シ. 生活費を渡さない



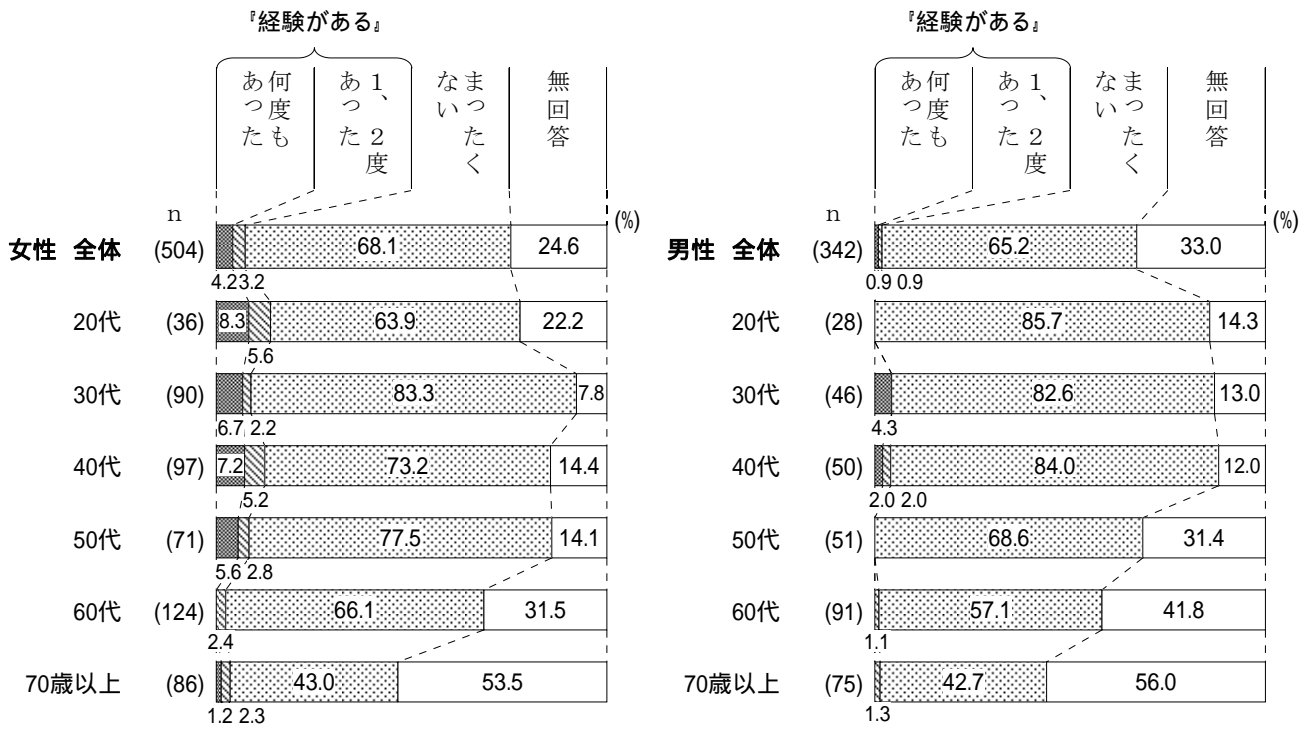
ス. 浪費や借金で苦しめられる



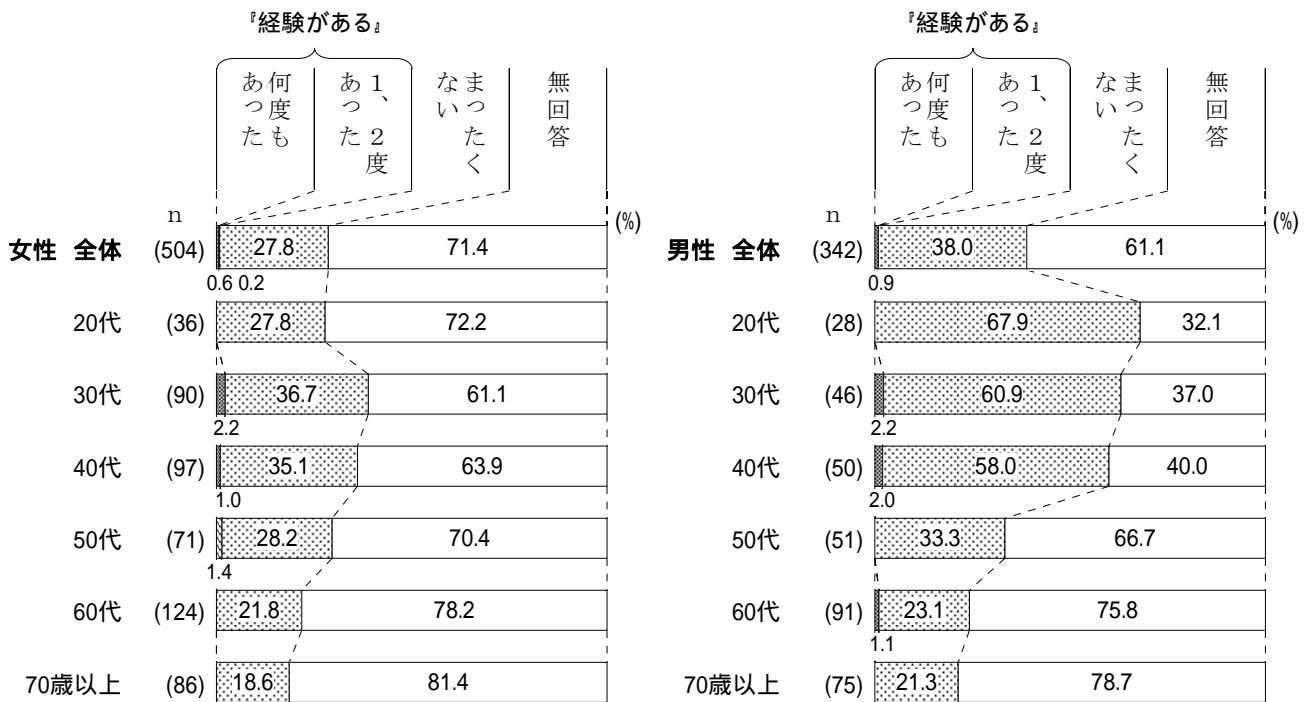
セ. 職場に嫌がらせをされる



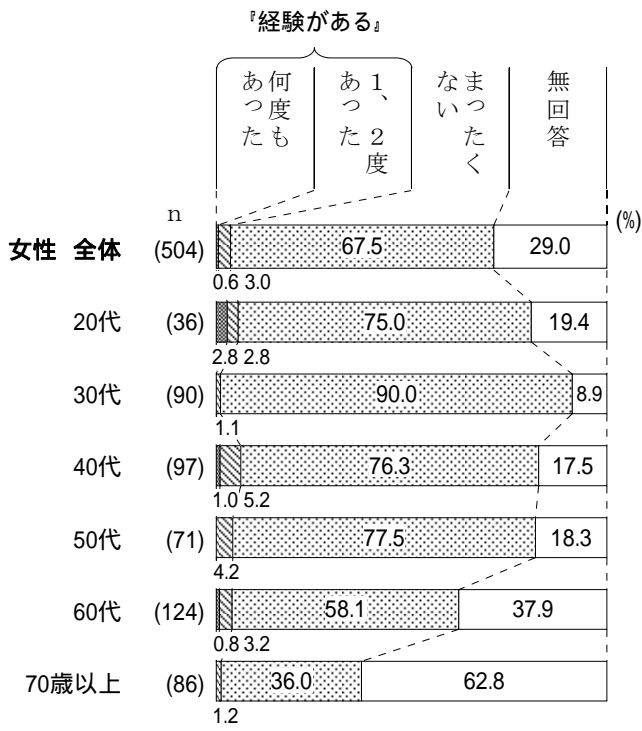
ソ. 交友関係や電話、郵便物を細かく監視される



タ. その他



チ. 妊娠中絶を強要される



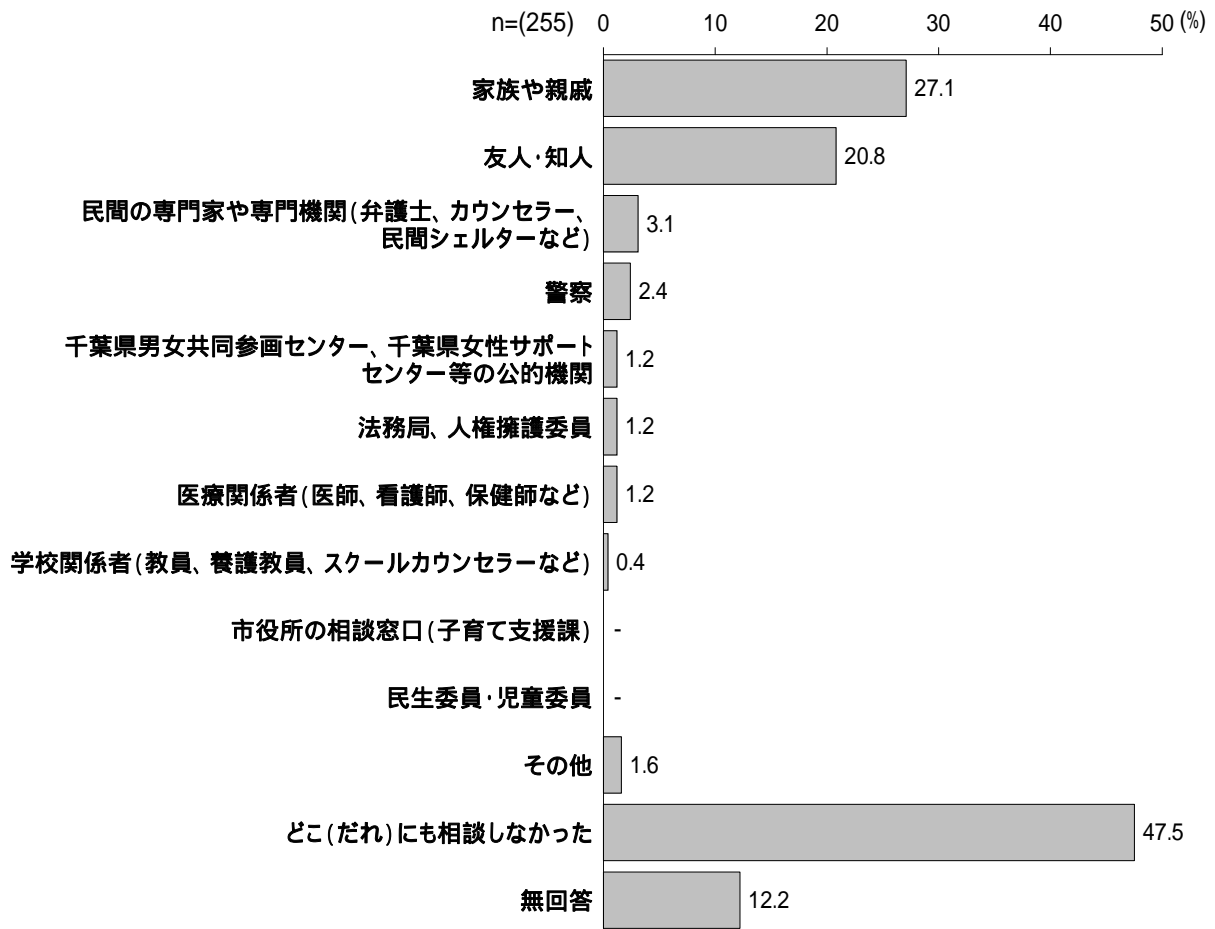
(4-1) ドメスティック・バイオレンスを受けたときの相談先

「どこ(だれ)にも相談しなかった」が約5割

[問22のア～チに1つでも○を付けた方におうかがいします]

問22-1 そのとき、だれ、もしくはどこに相談しましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

(図5-15) ドメスティック・バイオレンスを受けたときの相談先(複数回答)



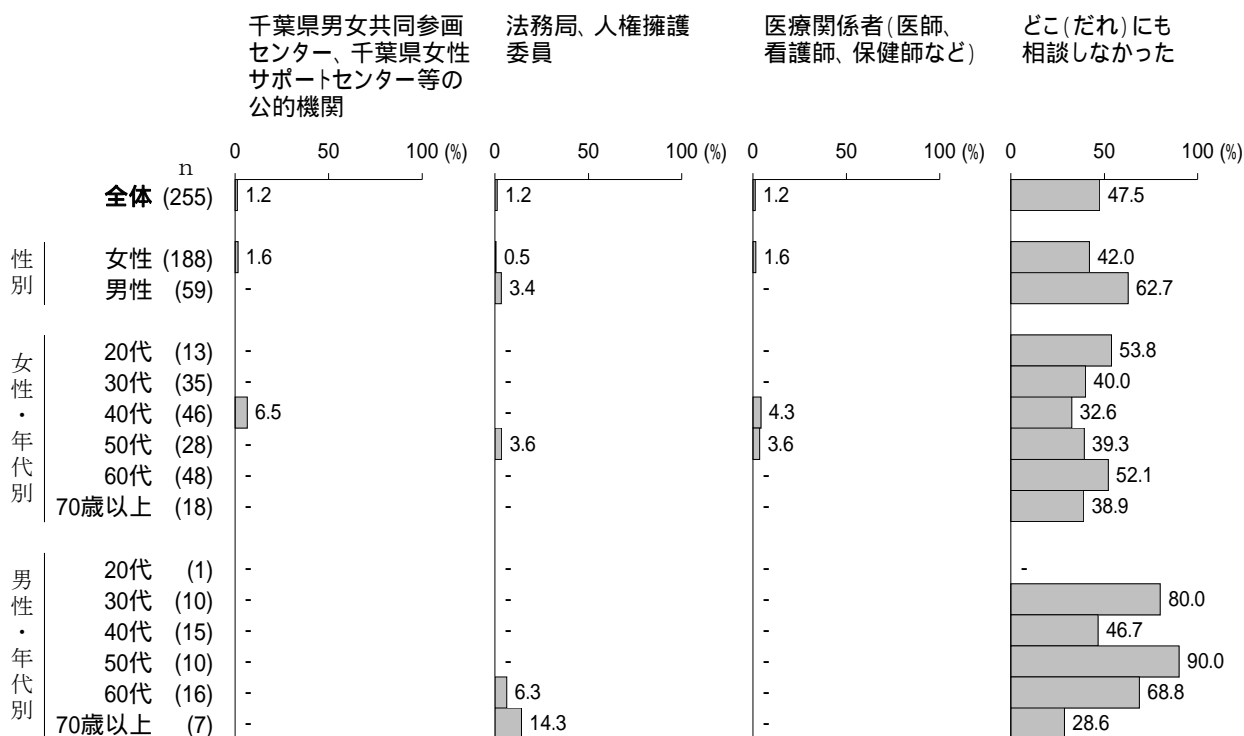
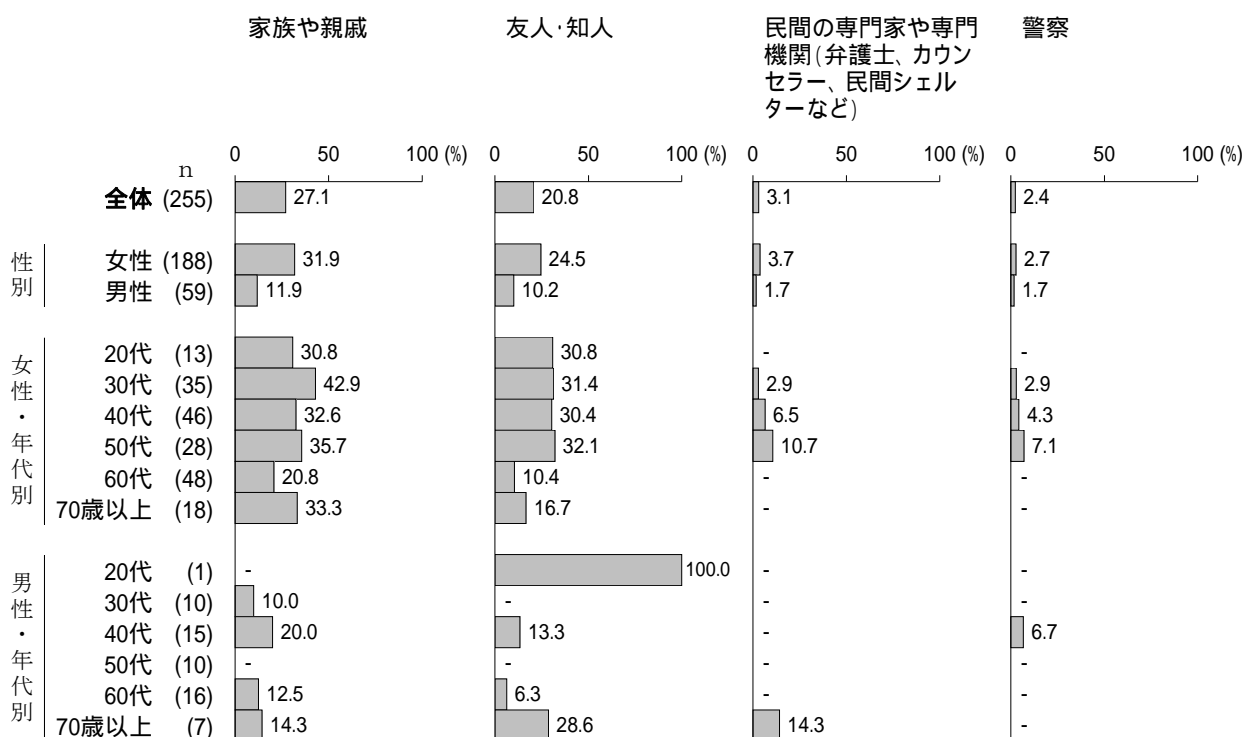
ドメスティック・バイオレンスを受けた経験のある人に、その時、誰に相談したか聞いたところ、「友人・知人」(27.1%)と「家族や親戚」(20.8%)が、とくに高くなっている。(図5-15)

【性別、性・年代別】

性別でみると、女性では「家族や親戚」が31.9%と男性(11.9%)より高くなっているほか、「友人・知人」も24.5%と、男性(10.2%)を上回っている。一方、男性では「どこ(だれ)にも相談しなかった」が62.7%と女性(42.0%)より高くなっている。

性・年代別でみると、女性の場合、20代から50代では「家族や親戚」が3割を超え、とくに30代では42.9%を占めている。また、20代から50代では「友人・知人」が3割を超えている。(図5-16)

(図5-16) ドメスティック・バイオレンスを受けたときの相談先 - 性別、性・年代別
 (上位7項目 + 「どこ(だれ)にも相談しなかった」)

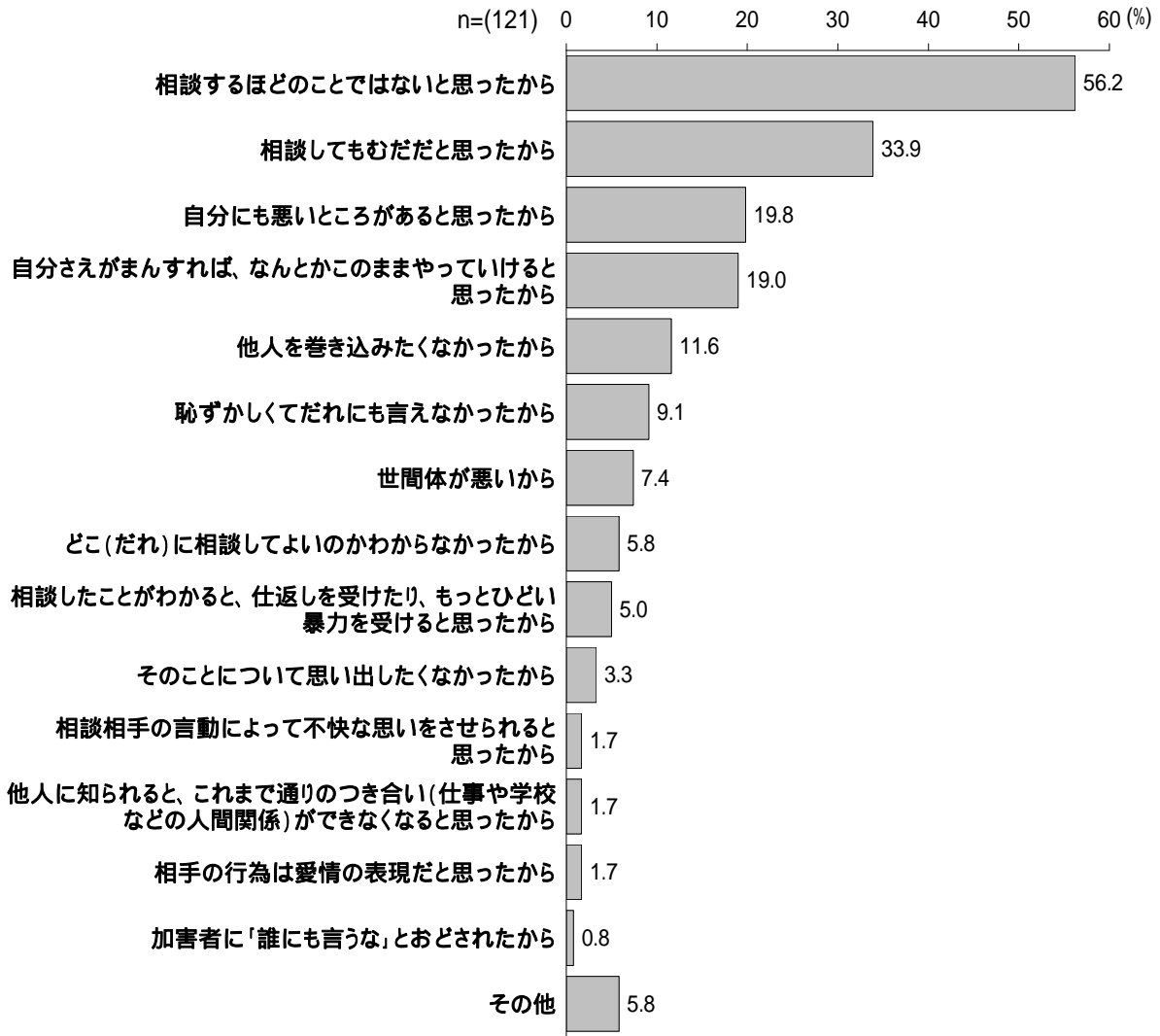


(4 - 2) ドメスティック・バイオレンスを受けたときに相談しなかった理由

「相談するほどのことではないと思ったから」が6割近い

[問22-1で「どこ(だれ)にも相談しなかった」を選んだ方におうかがいします]
 問22-2 だれ(どこ)にも相談しなかった(できなかった)理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

(図5-17) ドメスティック・バイオレンスを受けたときに相談しなかった理由(複数回答)



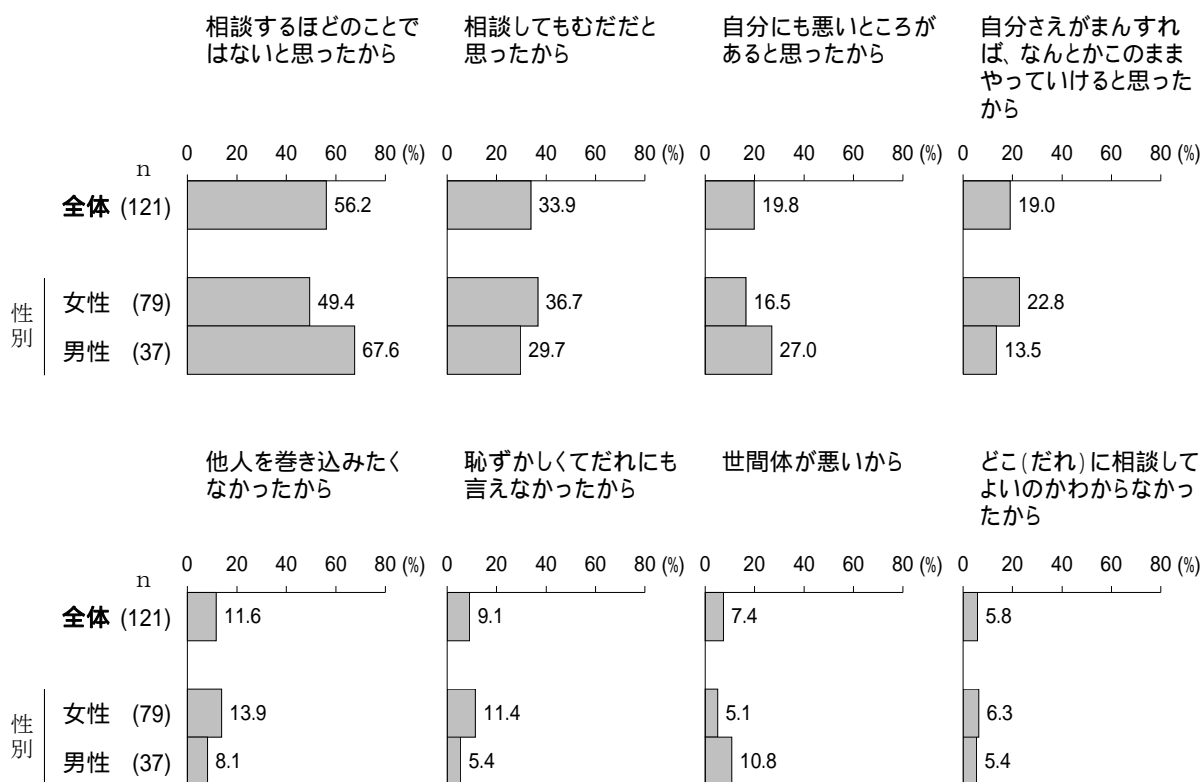
誰にも相談しなかったという人に、その理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が56.2%で最も高く、以下「相談してもむだだと思ったから」33.9%、「自分にも悪いところがあると思ったから」19.8%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」19.0%の順で続いている。(図5-17)

【性別】

性別でみると、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が67.6%と、女性(49.4%)より高くなっている。一方、女性では「相談してもむだだと思ったから」が36.7%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていたらよかったから」が22.8%と、男性より高くなっている。

(図5-18)

(図5-18) ドメスティック・バイオレンスを受けたときに相談しなかった理由 - 性別(上位8項目)

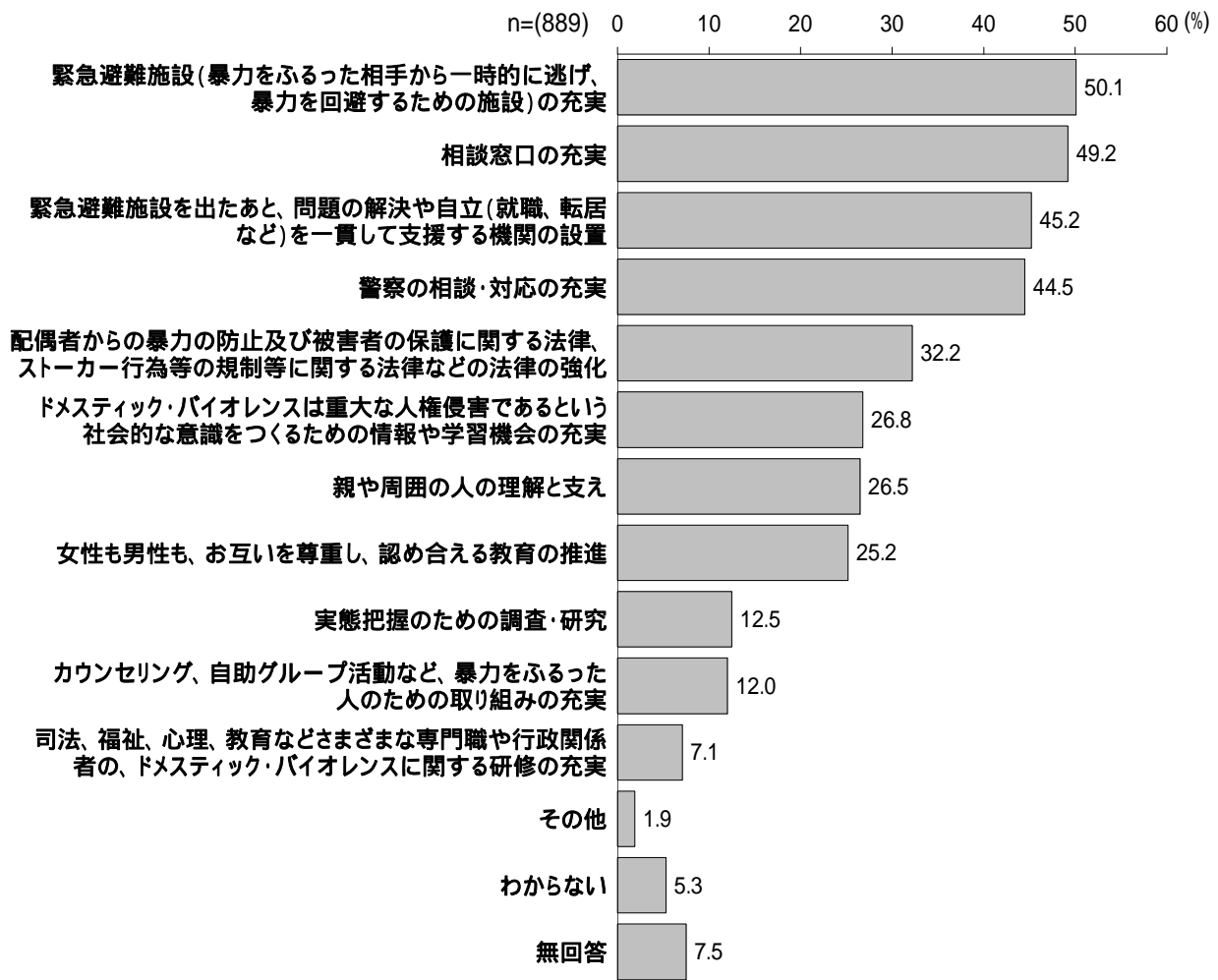


(5) ドメスティック・バイオレンスをなくすための対策

「緊急避難施設(暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設)の充実」と「相談窓口の充実」が、ともに約5割

問23 ドメスティック・バイオレンスをなくすためにはどのような対策が必要だと思いますか。また、発生した場合に、被害者の安全を確保して早期に解決するために、特にどのような対応が有効だと思いますか。次の中からあてはまるものを5つ以内で選んでください。

(図5-19) ドメスティック・バイオレンスをなくすための対策(複数回答)



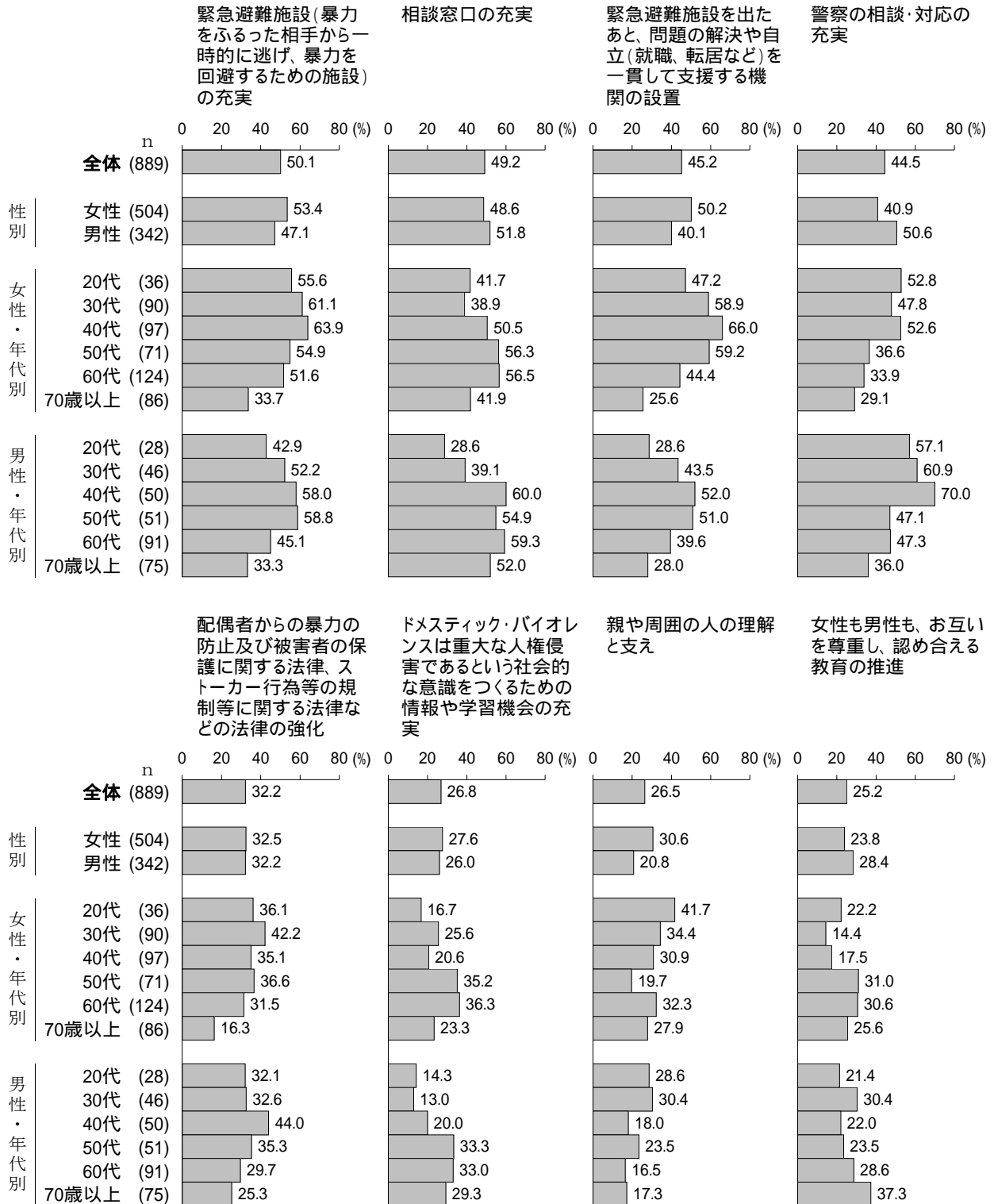
ドメスティック・バイオレンスをなくすための対策としては、「緊急避難施設(暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設)の充実」が50.1%で最も高く、以下「相談窓口の充実」(49.2%)、「緊急避難施設を出たあと、問題の解決や自立(就職、転居など)を一貫して支援する機関の設置」(45.2%)、「警察の相談・対応の充実」(44.5%)、「配偶者からの暴力の防止及び被害者保護に関する法律などの法律の強化」(32.2%)の順で続いている。(図5-19)

【性別、性・年代別】

性別で見ると、女性では、「緊急避難施設(暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設)の充実」が50.2%と、男性(40.1%)を上回っている。一方、男性では「警察の相談・対応の充実」が50.6%と、女性(40.9%)を上回っている。

性・年代別で見ると、女性の場合、30代、40代では、いずれも「緊急避難施設（暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設）の充実」が6割を超えて高くなっている。また、30代から50代では、「緊急避難施設を出たあと、問題の解決や自立（就職、転居など）を一貫して支援する機関の設置」が5割を超え、とくに40代では66.0%を占めている。男性の場合、40代以上では「相談窓口の充実」が5割を超えている。また、40代、50代では「緊急避難施設を出たあと、問題の解決や自立（就職、転居など）を一貫して支援する機関の設置」も5割を超えている。30代、40代では「警察の相談・対応の充実」が、それぞれ60.9%、70.0%と、他の年代に比べて高くなっている。（図5-20）

（図5-20）ドメスティック・バイオレンスをなくすための対策 - 性別、性・年代別（上位8項目）



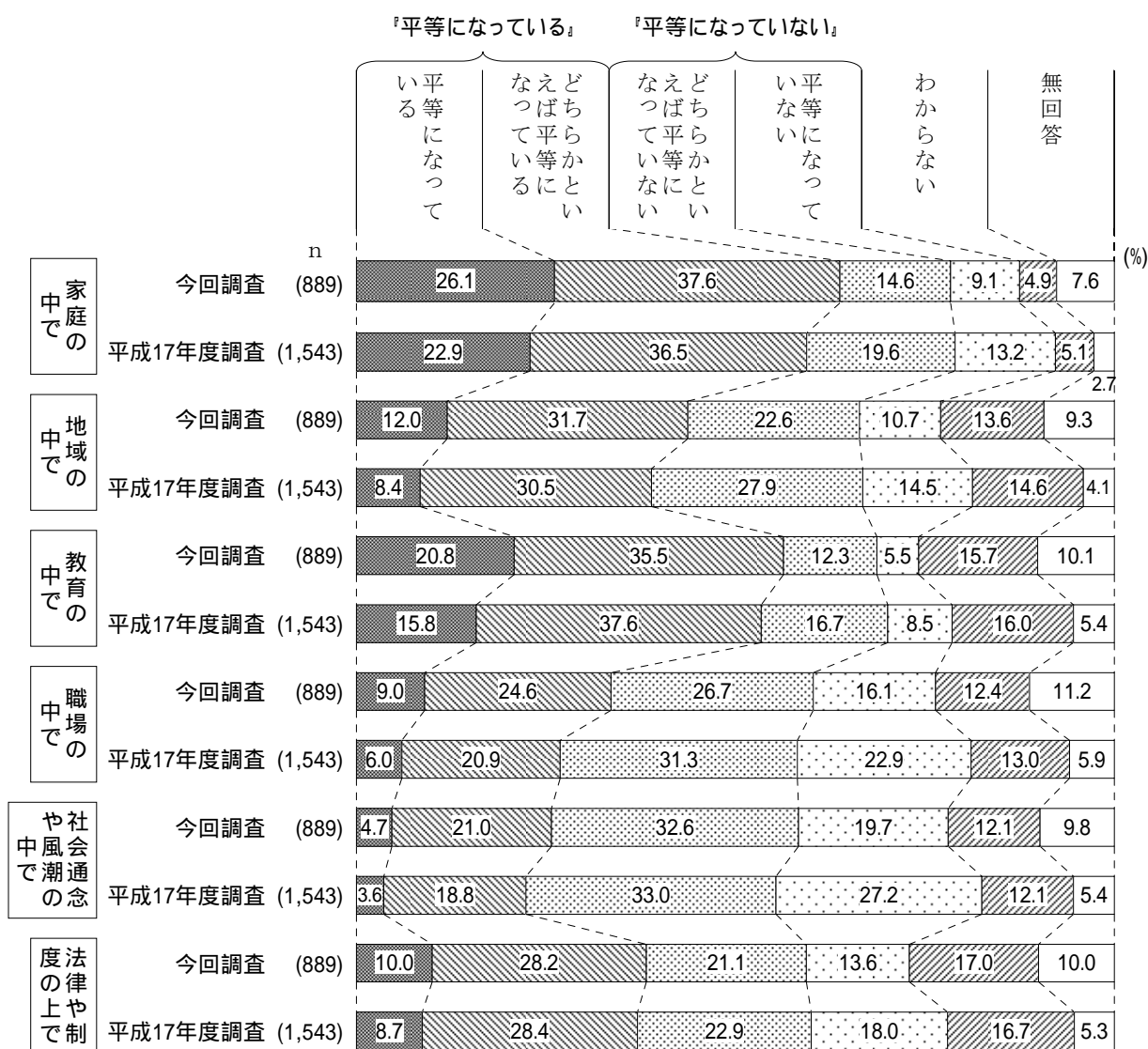
6 . 社会全般について

(1) 各分野における男女の地位の平等感

家庭の中で 教育の中で は『平等になっている』が、社会通念や風潮の中で 職場の中で は『平等になっていない』が高くなっている

問24 あなたは、現在、次のア～カのような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選んでください。

(図6-1) 各分野における男女の地位の平等感 (経年比較)



男女の平等観を6の分野に分けて質問した。『平等になっている』（「平等になっている」と「どちらかといえば平等になっている」の合計）の多い順でみると、〈教育の中で〉、〈家庭の中で〉が高くなっている。一方、〈社会通念や風潮の中で〉〈職場の中で〉については、『平等になっていない』（「平等になっていない」と「どちらかといえば平等になっていない」の合計）が高くなる傾向がある。

平成17年度の調査と比較すると、ほとんどの項目で『平等になっている』が増加しており、〈職場の中で〉は6.7ポイント、〈家庭の中で〉は4.3ポイント、〈社会通念や風潮の中で〉は3.3ポイント、〈教育の中で〉は2.9ポイント増加している。(図6-1)

【性別、性・年代別】

性別で見ると、ほとんどの分野で、男性は女性より『平等になっている』が高くなっている。
性・年代別に、各分野をみた。

〈家庭の中で〉については、男性では、30代以上では『平等になっている』が6割を超え、とくに60代、70歳以上では7割強となっており、各年代にわたって女性との間に意識の差がみられる。

〈地域の中で〉については、50代以上の男性で『平等になっている』が5割を超えている。

〈教育の中で〉については、女性では50代で『平等になっている』が66.2%を占めているほか、20代から40代でも5割を超えている。男性も各年代にわたって『平等になっている』が高く、50代では74.5%となっている。

〈職場の中で〉については、女性では、30代、40代で『平等になっていない』が6割近くを占め、他の年代より高くなっている。一方、男性では、50代、60代で『平等になっている』が5割前後と高くなっている。

〈社会通念や風潮の中で〉については、女性では、30代で『平等になっていない』が73.3%となっているほか、40代、50代でも6割前後となっている。男性でも、50代では『平等になっていない』が62.7%と他の年代に比べて高くなっている。

〈法律や制度の上で〉については、女性では、30代、40代で『平等になっていない』が5割を超えて、他の年代より高くなっている。一方、男性の50代以上では『平等になっている』が5割を超えている。(図6-2)

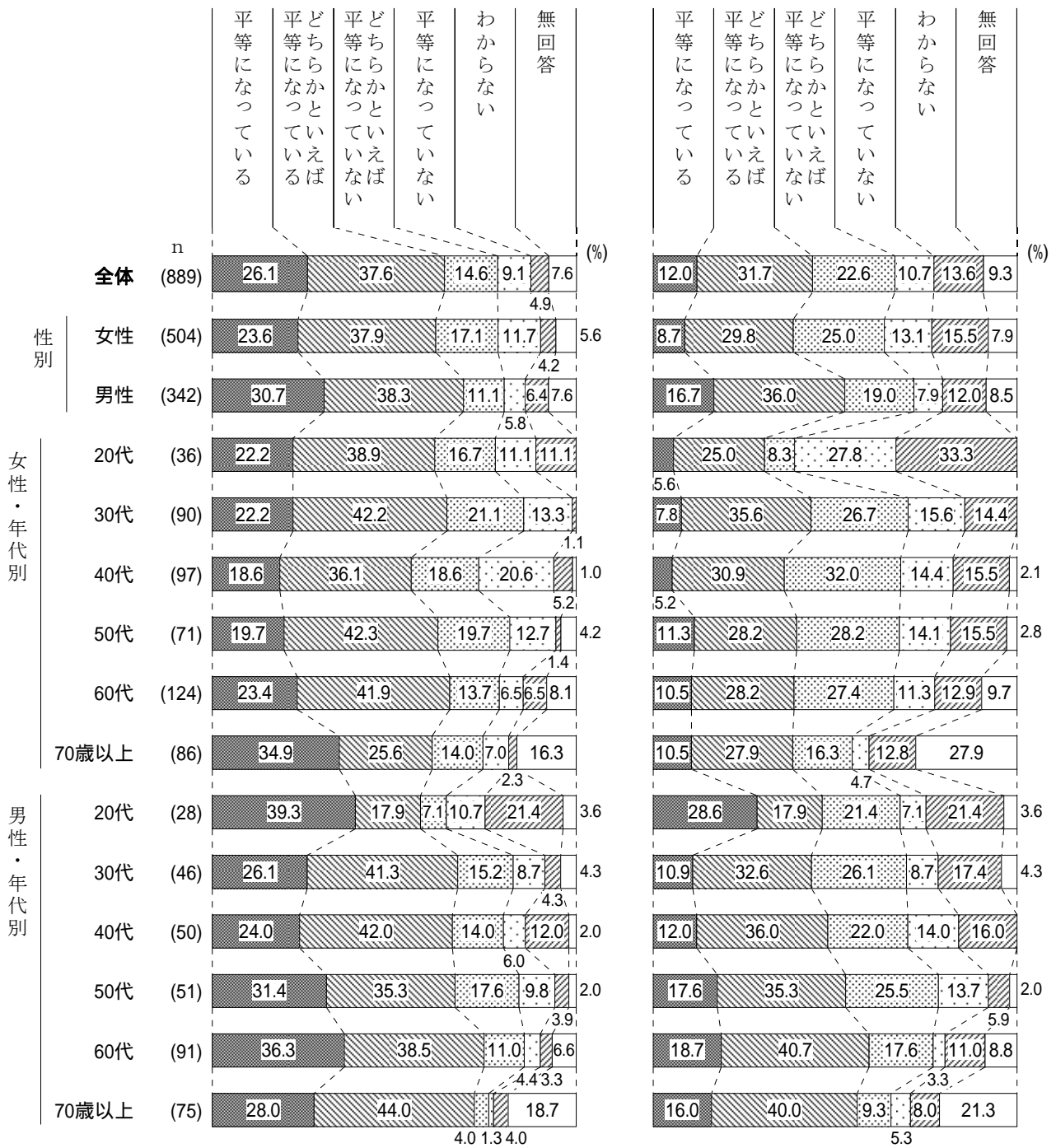
【 参考：性別・経年比較】

平成17年度調査と比較すると、多くの項目で『平等になっている』が増加し、『平等になっていない』が減少している。とくに〈職場の中で〉は女性が6.1ポイント、男性が9.4ポイント増加している。また、〈家庭の中で〉については、『平等になっている』が女性で10.2ポイント増加している。

(図6-2) 各分野における男女の地位の平等感 - 性別、性・年代別

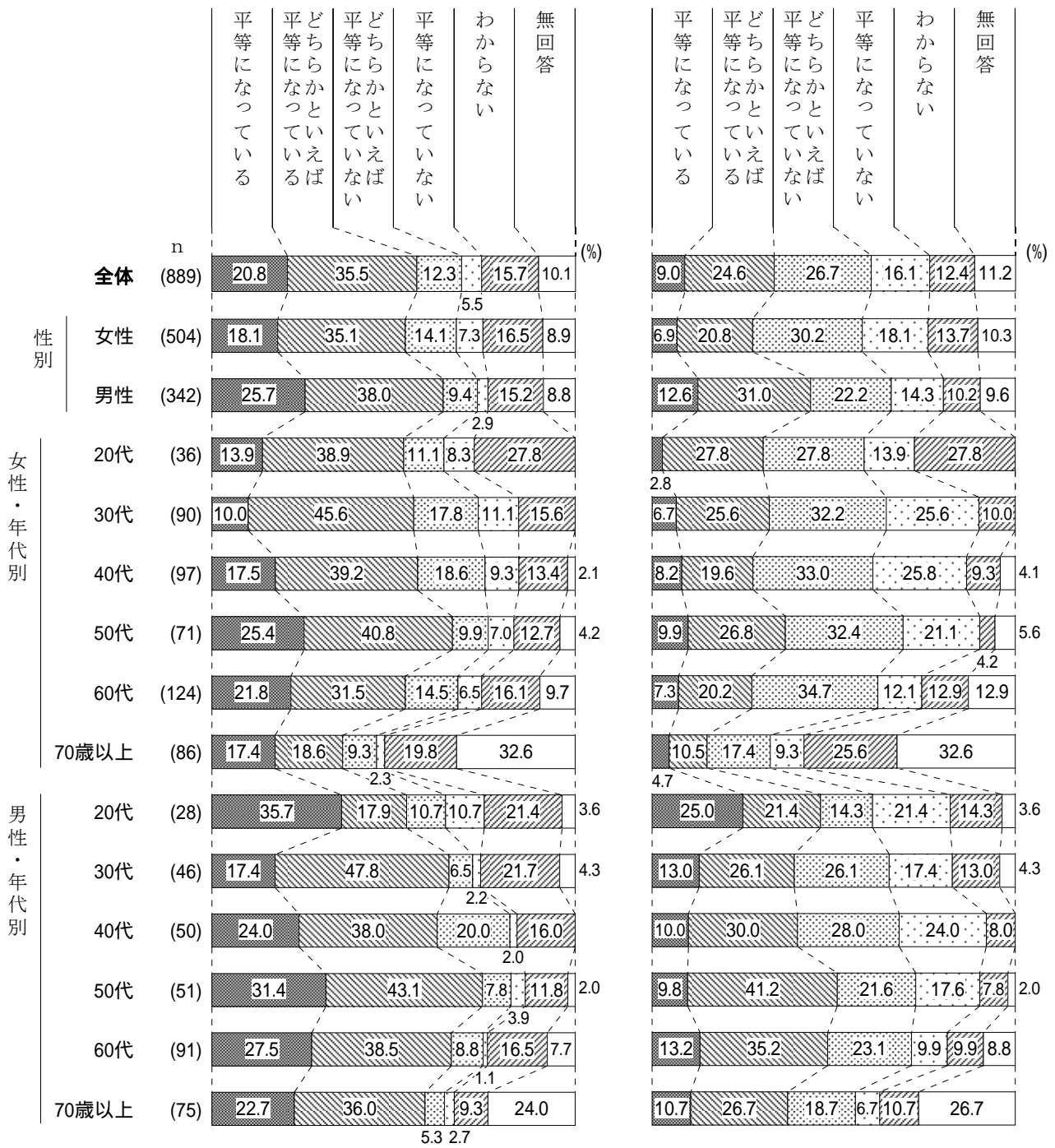
ア. 家庭の中で

イ. 地域の中で



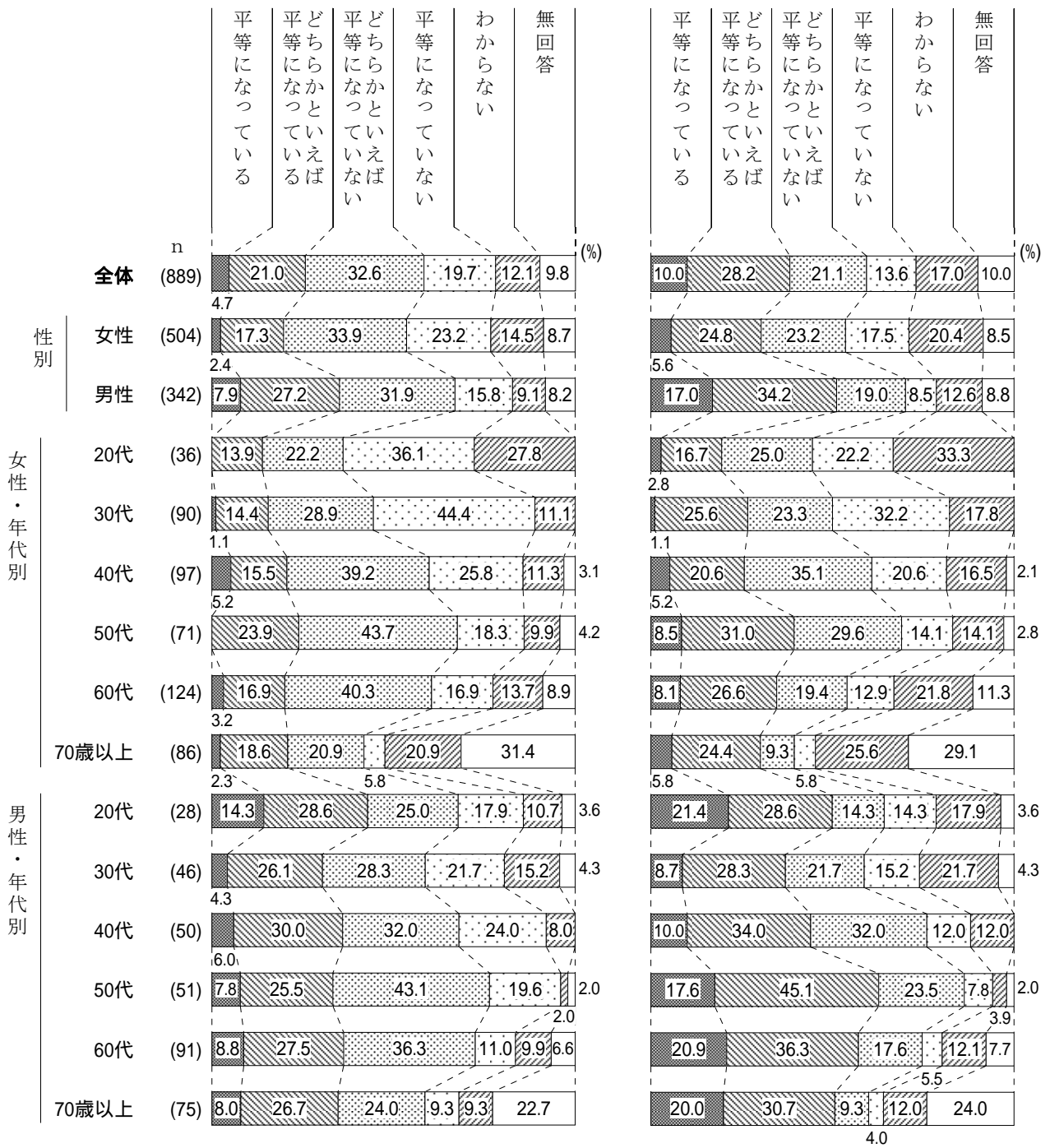
ウ. 教育の中で

エ. 職場の中で



オ. 社会通念や風潮の中で

カ. 法律や制度の上で

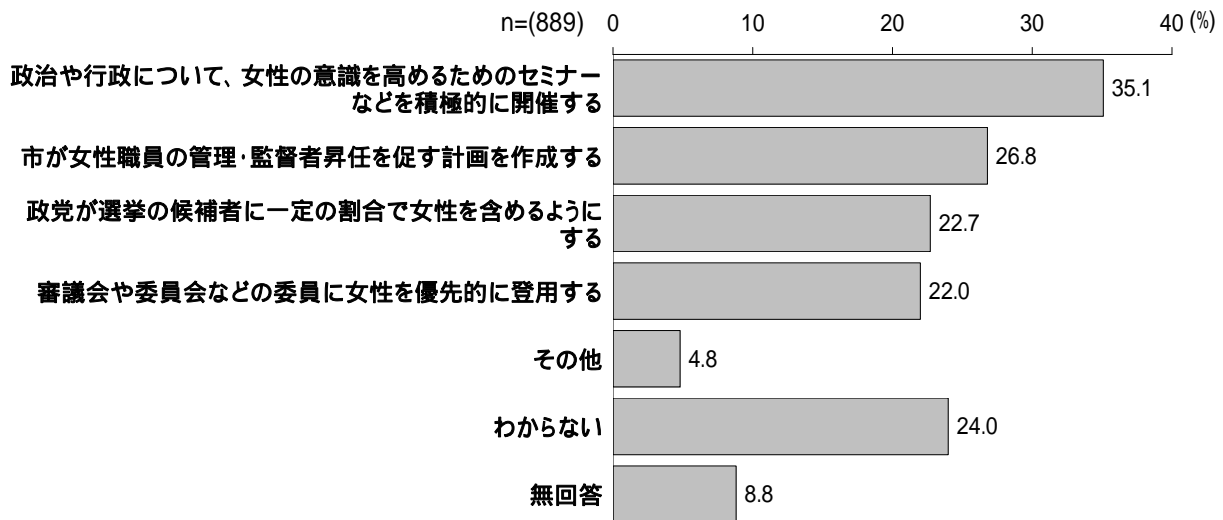


(2) 政策決定過程への女性の参画を進めるのに必要なこと

「政治や行政について、女性の意識を高めるためのセミナーなどを積極的に開催する」が3割台半ばで最多

問25 政治や行政において企画や方針決定の過程で女性の参画を進めていくためには、どうしたらよいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

(図6-3) 政策決定過程への女性の参画を進めるのに必要なこと(複数回答)



政策決定過程への女性の参画を進めるのに必要なこととしては、「政治や行政について、女性の意識を高めるためのセミナーなどを積極的に開催する」が35.1%で最も高く、次いで「市が女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する」26.8%、「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする」22.7%、「審議会や委員会などの委員に女性を優先的に登用する」22.0%の順となっている。(図6-3)

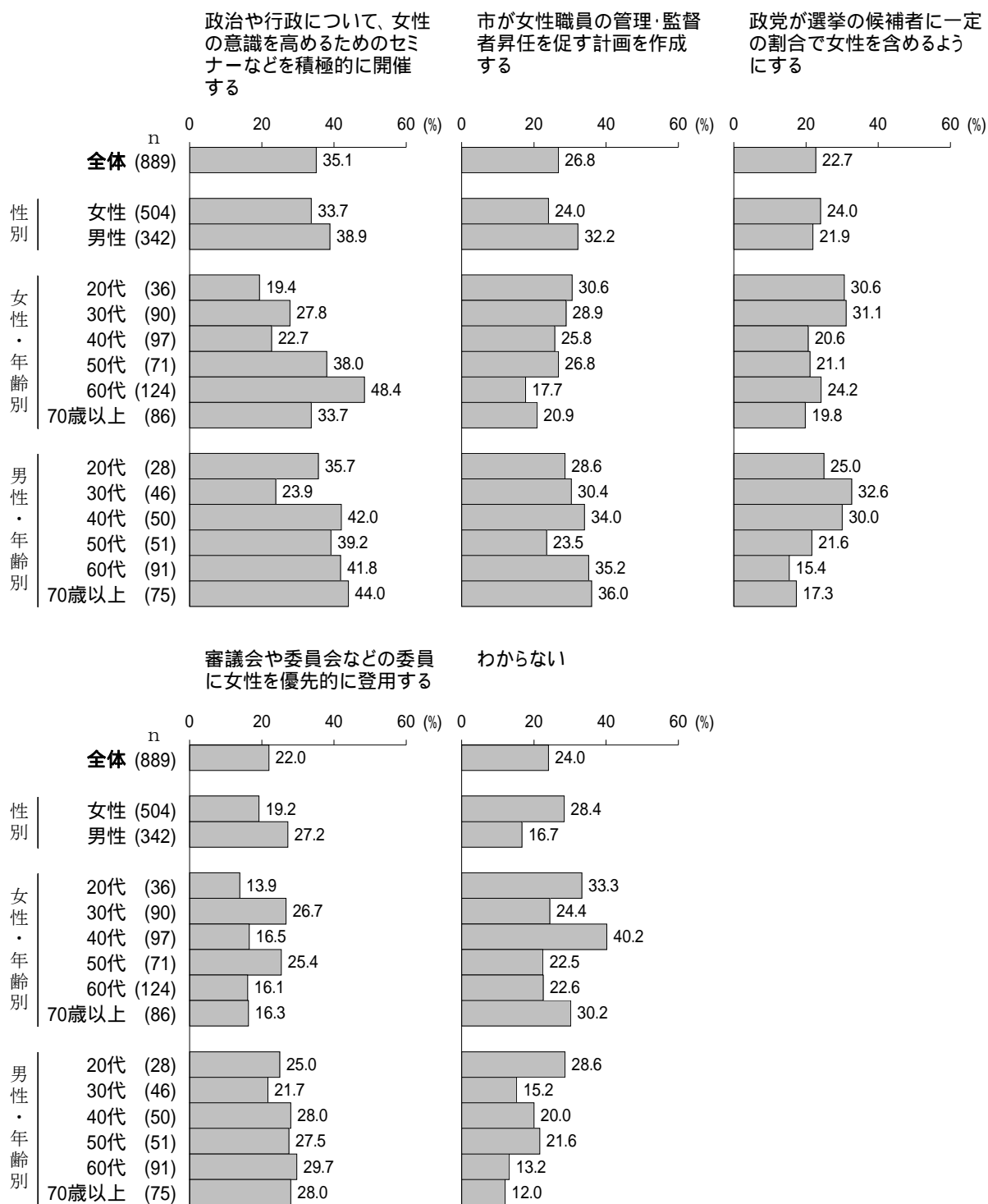
【性別、性・年代別】

性別で見ると、男性では「政治や行政について、女性の意識を高めるためのセミナーなどを積極的に開催する」「市が女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する」「審議会や委員会などの委員に女性を優先的に登用する」の3項目で、女性より高くなっている。

性・年代別で見ると、女性の場合、50代から70歳以上で「政治や行政について、女性の意識を高めるためのセミナーなどを積極的に開催する」が3割を超え、とくに60代では48.4%となっている。20代、30代では「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする」が3割を超え、他の年代より高くなっている。男性の場合、40代以上では、「政治や行政について、女性の意識を高めるためのセミナーなどを積極的に開催する」が約4割を超えている。30代、40代では「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする」が3割を超え、他の年代より高くなっている。

(図6-4)

(図6-4) 政策決定過程への女性の参画を進めるのに必要なこと - 性別、性・年代別

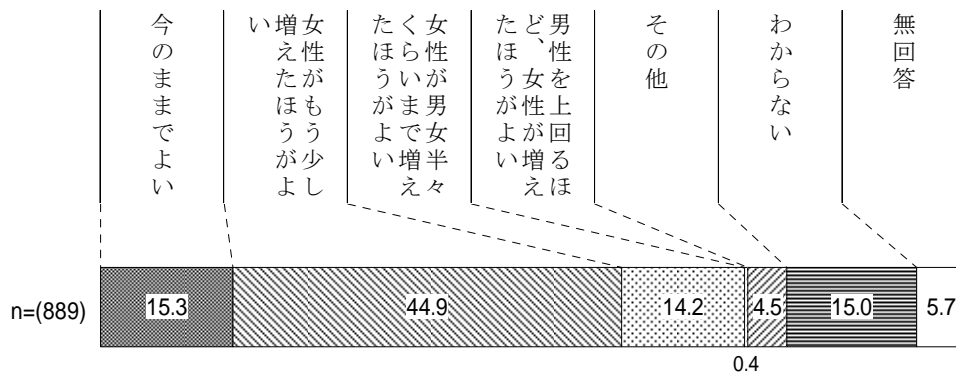


(3) 市議会議員、審議会等の委員の女性比率についての意識

「女性がもう少し増えたほうがよい」が4割台半ばで最多

問26 袖ヶ浦市では、市議会議員の中に占める女性議員の数は24人中4人（16.7%）、審議会等の女性委員は791人中219人（27.7%）となっています。（平成24年3月31日現在）あなたは、この状況をどのように思いますか。考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

(図6-5) 市議会議員、審議会等の委員の女性比率についての意識



市議会議員、審議会等の委員の女性比率についての意識をみると、「女性がもう少し増えたほうがよい」が44.9%で最も高く、次いで「今のままでよい」15.3%、「女性が男女半々くらいまで増えたほうがよい」14.2%の順となっている。（図6-5）

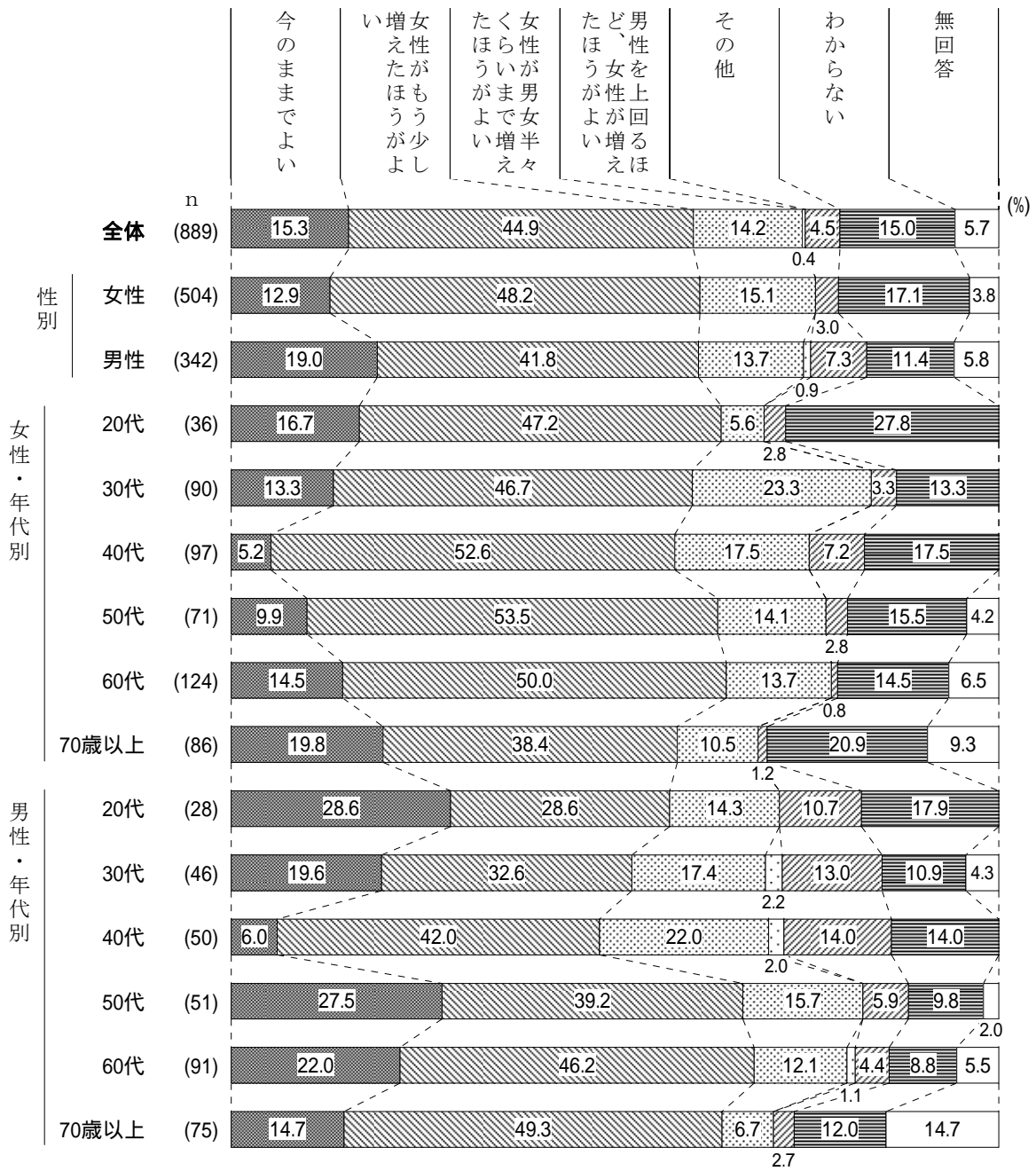
【性別、性・年代別】

性別でみると、女性では「女性がもう少し増えたほうがよい」が48.2%と、男性（41.8%）より高くなっている。

性・年代別でみると、女性の場合、40代から60代で「女性がもう少し増えたほうがよい」が5割を超え、他の年代よりやや高くなっている。一方、30代では「女性が男女半々くらいまで増えたほうがよい」が23.3%と、他の年代よりやや高くなっている。男性の場合、60代、70代で「女性がもう少し増えたほうがよい」が、それぞれ46.2%、49.3%と高くなっている。一方、40代では、「女性が男女半々くらいまで増えたほうがよい」が22.0%と、他の年代よりやや高くなっている。

(図6-6)

(図6-6) 市議会議員、審議会等の委員の女性比率についての意識 - 性別、性・年代別

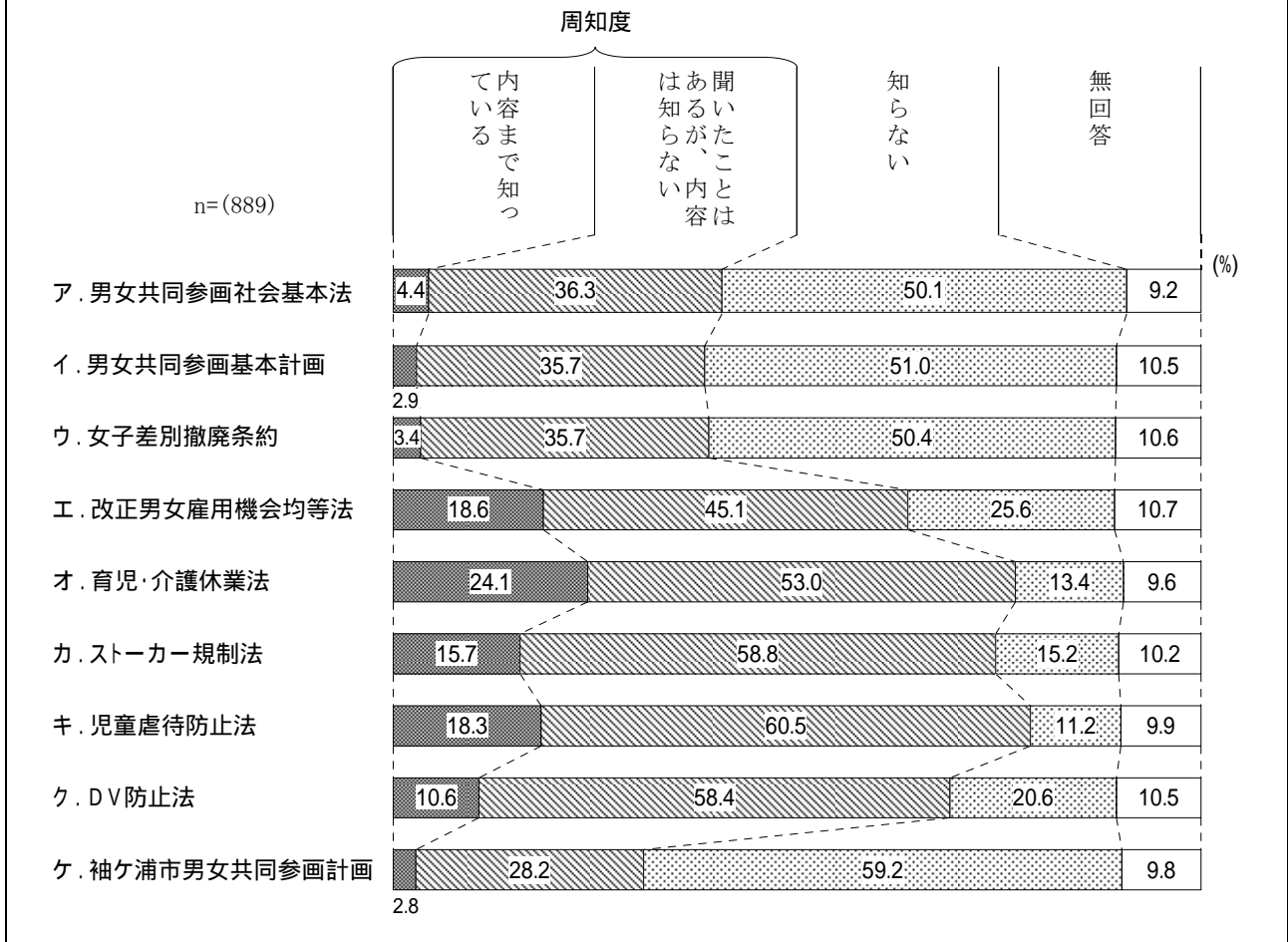


(4) 男女共同参画に関する法律等の周知状況

児童虐待防止法 育児・介護休業法 の周知度が約8割

問27 現在、男女共同参画社会の実現に向けて、法律や制度の整備が進んでいます。あなたは次のア～ケのような法律のことを知っていますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。

(図6-7) 男女共同参画に関する法律等の周知状況



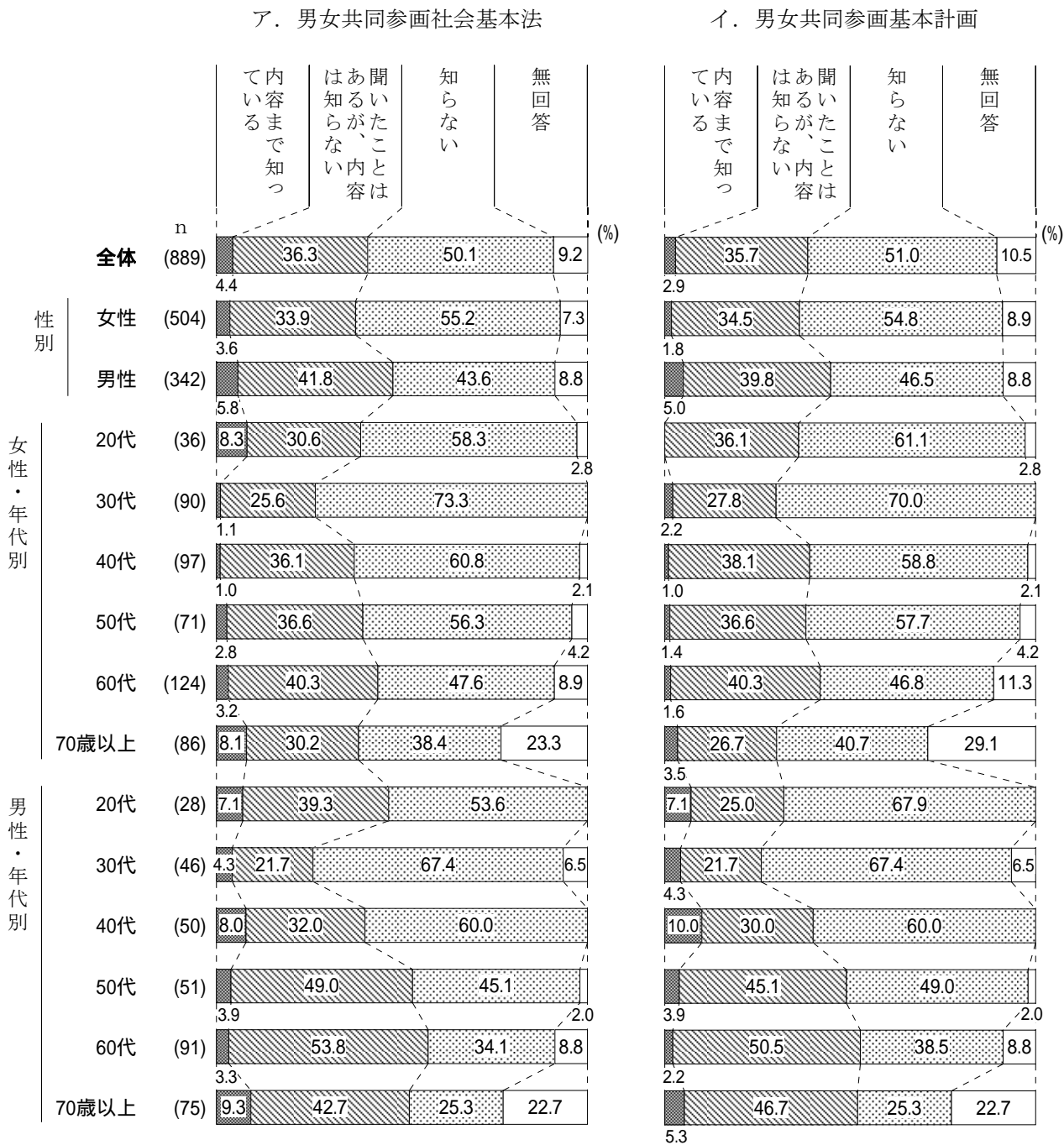
男女共同参画に関する法律等の周知度（「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計）の高い順にみると、〈児童虐待防止法〉が78.8%で最も高く、以下〈育児・介護休業法〉77.1%、〈ストーカー規制法〉74.5%、〈DV防止法〉69.0%、〈改正男女雇用機会均等法〉63.7%の順となっている。（図6-7）

【性別、性・年代別】

性別で見ると、〈男女共同参画社会基本法〉〈男女共同参画基本計画〉の周知度は、女性より男性が高くなっている。

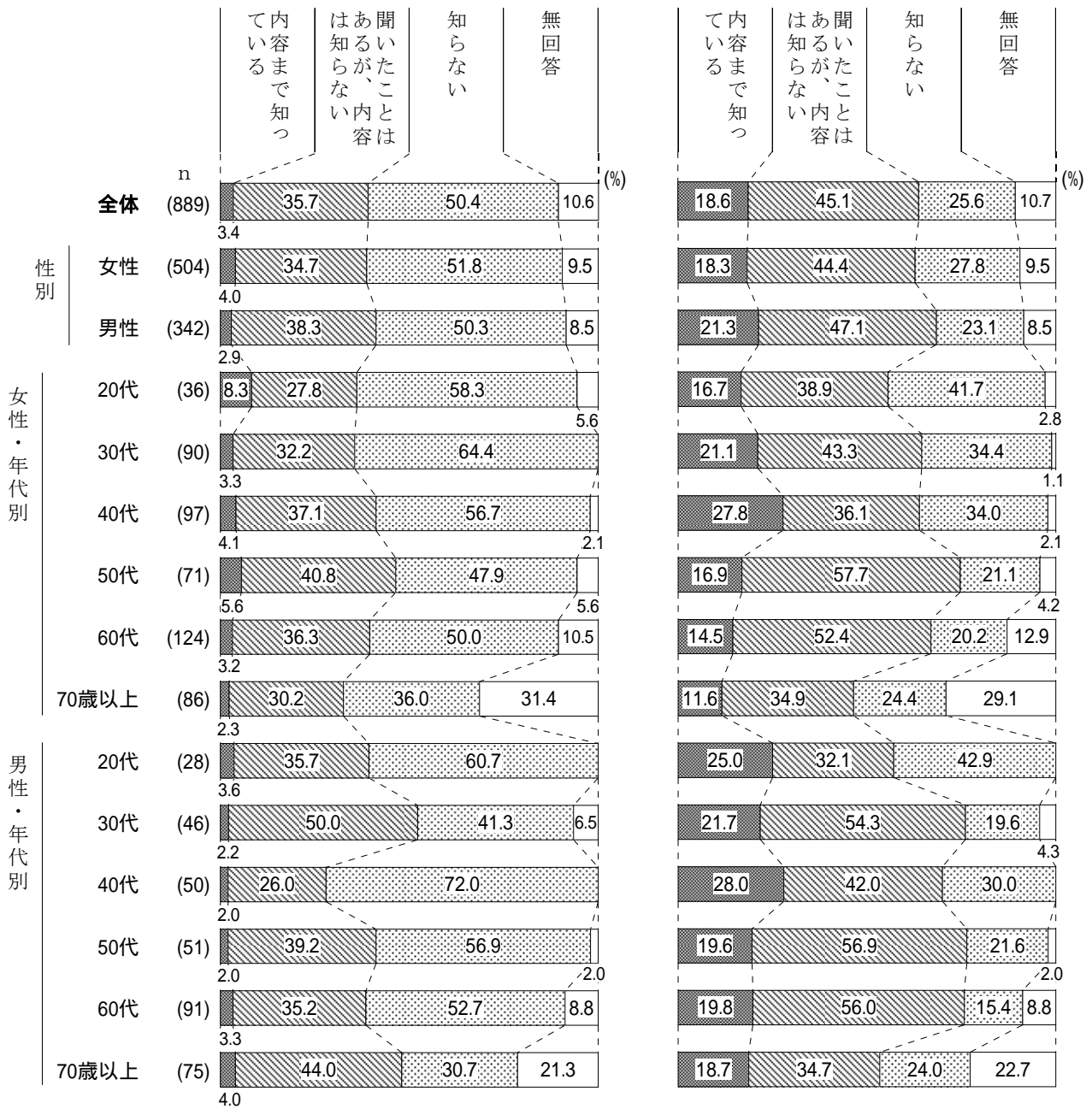
性・年代別にみると、女性の20代から40代では〈育児・介護休業法〉について「内容まで知っている」が3割を超えている。また、女性の20代、40代では〈児童虐待防止法〉について、「内容まで知っている」が3割を超えて、他の年代より高くなっている。(図6-8)

(図6-8) 男女共同参画に関する法律等の周知状況 - 性別、性・年代別



ウ. 女子差別撤廃条約

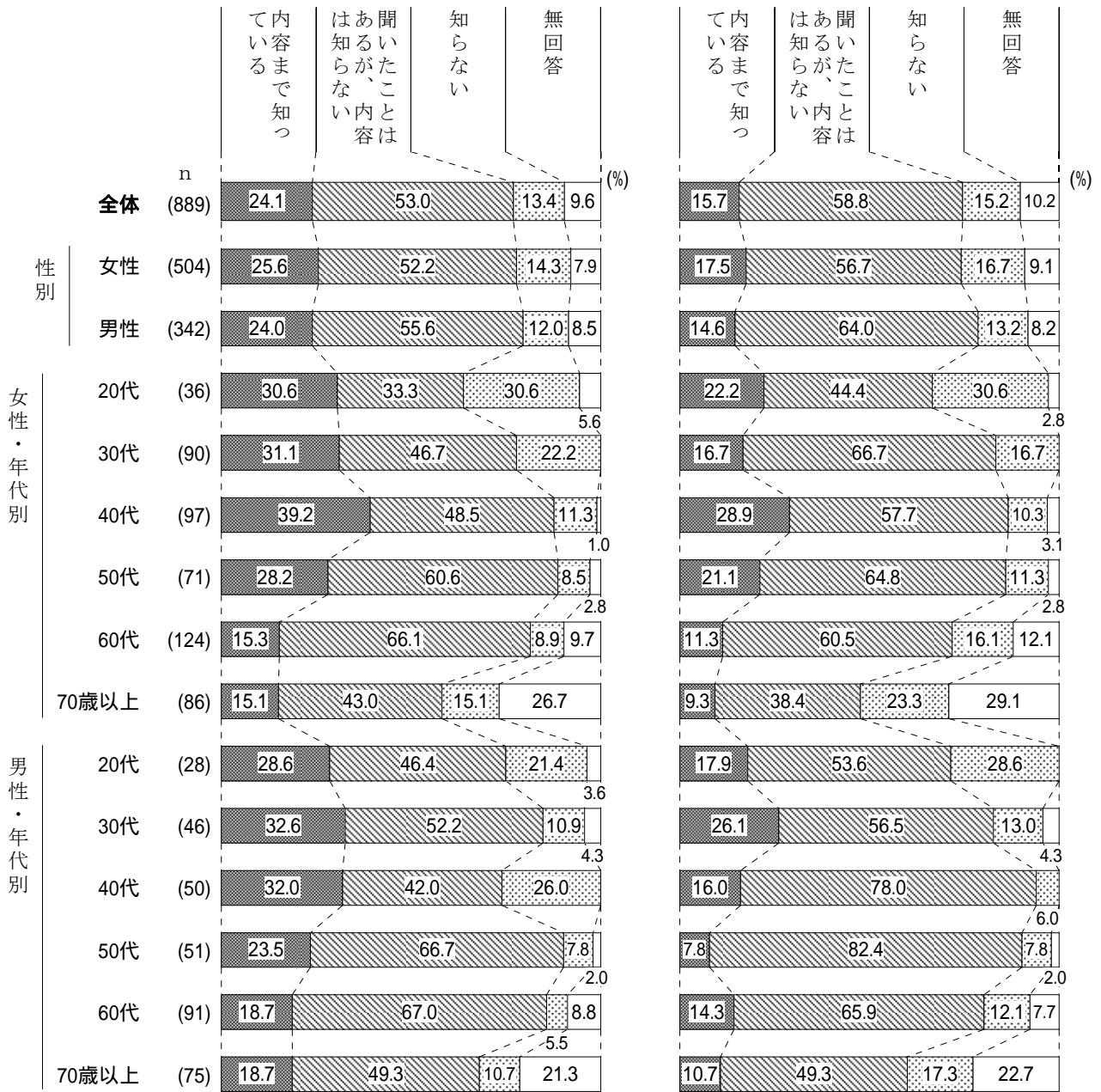
エ. 改正男女雇用機会均等法



オ. 育児・介護休業法

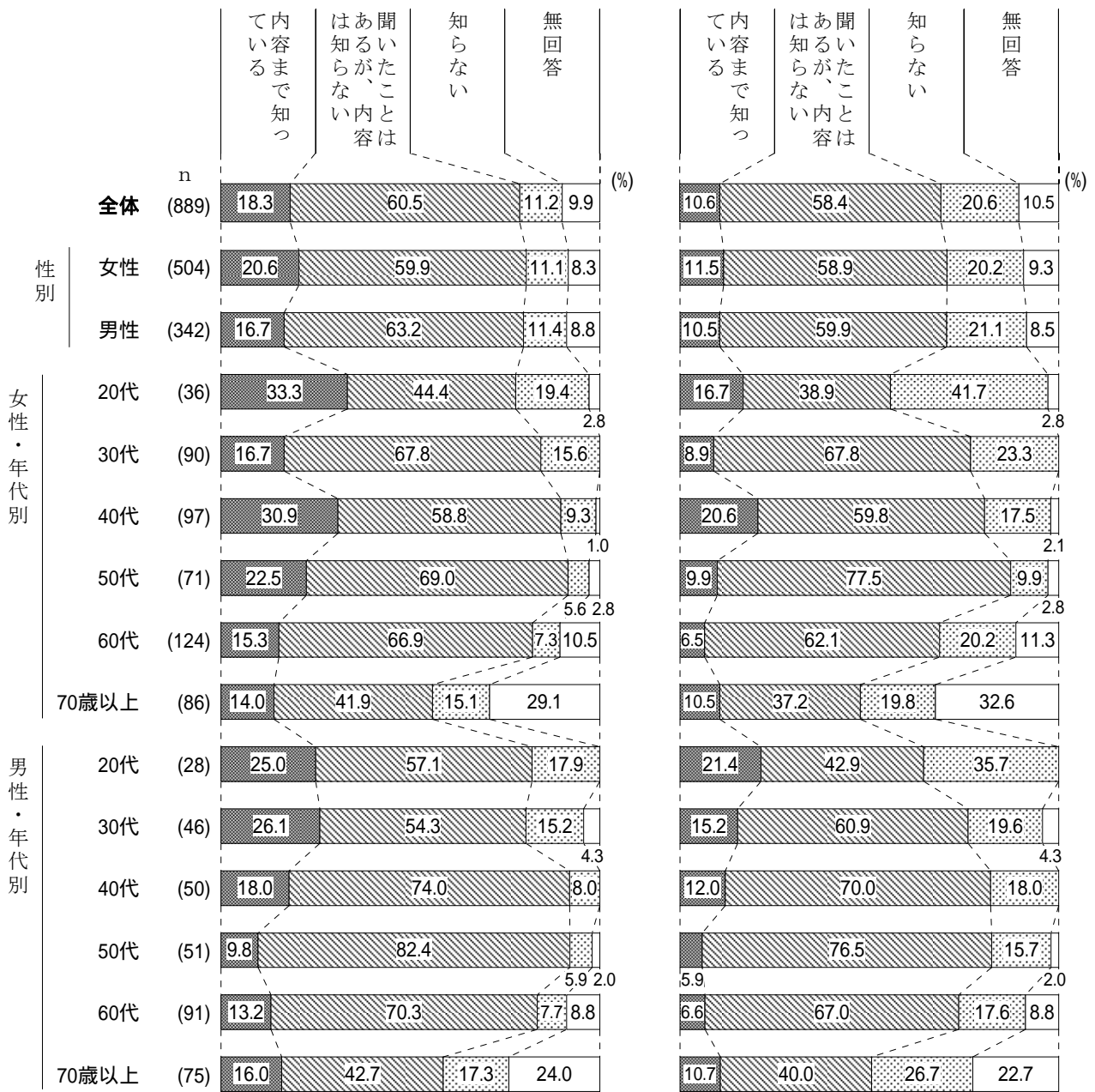
カ. ストーカー規正法

(ストーカー行為等の規制等に関する法律)

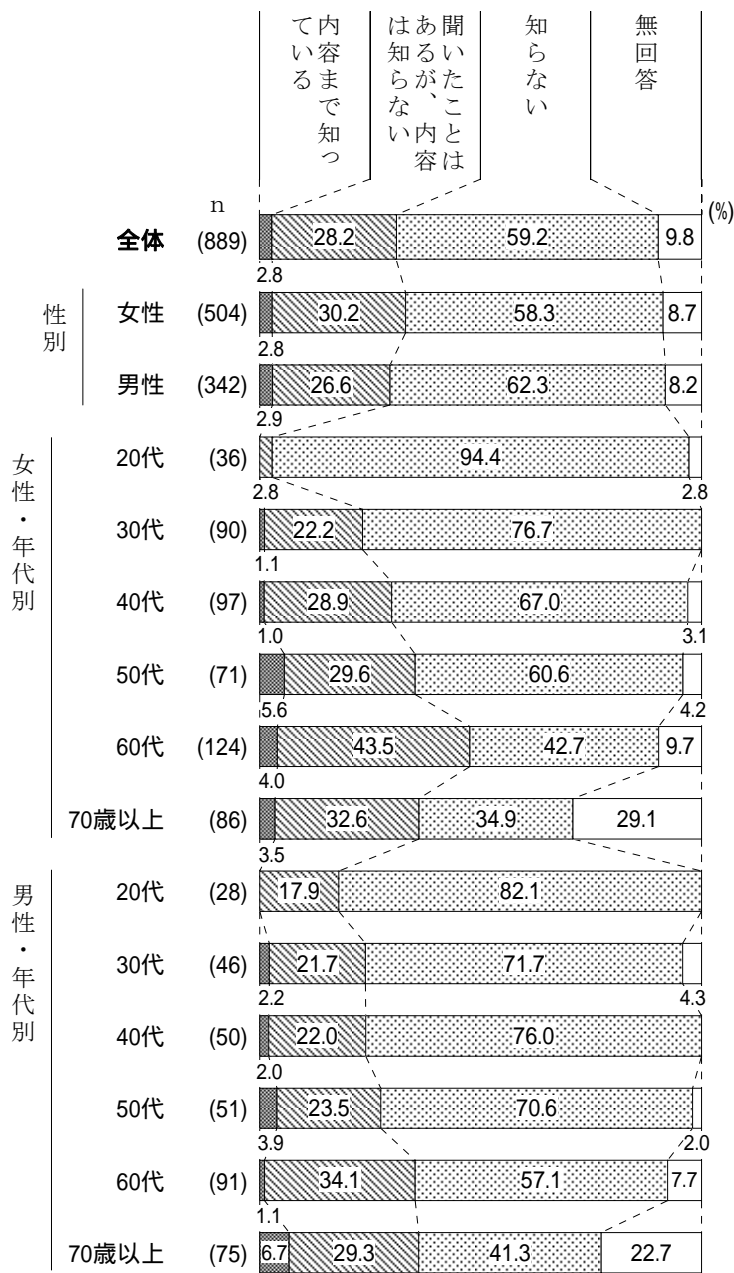


キ. 児童虐待防止法
(児童虐待の防止等に関する法律)

ク. DV防止法 (配偶者からの暴力の
防止及び被害者の保護に関する法律)



ケ. 袖ヶ浦市男女共同参画計画



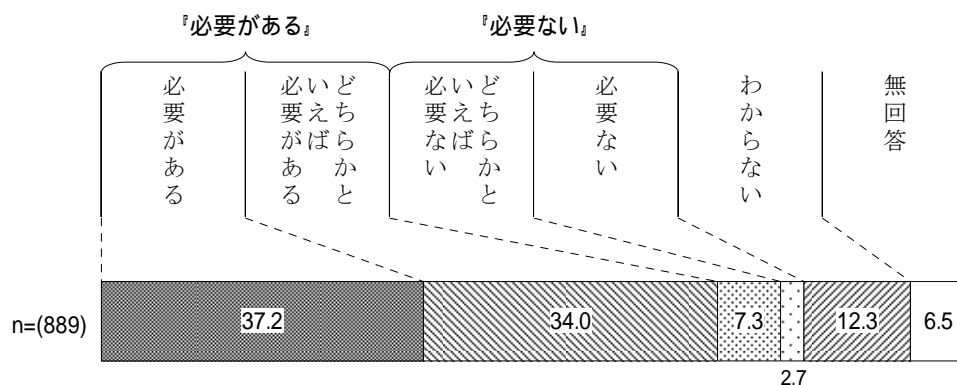
7. 市への要望について

(1) 防災・災害復興対策における男女の性別に配慮した対応の必要性

『必要がある』が7割強

問28 防災・災害復興対策に、男女の性別に配慮した対応がとられる必要があると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

(図7-1) 防災・災害復興対策における男女の性別に配慮した対応の必要性



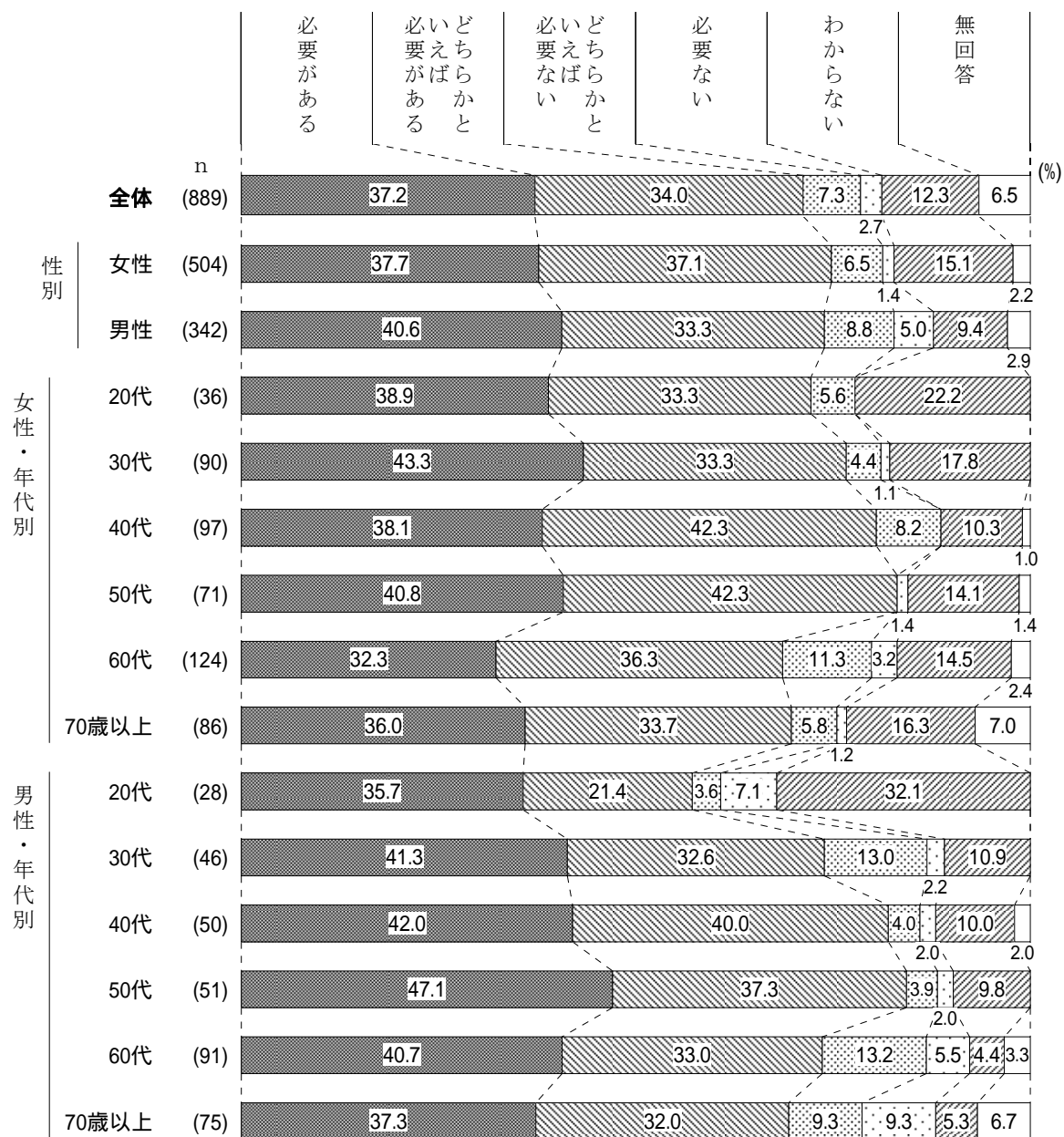
防災・災害復興対策における男女の性別に配慮した対応の必要性についてみると、「必要がある」が37.2%で、これに「どちらかといえば必要がある」の34.0%を合わせた『必要がある』は71.2%となっている。(図7-1)

【性別、性・年代別】

性別でみると、『必要がある』は女性74.8%、男性73.9%となっている。

性・年代別でみると、女性の場合、40代、50代で『必要がある』が8割を超えて、他の年代より高くなっている。また、男性の場合も、同年代で『必要がある』が8割を超えている。(図7-2)

(図7-2) 防災・災害復興対策における男女の性別に配慮した対応の必要性 - 性別、性・年代別



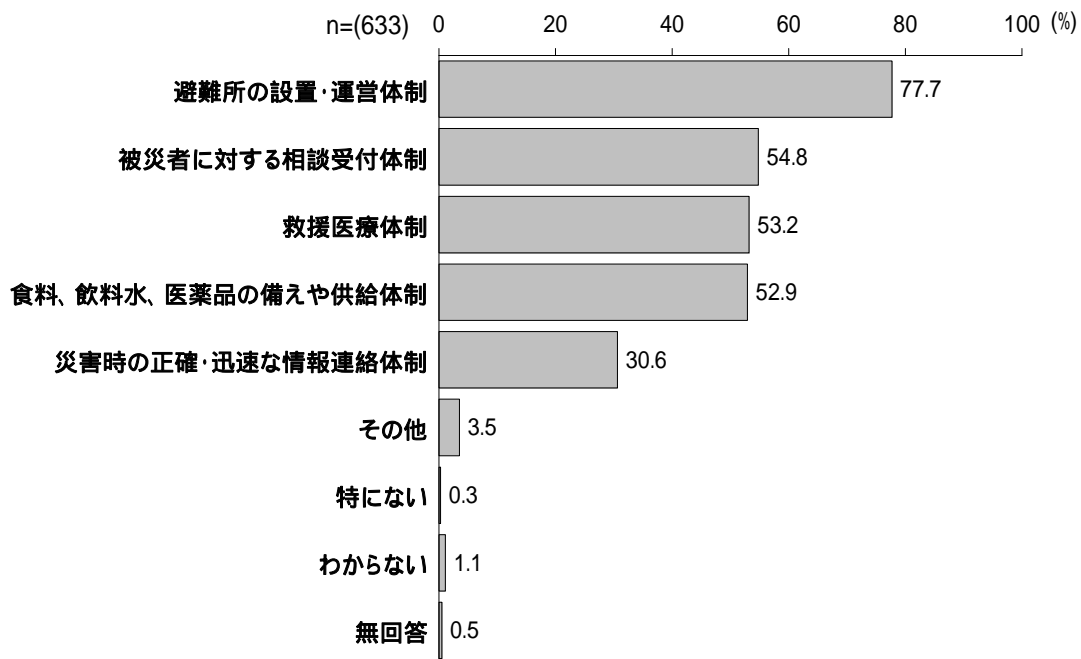
(1 - 1)防災・災害復興対策における男女の性別に配慮して取り組むべき必要がある
と思うもの

「避難所の設置・運営体制」が約 8 割で最多

[問28の「必要がある」または「どちらかといえば必要がある」を選んだ方におうかがい
します]

問28-1 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うものは
何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

(図7-3) 防災・災害復興対策における男女の性別に配慮して取り組むべき必要があると思うもの
(複数回答)



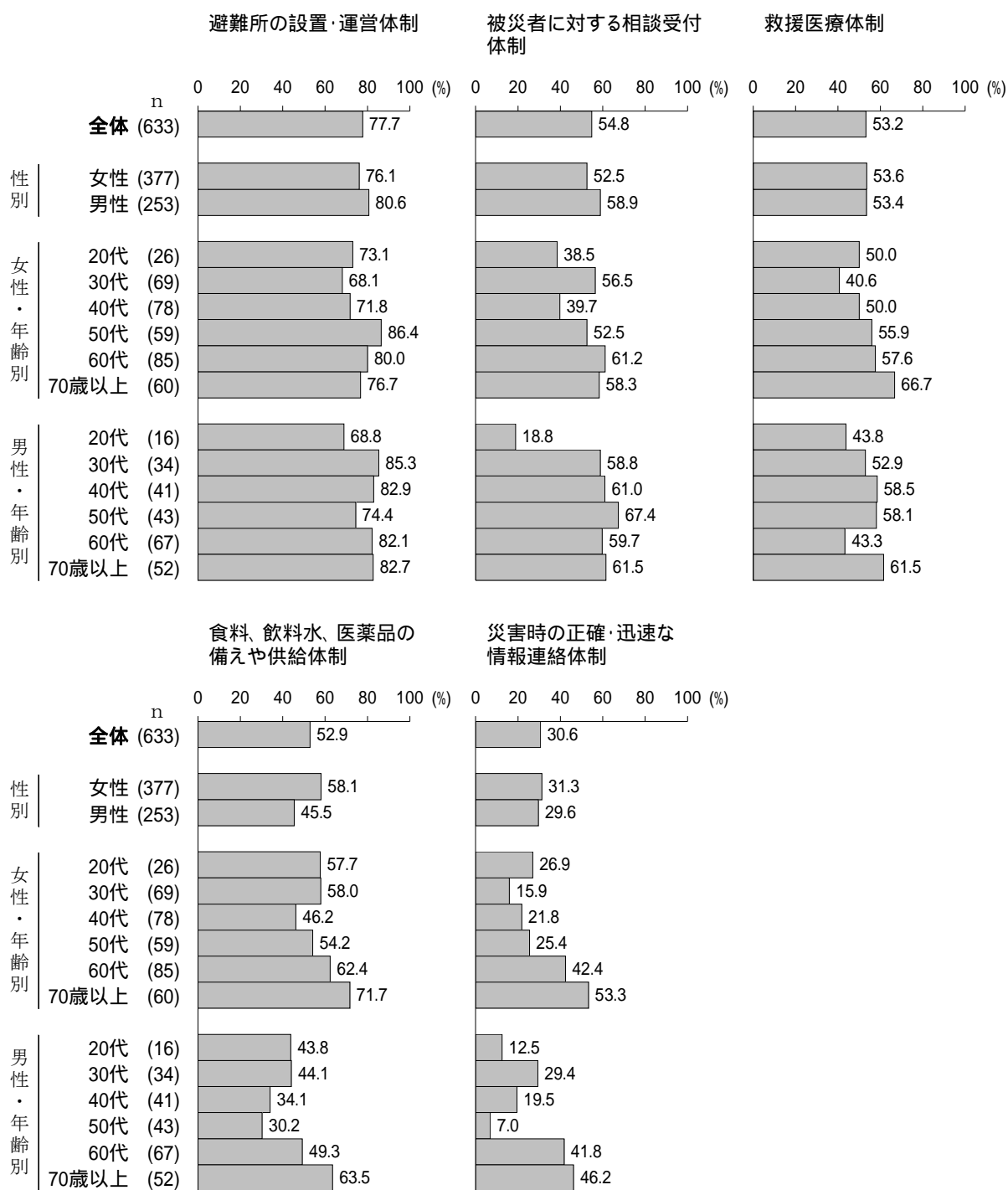
防災・災害復興対策における男女の性別に配慮して取り組むべき必要があるものとしては、「避難所の設置・運営体制」が77.7%で最も高く、次いで「被災者に対する相談受付体制」54.8%、「救援医療体制」53.2%、「食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制」52.9%の順となっている。(図7-3)

【性別、性・年代別】

性別で見ると、女性では「食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制」が58.1%と男性(45.5%)より高くなっている。一方、男性では「避難所の設置・運営体制」「被災者に対する相談受付体制」がやや女性より高くなっている。

性・年代別でみると、女性の場合、70歳以上で「食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制」が71.7%を占めているほか、20代、30代、60代でも6割前後と高くなっている。50代、60代では、「避難所の設置・運営体制」が8割を超えて、他の年代より高くなっている。男性の場合、30代、40代、60代、70歳以上では「避難所の設置・運営体制」が8割を超えている。また、50代では「被災者に対する相談受付体制」が67.4%と7割近くを占めているほか、30代から40代、60代以上でも6割前後と高くなっている。(図7-4)

(図7-4) 防災・災害復興対策における男女の性別に配慮して取り組むべき必要があると思うもの
- 性別、性・年代別

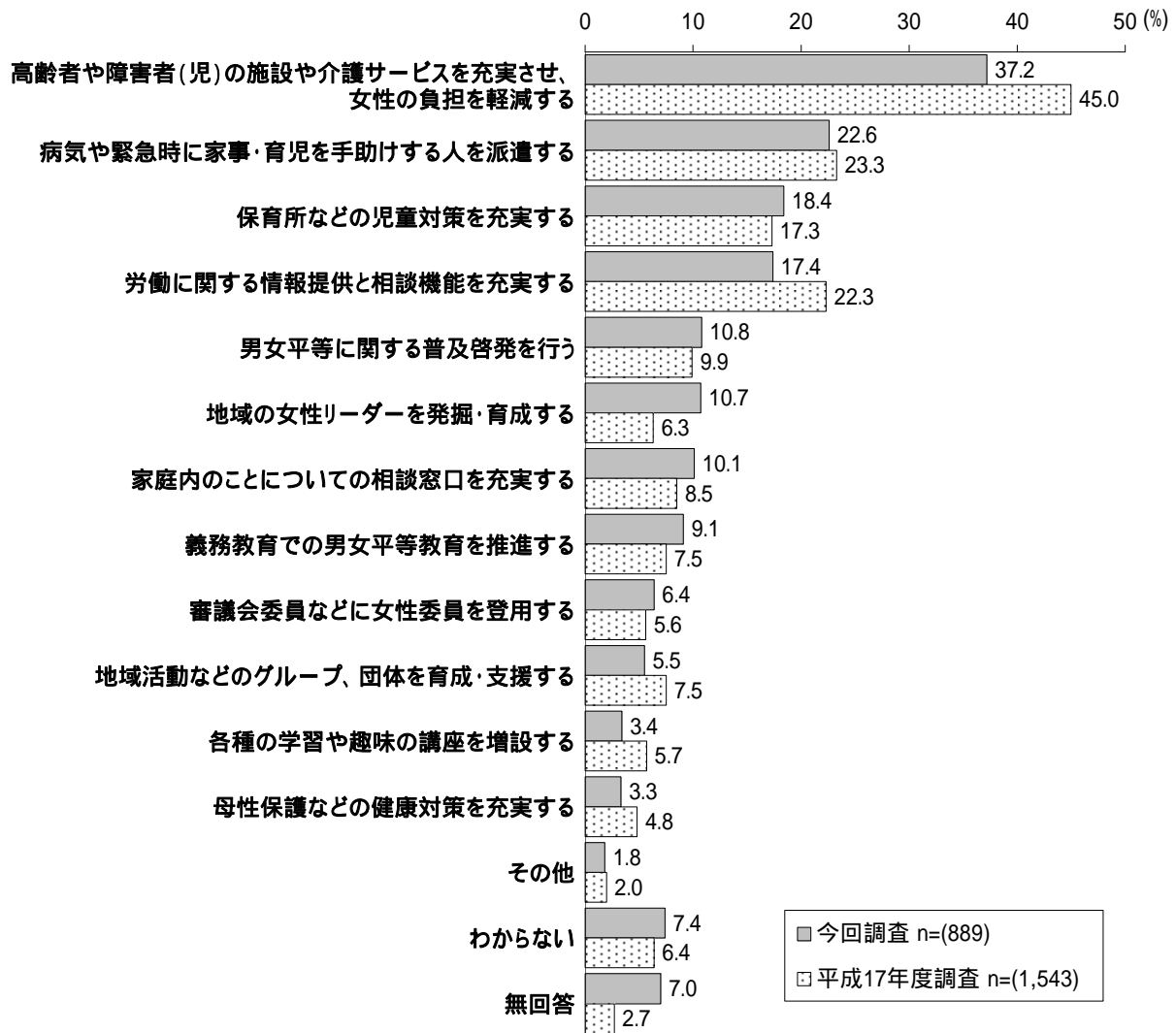


(2) 男女平等の社会を築くために重点的に力を入れてほしいこと

「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスを充実させ、女性の負担を軽減すること」が約4割で最多

問29 あなたは男女平等の社会を築くために市が重点的に力を入れてほしいと思うことは何ですか。次の中から主なものを2つ以内で選んでください。

(図7-5) 男女平等の社会を築くために重点的に力を入れてほしいこと（経年比較・複数回答）



男女平等の社会を築くために重点的に力を入れてほしいこととしては、「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスを充実させ、女性の負担を軽減する」が37.2%で最も高く、次いで「病気や緊急時に家事・育児を手助けする人を派遣する」22.6%、「保育所などの児童対策を充実する」18.4%、「労働に関する情報提供と相談機能を充実する」17.4%の順となっている。（図7-5）

平成17年度の調査と比較すると、「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスを充実させ、女性の負担を軽減する」が7.8ポイント、「労働に関する情報提供と相談機能を充実する」が4.9ポイント低下している。（図7-6）

【性別、性・年代別】

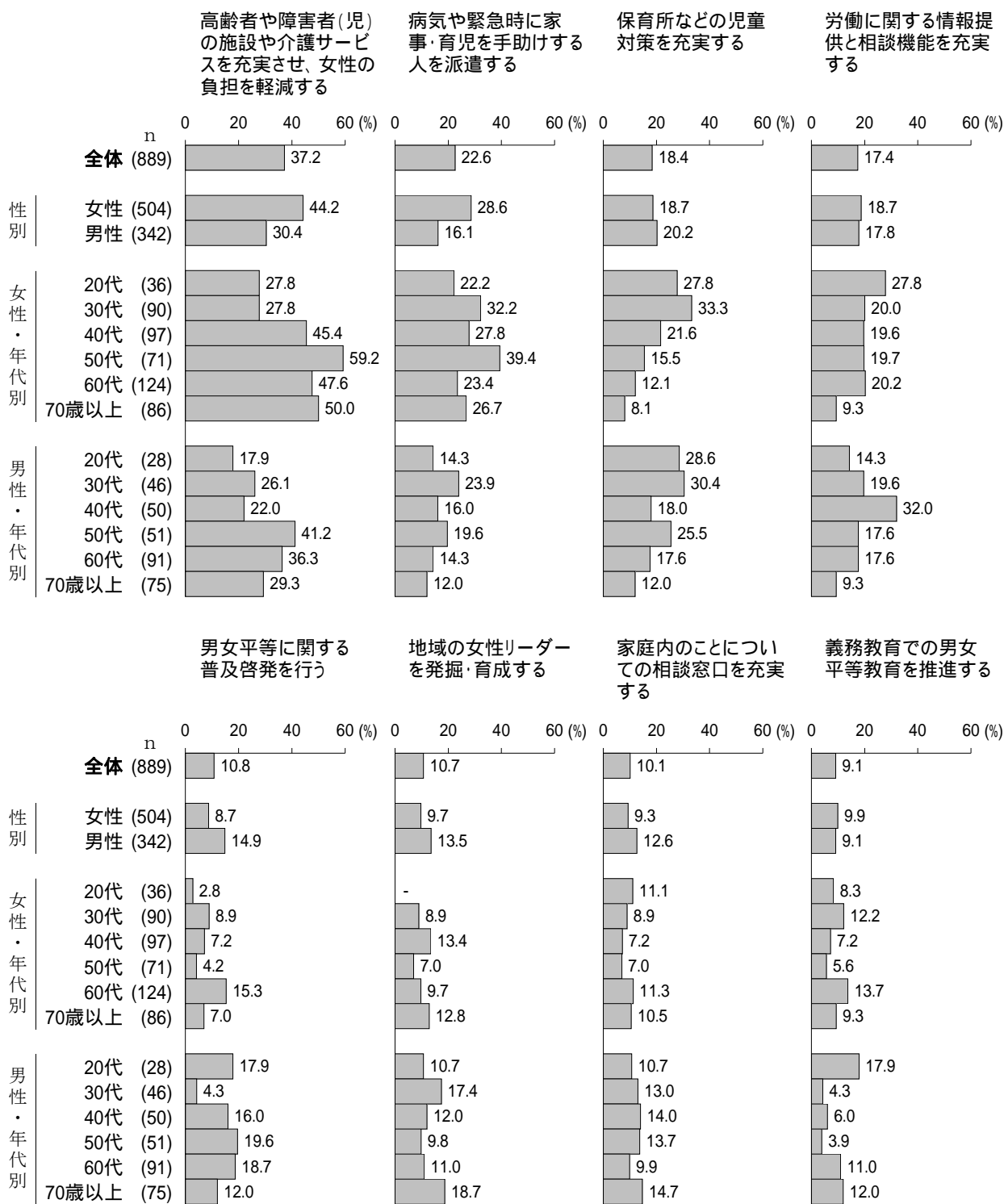
性別でみると、女性では「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスを充実させ、女性の負担を軽減する」が44.2%と男性（30.4%）より高くなっているほか、「病気や緊急時に家事・育児を手助けする人を派遣する」も28.6%と男性を上回っている。

性・年代別でみると、女性の場合、50代では「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスを充実させ、女性の負担を軽減する」が59.2%と高くなっているほか、60代、70歳以上でも5割前後となっている。また、50代では「病気や緊急時に家事・育児を手助けする人を派遣する」も39.4%と、男女各年代を通じて最も高くなっている。男性の場合、40代で、「労働に関する情報提供と相談機能を充実する」が32.0%と他の年代より高くなっている。（図7-7）

【参考：性別・経年比較】

性別で平成17年度調査と比較すると、女性では「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスを充実させ、女性の負担を軽減する」が47.3%から44.2%へと3.1ポイント低下している。一方、「病気や緊急時に家事・育児を手助けする人を派遣する」は26.3%から28.6%へと2.3ポイント僅かに上昇している。また、男性でも「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスを充実させ、女性の負担を軽減する」が42.1%から30.4%へと11.7ポイント低下している。

(図7-6) 男女平等の社会を築くために重点的に力を入れてほしいこと - 性別、性・年代別(上位8項目)



調査結果のまとめ

調査結果のまとめ

1. 家庭生活について

「夫婦とも仕事・家事・育児を行う」が理想だが、現実とは落差がある

理想的な夫婦のあり方（問1）についてみると、女性では「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」が61.1%と、男性（46.5%）より高くなっている。一方、男性では「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が35.7%と、女性（26.4%）より高く、依然として女性に比べて性別役割分担に肯定的な意見が多くなっている。

また、性・年代別にみると、女性の20代、50代で「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」が7割を超えているほか、男性でも「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」が20代では71.4%と高くなっており、男女とも若い世代では平等志向が高くなっている。

しかしながら、平成17年調査と比較して、女性では、「夫婦ともに仕事・家事・育児を行う」が7.5ポイント低下し、「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が7.1ポイント上昇しており、女性の意識をみる限り、平等志向が高くなっているとはいえない。

では、実際の家庭の状況はどうなっているのだろうか。

家庭での夫婦の協力体制（問2）をみると、「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が女性で33.6%、男性で37.6%と、男女いずれの家庭でも最も高くなっており、夫婦の役割分担の理想と現実の相違が明らかになっている。

とくに、性・年代でみると、男女とも、30代、40代、60代では「夫は仕事、妻は家事・育児を行う」が4割前後を占め高くなっている。

家庭内の仕事へのかかわり（問3）をみると、〈ごみ出し〉、〈食料品や日用品の買物〉、〈子どもの世話やしつけ〉等、女性では「妻が中心」との回答が高くなっているのに対して、男性では「妻と夫が同程度」が高くなる傾向がある。

性別に平成17年度調査と比較すると、男性では、〈ごみ出し〉については、「夫が中心」が8.4ポイント上昇している。また、女性では、「妻が中心」が、〈食料品や日用品の買物〉で7.2ポイント、〈子どもの世話やとつけ〉が6.5ポイント減少しており、男女の認識に微妙な違いがあるものの、徐々にではあるが、家庭内の男女の役割分担に変化が生じていることがうかがえる。

家庭での決定権（問4）については、いずれの項目も「妻と夫が相談して決める」が6割台半ばを超えて高いが、〈家計費の管理〉については、「妻が決める」が高くなる傾向は、平成17年度調査と大きく変わっていない。

最後に夫婦の協力体制についての満足度（問5）を、性別でみると、男性では『満足』（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）が87.4%と、女性（71.2%）より高く、とくに、50代以上の男性では「満足している」が4割を超えているのに対して、同年代の女性では2割前後に留まっており、両者の認識には差がある。

前述した家庭内の役割分担の理想と現実の相違や、家庭内の具体的仕事の多くを女性が担っている現状が、こうした評価の差に顕著に現れているといえるだろう。

しかしながら、平成17年度調査と比較すると、女性では「どちらかといえば満足している」が41.5%から50.6%へと9.1ポイント上昇しており、僅かではあるが、改善の兆しが現れている。

介護の中心は女性、老人ホームなどの養護施設に入りたい人が増加

家族の介護経験（問6）について、性別で見ると、女性では「自分が中心となって介護したことがある（している）」が22.2%と男性（7.9%）より高く、とくに50代以上では、年齢が高くなるにつれて上昇し、70歳以上では43.0%を占めており、女性に介護の負担のかかっている現状が鮮明に現れている。

将来、長期介護を受ける場合に望む対応（問8）としては、「家族・身内の世話になれるが、老人ホームなどの養護施設に入りたい」34.6%、「家族・身内の世話になれないので、老人ホームなどの養護施設に入りたい」19.3%を合わせると、『養護施設に入りたい』は53.9%である。

平成17年度調査と比較すると、『自宅で介護を受けたい』は6.6ポイント減少し、『養護施設に入りたい』は4.7ポイント増加しており、家族介護から施設入所への志向がより鮮明になっている。

2. 地域活動について

地域活動への参加経験のある女性は増加している

地域活動への参加状況（問9）を、平成17年度調査と比較すると、「している（したことがある）」は、女性で53.4%から64.5%と11.1ポイント、男性で60.6%から61.4%と0.8ポイント上昇しており、女性で参加経験者の増加が顕著である。とくに、女性の場合、40代から60代で「している（したことがある）」が7割を超えている。

また、地域活動への参加内容（問9-1）をみると、女性では、「PTAの役員や子ども会、スポーツ少年団などの活動」、「趣味・学習のためのサークル活動」がそれぞれ56.0%、26.8%と、いずれも男性より高くなっている。一方、男性では、「自治会などの地域団体の活動」が81.4%と、男性（60.3%）より高くなっている。

とくに、女性の場合、40代では「PTAの役員や子ども会、スポーツ少年団などの活動」が87.0%と、他の年代に比べて極めて高くなっている。また、40代から60代では「自治会などの地域団体の活動」が6割と高く、各年代により多様な活動がなされている。

平成17年度調査と比較すると、女性では「自治会などの地域団体の活動」が54.1%から60.3%へと6.2ポイント、「PTAの役員や子ども会、スポーツ少年団などの活動」が52.2%から56.0%へと3.8ポイント、いずれも上昇しており、各分野で女性の地域活動が盛んになっている現状がうかがえる。

また、地域活動に参加しない理由（問9-2）としては、男性で「仕事が忙しいから」が40.6%と、女性（29.5%）より高くなっているほか、「どのように参加してよいかわからないから」、「身近に機会がないから」も女性を上回っており、男性の地域参加が女性に比べて低くなった大きな理由が「多忙」にあることがわかる。

地域活動への参加意向（問10）をみると、男性では『参加意向』が59.4%と、女性（48.2%）より高くなっており、こうした男性の参加意欲の高さを、どのように実際の参加に結びつけていくかが、重要な課題といえるだろう。

地域団体に女性リーダーが少ない理由（問11）としては、男性では「女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから」が48.0%を占めているほか、「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」という厳しい意見も40.1%と、いずれも女性より高くなっている。

平成17年度調査と比較すると、女性でも「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」が25.8%から31.5%へと5.7ポイント上昇しており、女性の自覚と責任感に問題の一因があるとの意見が増加している。

3. 職業について

「子育て後、再就職」が多いが、女性では「結婚、出産にかかわらず就労継続」を望む人が増加

女性が職業を持つことへの考え方（問12）に関しては、「子どもができれば辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いた方がよい」が44.1%で最も高く、これに「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が35.9%で次いでいる。

しかし、性別で見ると、女性では「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が38.9%と男性（33.6%）より高く、就労継続意向が高くなっている。しかも、女性の場合、70歳以上を除くいずれの年代でも「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が4割前後を占めており、この傾向はほぼ全年代に共通している。

平成17年度調査と比較すると、女性では「子どもができれば辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就いた方がよい」が48.4%から43.1%へと5.3ポイント低下し、「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が31.0%から38.9%へと7.9ポイント上昇しており、就労継続志向が鮮明になっている。また、男性でも「結婚して子どもができて、職業を持ち続けた方がよい」が29.7%から33.6%へと3.9ポイント上昇しており、こうした女性の就労に対する意識の変化は男性にも及んでいることがわかる。

女性が職業に就いたり、職業を持ち続けるうえでの障害（問13）をみると、女性では「家族の協力や理解など家庭内の問題」が47.2%と、男性（41.2%）より高くなっている。一方、男性では「保育施設や保育時間などの問題」が45.3%と、女性（37.9%）を上回っている。

性・年代別で見ると、女性の場合、20代、30代では「保育施設や保育時間などの問題」と「いったん退社すると、今と同程度の条件での再就職がむずかしいこと」が高く、40代から50代では「家族の協力や理解など家庭内の問題」が高くなっており、年代により考え方の差があることがわかる。

平成17年度調査と比較すると、女性では「いったん退社すると、今と同程度の条件での再就職がむずかしいこと」が、47.0%から39.9%へと7.1ポイント低下している。

現在、働いてる人（問14）は、男性が71.3%と、女性（51.8%）より高くなっている。

性・年代別で見ると、女性の場合、20代から50代では「働いている」が6割を超え、とくに40代では75.3%を占めているが、注目されるのは、通常M字型就労曲線の底にあたるケースの多い30代でも就労率が64.4%と高くなっている点である。

平成17年度調査と比較すると、女性では「働いている」が56.4%から51.8%へと4.6ポイント低下し、「かつて働いていたが、今は働いていない」が35.5%から40.9%へと5.4ポイント上昇している。

就業の理由（問14-1）をみると、男性では「生計を維持するため」が69.7%と女性（48.3%）より高くなっているが、女性では「将来に備えて貯蓄するため」「生活費に余裕がないため」「自分で自由になるお金が欲しいから」が、男性より高くなっている。

しかしながら、平成17年度の調査と比較すると、女性では「生計を維持するため」が36.7%から48.3%へと11.6ポイント上昇しているほか、「将来に備えて貯蓄するため」も13.9%から17.2%へと3.3ポイントと僅かに増加しており、不況等により、女性も生計の維持に係わっている状況が現れている。

現在、働いていない人の今後の就労意向（問14-2）をみると、女性では「パート、アルバイトとして働きたい」が23.3%と男性（14.1%）より高く、とくに、30代、50代では「パート、アルバイトとして働きたい」が5割を超えて、他の年代より高くなっている。一方、男性では「働きたくない」が48.9%と、女性（40.4%）より高くなっている。

男性が「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用すること（問15）については、「育児休業制度」「介護休業制度」、いずれの制度についても、女性で「積極的に利用した方がよい」が男性より高くなっている。

4. ワーク・ライフ・バランスについて

「『仕事』と『家庭生活』を優先」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」が男女ともに約2割だが、実際には男性の多くが「『仕事』を優先」

近年、注目されているワーク・ライフ・バランスの考え方（問16）について質問した。

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の理想を聞いたところ、「『仕事』と『家庭生活』を優先」が21.1%で最も高く、これに「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」が19.3%で次いでいる。

次に、現実をみると、「『仕事』を優先」が29.5%と最も高く、これに「『仕事』と『家庭生活』を優先」が18.8%で次いでいる。一方、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」は僅か1.9%となっている。

性別でみると、「『仕事』と『家庭生活』を優先」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」が、男女ともに2割前後となっている。

しかし、実際についてみると、男性では、「『仕事』を優先」が40.6%と、女性（22.8%）を大きく上回っており、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」は僅か3.8%に過ぎない。男性では、女性に比べて理想と現実の落差が大きいことがわかる。

とくに、男性の場合、各年代にわたって、「『仕事』と『家庭生活』を優先」や「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを優先」が高くなっているのに対して、実際には、30代では「『仕事』を優先」が60.9%を占めているほか、20代 40代でも4割を超えており、理想と現実の落差が顕著になっている。

では、ワーク・ライフ・バランスを実現するためにしていること（問17）をみると、女性では、「効率よく仕事をする」が46.0%と、男性（39.8%）を上回っている。とくに、女性の場合、20代、30代、50代、60代では「効率よく仕事をする」が5割前後を占め、高くなっている。また、30代から40代では、「家族と過ごす時間を大切にする」が6割前後を占め、20代女性では、「自分の趣味の時間をとる」が54.2%と、男女全年代を通じて最も高くなっており、年代により取り組み方の差が現れている。

男性の場合、40代では、「効率よく仕事をする」が54.2%と高くなっている。また、30代から60代では、「家族と過ごす時間を大切にする」が4割を超えている。

ワーク・ライフ・バランスの状況（問18）をみると、『とれている』は女性59.1%、男性65.2%となっている。

性・年代別でみると、女性の場合、60代、70歳以上では、『とれている』が、それぞれ66.1%、60.5%と、他の年代より高くなっている。男性の場合、60代、70代以上で『とれている』は6割を超えている。また、20代では、『とれている』が75.0%と、男女各年代を通じて最も高くなっている。

男女とも、仕事や子育て等に忙しい壮年期では、『とれていない』が高くなる傾向がある。

ワーク・ライフ・バランスがとれていないという人にその理由（問18-1）を聞くと、男性で、「生活のため、仕事（収入）を優先せざるをえないから」が45.4%、「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」が42.6%と、いずれも女性より高く、「仕事」が最も大きな理由となっていることがわかる。

ワーク・ライフ・バランスの実現度の評価は、男女とも必ずしも低くはないものの、その理想と現実にはかなりの違いがあることがわかる。

5. 人権について

「レイプ（強姦）などの女性への性暴力」と「痴漢等の女性へのわいせつ行為」が、いずれも6割

女性の人権が侵害されると感じられる行為（問19）について、男女の認識に大きな差はないが、「レイプ（強姦）などの女性への性暴力」はやや女性で、「ストーカーなどの女性へのつきまとい行為」はやや男性で高くなっている。平成17年度調査と比較してみると、「レイプ（強姦）などの女性への性暴力」と「痴漢等の女性へのわいせつな行為」など上位の項目の減少傾向は、男女に共通している。

セクシュアル・ハラスメントの経験の有無（問20）をみると、職場では、女性で、「不必要に体を触られた」（13.3%）、「宴会でお酌やデュエットを強要された」（11.7%）、「性的な冗談や会話につきあわされた」（10.1%）が高く、とくに30代から40代で、いずれの項目も、他の年代より高くなっている。

学校では、女性で、「不必要に体を触られた」（2.4%）、「しつこく容姿のことを言われた」（1.4%）がやや高く、20代では「性的なうわさを流された」が8.3%、30代では「不必要に体を触られた」が6.7%とやや高くなっている。

地域では、女性で、「宴会でお酌やデュエットを強要された」(2.2%)、「性的な冗談や会話につきあわされた」(2.0%)、「異性との交友関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた」(2.2%)がやや高く、とくに20代、30代で「異性との交友関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた」が、それぞれ8.3%、5.6%とやや高くなっている。

このように職場、学校、地域等社会の様々な場面で、セクシュアル・ハラスメントは行われていることがわかる。また、女性ほどではないにしても、男性が被害者となるケースも少なくない。

セクシュアル・ハラスメントを受けたときの相談先(問20-1)をみると、女性では「友人・知人」が39.6%と、男性(6.7%)を上回っており、とくに30代から40代では「友人・知人」が4割を超えている。一方、男性では「どこ(だれ)にも相談しなかった」が83.3%と、女性(45.0%)を大きく上回っている。

女性の被害者では約半数が、被害にあっても誰にも相談しなかったと回答しているほか、被害者数は少ないものの、男性でも8割を超える人が相談をしていない。

セクシュアル・ハラスメントを受けたときに相談しなかった理由(問20-1)をみると、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が60.0%と、女性(47.8%)を上回っている。一方、女性では「相談してもむだだと思ったから」が35.8%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が20.9%と、いずれも男性より高くなっている。

このように、男女で理由は異なるものの、セクシュアル・ハラスメントの被害にあいながらも、相談することなく生活している人が少なくないという現状がわかる。

では、セクシュアル・ハラスメントをなくすための対策(問21)として、何が必要なのだろうか。

セクシュアル・ハラスメントをなくすための方法をみると、女性では「セクシュアル・ハラスメントをした人に対する刑罰や制裁の適用」が30.8%、「セクシュアル・ハラスメントを禁止する法律や条例などの強化」が31.5%と、いずれも男性を上回っている。一方、男性では、「セクシュアル・ハラスメントは人権侵害だ」という社会的な意識をつくるための情報や学習機会の提供」が34.8%と、女性をやや上回っている。

とくに、女性の場合、20代、30代で「セクシュアル・ハラスメントをした人に対する刑罰や制裁の適用」「セクシュアル・ハラスメントを禁止する法律や条例などの強化」等の厳しい対応を求める声が4割前後と高くなっている。

次に、ドメスティック・バイオレンスを受けた、《経験がある》(「何度もあった」+「1、2度あった」の合計)をみると、女性では、〈大声でどなられる〉が21.4%を占めているほか、〈容姿について傷つくようなことを言う〉(15.5%)、〈「女のくせに」「女だから」などと差別的な表現をする〉(15.0%)の順で続いている。

とくに、〈大声でどなられる〉については、「何度もあった」が7.5%を占めている。

身体的暴力に注目してみると、女性では〈医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける〉について、《経験がある》が7.2%を占めており、「何度もあった」という人も3.2%いる。

また、〈命の危険を感じるくらいの暴行を受ける〉〈医師の治療が必要となるほどの暴行を受ける〉について、女性で《経験がある》人が、それぞれ4.4%、2.8%を占めている。

こうした深刻な身体的暴力を受けた女性は、調査結果を見る限り、それぞれの比率は決して高くないものの、市内の女性人口を踏まえて、この割合をみると、看過できない数であることがわかる。

ドメスティック・バイオレンスを受けたときの相談先（問22-1）をみると、女性では「家族や親戚」が31.9%と、男性（11.9%）より高くなっているほか、「友人・知人」も24.5%と、男性（10.2%）を上回っている。一方、男性では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が62.7%と、女性（42.0%）より高くなっている。

ドメスティック・バイオレンスを受けたとき相談しなかった理由（問22-2）をみると、男性では、「相談するほどのことではないと思ったから」が67.6%と、女性（49.4%）より高くなっている。一方、女性では、「相談してもむだだと思ったから」が36.7%、「自分さえがまんすればこのままやっていけると思ったから」が22.8%と、男性より高くなっている。

このように、ドメスティック・バイオレンスの場合も、セクシュアル・ハラスメントを受けても相談しなかった理由についての男女の回答傾向と共通している。

では、ドメスティック・バイオレンスをなくすための対策として何が必要なのだろうか。

ドメスティック・バイオレンスをなくすための対策（問23）として、女性では、「緊急避難施設（暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設）の充実」が50.2%と、男性（40.1%）を上回っている。一方、男性では、「警察の相談・対応の充実」が50.6%と、女性（40.9%）を上回っている。

とくに、女性の場合、30代、40代では、いずれも「緊急避難施設（暴力をふるった相手から一時的に逃げ、暴力を回避するための施設）の充実」が6割を超えて高くなっている。また、30代から50代では、「緊急避難を出たあと、問題の解決や自立（就職、転居など）を一貫して支援する機関の設置」が5割を超え、とくに40代では66.0%を占めている。

女性では、男性に比べて、暴力の被害から逃れ、立ち直るためのより現実的な支援を強く求めていることがうかがわれる。

6．社会全般について

『家庭の中で 教育の中で は『平等になっている』との評価が多いが、他の分野に対しては依然として女性に不平等感が強く残っている

男女の平等観（問24）をみると、〈教育の中で〉〈家庭の中で〉では、男女とも『平等になっている』（「平等になっている」と「どちらかといえば平等になっている」の合計）が高いが、他の分野では『平等になっていない』（「平等になっていない」と「どちらかといえば平等になっていない」の合計）が高く、とくに〈社会通念や風潮の中で〉への評価には顕著に現れている。また、女性では、〈法律や制度の上で〉〈家庭の中で〉で、男性に比べて厳しい評価が出されており、男女の意識の差が大きい。

平成17年度の調査と比較すると、ほとんどの項目で『平等になっている』が増加しており、徐々にではあるが、各分野の男女の地位は平等になってきていると思われる。

政策決定過程への女性の参画を進めるのに必要なこと（問25）をみると、男性では「政治や行政について、女性の意識を高めるためのセミナーなどを積極的に開催する」「市が女性職員の管理・監督者昇格を促す計画を作成する」「審議会や委員会などの委員に女性を優先的に登用する」の3項目で、女性より高くなっている。

女性の場合、50代から70歳以上で「政治や行政について、女性の意識を高めるためのセミナーなどを積極的に開催する」が3割を超え、とくに60代では48.4%となっている。20代、30代では「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする」が3割を超え、他の年代より高くなっている。

市議会議員、審議会等の委員の女性比率についての意識（問26）については、女性で「女性がもう少し増えたほうがよい」が48.2%と男性（41.8%）より高く、とくに40代から60代で「女性がもう少し増えたほうがよい」が5割を超えている。

中高年の中心として、女性では男性に比べて「政策方針決定過程」への女性の参画の推進に対して積極的であることがわかる。

男女共同参画に関する法律等の周知状況（問27）をみると、男女とも〈児童虐待防止法〉〈育児・介護休業法〉の周知度が約8割を占める等、実際的な法律や制度ほど周知度が高くなる傾向がある。

7. 市への要望について

防災・災害復興対策において、男女とも7割以上が、男女の性別に配慮した対応の必要性を感じている

防災・災害復興対策における男女の性別に配慮した対応の必要性（問28）については、『必要がある』が女性74.8%、男性73.9%と男女とも高くなっている。また、防災・災害復興対策における男女の性別に配慮して取り組むべき必要があると思うもの（問28-1）としては、女性では「食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制」が58.1%と、男性（45.5%）より高くなっている。一方、男性では「避難所の設置・運営体制」「被災者に対する相談受付体制」がやや女性より高くなっている。

男女平等の社会を築くために重点的に力を入れてほしいこと（問29）をみると、女性では「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスを充実させ、女性の負担を軽減する」が44.2%と、男性（30.4%）より高くなっているほか、「病気や緊急時に家事・育児を手助けする人を派遣する」も28.6%と男性を上回っている。

とくに、女性の場合、50代では「高齢者や障害者（児）の施設や介護サービスを充実させ、女性の負担を軽減する」が59.2%と高くなっているほか、60代、70歳以上でも5割前後となっている。また、50代では「病気や緊急時に家事・育児を手助けする人を派遣する」も39.4%と、男女各年代を通じて最も高くなっている。一方、男性の場合、40代で、「労働に関する情報提供と相談機能を充実する」が32.0%と他の年代より高くなっている。

平成17年度調査と比較すると、男女とも、多くの項目で比率は低下傾向を示しているが、男女共同参画社会の実現に向けて、各施策の重要性は変わらない。女性と男性で、また、年代によって、市民の要望は多様であり、こうした市民の様々な意見を反映して施策を展開していくことが求められる。

自由回答まとめ

本調査では、調査票の最後に自由記入欄を設けて、『市の男女共同参画社会の推進』についての意見を収集した。その結果、116件（男女共同参画について：15件、家庭生活について：8件、職業について：6件、地域活動について：6件、人権について：3件、社会全般について：13件、市への要望について：12件、その他：54件）の回答が得られた。

これらの中から、代表的なものを抽出し、原文のまま掲載した。

1. 男女共同参画について

- まず、女性が実力的にも、意識の上でも自立することが必要である。簡単にはいかないが、そうすれば、社会の中で認められ、現在、問題になっている多くの課題が自然に解決されるでしょう。女性が、政治や外交でもきちんとした意見を持ち、人前でも意見を言えるようになれば、社会全体が熟してきたといえるでしょう。女性は女性だからということで、逃げては駄目なのです。（70歳代・男性）
- ただ平等を訴えるより、両性の特質を互いに理解することが大切だと思う。その上で、特性をより良く伸ばすことができるよう、ケースバイケースで、対応していく努力をするべきだと思う。（40歳代・女性）
- 考え方には賛成ですが、議員等の数や比率を無理に上げることには反対です。男も女も能力を互いに尊重できる環境があれば、それでよいと思います。（40歳代・男性）
- 個々の能力に応じた適材適所にすべきで、無理に社会での女性の比率を上げるようなことは逆差別につながると思う。（30歳代・女性）

2. 家庭生活について

- 男性の地域への参加や女性の社会進出は、家庭が充実していることが大切で、男女の協力なしには、できないと思っています。夫、妻、子どもの家族の体制が充実されることを望みます。（30歳代・女性）
- 男性が家事をもっと手伝ってくれれば、女性も働きやすくなると思います。女性が1日中、働いて家事・育児を行うことは私にはできません。だから、パートをやっています。夫にも家事を行うだけの時間がありません。給料があるだけ、ありがたいと思います。（40歳代・女性）
- 家庭内の問題を気軽に相談できる窓口を開設してほしい。（40歳代・女性）
- 母子家庭の子どもがいますが、保育所になるべく早く入れるようにしてもらいたい。いくら親がいても、乳幼児や未就学の子どものみることにはできない。また、女性が仕事をする時代となってきたので、保育所や託児所を増やした方がよい。（60歳代・男性）

3 . 職業について

- 女性が仕事に積極的に取り組むことができれば、よいと思う。(60歳代・男性)
- 昨今の円高や企業倒産が相次ぐ中であって、男女とも働ける場が限られてきています。市で企業誘致をして、各工業団地への容易な利用として、価格を大幅に下げたり、利用上の付加価値を付け、遊んでいる土地を利用することで、雇用問題や財政負担軽減につながり、人口増加が見込める。きっかけづくりで、袖ヶ浦市繁栄の道となると思います。(40歳代・男性)
- 女性の出産や子育てに対しての会社の理解、協力、保障、保育所の充実がなければ、研究や相談窓口を増やしても、根本的な解決にはつながらない。妊娠や子育てに協力的ではない会社がほとんどであり、意識改革や制度の充実により、女性が働きやすい環境をつくってほしい。将来が不安定のため、子どもをつくることに消極的になってしまう。(30歳代・女性)
- 男女が同条件で働ける世の中になれば、政治でも社会一般でも、男女の格差はなくなると思います。核家族で、夫も妻もフルタイム勤務での子育ては大変です。子育て中のワークシェアリングによる時間短縮勤務及び子育てが終わった時にフルタイム勤務に戻れる仕組みがあったらいいと思います。(30歳代・女性)

4 . 地域活動について

- 地域の行事への女性の参画がもっと増えるとよいと思う。(60歳代・男性)
- 男性の性別、年齢などに関係なく、より暮らしやすい、環境のよい袖ヶ浦市を望みます。その中で、私たちも、社会に積極的に参加できるよう、勉強する場を沢山設けていただけたら、と思います。(60歳代・女性)
- スローガンだけで、男女共同参画ができるというものではないのではないか。女性がもっと参加するコミュニティの場面そのものを増やしていくという息の長い取り組みが重要であると思います。そのためにも、サークル活動などの拡充への努力が必要ではないかと思います。(60歳代・男性)

5 . 人権について

- 暴力の問題に対して、封印していた心の傷と向き合はなくてはならなくて、なかなかペンが進まなかったのです。自分としては、相手が亡くなってしまい、また、父親代わりとして、信頼していたままの姿を演じて、見送りましたが、誰にも(夫にも)言えません。自分の夫、息子が決して同じことをしないよう、願うばかりです。(40歳代・女性)
- DVについては、相談窓口とフォロー体制を充実させることが必要である。(60歳代・男性)
- DVなどの犯罪は許してはいけない。(40歳代・男性)

6．社会全般について

- 日本にはまだ男尊女卑の風潮が残っているような気がします。女性が社会進出をめざすには、女性が外に向けやすい環境（保育所等の充実）をつくっていくことが重要だと思います。（70歳代・女性）
- 男性、女性の体力や思考力の違い等があるので、すべて平等と考えるのは違うと思います。適材適所で、自分の能力に合ったところで、力を発揮すべきだと思います。（30歳代・女性）
- 男女の違いを認めつつ、平等であることが望ましい。（70歳代・男性）
- 男女が不平等とは感じません。多くの女性がそう思っているだけでは。（30歳代・女性）
- 男女による差別はないと思います。むしろ、女性優位なことが多すぎるのでは。（40歳代・男性）
- 男女平等をすべて対して行うことは、色々な秩序をこわすことにつながると思う。現在、不景気で、女性も働かざるを得ない状況だが、本来は、女性はじっくりと子育てに関わるべきだと思う。男性と女性は、体、体力、脳の仕組みなど違って当然であり、それぞれの役割を持っている。学校で、男の子を「〇〇さん」と呼んでいるのも不自然であるし、男女混合名簿も分かりづらい。（30歳代・女性）

7．市への要望

- 女性を市政に参加させてほしい。また、若い女性の意見を取り入れるとともに、参加を推進するよう、行政が働きかける。（50歳代・男性）
- 個人のデリケートな話をオープンにしてケアしていくことは難しいことだと思いますが、相談窓口があることは常にアピールを続けてほしいと思います。（30歳代・女性）
- 推進の方針とか、現況などをどこかで知らせてください。印刷物とか市のホームページから少し細かいところまで、知る機会がほしいです。（70歳・男性）
- 市の事業策定に、女性職員を参加させる。（50歳代・男性）
- きちんと、女性の意見を採用してほしい。今回のアンケートやって、市民のリアルな意見が沢山出ていると思うので、役立ててもらえたらよいと思います。なかなか口では言えないことや、言いたくても、伝える機会がない人が本当に多いと思います。（20歳代・女性）
- 男女共同参画各関連法について、さらに市民に認識を深めるためには、自治会活動、市の趣味・学習サークル活動等の場を通して、積極的に広報、説明していく努力が必要だと思います。（60歳代・女性）

男女共同参画に関する意識調査

発行日／平成25年2月

発行／袖ヶ浦市 市民健康部 市民活動支援課
袖ヶ浦市坂戸市場1-1
電話 (0438) 62-3102 (直通)

実施／株式会社サーベイリサーチセンター
東京都荒川区西日暮里2-40-10
電話 (03) 3802-6711 (代)

この報告書は、再生紙を使用しています。

男女共同参画に関する意識調査

平成
25年
2月

袖ヶ
浦市